

令和2年度における環境調査の結果等について
【東京都】

令和3年6月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
1 概要	1-1-1
1-1 本書の概要	1-1-1
1-2 事業の実施状況	1-2-1
2 事後調査	2-1-1
2-1 植物	2-1-1
2-1-1 調査項目	2-1-1
2-1-2 調査方法	2-1-1
2-1-3 調査地点	2-1-1
2-1-4 調査期間	2-1-2
2-1-5 調査結果	2-1-2
3 モニタリング	3-1-1
3-1 大気質	3-1-1
3-1-1 調査項目	3-1-1
3-1-2 調査方法	3-1-1
3-1-3 調査地点	3-1-1
3-1-4 調査期間	3-1-5
3-1-5 調査結果	3-1-6
3-2 騒音	3-2-1
3-2-1 調査項目	3-2-1
3-2-2 調査方法	3-2-1
3-2-3 調査地点	3-2-1
3-2-4 調査期間	3-2-3
3-2-5 調査結果	3-2-3
3-3 振動	3-3-1
3-3-1 調査項目	3-3-1
3-3-2 調査方法	3-3-1
3-3-3 調査地点	3-3-1
3-3-4 調査期間	3-3-3
3-3-5 調査結果	3-3-3

3-4	水質	3-4-1
3-4-1	調査項目	3-4-1
3-4-2	調査方法	3-4-1
3-4-3	調査地点	3-4-2
3-4-4	調査期間	3-4-4
3-4-5	調査結果	3-4-5
3-5	地下水	3-5-1
3-5-1	調査項目	3-5-1
3-5-2	調査方法	3-5-1
3-5-3	調査地点	3-5-2
3-5-4	調査期間	3-5-8
3-5-5	調査結果	3-5-9
3-6	水資源（切土工等）	3-6-1
3-6-1	調査項目	3-6-1
3-6-2	調査方法	3-6-1
3-6-3	調査地点	3-6-2
3-6-4	調査期間	3-6-8
3-6-5	調査結果	3-6-8
3-7	地盤沈下	3-7-1
3-7-1	調査項目	3-7-1
3-7-2	調査方法	3-7-1
3-7-3	調査地点	3-7-1
3-7-4	調査期間	3-7-7
3-7-5	調査結果	3-7-8
3-8	土壌汚染	3-8-1
3-8-1	調査項目	3-8-1
3-8-2	調査方法	3-8-1
3-8-3	調査地点	3-8-1
3-8-4	調査期間	3-8-3
3-8-5	調査結果	3-8-3
4	環境保全措置の実施状況	4-1-1
4-1	工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置	4-1-1
4-1-1	品川駅	4-1-1
4-1-2	第一首都圏トンネル（北品川工区）	4-1-7
4-1-3	目黒川変電所	4-1-11

4-1-4	東雪谷非常口	4-1-16
4-1-5	小野路非常口	4-1-22
4-1-6	第一首都圏トンネル（小野路工区）	4-1-27
4-1-7	上小山田非常口	4-1-32
4-2	重要な種の移植	4-2-1
5	その他特に実施した調査	5-1-1
5-1	動物（上小山田）	5-1-1
5-1-1	調査方法	5-1-1
5-1-2	調査地点	5-1-4
5-1-3	調査期間	5-1-7
5-1-4	調査結果	5-1-10
5-2	植物（上小山田）	5-2-1
5-2-1	調査方法	5-2-1
5-2-2	調査地点	5-2-4
5-2-3	調査期間	5-2-7
5-2-4	調査結果	5-2-8
5-3	希少猛禽類の営巣地の状況調査	5-3-1
5-3-1	調査方法	5-3-1
5-3-2	調査地点	5-3-1
5-3-3	調査期間	5-3-1
5-3-4	調査結果	5-3-2
6	工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績	6-1-1
6-1	廃棄物等	6-1-1
6-1-1	集計項目	6-1-1
6-1-2	集計方法	6-1-1
6-1-3	集計対象箇所	6-1-1
6-1-4	集計期間	6-1-1
6-1-5	集計結果	6-1-1
6-2	温室効果ガス	6-2-1
6-2-1	集計項目	6-2-1
6-2-2	集計方法	6-2-1
6-2-3	集計対象箇所	6-2-1
6-2-4	集計期間	6-2-1
6-2-5	集計結果	6-2-1

7 業務の委託先	7-1
参考資料1. 騒音・振動の簡易計測	参1-1
参考資料2. 動物	参2-1
参考資料3. 植物	参3-1
参考資料4. 事業の実施状況	参4-1
非公開版	(別冊)

1 概要

1-1 本書の概要

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【東京都】平成26年8月」（以下、「評価書」という。）及び「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成26年11月」に基づいて、令和2年度に実施した事後調査、モニタリング及び環境保全措置の実施状況について取りまとめ、報告するものである。

1-2 事業の実施状況

令和2年度における、東京都内の事業の実施状況は以下のとおりである。

港区港南の品川駅、品川区北品川の目黒川変電所、大田区東雪谷の東雪谷非常口において、工事を引き続き進めた。第一首都圏トンネル（北品川工区）については、品川区北品川でシールドトンネル施工のためのシールド機の搬入、組立等の準備工事を行ったほか、令和3年3月に発生土積出ヤードの整備等に係る地元住民の皆様に向けた工事説明会を実施した。

町田市小野路町の小野路非常口^注及び町田市上小山田町の上小山田非常口^注において、工事を引き続き進め、令和2年10月には小野路非常口の立坑が完成した。第一首都圏トンネル（小野路工区）については、町田市小野路町でシールドトンネル施工のための準備工事等を行ったほか、令和2年12月にシールド機組立等に係る地元住民の皆様に向けた工事説明会を行った。また、町田市能ヶ谷に隣接した神奈川県川崎市麻生区片平の片平非常口については、神奈川県川崎市麻生区片平で工事用道路の整備等を進めている。

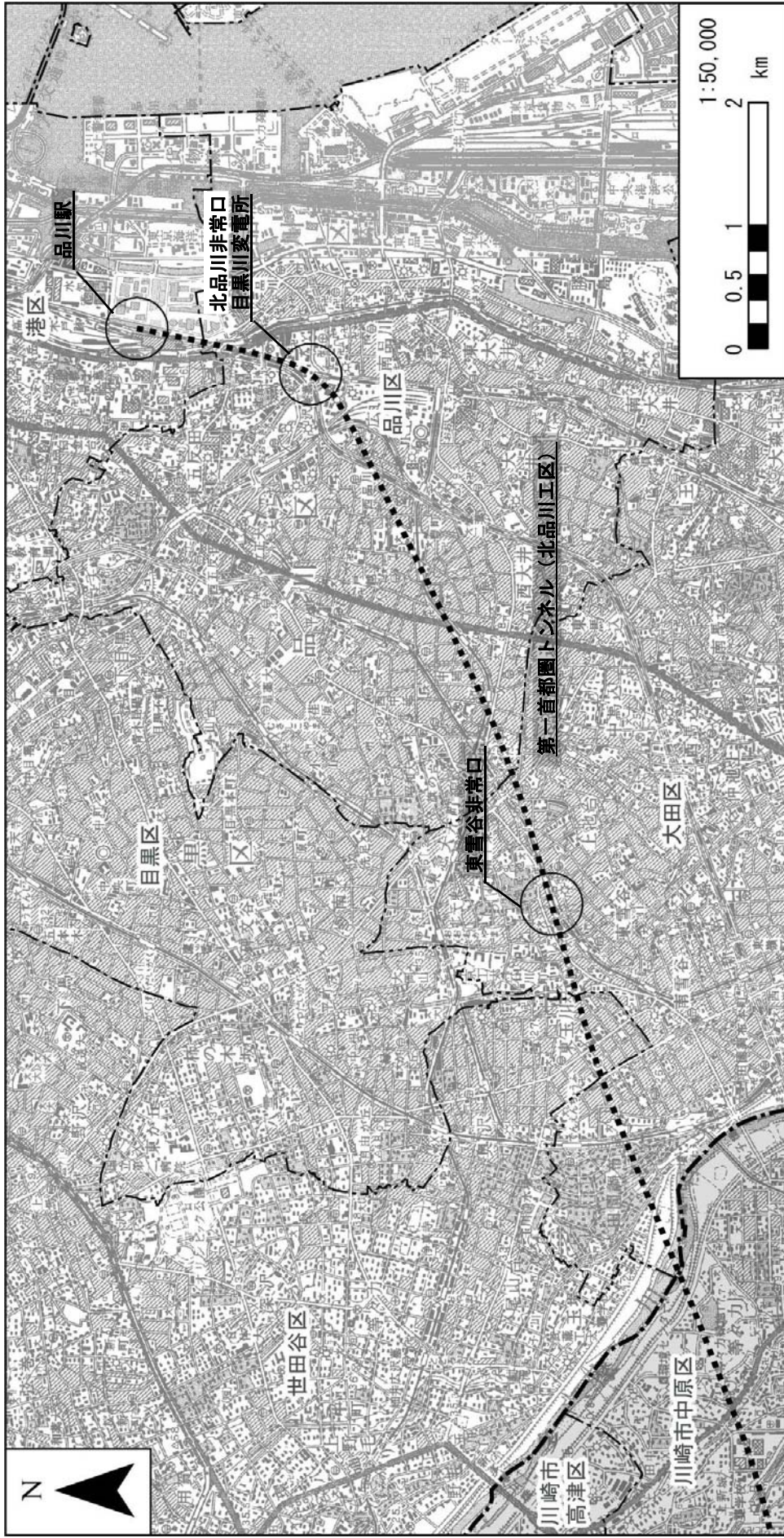
建設発生土については、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先等に活用した。

令和2年度の工事の実施状況を表 1-2-1に示す。また、工事の実施箇所を図 1-2-1に示す。

表 1-2-1 令和2年度の工事の実施状況

実施箇所	実施状況
品川駅	・地中連続壁工、工事桁架設工等を施工した。
北品川非常口	・立坑が完成した（令和元年度）。
第一首都圏トンネル （北品川工区）	・シールド機の搬入、組立等のシールド機発進準備工等を施工した。
目黒川変電所	・掘削工、躯体構築工等を施工した。
東雪谷非常口	・地中連続壁工等を施工した。
小野路非常口 ^注	・ニューマチックケーソン工等が完了し、立坑が完成した。
第一首都圏トンネル （小野路工区）	・シールド機発進準備工等を施工した。
上小山田非常口 ^注	・ニューマチックケーソン工等を施工した。

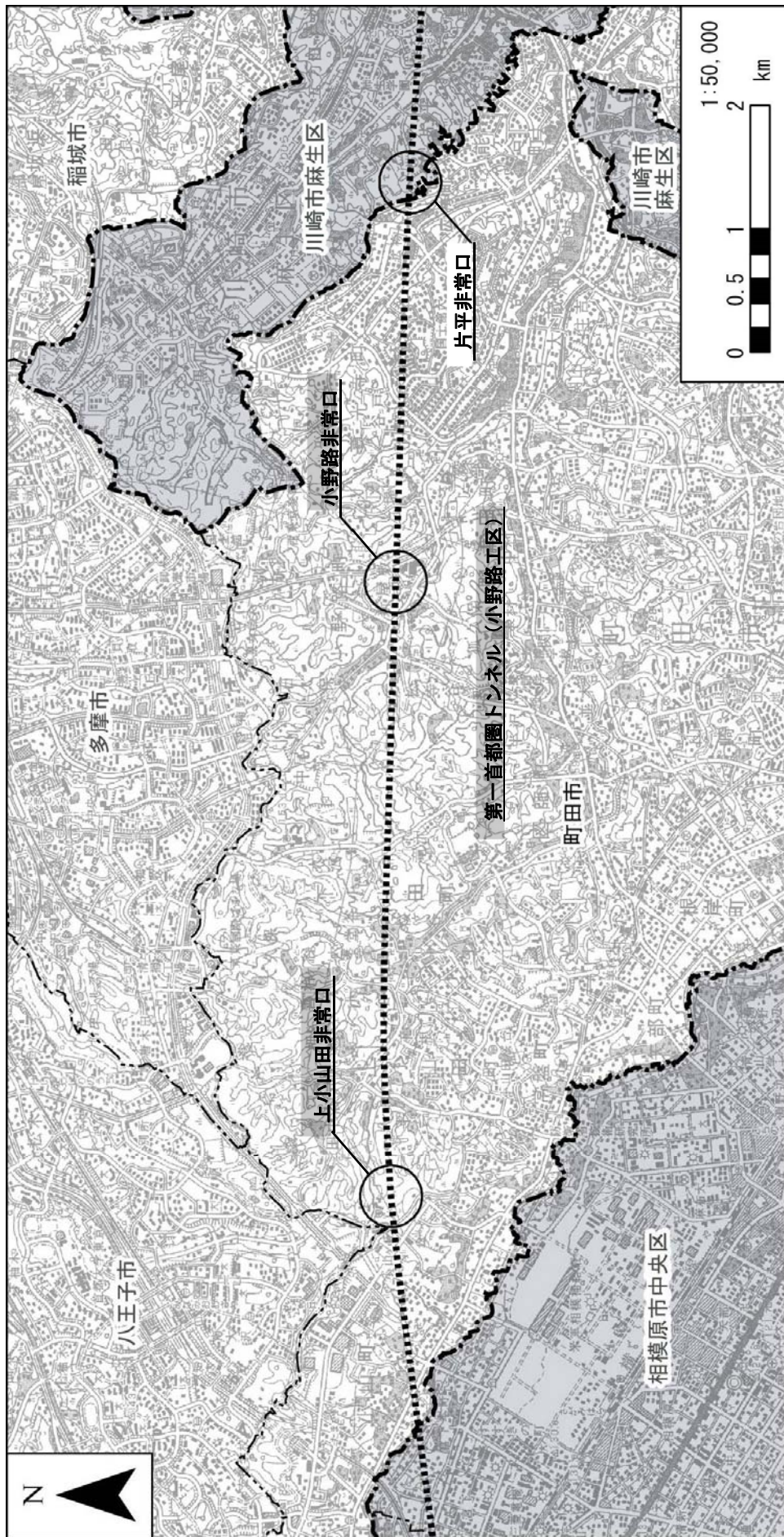
^注 小野路非常口及び上小山田非常口の工事は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、「鉄道・運輸機構」とする。）に委託し、鉄道・運輸機構が実施している。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- - - 区市境
- 工事の実施箇所

図 1-2-1(1) 工事の実施箇所



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- - - 区市境

■ 工事の実施箇所

図 1-2-1(2) 工事の実施箇所

2 事後調査

令和2年度は、植物について、事後調査を実施した。なお、専門家等の助言を受けて、希少種の保護の観点から周辺状況等の詳細については非公開とした。

2-1 植物

重要な種の移植の効果に不確実性があることから、平成27年度、平成28年度及び令和2年度に移植を実施した植物の生育状況の事後調査を実施した。

2-1-1 調査項目

調査項目は、移植した植物の生育状況とした。

2-1-2 調査方法

現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

2-1-3 調査地点

現地調査地点は、移植を実施した地点であり、対象を表 2-1-3-1 に示す。

表 2-1-3-1 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
オニカナワラビ	オシダ科	町田市 小野路町	町田市 小野路町	平成27年11月25日 平成27年11月26日
タマノカンアオイ	ウマノスズクサ科			平成27年11月25日 平成27年11月26日 平成28年7月5日 平成28年7月6日
オカタツナミソウ	シソ科			平成27年11月25日 平成27年11月26日 平成28年7月5日 平成28年7月6日
ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ科			平成27年11月25日 平成27年11月26日
キンラン	ラン科			平成27年11月25日 平成27年11月26日 平成28年7月5日 平成28年7月6日
				町田市 上小山田町
ササバギンラン	ラン科	町田市 小野路町	町田市 小野路町	平成27年11月25日 平成27年11月26日

2-1-4 調査期間

移植後の生育状況の現地調査は表 2-1-4-1 に示す時期に実施した。なお、移植後の生育状況調査は、移植作業後 1 か月以内及び移植後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて設定することとした。

表 2-1-4-1 生育状況の現地調査の時期

調査対象種	調査箇所	調査日
オニカナワラビ	町田市 小野路町	令和 2 年 6 月 22 日
タマノカンアオイ		令和 2 年 6 月 4 日 ^{注1} 、6 月 5 日 ^{注1}
オカタツナミソウ		令和 2 年 7 月 31 日
ホソバヒカゲスゲ		令和 2 年 6 月 4 日 ^{注1}
キンラン		令和 2 年 6 月 4 日 ^{注1}
	町田市 上小山田町	令和 2 年 11 月 12 日（移植後約 1 週間） 令和 2 年 11 月 30 日（移植後約 1 ヶ月）
ササバギンラン	町田市 小野路町	令和 2 年 6 月 4 日 ^{注1}

注1 小野路町におけるタマノカンアオイ、ホソバヒカゲスゲ、キンラン、ササバギンランの調査については、新型コロナウイルス感染症の影響により 6 月に実施した。

2-1-5 調査結果

(1) オニカナワラビ

小野路町における令和 2 年度の展葉期の確認（6 月 22 日）においては、新葉が展開しており、孢子嚢も形成されていたことから良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【展葉】（移植個体）
令和 2 年 6 月 22 日

(2) タマノカンアオイ

小野路町における令和2年度の開花期の確認（6月4日、6月5日）においては、移植株数と同等の個体数が確認されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により調査時期が遅くなったため、昨年度より確認できた開花数が少なくなった。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【開花】（移植個体）

令和2年6月4日、6月5日

(3) オカタツナミソウ

小野路町における令和2年度の結実期の確認（7月31日）においては、移植株数までには到達しなかったものの、令和元年度より多くの個体数が確認された。結実については、令和元年度と同等確認されており、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【結実】（移植個体）

令和2年7月31日

(4) ホソバヒカゲスゲ

小野路町における令和2年度の開花期・結実期の確認（6月4日）において、移植株がすべて残存しており、開花・結実も見られること、生育状況に異常が見られないことから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【開花・結実】（移植個体）

令和2年6月4日

(5) キンラン

小野路町における令和2年度の開花期の確認（6月4日）において、新型コロナウイルス感染症の影響により調査時期が遅くなったため、令和元年度と比較して個体数や開花している個体の割合に若干の変動が認められた。生育状況については、一定数の開花が見られること、生育状況に異常が見られないこと、株の大きさも大きく変わらないことから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【開花】（移植個体）

令和2年6月4日

上小山田町における令和2年度に移植した個体については、移植後の確認（令和2年11月12日、11月30日）において、移植株が生存していることを確認した。なお、現地での測量誤りにより移植位置が適切でなかったため、令和3年度に再移植を実施し、生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【移植後】（移植個体）

令和2年11月12日、11月30日

(6) ササバギンラン

小野路町における令和2年度の開花期の確認（6月4日）において、ササバギンランと思われる株の展開、開花は、令和元年度と同様に確認されなかった。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

3 モニタリング

令和2年度は、大気質、騒音、振動、水質、地下水、水資源、地盤沈下及び土壌汚染について、モニタリングを実施した。

3-1 大気質

令和2年度は、建設機械の稼働に係る大気質について、工事最盛期となる工区におけるモニタリングを実施した。なお、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行については大気質に係る工事最盛期ではないため、モニタリングは実施していない。

3-1-1 調査項目

調査項目は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん等とした。

3-1-2 調査方法

調査方法は、表 3-1-2-1 に示すとおりである。

表 3-1-2-1 調査方法

調査項目	調査方法	測定高さ
二酸化窒素 (NO ₂)	「二酸化窒素に係る環境基準について」 (昭和 53 年環境庁告示第 38 号) に定める測定方法	地上 1.5m
浮遊粒子状物質 (SPM)	「大気汚染に係る環境基準について」 (昭和 48 年環境庁告示第 25 号) に定める測定方法	地上 3.0m
粉じん等 (降下ばいじん量)	「衛生試験法・注解(2015)」(2015、日本薬学会) に基づくダストジャー法	地上 1.5m

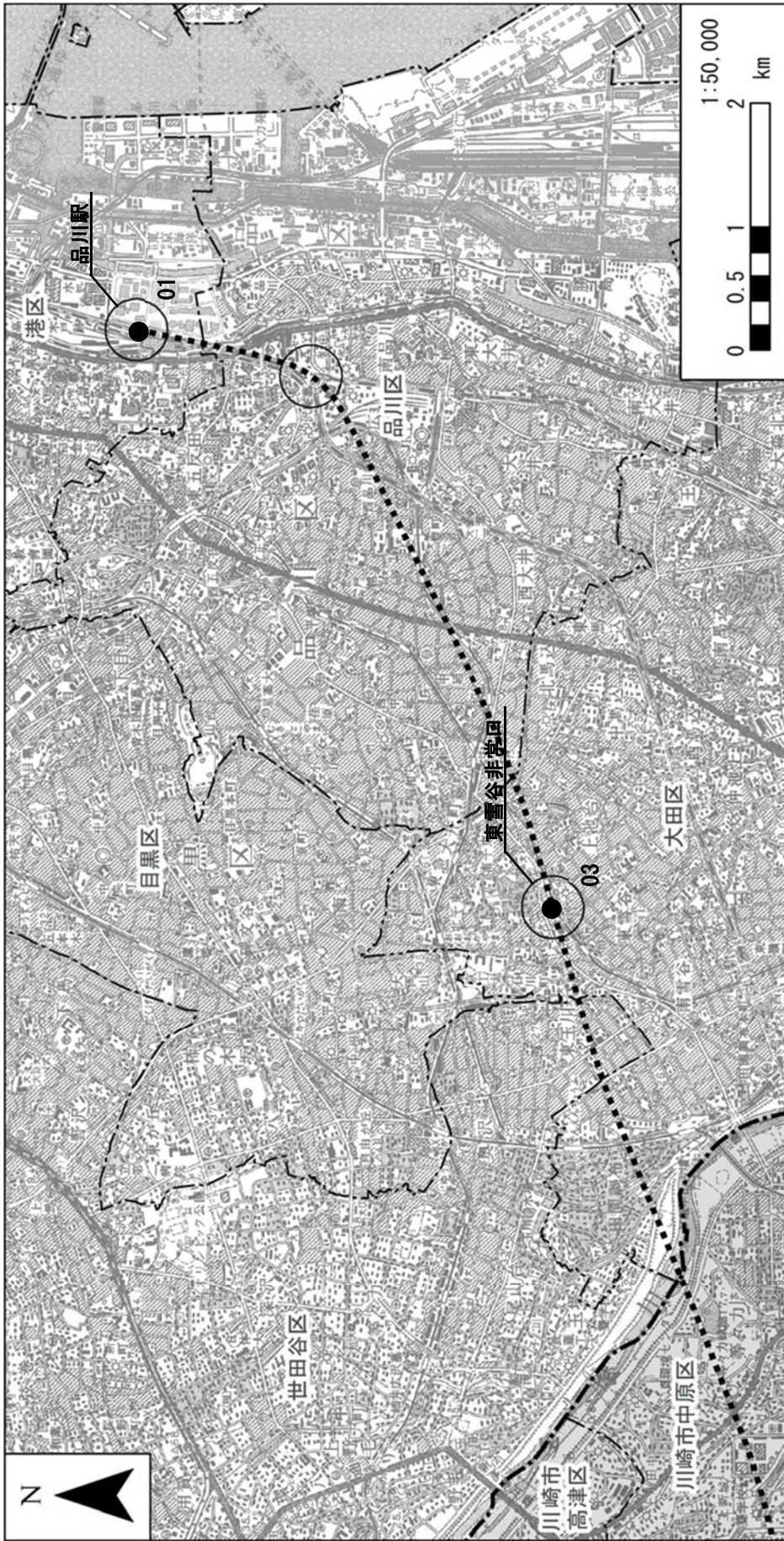
3-1-3 調査地点

調査地点は、表 3-1-3-1 及び図 3-1-3-1 に示すとおりである。

表 3-1-3-1 調査地点

調査項目	地点番号	調査地点	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働	01	環境 01-①	港区	港南	品川駅
		環境 01-②			
	03	環境 03-①	大田区	東雪谷	東雪谷非常口
		環境 03-②			
	06	環境 06-①	町田市	上小山田町	上小山田非常口
		環境 06-②			

注 1：地点番号は評価書での地点番号と同様とした。



凡例

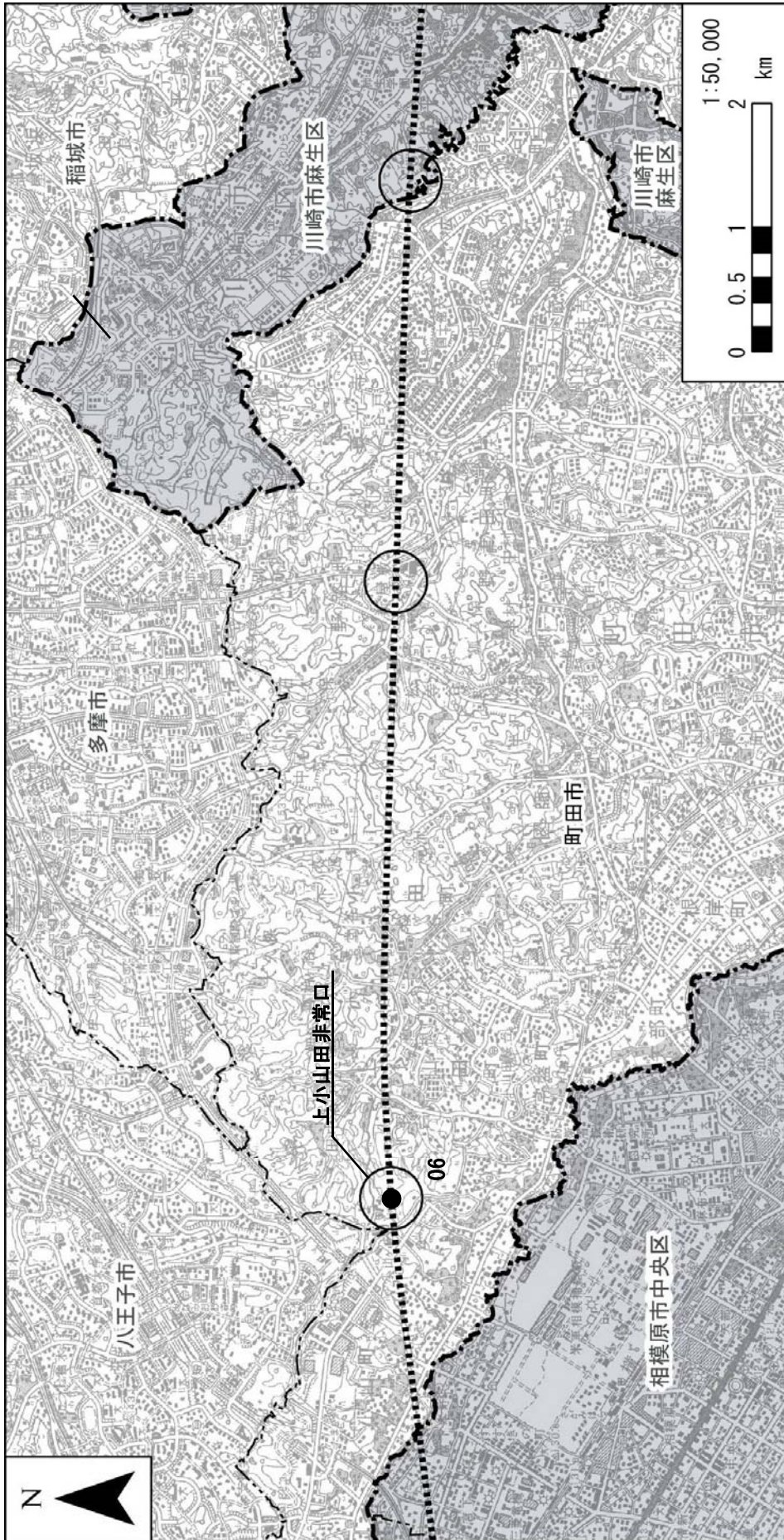
..... 計画路線(トンネル部) ● 調査地点

--- 都県境

- - - 区市境

注：本調査は01、03、06地点で実施した。

図 3-1-3-1(1) 調査地点 (建設機械の稼働)



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

● 調査地点

--- 都県境

注：本調査は01、03、06地点で実施した。

- - - 区市境

図 3-1-3-1(2) 調査地点(建設機械の稼働)

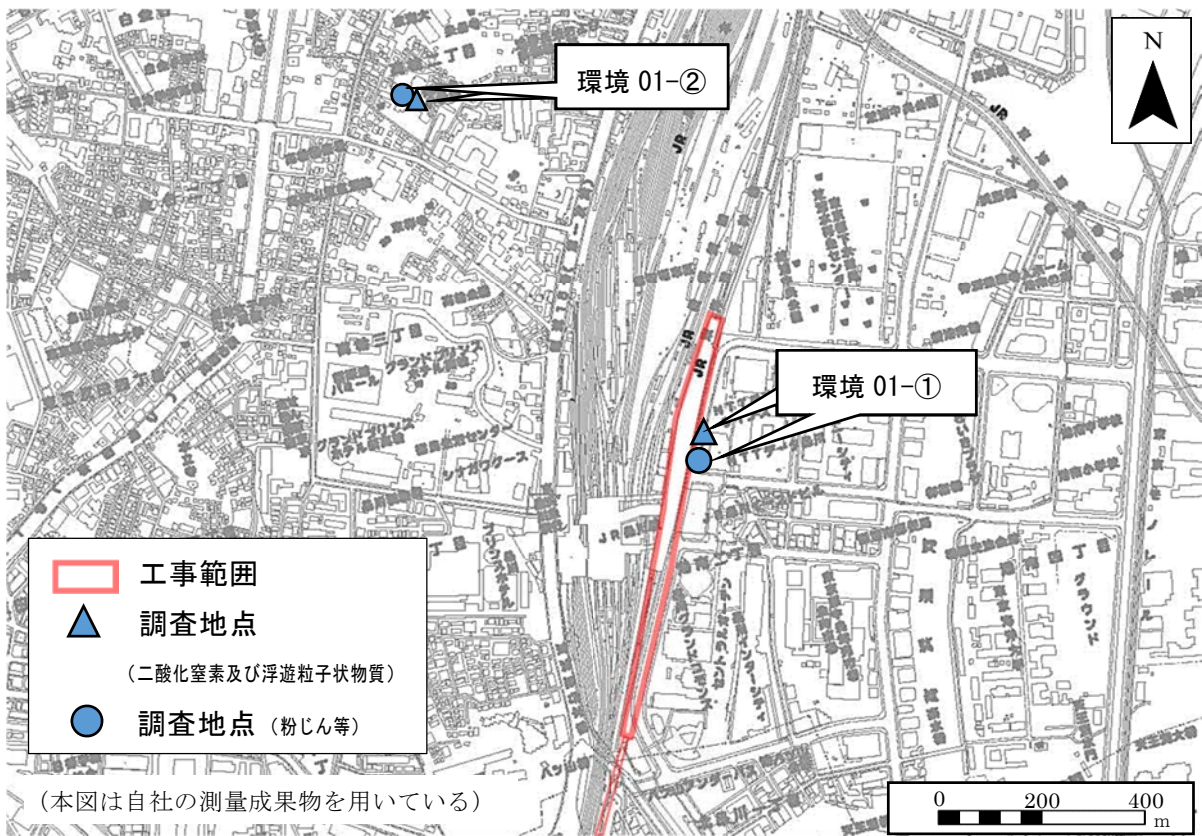


図 3-1-3-1 (3) 調査地点 (建設機械の稼働) (01 品川駅)

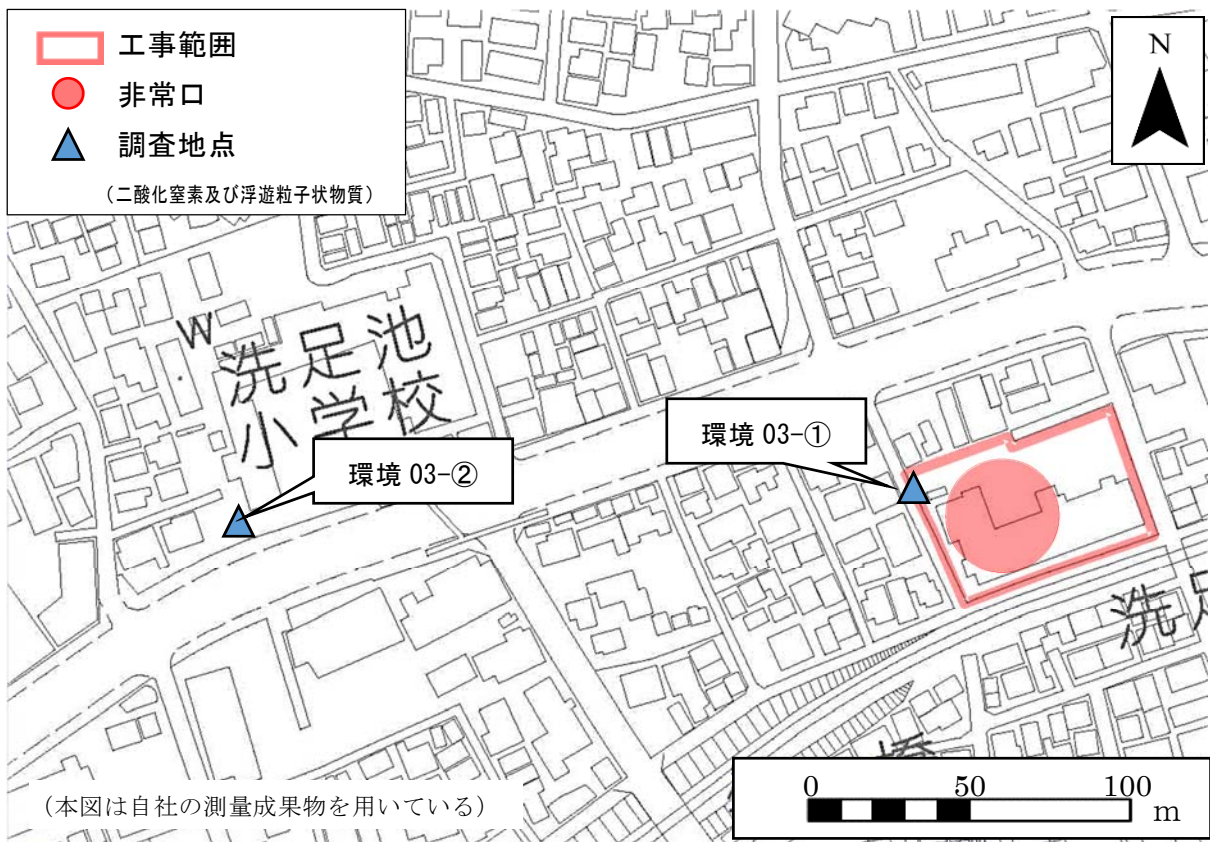


図 3-1-3-1 (4) 調査地点 (建設機械の稼働) (03 東雪谷)

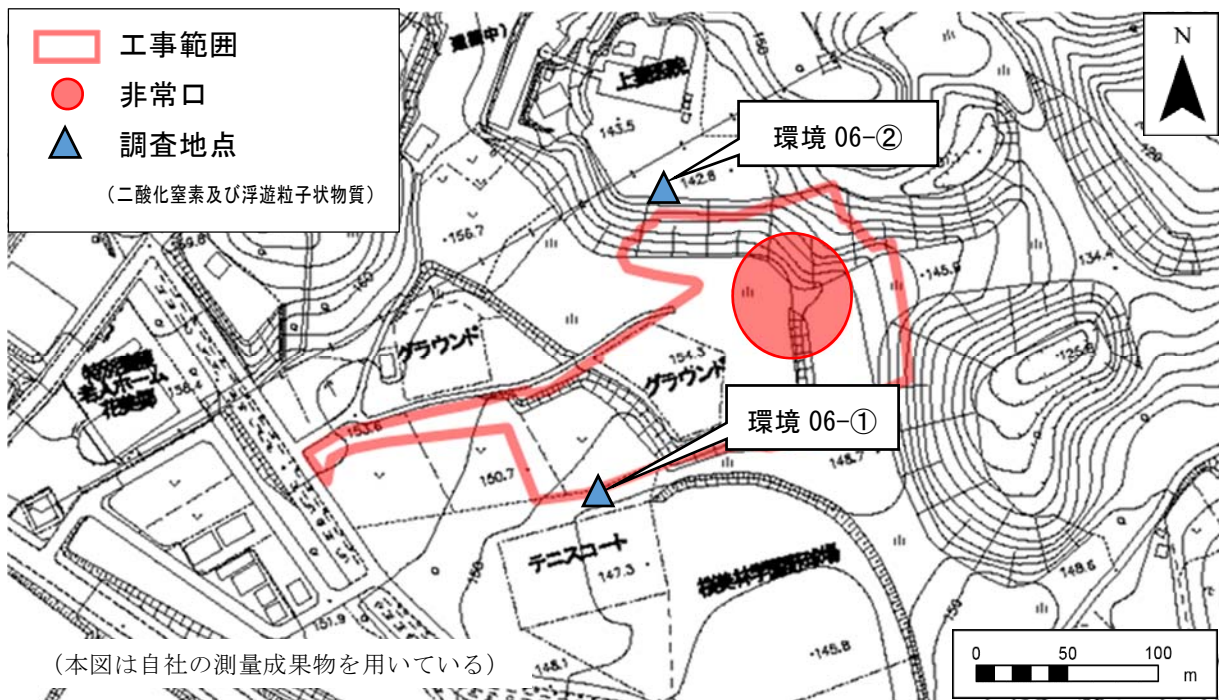


図 3-1-3-1 (5) 調査地点（建設機械の稼働）（06 上小山田）

3-1-4 調査期間

調査期間は、表 3-1-4-1 に示すとおりである。二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については四季調査を実施するものとし、各季 7 日間連続測定を行った。なお、地点 01 における二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じんの春季、夏季及び秋季については令和 3 年度に調査を実施する計画である。地点 03 における二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の夏季、秋季及び冬季については、令和 3 年度に調査を実施する計画である。地点 06 における二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の春季については、令和 3 年度に調査を実施する計画である。

工事最盛期の対象工事は、評価書の予測対象工事を基本として工事期間全体の中で工事内容を勘案し、調査項目ごとに工事による影響が最大となる時期を選定した。

表 3-1-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容
建設機械の稼働 （二酸化窒素及び 浮遊粒子状物質）	01	冬季	令和 3 年 2 月 2 日～8 日	地中連続壁工、 掘削・支保工の準備工 等
	03	春季	令和 3 年 3 月 23 日～29 日	地中連続壁工 （ガイトウォール撤去工） 等
	06	夏季	令和 2 年 7 月 22 日～28 日	準備工（ヤード造成工）等
		秋季	令和 2 年 10 月 14 日～20 日	準備工（ヤード造成工） ニューマチックケトン工 等
		冬季	令和 3 年 1 月 20 日～26 日	ニューマチックケトン工 等
建設機械の稼働 （粉じん等）	01	冬季	令和 3 年 2 月 1 日～3 月 3 日	地中連続壁工、 掘削・支保工の準備工 等

3-1-5 調査結果

調査結果は、表 3-1-5-1 に示すとおりである。

地点 01 は四季調査の一季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.043ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の最高値は 0.028mg/m³ であった。

地点 03 は四季調査の一季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.024ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の最高値は 0.018mg/m³ であった。

地点 06 は四季調査の三季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.025ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の最高値は 0.024 mg/m³ であった。

また、降下ばいじん量については、地点 01 で最大 8.70 t/km²/月であった。

表 3-1-5-1 (1) 調査結果 (二酸化窒素)

地点 番号	調査地点	有効測 定日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が0.06ppm を超えた日数とその 割合		日平均値が0.04ppm 以上0.06ppm以下の 日数とその割合		基準 ^注
		日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%	
01	環境 01-①	7	168	0.023	0.059	0.043	0	0	1	14	日平均値の 年間 98%値が 0.06ppm 以下
	環境 01-②	7	168	0.019	0.061	0.040	0	0	1	14	
03	環境 03-①	7	168	0.015	0.059	0.024	0	0	0	0	
	環境 03-②	7	168	0.014	0.058	0.023	0	0	0	0	
06	環境 06-①	21	504	0.010	0.050	0.024	0	0	0	0	
	環境 06-②	21	504	0.009	0.054	0.025	0	0	0	0	

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (2) 調査結果 (浮遊粒子状物質)

地点 番号	調査地点	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値 の 最高値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数と その割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数と その割合		基準 ^注
		日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³	時間	%	日	%	
01	環境 01-①	7	168	0.012	0.053	0.028	0	0	0	0	日平均値の 年間2%除外値 が0.10mg/m ³ 以下
	環境 01-②	7	168	0.011	0.057	0.023	0	0	0	0	
03	環境 03-①	7	168	0.016	0.040	0.018	0	0	0	0	
	環境 03-②	7	168	0.015	0.043	0.018	0	0	0	0	
06	環境 06-①	21	504	0.012	0.040	0.024	0	0	0	0	
	環境 06-②	21	504	0.011	0.057	0.024	0	0	0	0	

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (3) 調査結果 (降下ばいじん量) ^{注1}

地点 番号	調査地点	春季	夏季	秋季	冬季	指標値 ^{注2}
		t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
01	環境 01-①	—	—	—	8.70	20t/km ² /月
	環境 01-②	—	—	—	3.90	

注1：調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計となる。

注2：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年環大自84号）を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。なお、環境影響評価書では、建設機械の稼働による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月（平成5年～平成9年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値）を差し引いた 10t/km²/月を、整合を図るべき基準等の参考値とした。

3-2 騒音

建設機械の稼働に係る騒音について、工事最盛期となる工区におけるモニタリングを実施した。なお、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る騒音については、最盛期ではないため実施していない。

3-2-1 調査項目

調査項目は、建設機械の稼働に係る騒音（騒音レベルの90%レンジの上端値： L_{A5} ）とした。

3-2-2 調査方法

調査方法は、表 3-2-2-1 に示すとおりである。

表 3-2-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	測定高さ
建設機械の稼働に係る騒音	90%レンジ 上端値(L_{A5})	JIS Z 8731（環境騒音の表示・測定方法）	地上 1.2m

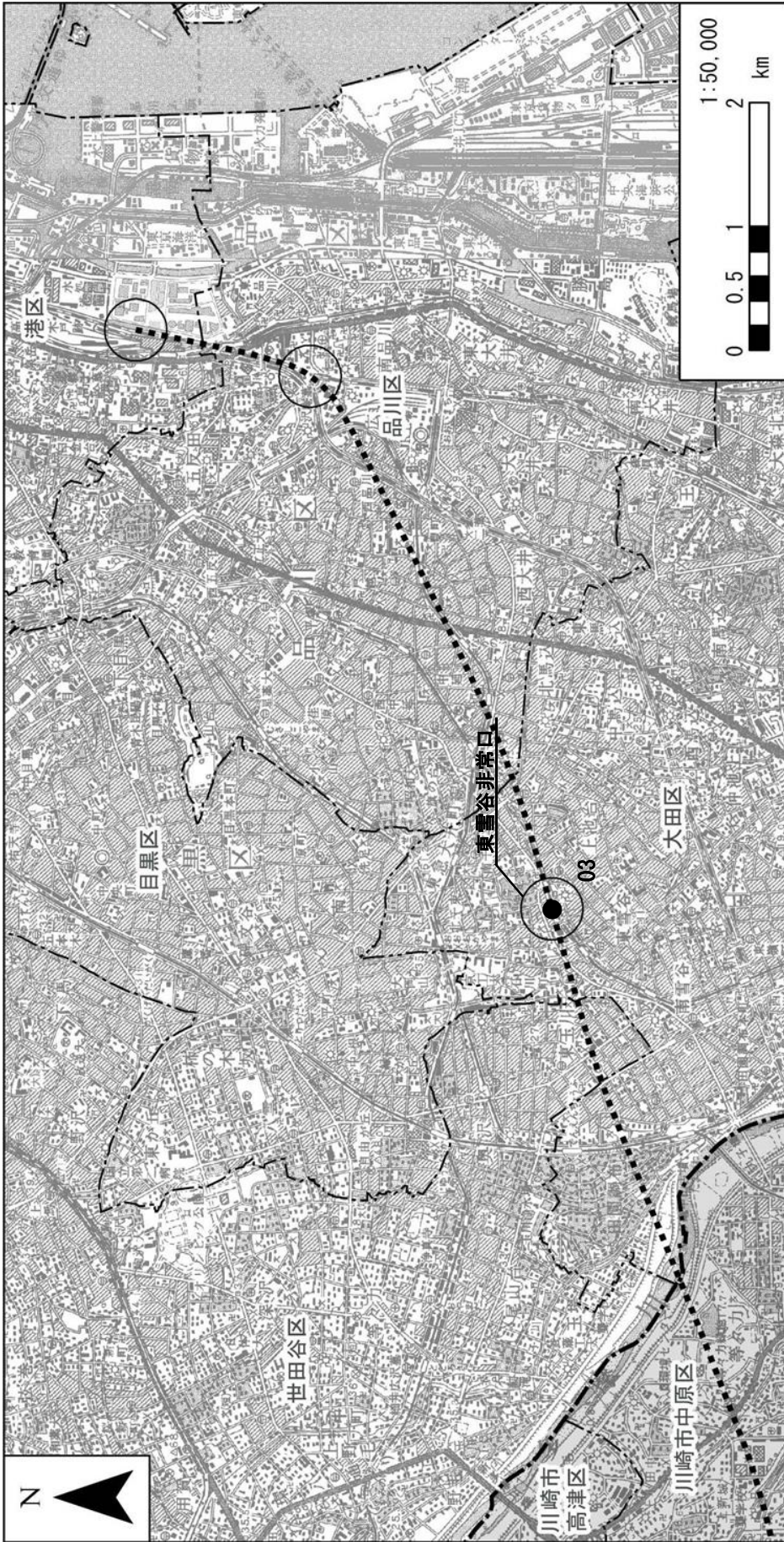
3-2-3 調査地点

調査地点は、表 3-2-3-1 及び図 3-2-3-1 に示すとおりである。

表 3-2-3-1 調査地点

調査項目	地点番号	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働に係る騒音	03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口

注1：地点番号は報告書での地点番号と同様とした。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 調査地点
- - - 都県境
- · - 区市境

注：本調査は03地点で実施した。

図 3-2-3-1(1) 調査地点 (騒音)

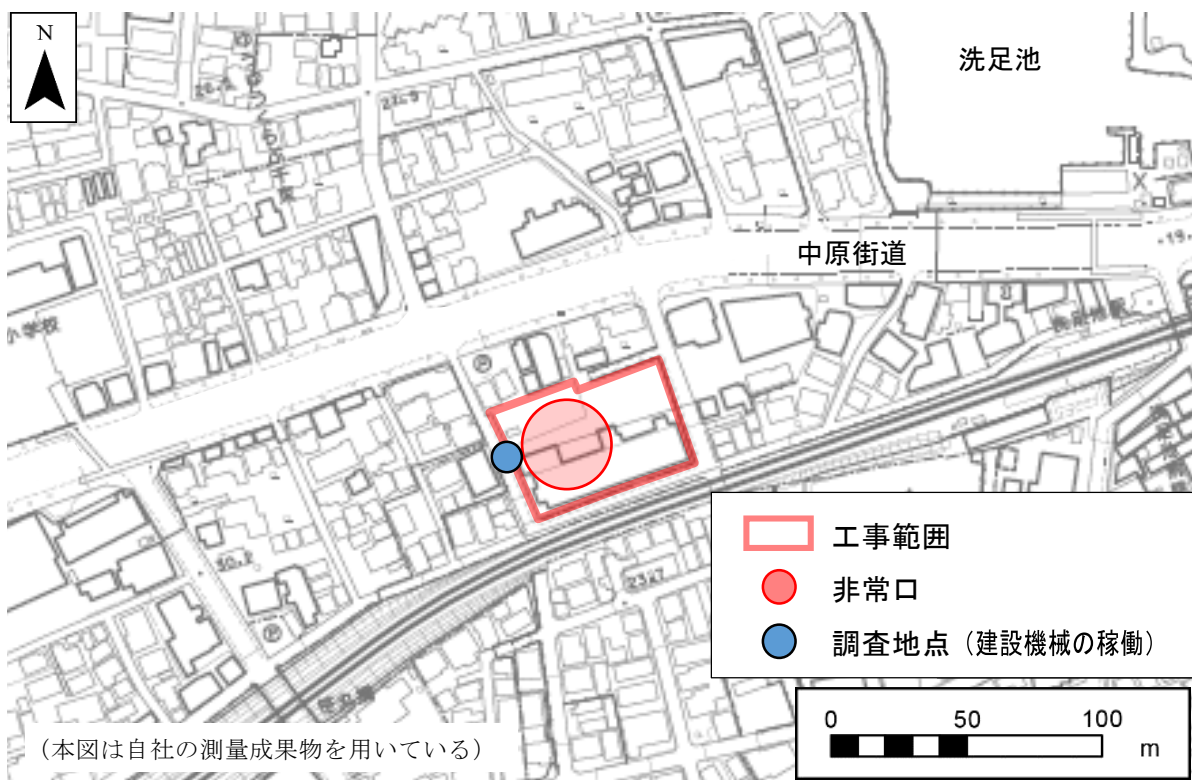


図 3-2-3-1(2) 調査地点（騒音）（03 東雪谷）

3-2-4 調査期間

調査期間は、表 3-2-4-1 に示すとおりである。なお、調査期間は工事最盛期の 1 回とし、対象工事は、評価書の内容や工事内容を勘案して、工事による騒音の影響が最大となる時期を選定した。

表 3-2-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	調査期間	調査期間中の主な工事内容	調査時間帯	
				昼作業	8:00～17:00
建設機械の稼働に係る騒音	03	令和 3 年 3 月 23 日(火)	地中連続壁工（ガトウォール撤去工）等	昼作業	8:00～17:00

3-2-5 調査結果

調査結果は、表 3-2-5-1 に示すとおりである。

建設機械の稼働に係る騒音については、「騒音規制法」に定める「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年厚生省・建設省告示第 1 号）並びに各地方公共団体の条例により定められる基準等（「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」に係る指定建設業の基準値）に対し、いずれも適合していた。

表 3-2-5-1 調査結果（建設機械の稼働に係る騒音）

調査項目	地点 番号	調査結果（dB） ^{注1}	規制基準（dB） ^{注2}	
		昼間 L _{A5}	指定建設作業	特定建設作業
建設機械の稼働 に係る騒音	03	69	80	85

注1：調査結果は1時間毎の騒音レベル L_{A5}のうち、調査の時間帯で最大となった値を示す。

注2：規制基準

指定建設作業：「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」（平成13年東京都）指定建設作業に適用する勧告基準

特定建設作業：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年厚生省・建設省告示）

3-3 振動

建設機械の稼働に係る振動について、工事最盛期となる工区におけるモニタリングを実施した。なお、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る振動については、工事最盛期ではないため実施していない。

3-3-1 調査項目

調査項目は、建設機械の稼働に係る振動（振動レベルの80%レンジの上端値：L₁₀）とした。

3-3-2 調査方法

調査方法は、表 3-3-2-1 に示すとおりである。

表 3-3-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	測定高さ
建設機械の稼働に係る振動	80%レンジ 上端値(L ₁₀)	JIS Z 8735（振動レベル測定方法）	地表面

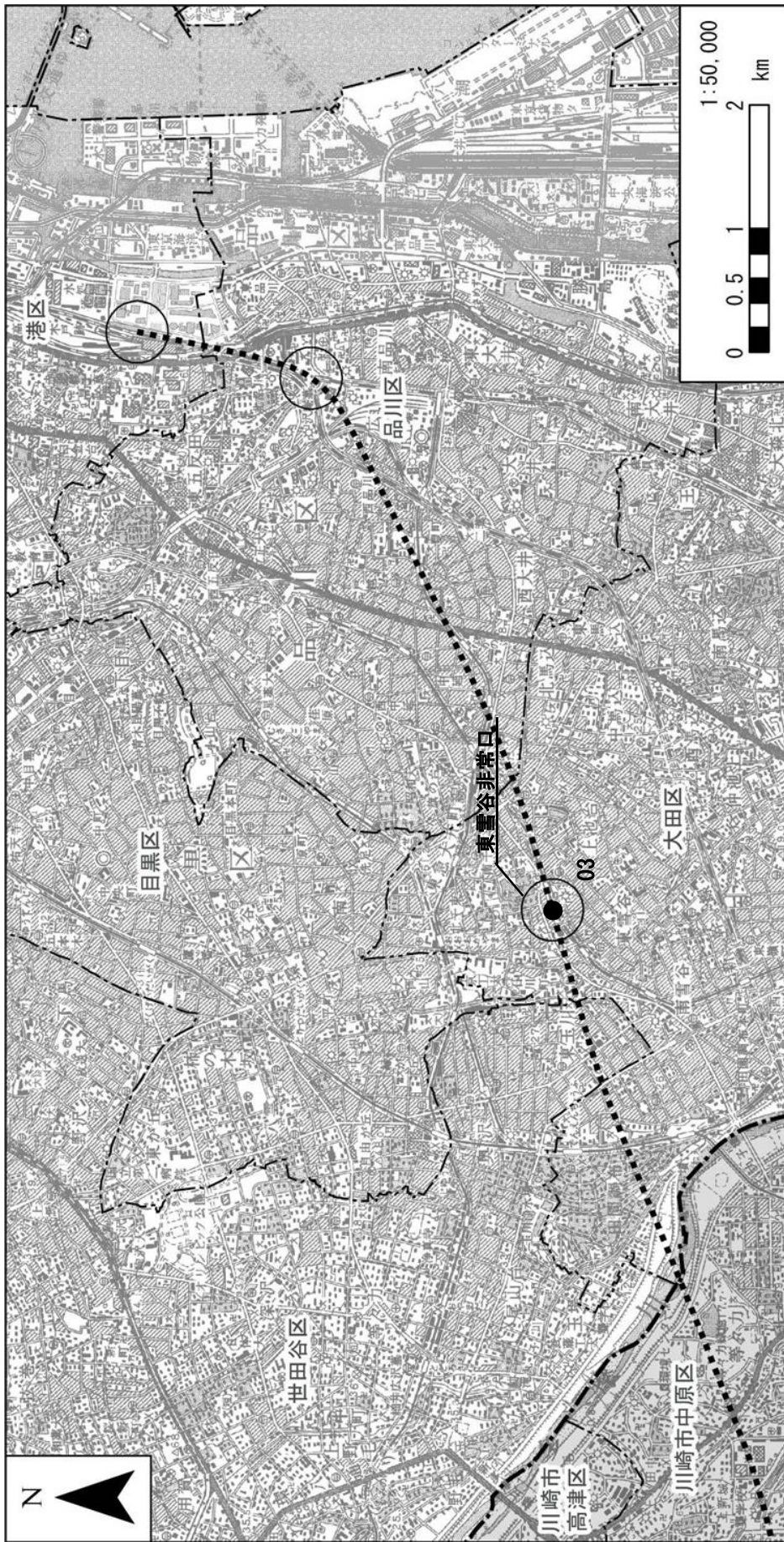
3-3-3 調査地点

調査地点は、表 3-3-3-1 及び図 3-3-3-1 に示すとおりである。

表 3-3-3-1 調査地点

調査項目	地点 番号	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働に係る振動	03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口

注1：地点番号は評価書での地点番号と同様とした。



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

--- 都県境

- - - 区市境

● 調査地点

注：本調査は03地点で実施した。

図 3-3-3-1(1) 調査地点 (振動)

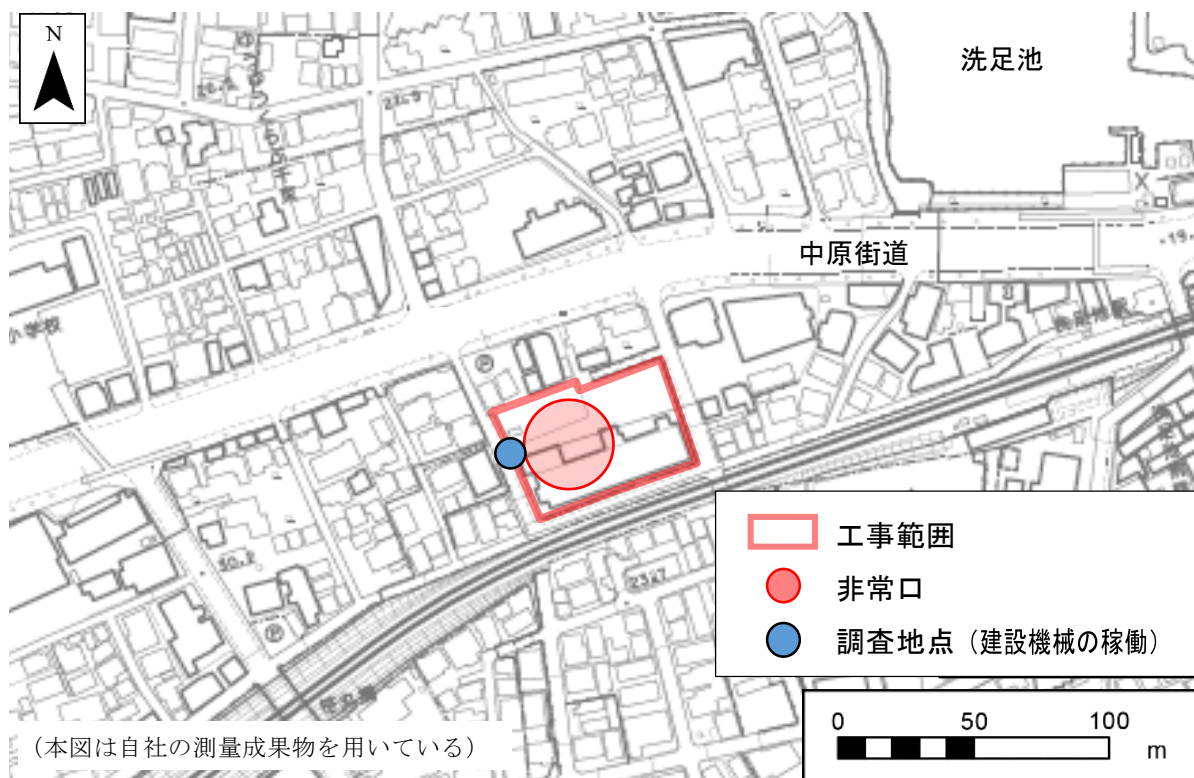


図 3-3-3-1(2) 調査地点（振動）（03 東雪谷）

3-3-4 調査期間

調査期間は、表 3-3-4-1 に示すとおりである。なお、調査期間は工事最盛期の 1 回とし、対象工事は、評価書の内容や工事内容を勘案し、工事による振動の影響が最大となる時期を選定した。

表 3-3-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	調査期間	調査期間中の主な工事内容	調査時間帯	
				昼作業	8:00～17:00
建設機械の稼働に係る振動	03	令和 3 年 3 月 23 日(火)	地中連続壁工 (ガイトウォール撤去工) 等	昼作業	8:00～17:00

3-3-5 調査結果

調査結果は、表 3-3-5-1 に示すとおりである。建設機械の稼働に係る振動については、「振動規制法施行規則」(昭和 51 年総理府令第 58 号) に定める「特定建設作業の規制に関する基準」並びに「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」に対し、いずれも適合していた。

表 3-3-5-1 調査結果（建設機械の稼働に係る振動）

調査項目	地点 番号	調査結果 (dB) 注1	規制基準 (dB) 注2	
		昼間 L ₁₀	指定建設作業	特定建設作業
建設機械の稼働 に係る振動	03	48	70	75

注1：調査結果は1時間毎の振動レベルL₁₀のうち、調査の時間帯で最大となった値を示す。

注2：規制基準

指定建設作業：「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」（平成13年東京都）指定建設作業に適用する勧告基準

特定建設作業：「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）「特定建設作業の規制に関する基準」

3-4 水質

公共用水域（河川）の水質について、工事中のモニタリングを実施した。

3-4-1 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-4-2 調査方法

調査方法を、表 3-4-2-1 に示す。

表 3-4-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年建設省河川局）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成 22 年 3 月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
ほう素		

3-4-3 調査地点

調査地点を、表 3-4-3-1 及び図 3-4-3-1 に示す。

表 3-4-3-1 調査地点

地点 番号 <small>注1</small>	区市名	水系	対象河川	実施箇所	調査項目			
					浮遊物質 量(SS)	水温	水素イオン 濃度(pH)	自然由来の 重金属等
05	町田市	鶴見川	小野路川	小野路非常口 第一首都圏トンネル (小野路工区)	○	○	○	○
06			平川	上小山田非常口	○	○	○	○

注1：地点番号は、評価書での地点番号と同様とした。

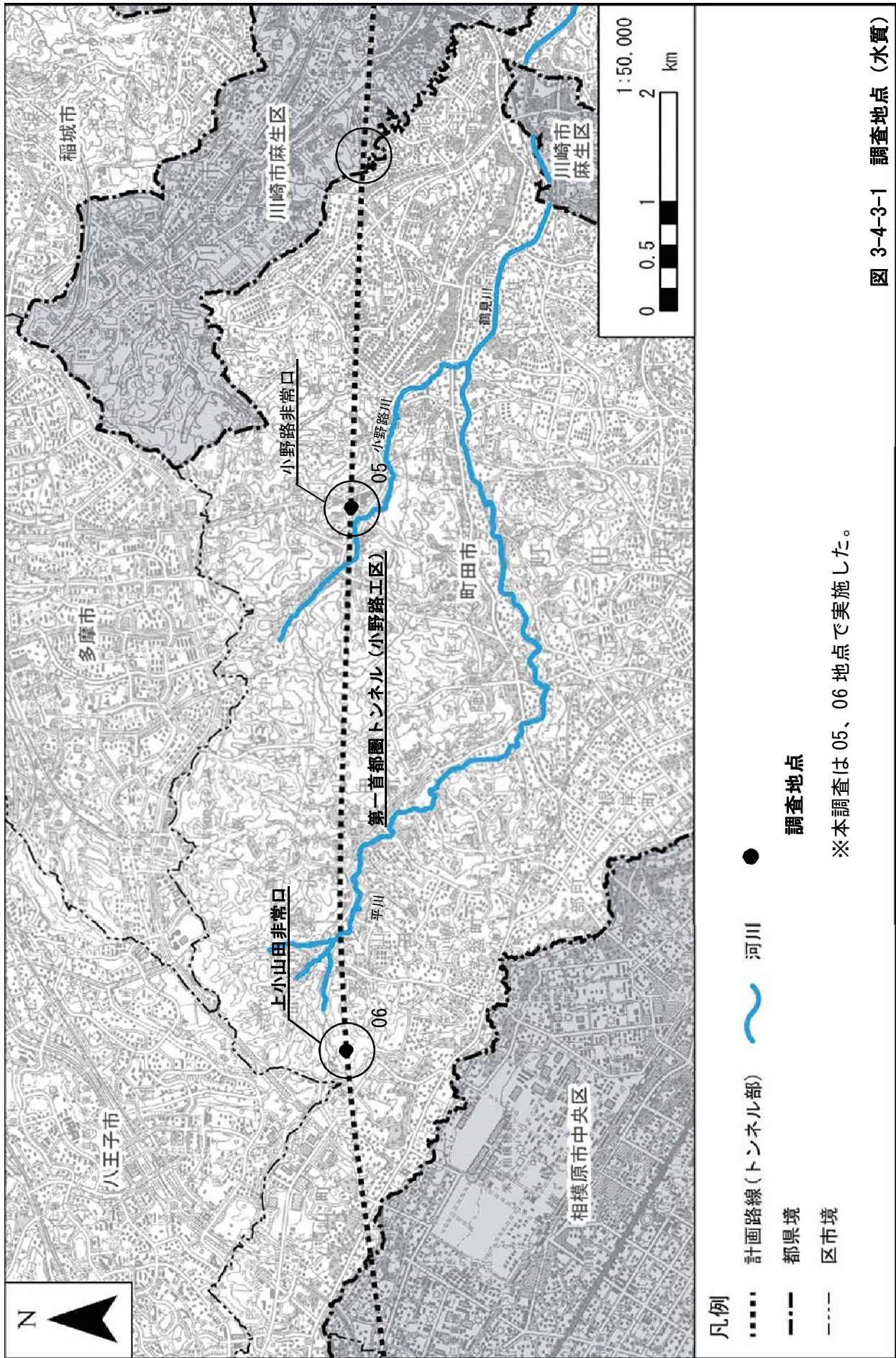


図 3-4-3-1 調査地点 (水質)

3-4-4 調査期間

調査期間を、表 3-4-4-1 に示す。

表 3-4-4-1 調査期間

地点 番号	対象河川	実施時期の種別	調査時期	調査頻度
05	小野路川	工事中	豊水期：令和2年8月24日 低水期：令和3年1月21日	年2回
06	平川	工事中	豊水期：令和2年8月24日 低水期：令和3年1月21日	年2回

3-4-5 調査結果

調査結果は、表 3-4-5-1 に示すとおりである。地点番号 05、06 については、各項目とも環境基準等に適合していた。

表 3-4-5-1 調査結果

地点番号	05		06		環境基準等 ^{注2}	
	対象河川		平川			
類型指定 ^{注1}	(D)		(D)			
調査時期	豊水期	低水期	豊水期	低水期		
流量 (m ³ /s)	4.2×10 ⁻²	3.2×10 ⁻²	8.9×10 ⁻³	6.2×10 ⁻³	—	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	<1	1	<1	<1	100mg/L 以下	
水温 (°C)	25.2	10.2	23.9	9.5	—	
気象の状況	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	—	
土質の状況	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	—	
水素イオン濃度 (pH)	7.7	7.3	7.9	8.0	6.0 以上 8.5 以下	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	0.001	0.001	0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下

注1 類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2 浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注3 「<」は未満を示す。

なお、工事中における小野路非常口、上小山田非常口からの工事排水中の水質についても、浮遊物質、水温、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行っている。

小野路非常口の測定結果は、浮遊物質（SS）が最大で 98mg/L、水素イオン濃度（pH）は 7.2～7.9 であり、いずれも排水基準に適合していた。水温は 7～25℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは 0.0003mg/L 未満、鉛は 0.001mg/L 未満、六価クロムは 0.005mg/L 未満、ヒ素は 0.002mg/L、水銀は 0.00005mg/L 未満、セレンは 0.001mg/L 未満、ふっ素は 0.08mg/L 未満、ほう素は 0.1mg/L 未満であり、いずれも排水基準に適合していた。

上小山田非常口の測定結果は、浮遊物質（SS）が最大で 24mg/L、水素イオン濃度（pH）は 6.5～8.2 であり、いずれも排水基準に適合していた。水温は 11～31℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは 0.0003mg/L 未満、鉛は 0.005mg/L 未満、六価クロムは 0.02mg/L 未満、ヒ素は 0.002mg/L 未満、水銀は 0.0005mg/L 未満、セレンは 0.002mg/L 未満、ふっ素は 0.1mg/L 未満、ほう素は 0.1mg/L 未満であり、いずれも排水基準に適合していた。

3-5 地下水

地下水について、工事前、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-5-1 調査項目

調査項目は、地下駅、非常口（都市部）及び変電所付近の井戸の地下水の水位の状況とした。

3-5-2 調査方法

調査方法は、表 3-5-2-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-1 調査方法

調査項目	調査方法
水位	地下水は「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年 建設省河川局）に定める測定方法に準拠する。

3-5-3 調査地点

調査地点は、表 3-5-3-1、図 3-5-3-1 及び図 3-5-3-2 に示すとおりである。

表 3-5-3-1(1) 調査地点

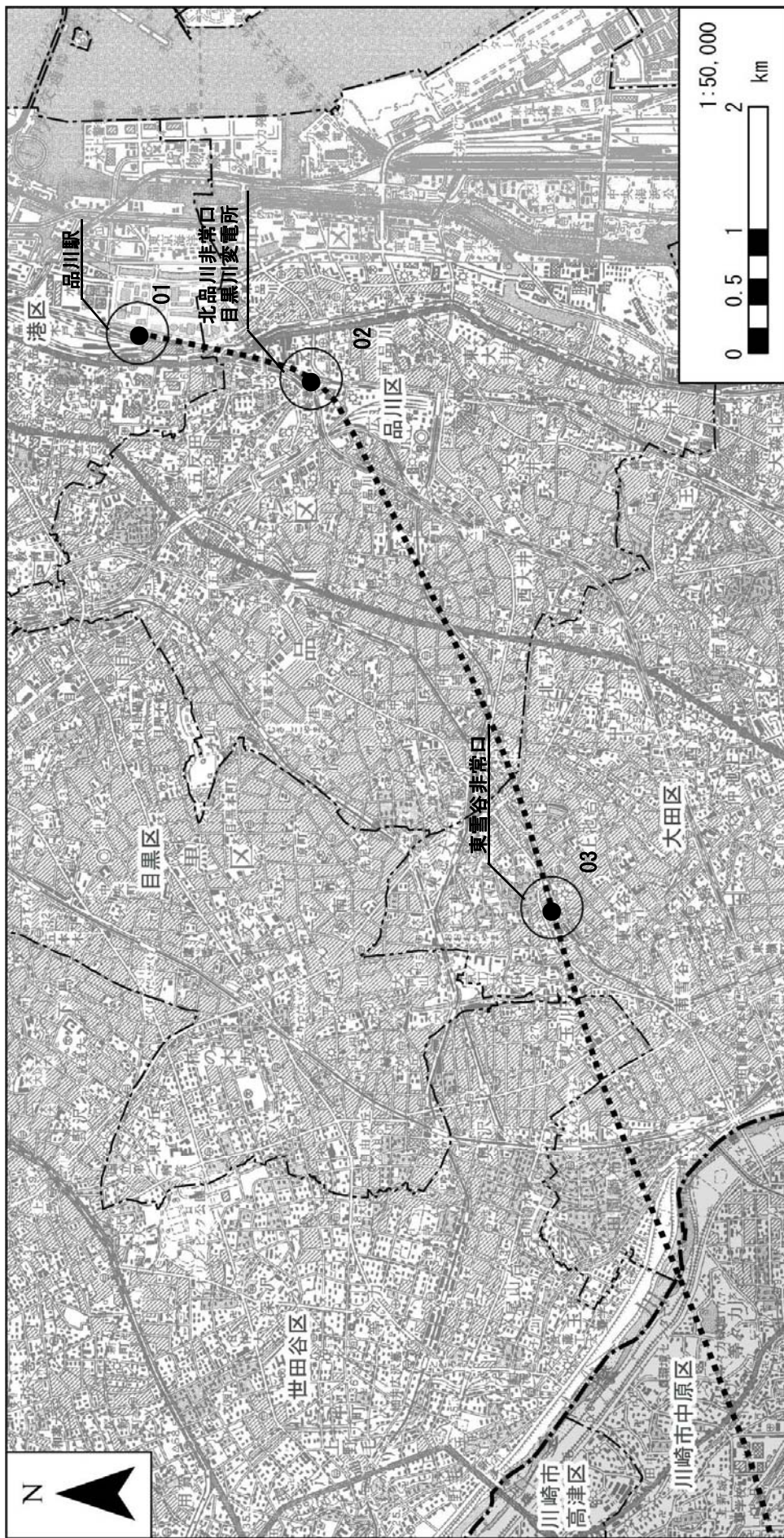
地点 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点 ・種別		地表面標高 ^{注1}	スレーナ深度 ^{注1}	地層名
01	港区	港南	品川駅	01-①	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m~-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -56m~-66m	上総層
				01-②	浅層	T. P. +2. 5m	T. P. -10m~-18m	東京層
					深層	T. P. +2. 5m	T. P. -46m~-66m	上総層
				01-③	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m~-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -49m~-61m	上総層
				01-④	浅層	T. P. +3. 3m	T. P. -11m~-18m	東京層
					深層	T. P. +3. 3m	T. P. -49m~-59m	上総層
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-①	浅層	T. P. +3. 0m	T. P. -12m~-20m	東京層
					深層	T. P. +3. 0m	T. P. -70m~-82m	上総層
				02-②	浅層	T. P. +4. 3m	T. P. -12m~-20m	東京層
					深層	T. P. +4. 3m	T. P. -64m~-76m	上総層
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①	浅層	T. P. +27m	T. P. +19m~+10m	東京層
					深層	T. P. +27m	T. P. -45m~-59m	上総層
				03-②	浅層	T. P. +24m	T. P. +15m~+9m	東京層
					深層	T. P. +24m	T. P. -46m~-59m	上総層
04	川崎市 麻生区 町田市	片平 (能ヶ谷)	片平非常口	04-①	浅層	T. P. +78m	T. P. +70m~+46m	上総層
					深層	T. P. +78m	T. P. -17m~-39m	上総層
				04-②	浅層	T. P. +78m	T. P. +63m~+43m	上総層
					深層	T. P. +78m	T. P. -23m~-44m	上総層

注1：T. P. は東京湾平均海面からの高さを示す。

表 3-5-3-1(2) 調査地点

地点 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点 ・種別	地表面標高 ^{注1}	スレーナ-深度 ^{注1}	地層名	
05	町田市	小野路町	小野路非常口	05-①	浅層	T. P. +89m	T. P. +47m~+36m	上総層
					深層	T. P. +89m	T. P. +16m~+5m	上総層
				05-②	浅層	T. P. +68m	T. P. +51m~+40m	上総層
					深層	T. P. +68m	T. P. +15m~+4m	上総層
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①	浅層	T. P. +155m	T. P. +119m~ +109m	上総層
					深層	T. P. +155m	T. P. +65m~+55m	上総層
				06-②	浅層	T. P. +140m	T. P. +115m~ +105m	上総層
					深層	T. P. +140m	T. P. +65m~+55m	上総層

注1：T. P. は東京湾平均海面からの高さを示す。

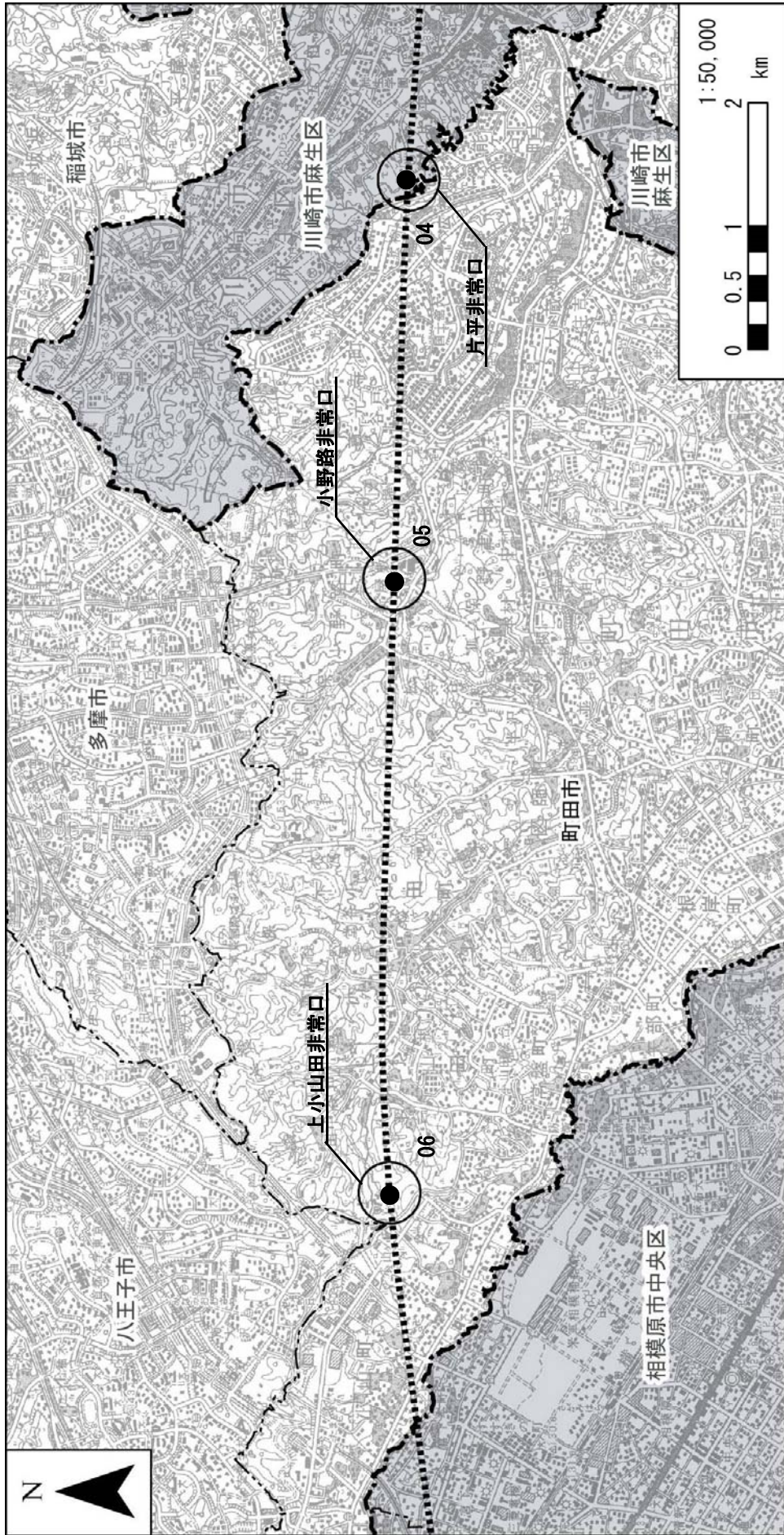


凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 調査地点
- 都県境
- 区市境

※本調査は01、02、03、04、05、06地点で実施した。

図 3-5-3-1 (1) 調査地点 (地下水)



凡例

..... 計画路線(トンネル部) ● 調査地点

--- 都県境

- - - 区市境

※本調査は01、02、03、04、05、06地点で実施した。

図 3-5-3-1 (2) 調査地点 (地下水)

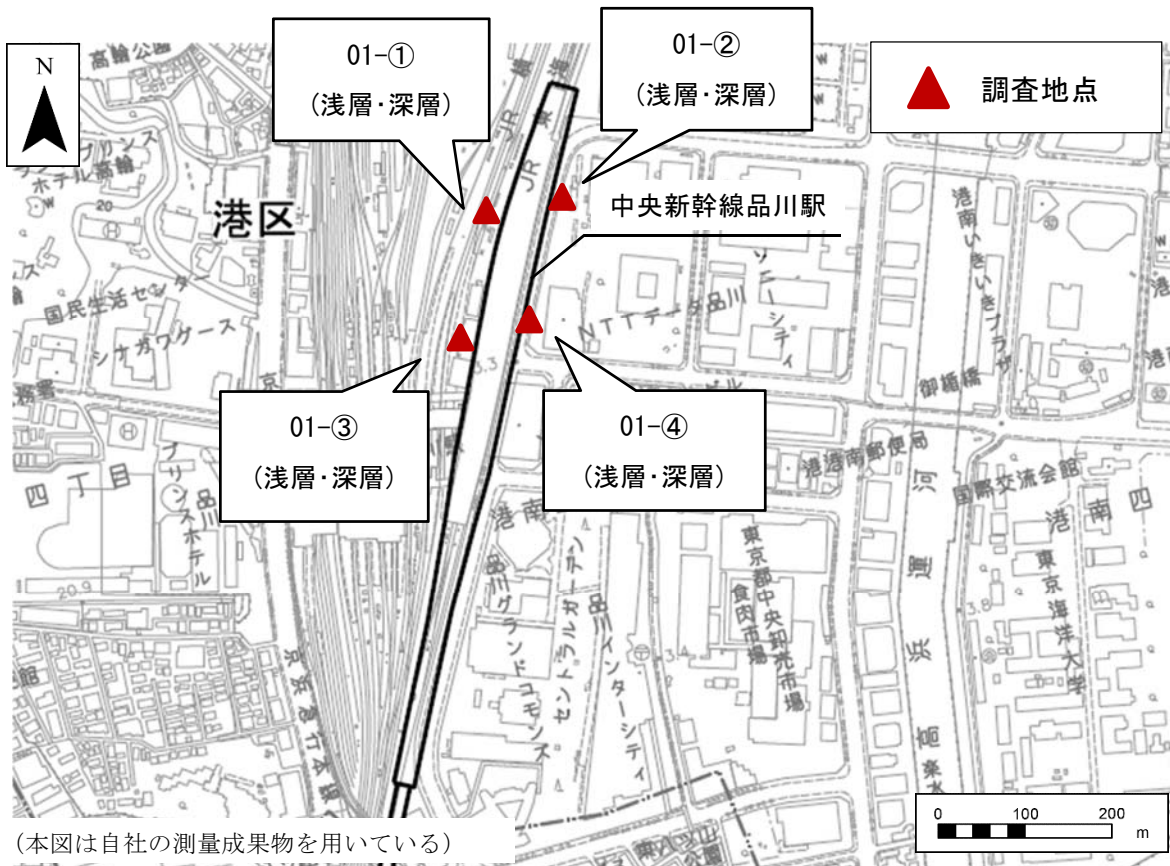


図 3-5-3-2(1) 調査地点 (地下水) (01 品川駅)

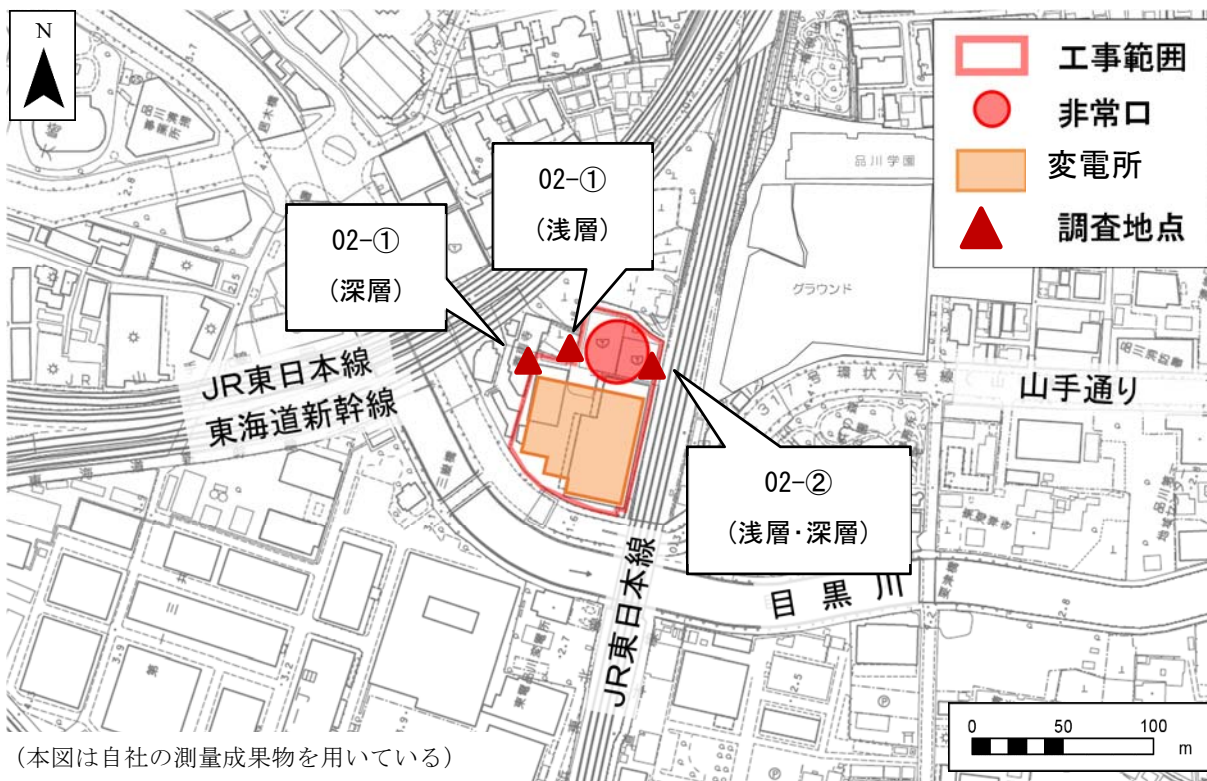


図 3-5-3-2(2) 調査地点 (地下水) (02 北品川)

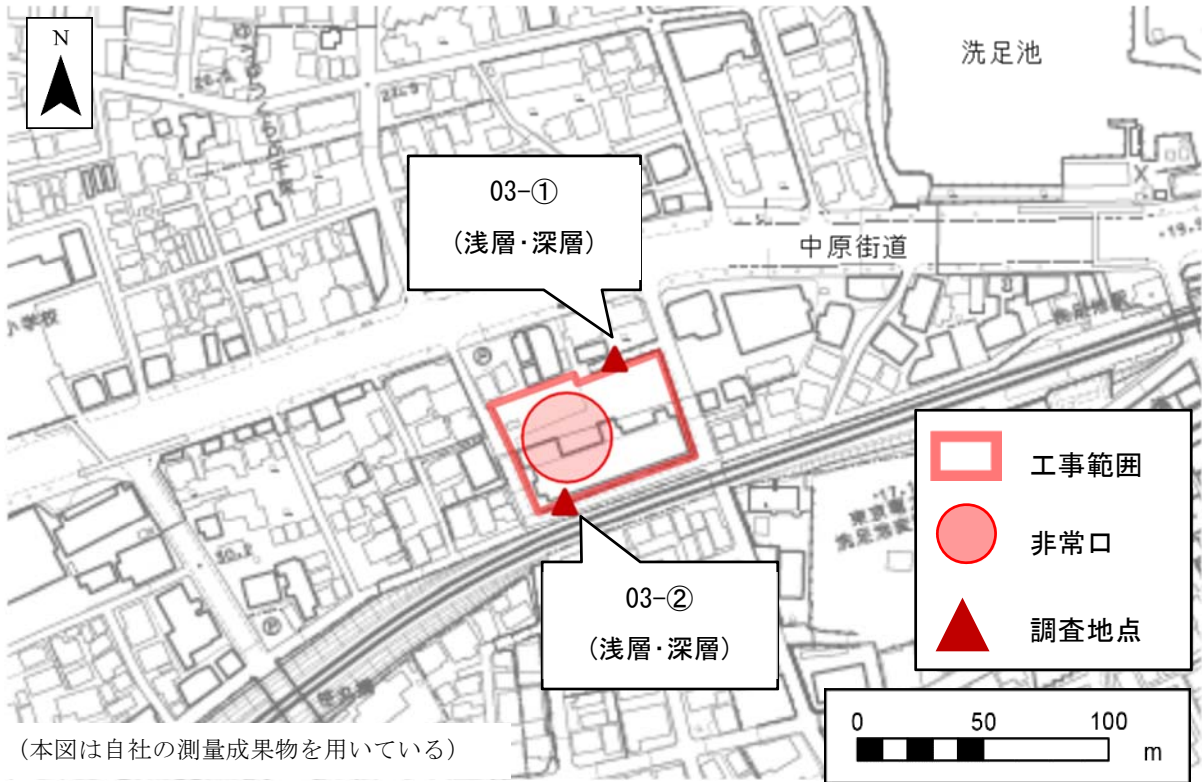


図 3-5-3-2(3) 調査地点（地下水）（03 東雪谷）

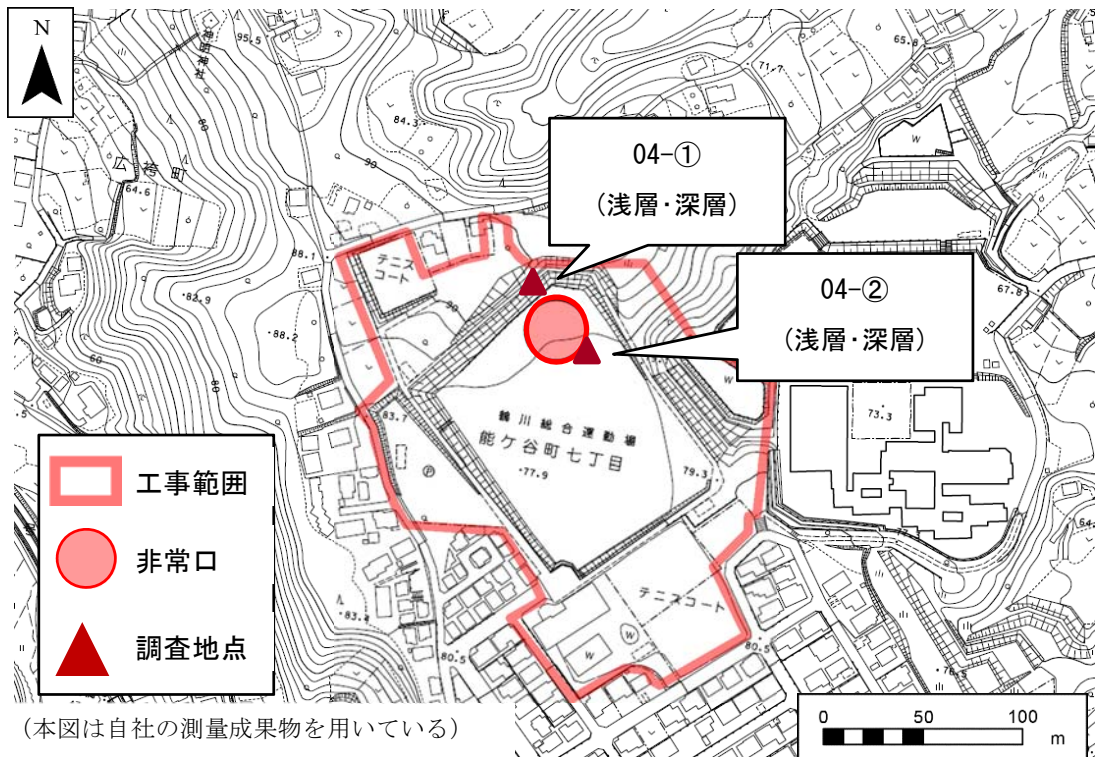
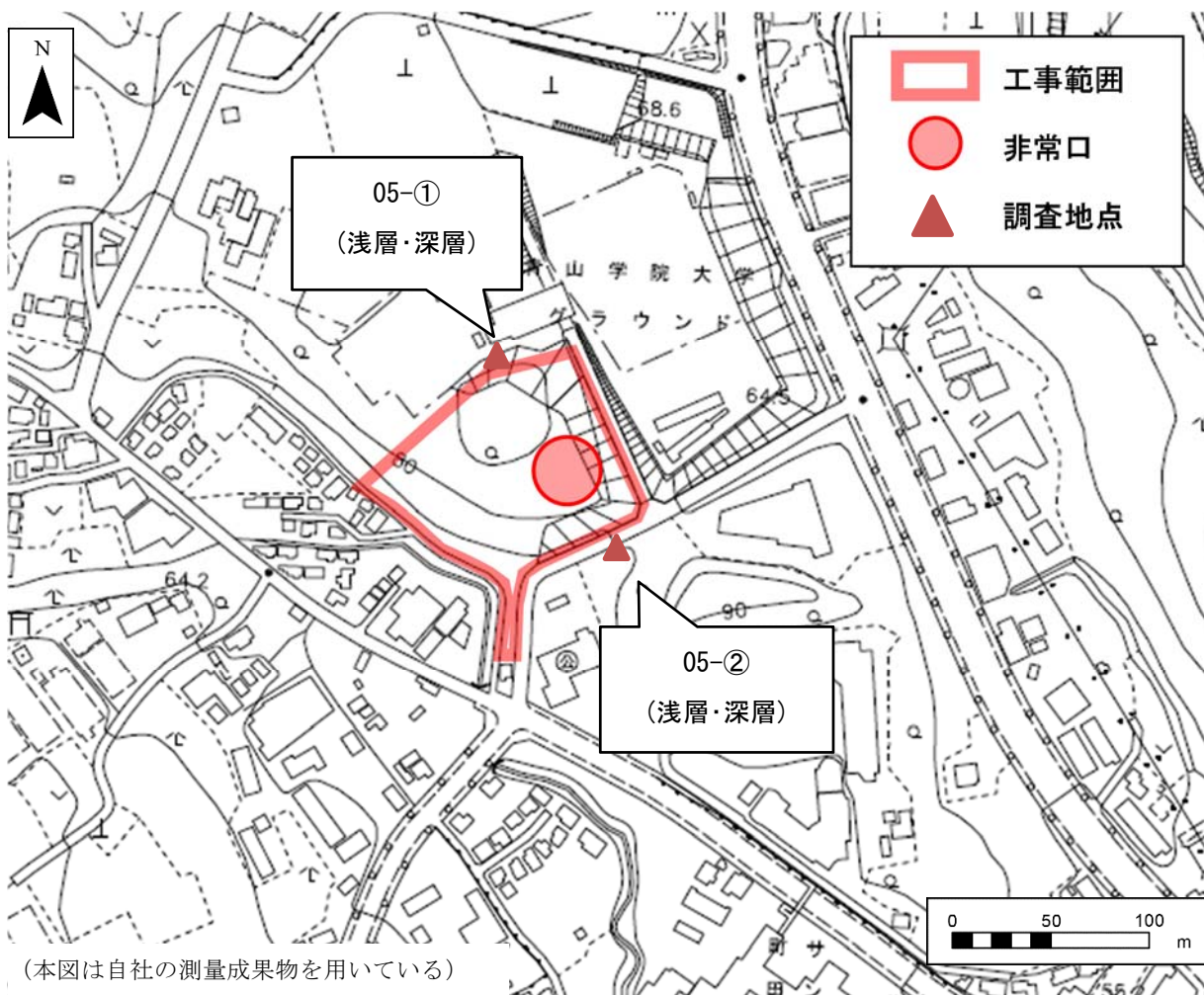
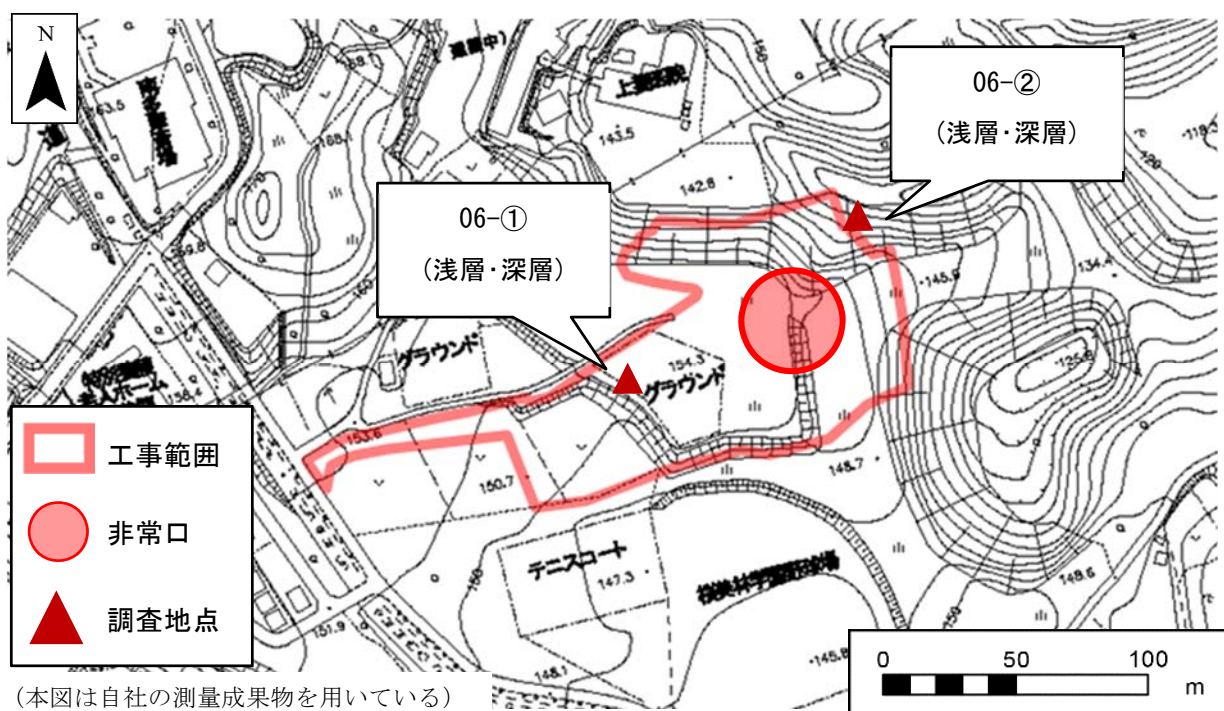


図 3-5-3-2(4) 調査地点（地下水）（04 片平）



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 3-5-3-2(5) 調査地点 (地下水) (05 小野路)



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 3-5-3-2(6) 調査地点 (地下水) (06 上小山田)

3-5-4 調査期間

現地調査の期間を表 3-5-4-1 に示す。

表 3-5-4-1(1) 調査期間

地点 番号	調査期間	実施時期 の種別	調査日
01-① 01-② 01-③ 01-④	令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日	地下工事中	令和2年 4月1日～30日 ^{注1}
			令和2年 5月1日～31日 ^{注1}
			令和2年 6月1日～30日 ^{注1}
			令和2年 7月1日～31日 ^{注1}
			令和2年 8月1日～31日 ^{注1}
			令和2年 9月1日～30日 ^{注1}
			令和2年 10月1日～31日 ^{注1}
			令和2年 11月1日～30日 ^{注1}
			令和2年 12月1日～31日 ^{注1}
			令和3年 1月1日～31日 ^{注1}
			令和3年 2月1日～28日 ^{注1}
			令和3年 3月1日～31日 ^{注1}
02-① 02-②	令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日	地下工事中	令和2年 4月1日～30日 ^{注1}
			令和2年 5月1日～31日 ^{注1}
			令和2年 6月1日～30日 ^{注1}
			令和2年 7月1日～31日 ^{注1}
			令和2年 8月1日～31日 ^{注1}
			令和2年 9月1日～30日 ^{注1}
			令和2年10月1日～31日 ^{注1}
			令和2年11月1日～30日 ^{注1}
			令和2年12月1日～31日 ^{注1}
			令和3年 1月1日～31日 ^{注1}
			令和3年 2月1日～28日 ^{注1}
			令和3年 3月1日～31日 ^{注1}

注1：自記水位計による連続観測を行った。

表 3-5-4-1(2) 調査期間

地点 番号	調査期間	実施時期 の種別	調査日
03-① 03-②	令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日	地下工事中	令和2年4月1日～30日 ^{注1}
			令和2年5月1日～31日 ^{注1}
			令和2年6月1日～30日 ^{注1}
			令和2年7月1日～31日 ^{注1}
			令和2年8月1日～31日 ^{注1}
			令和2年9月1日～30日 ^{注1}
			令和2年10月1日～31日 ^{注1}
			令和2年11月1日～30日 ^{注1}
			令和2年12月1日～31日 ^{注1}
			令和3年1月1日～31日 ^{注1}
			令和3年2月1日～28日 ^{注1}
			令和3年3月1日～31日 ^{注1}
04-① 04-②	令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日	地下工事前	令和2年4月22日 ^{注2}
			令和2年5月15日 ^{注2}
			令和2年6月18日 ^{注2}
			令和2年7月16日 ^{注2}
			令和2年8月17日 ^{注2}
			令和2年9月18日 ^{注2}
			令和2年10月16日 ^{注2}
			令和2年11月16日 ^{注2}
			令和2年12月17日 ^{注2}
			令和3年1月15日 ^{注2}
			令和3年2月16日 ^{注2}
			令和3年3月15日 ^{注2}

注1：自記水位計による連続観測を行った。

注2：手動による計測を行った。

表 3-5-4-1(3) 調査期間

地点 番号	調査期間	実施時期 の種別	調査日
05-① 05-②	令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日	地下工事中	令和2年4月1日～30日 ^{注1}
			令和2年5月1日～31日 ^{注1}
			令和2年6月1日～30日 ^{注1}
			令和2年7月1日～31日 ^{注1}
			令和2年8月1日～31日 ^{注1}
			令和2年9月1日～30日 ^{注1}
		地下工事完了後	令和2年10月1日～31日 ^{注1}
			令和2年11月1日～30日 ^{注1}
			令和2年12月1日～31日 ^{注1}
			令和3年1月1日～31日 ^{注1}
06-① 06-②	令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日	地下工事中	令和3年2月1日～28日 ^{注1}
			令和3年3月1日～31日 ^{注1}
			令和2年4月1日～30日 ^{注1}
			令和2年5月1日～31日 ^{注1}
			令和2年6月1日～30日 ^{注1}
			令和2年7月1日～31日 ^{注1}
			令和2年8月1日～31日 ^{注1}
			令和2年9月1日～30日 ^{注1}
			令和2年10月1日～31日 ^{注1}
			令和2年11月1日～30日 ^{注1}
			令和2年12月1日～31日 ^{注1}
			令和3年1月1日～31日 ^{注1}
令和3年2月1日～28日 ^{注1}			

注1：自記水位計による連続観測を行った。

3-5-5 調査結果

調査結果を図 3-5-5-1 に示す。T.P. は東京湾平均海面からの高さを示す。

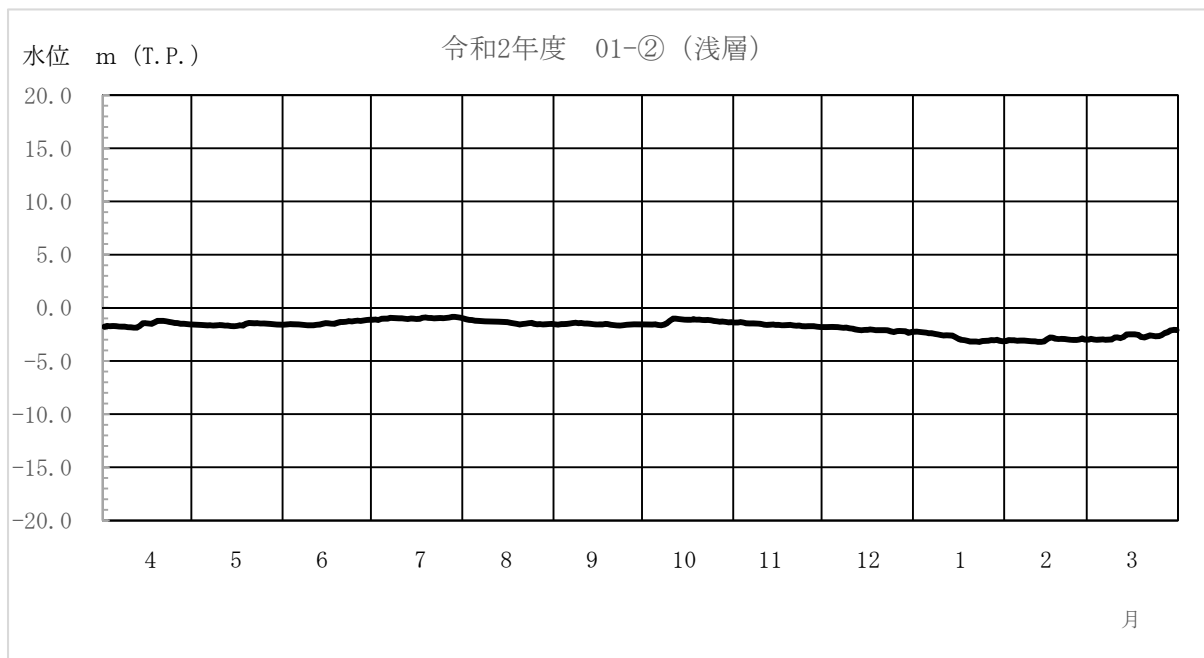
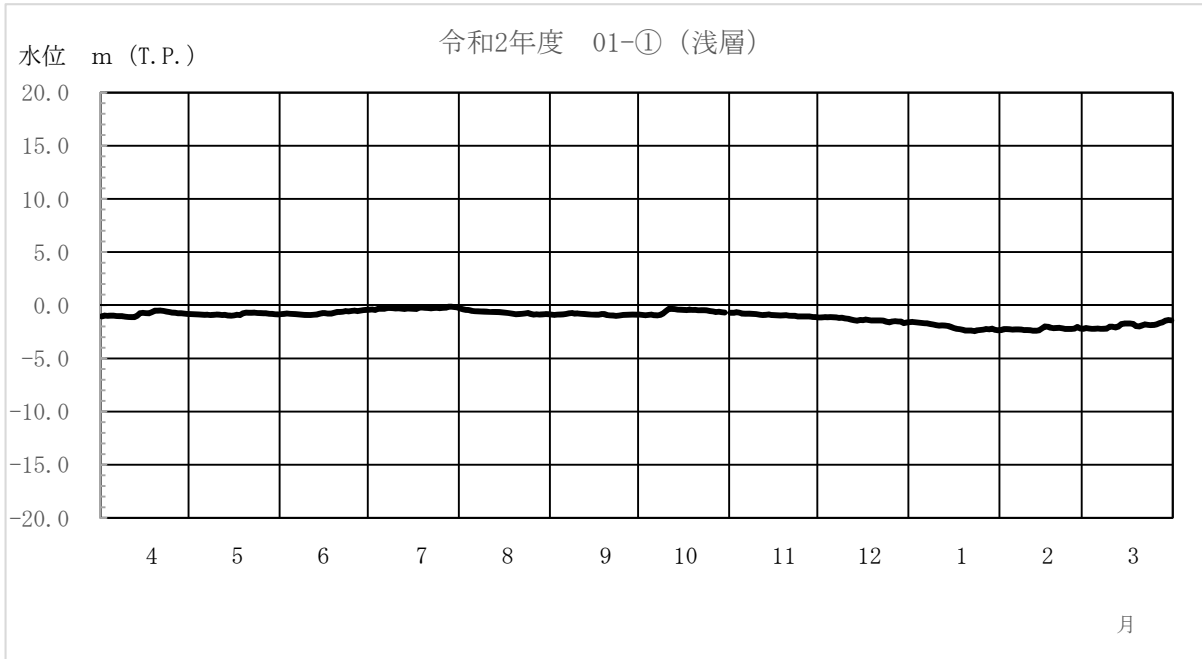


図 3-5-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅 (浅層))

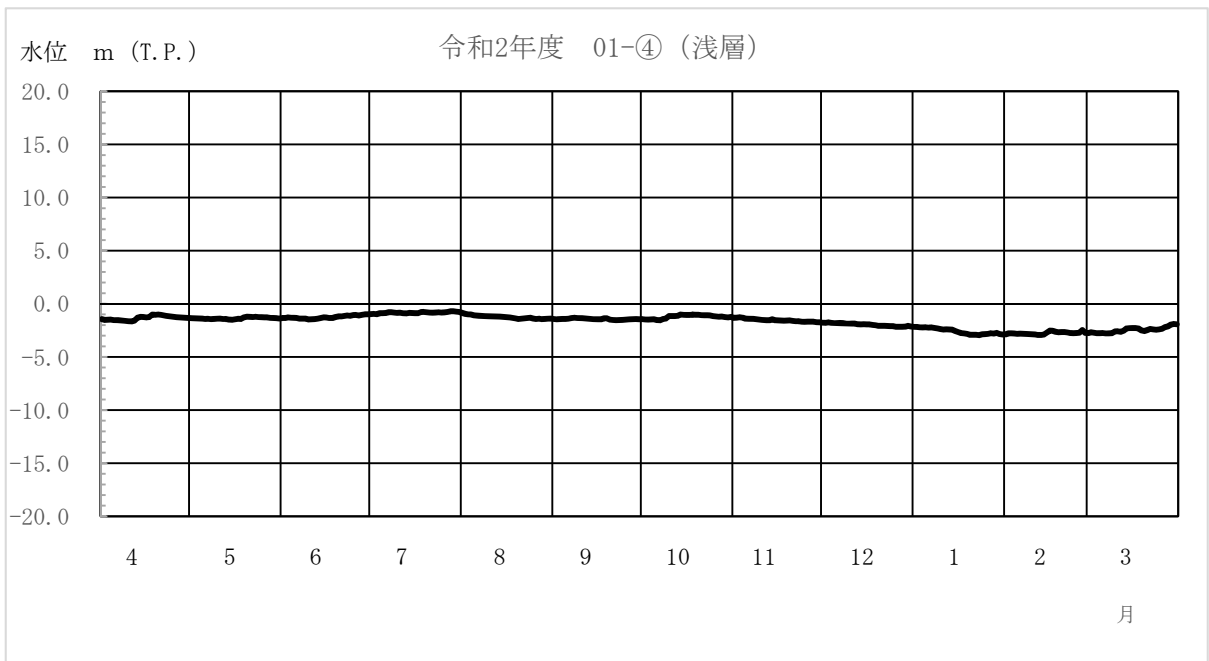
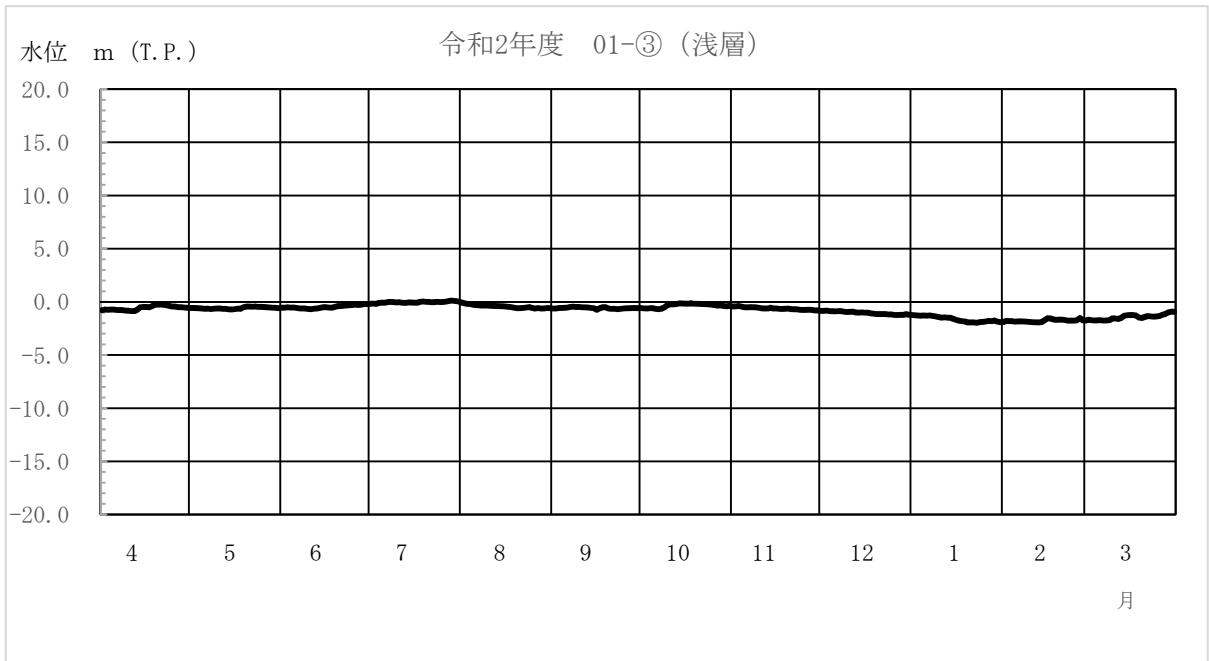


図 3-5-5-1(2) 調査結果 (01 品川駅 (浅層))

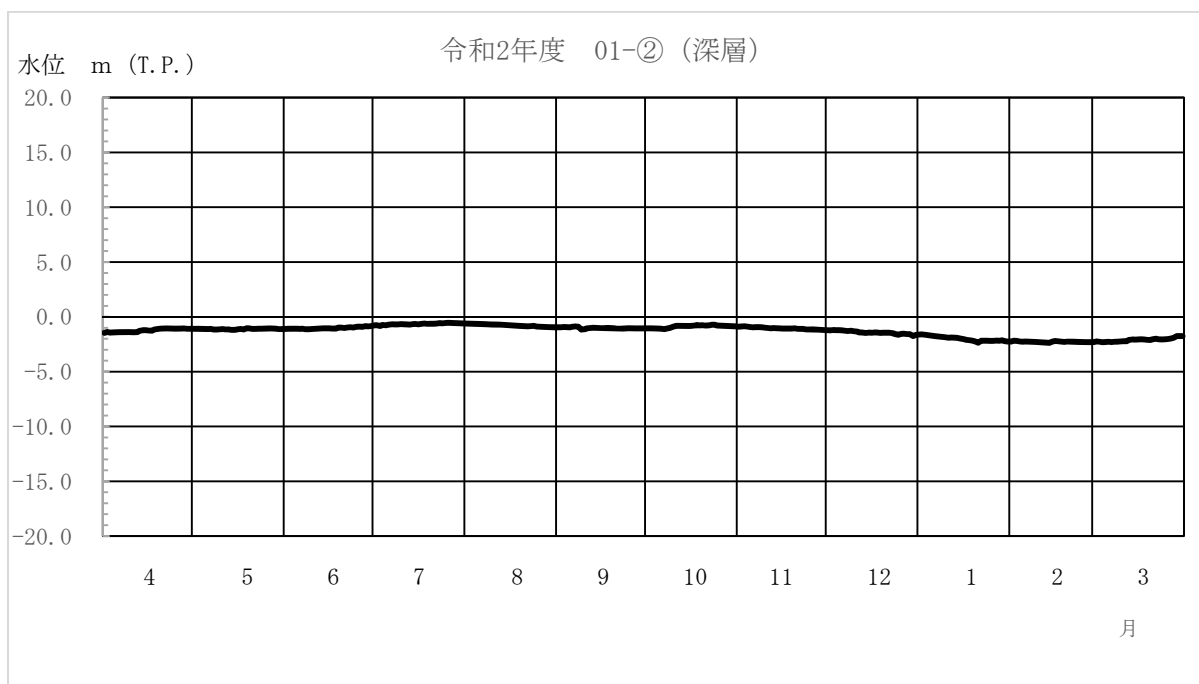
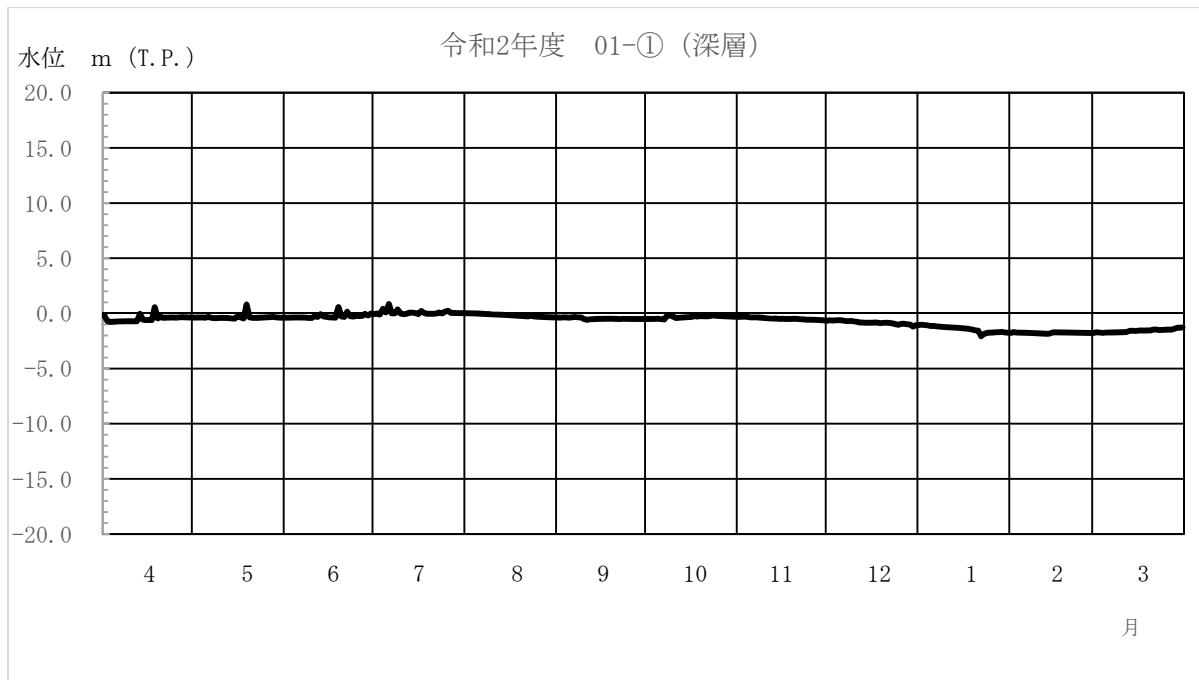
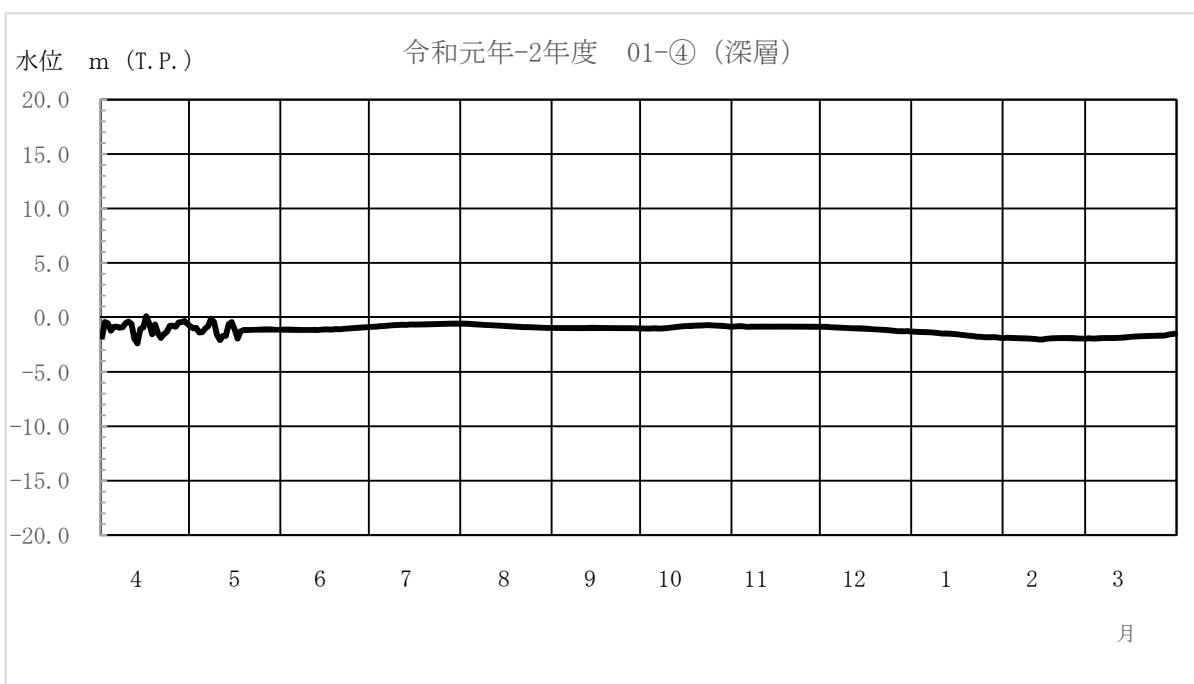
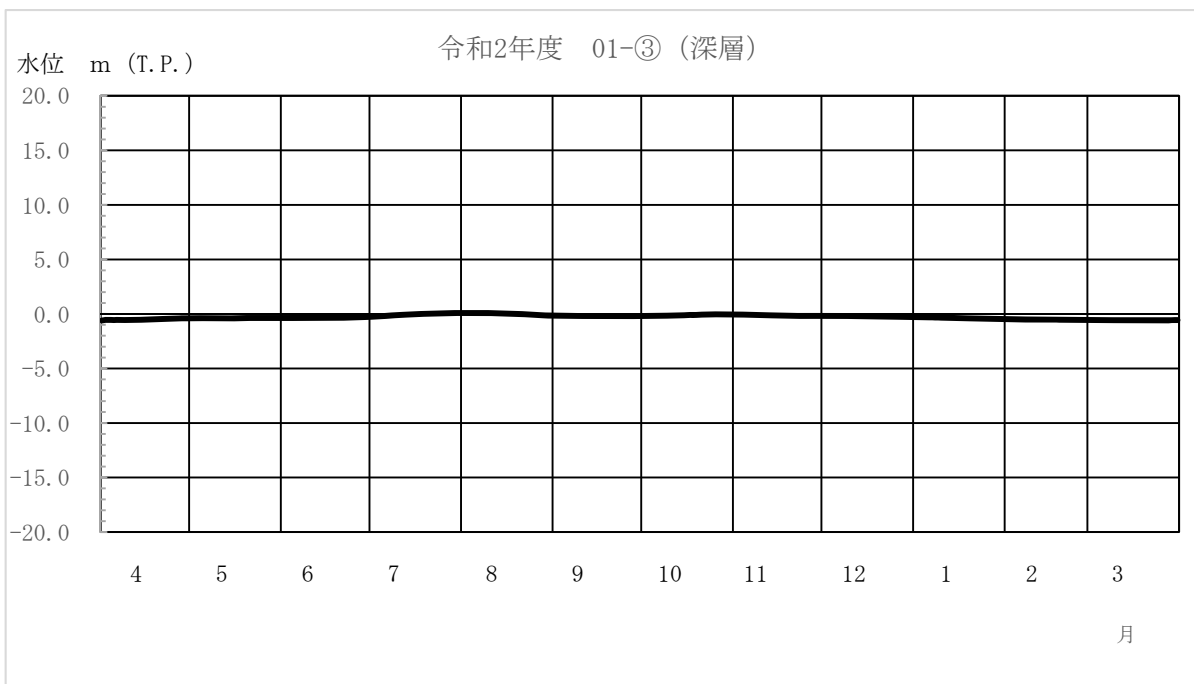


図 3-5-5-1(3) 調査結果 (01 品川駅 (深層))



注1 令和2年4月～5月において集中豪雨があった。

図 3-5-5-1(4) 調査結果 (01 品川駅 (深層))

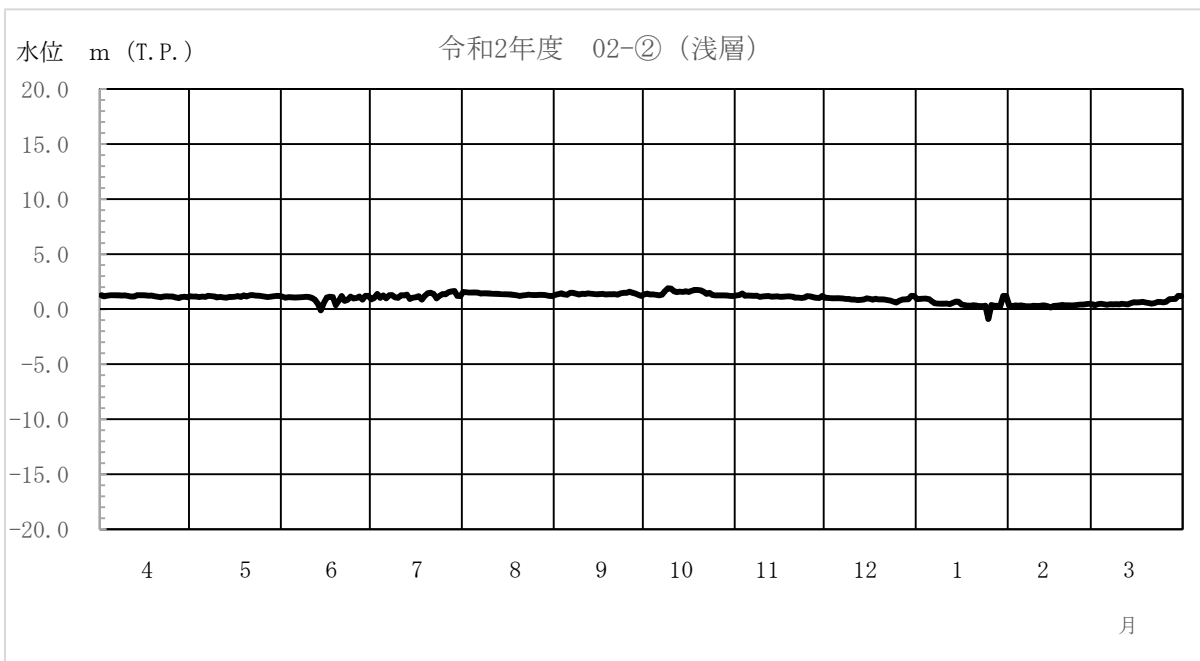
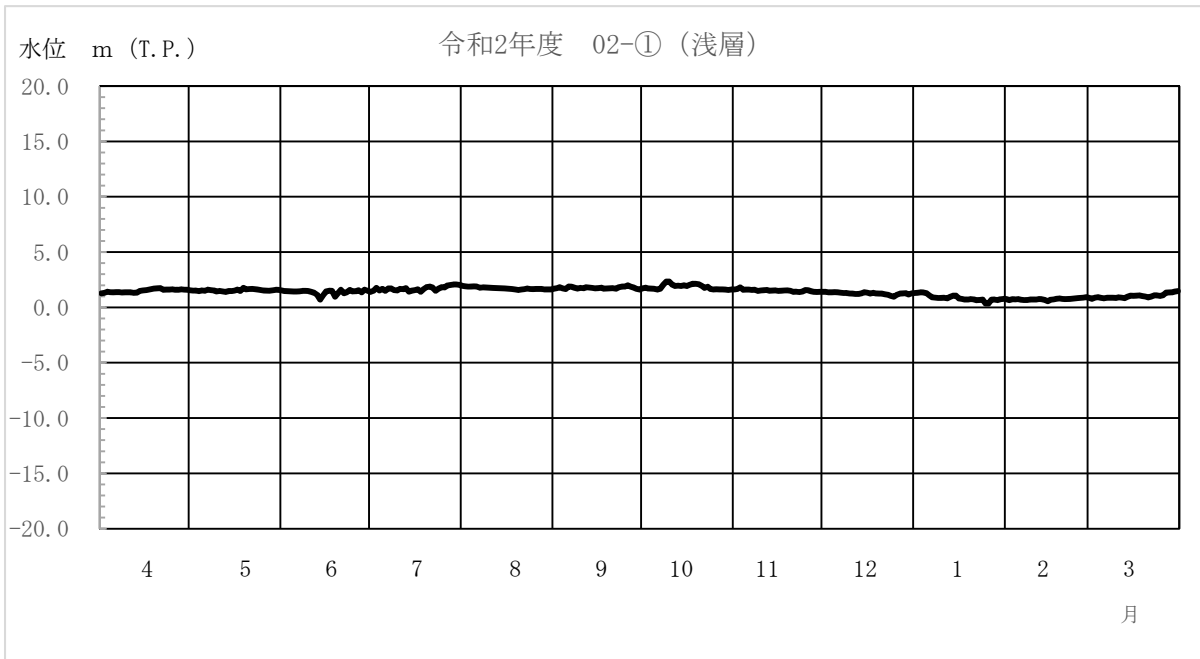
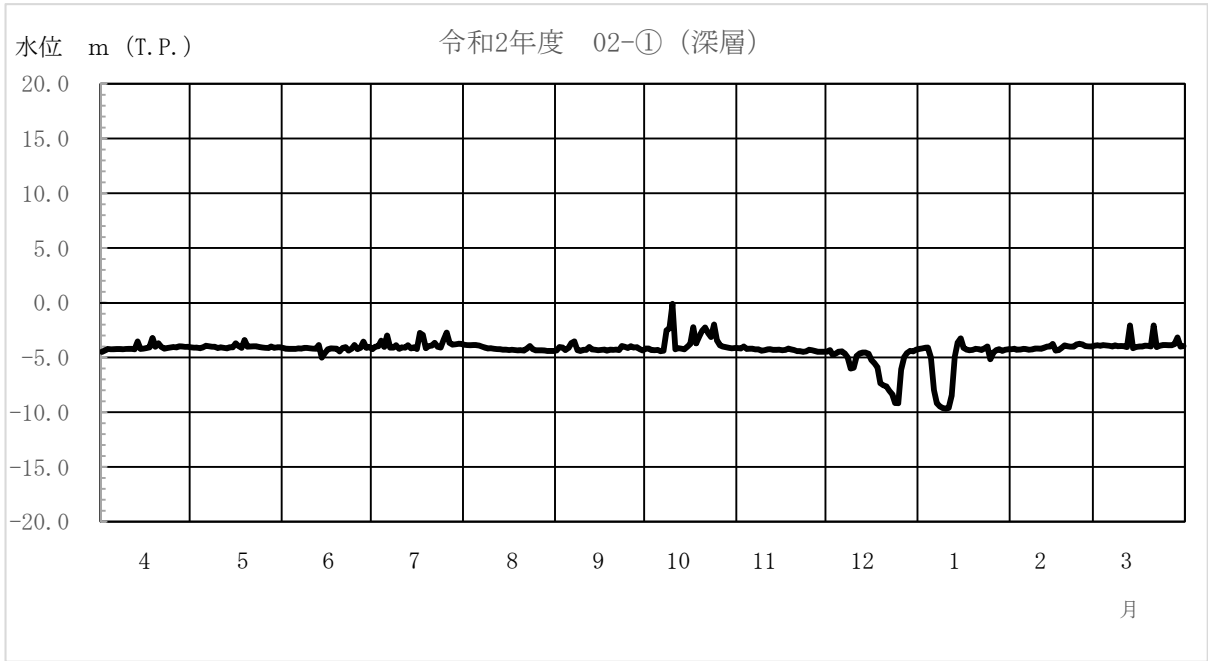
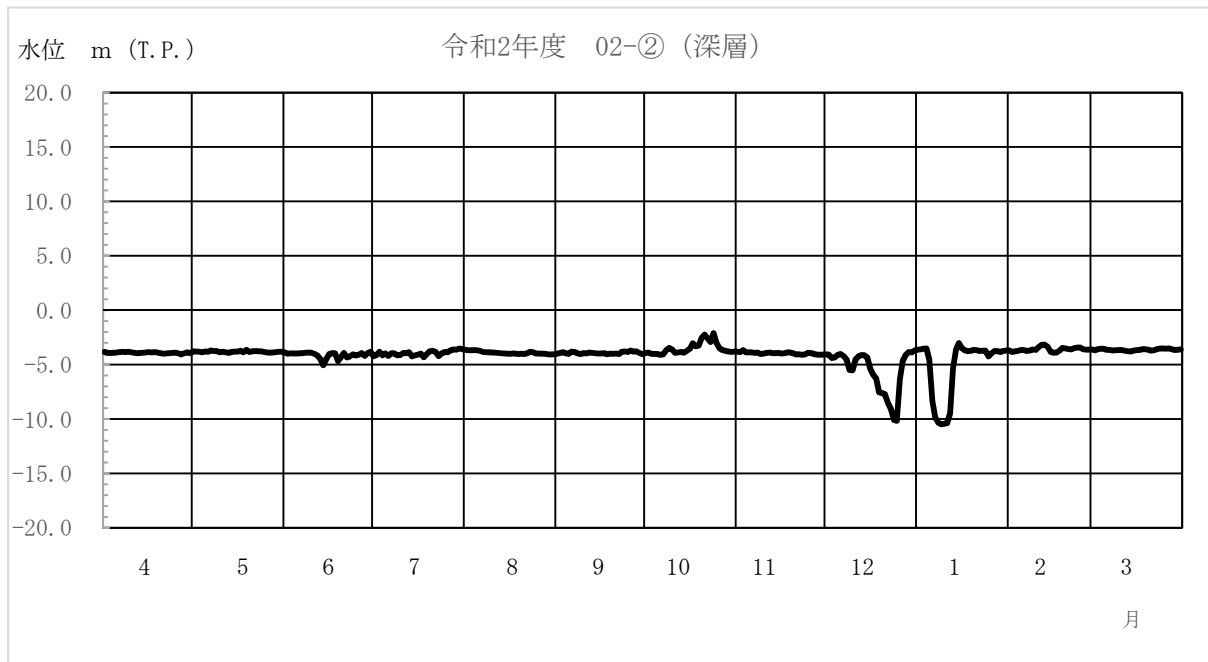


図 3-5-5-1(5) 調査結果 (02 北品川 (浅层))



注1 掘削等に伴い地下水を揚水しているが、令和2年10月は作業に伴い揚水量を一時的に減らしたため、令和2年12月は作業に伴い揚水量を一時的に増やしたため、それぞれ水位に変動があった。



注1 掘削等に伴い地下水を揚水しているが、令和2年10月は作業に伴い揚水量を一時的に減らしたため、令和2年12月は作業に伴い揚水量を一時的に増やしたため、それぞれ水位に変動があった。

図 3-5-5-1(6) 調査結果 (02 北品川 (深層))

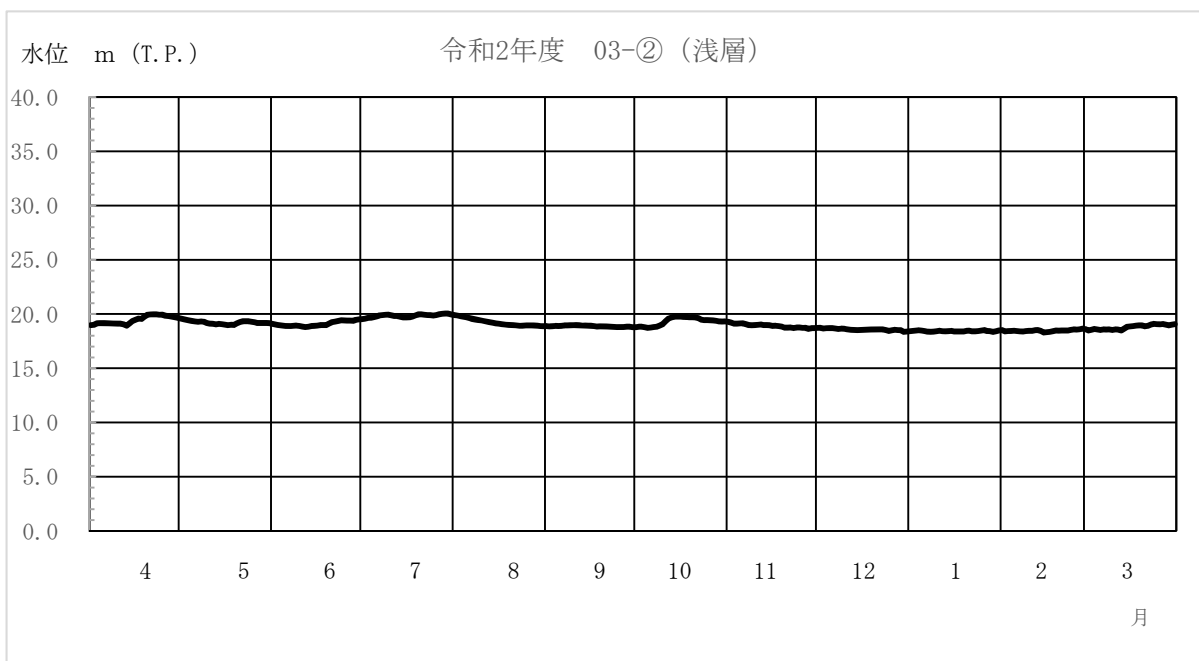
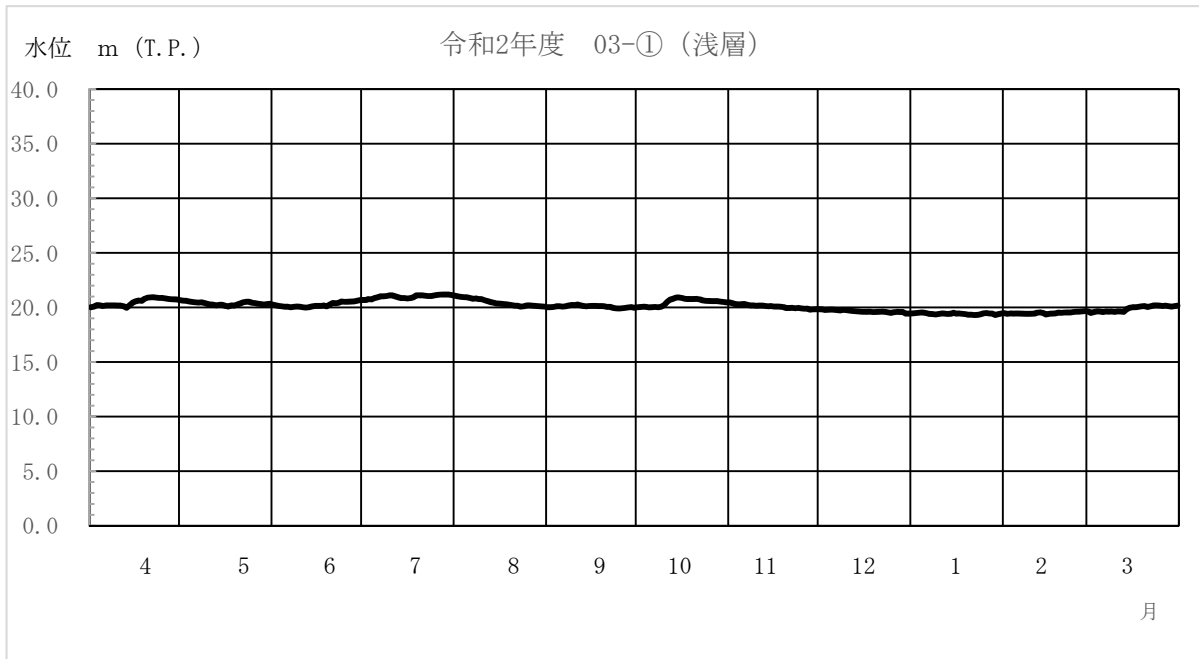


図 3-5-5-1(7) 調査結果 (03 東雪谷 (浅層))

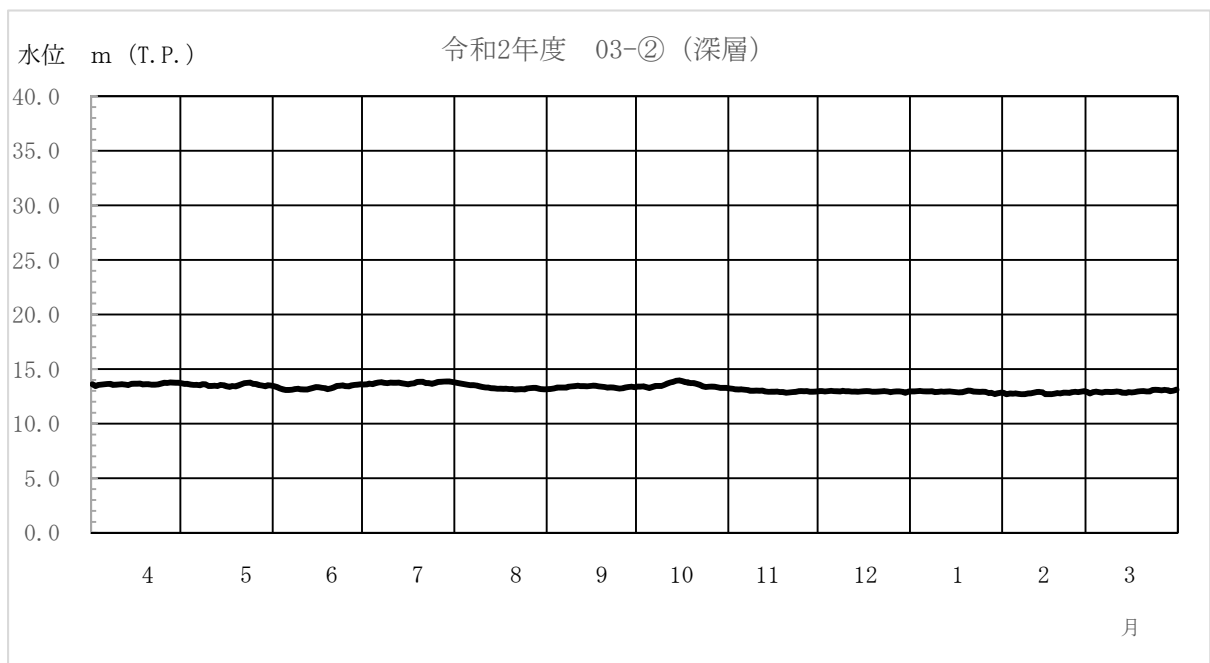
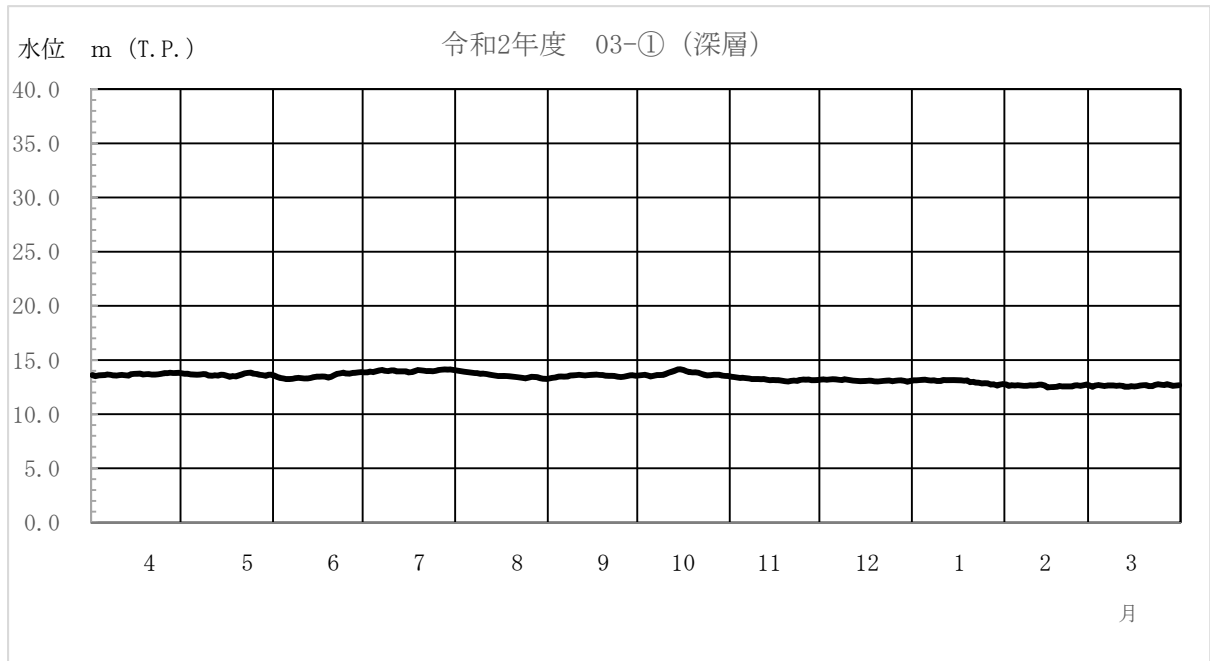


図 3-5-5-1(8) 調査結果 (03 東雪谷 (深層))

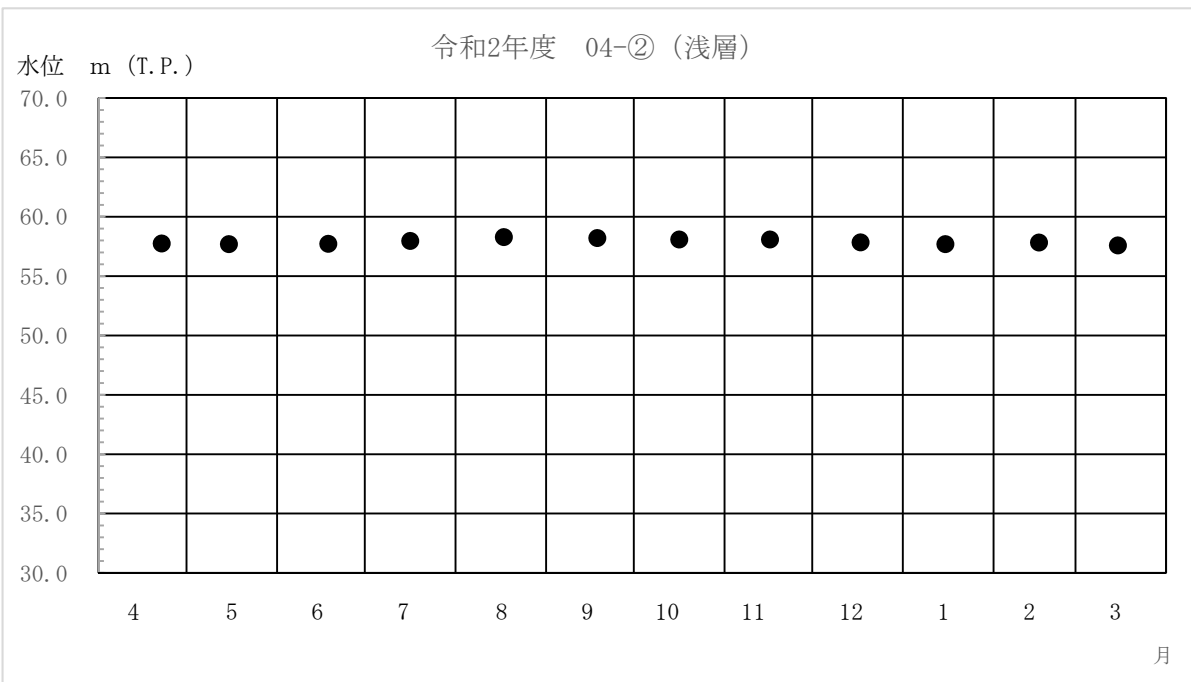
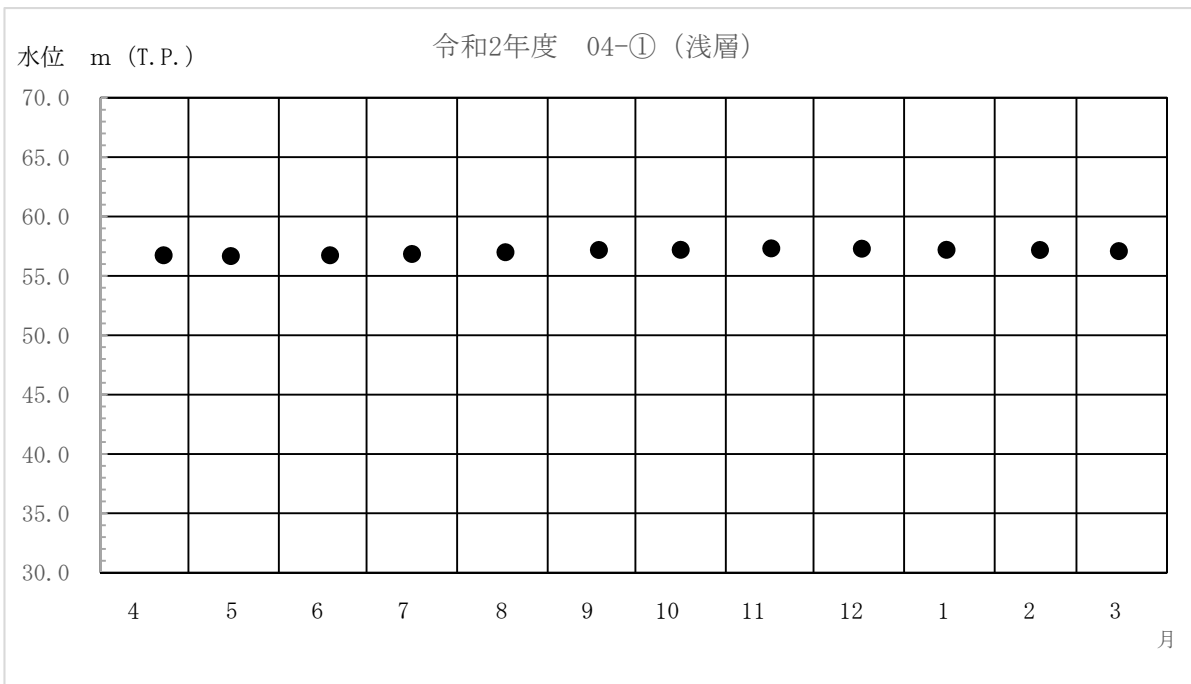


図 3-5-5-1(9) 調査結果 (04 片平 (浅層))

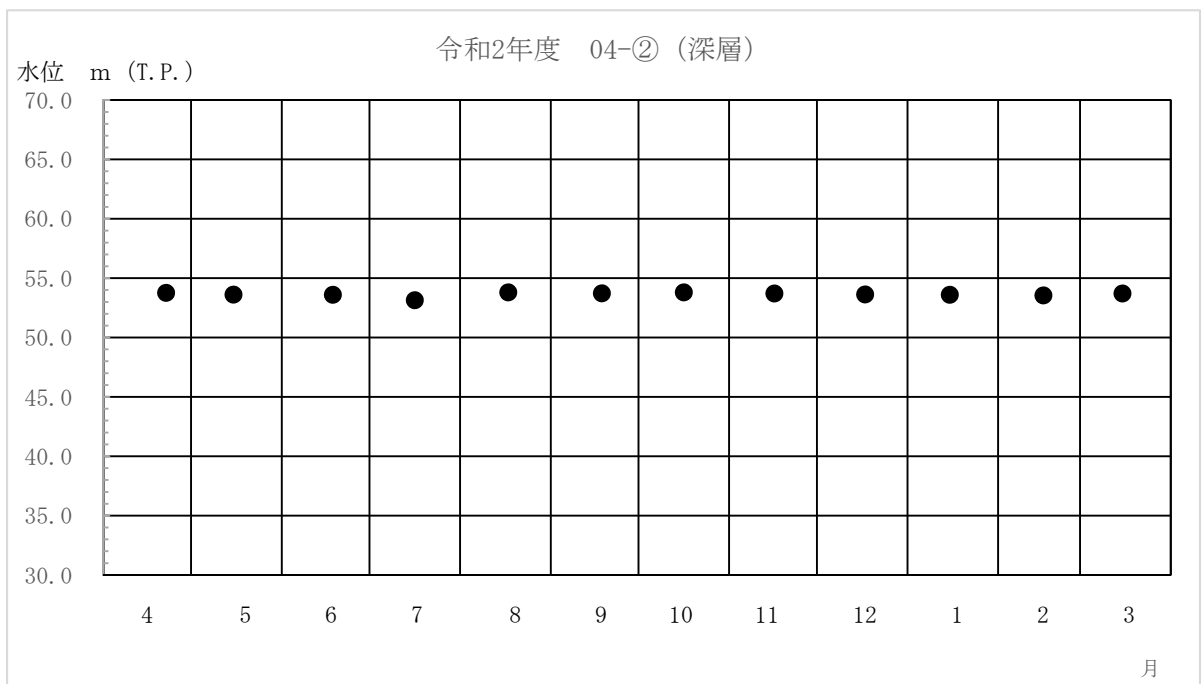
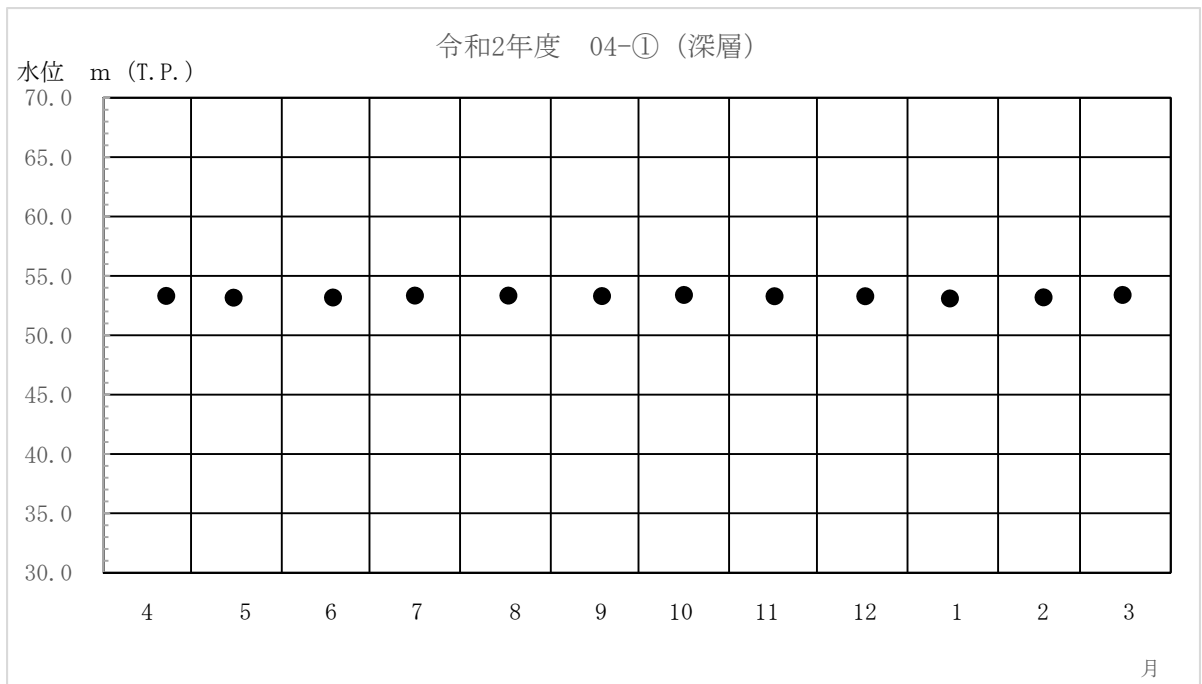


図 3-5-5-1(10) 調査結果 (04 片平 (深層))

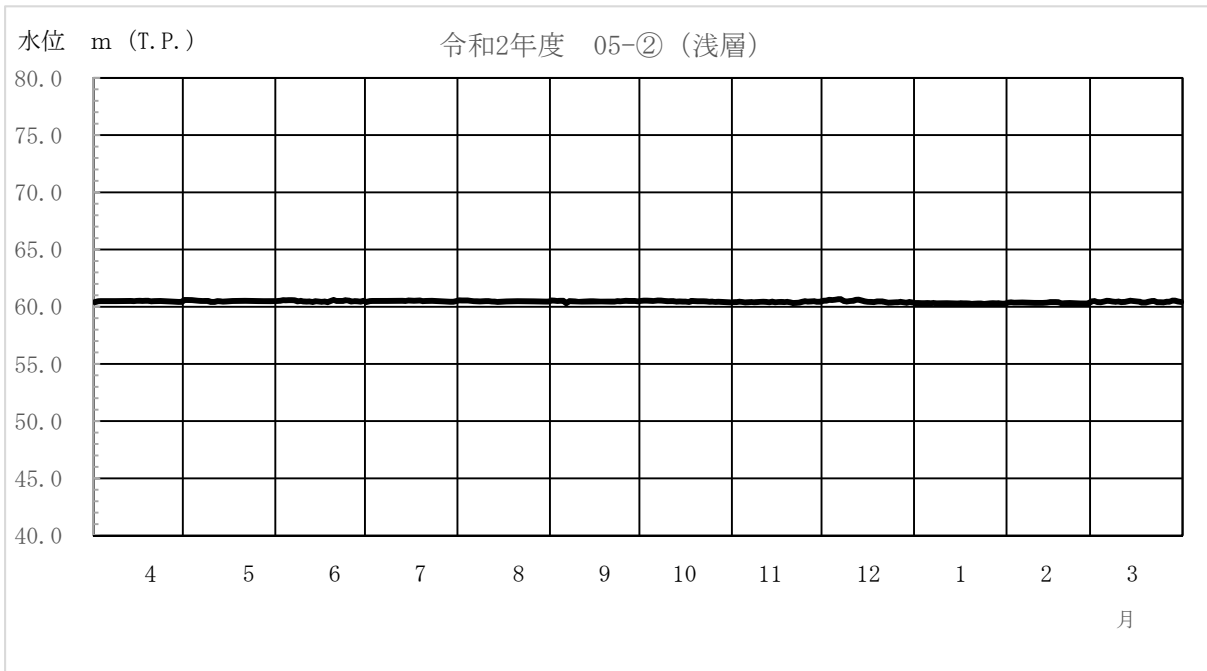
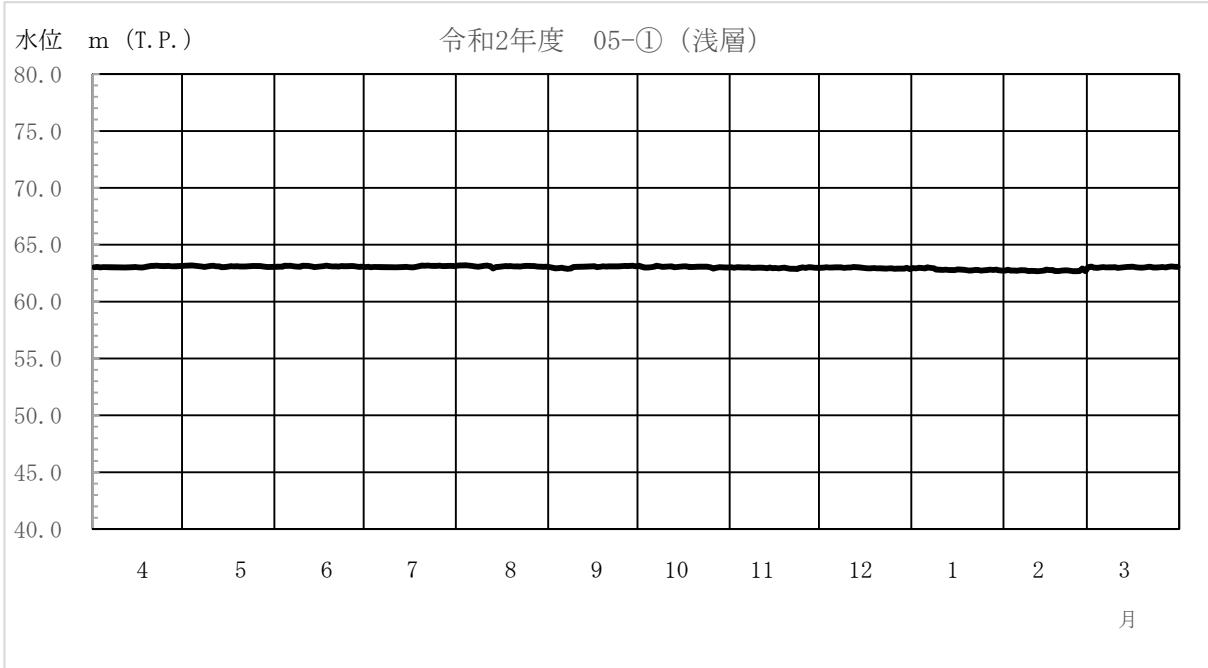


図 3-5-5-1(11) 調査結果 (05 小野路 (浅層))

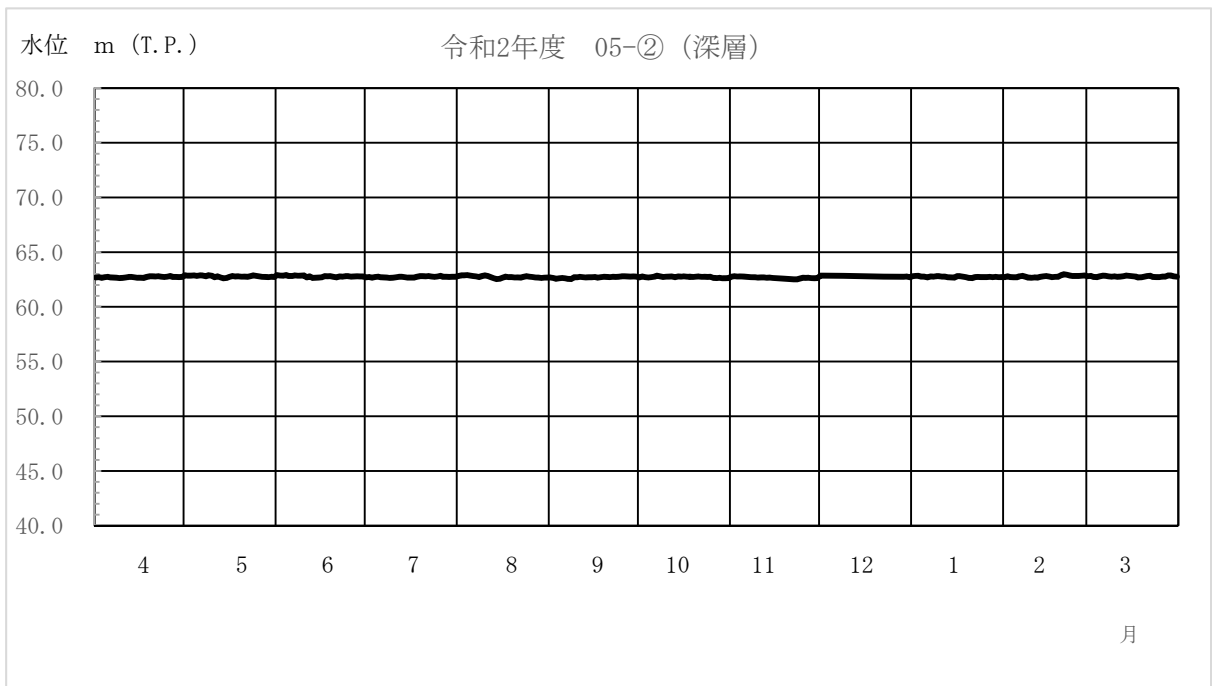
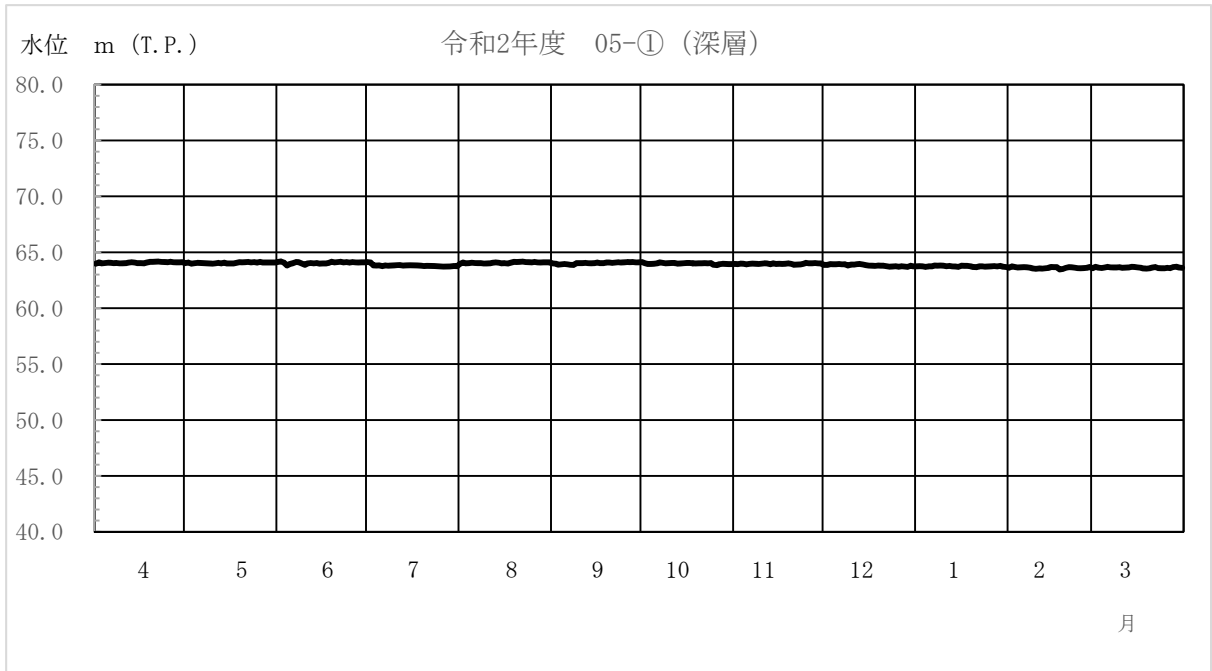


図 3-5-5-1(12) 調査結果 (05 小野路 (深層))

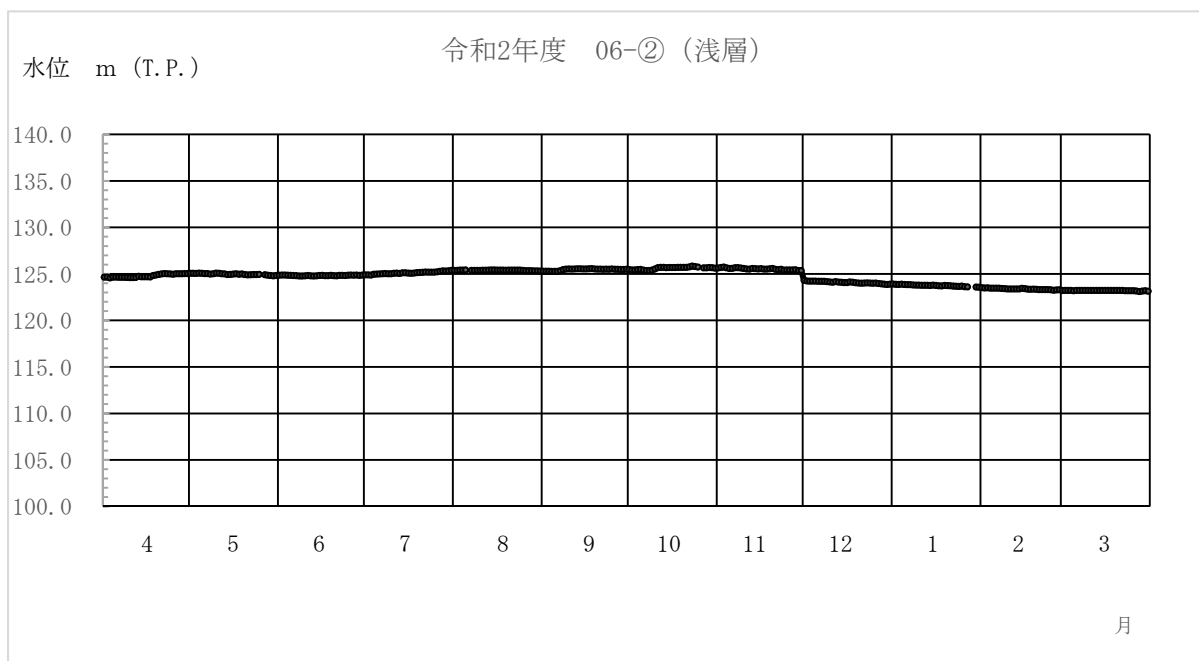
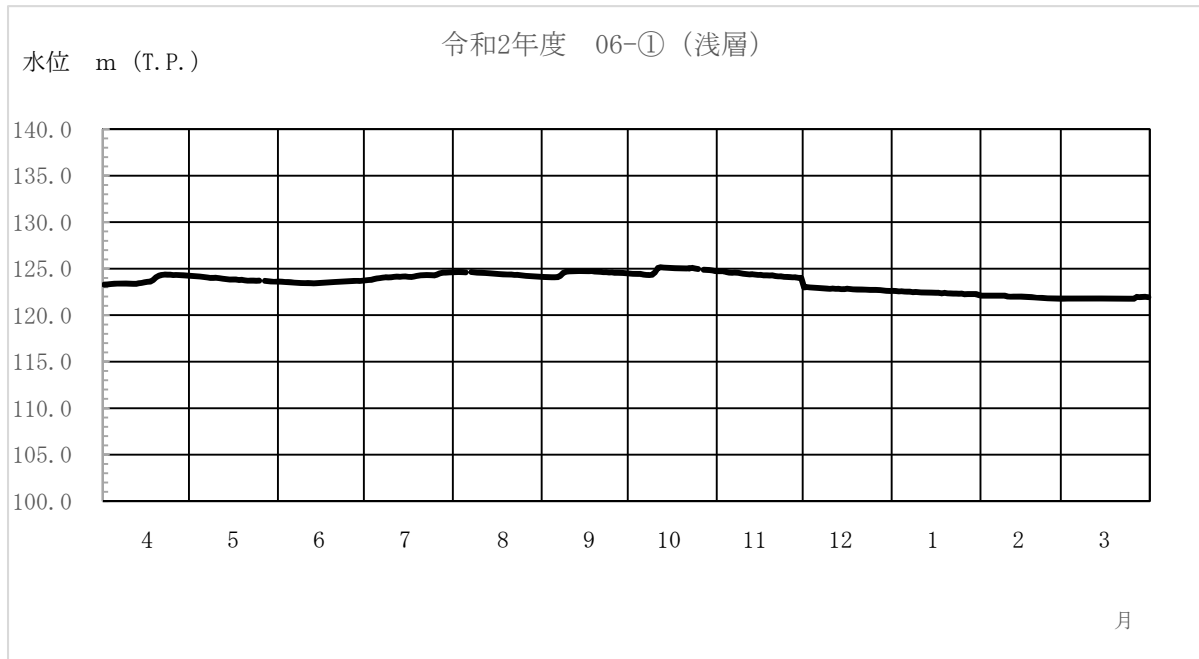


図 3-5-5-1(13) 調査結果 (06 上小山田 (浅層))

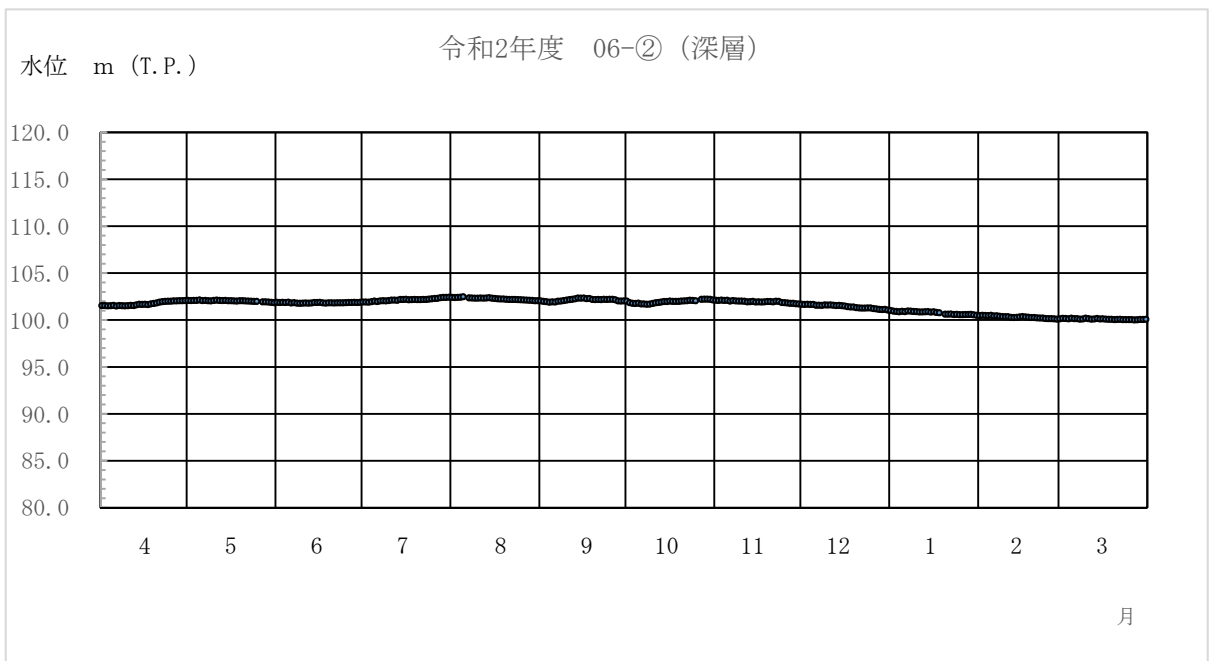
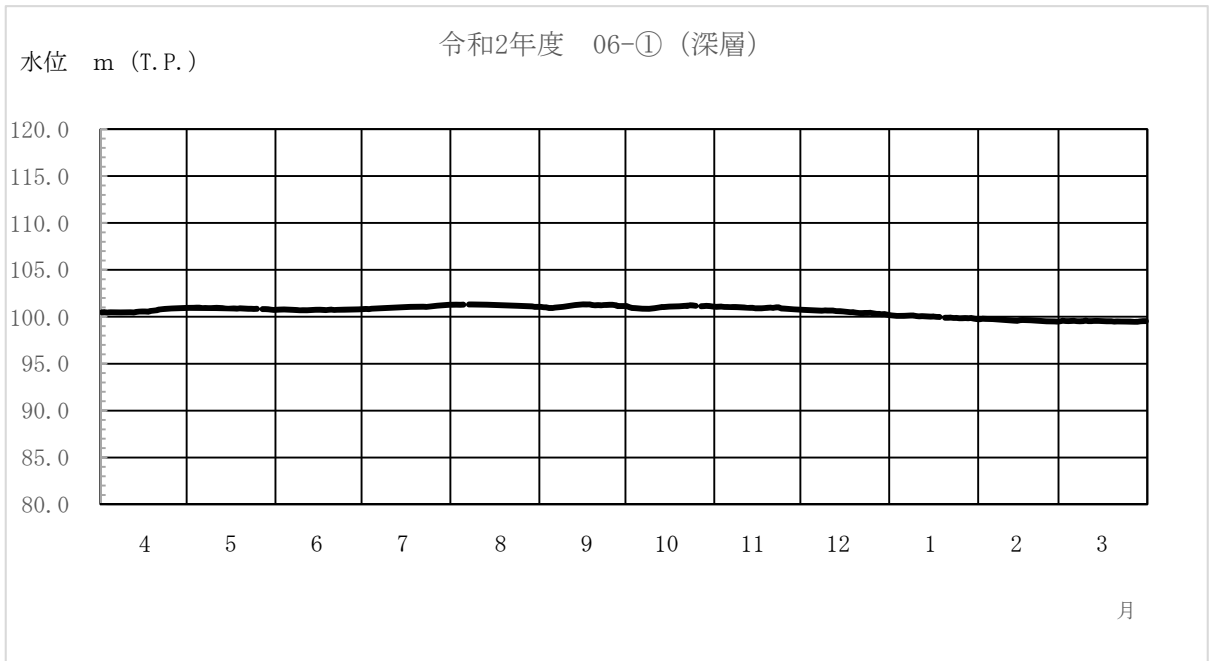


図 3-5-5-1(14) 調査結果 (06 上小山田 (深層))

3-6 水資源

水資源（井戸）について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-6-1 調査項目

調査項目は、自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び水素イオン濃度（pH）の状況とした。

3-6-2 調査方法

調査方法を、表 3-6-2-1 に示す。

表 3-6-2-1 調査方法

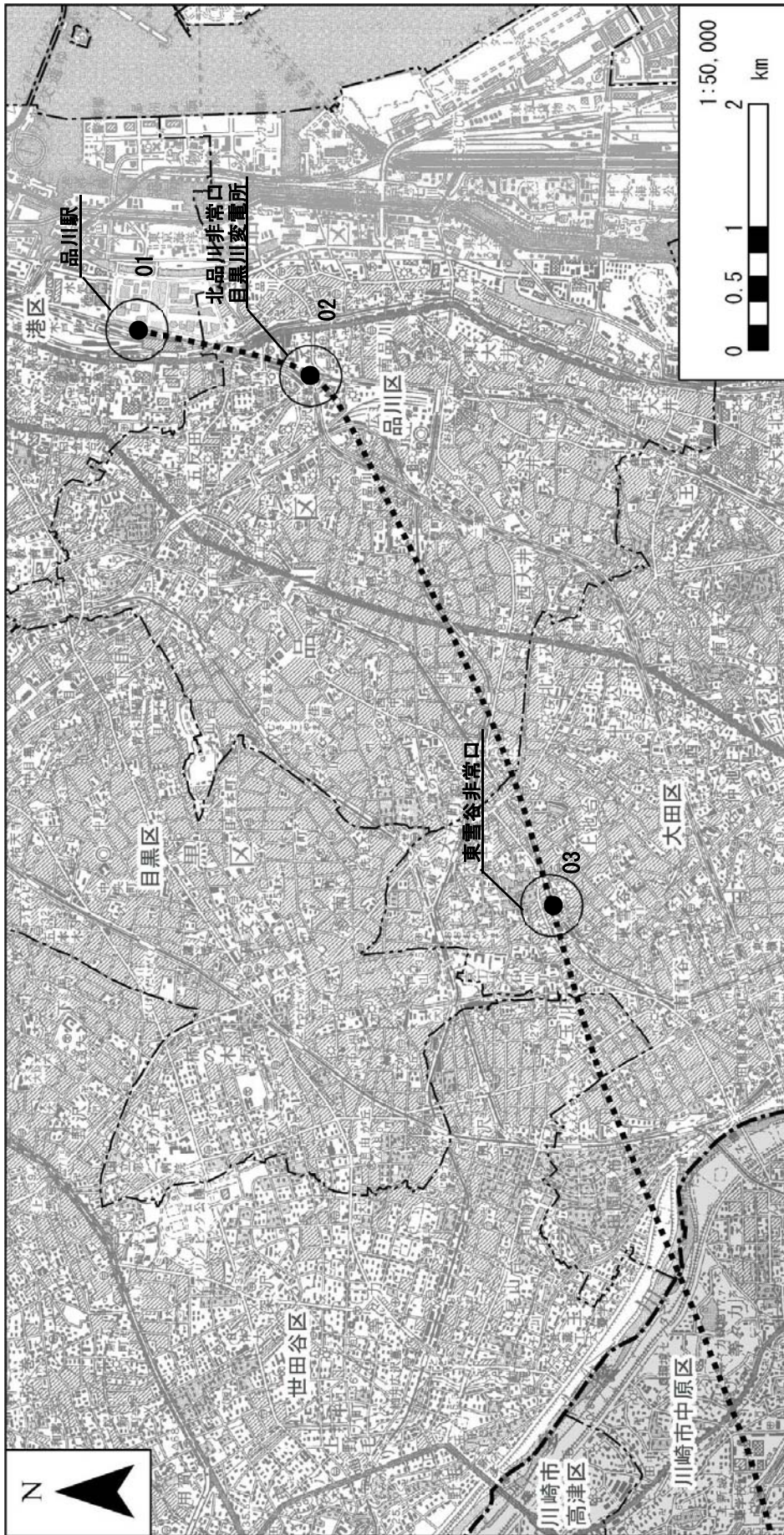
調査項目		調査方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成 22 年 3 月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する。
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	
水素イオン濃度(pH)		「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年、建設省河川局）に準拠する。

3-6-3 調査地点

調査地点を、表 3-6-3-1 及び図 3-6-3-1、図 3-6-3-2 に示す。

表 3-6-3-1 調査地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点	調査項目	
					自然由来の重金属等	水素イオン濃度 (pH)
01-①	港区	港南	品川駅	浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
01-②				浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
02-①	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
02-②				浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
03-①	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
03-②				浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
05-①	町田市	小野路町	小野路非常口	浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
05-②				浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
06-①	町田市	上小山田町	上小山田非常口	浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
06-②				浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

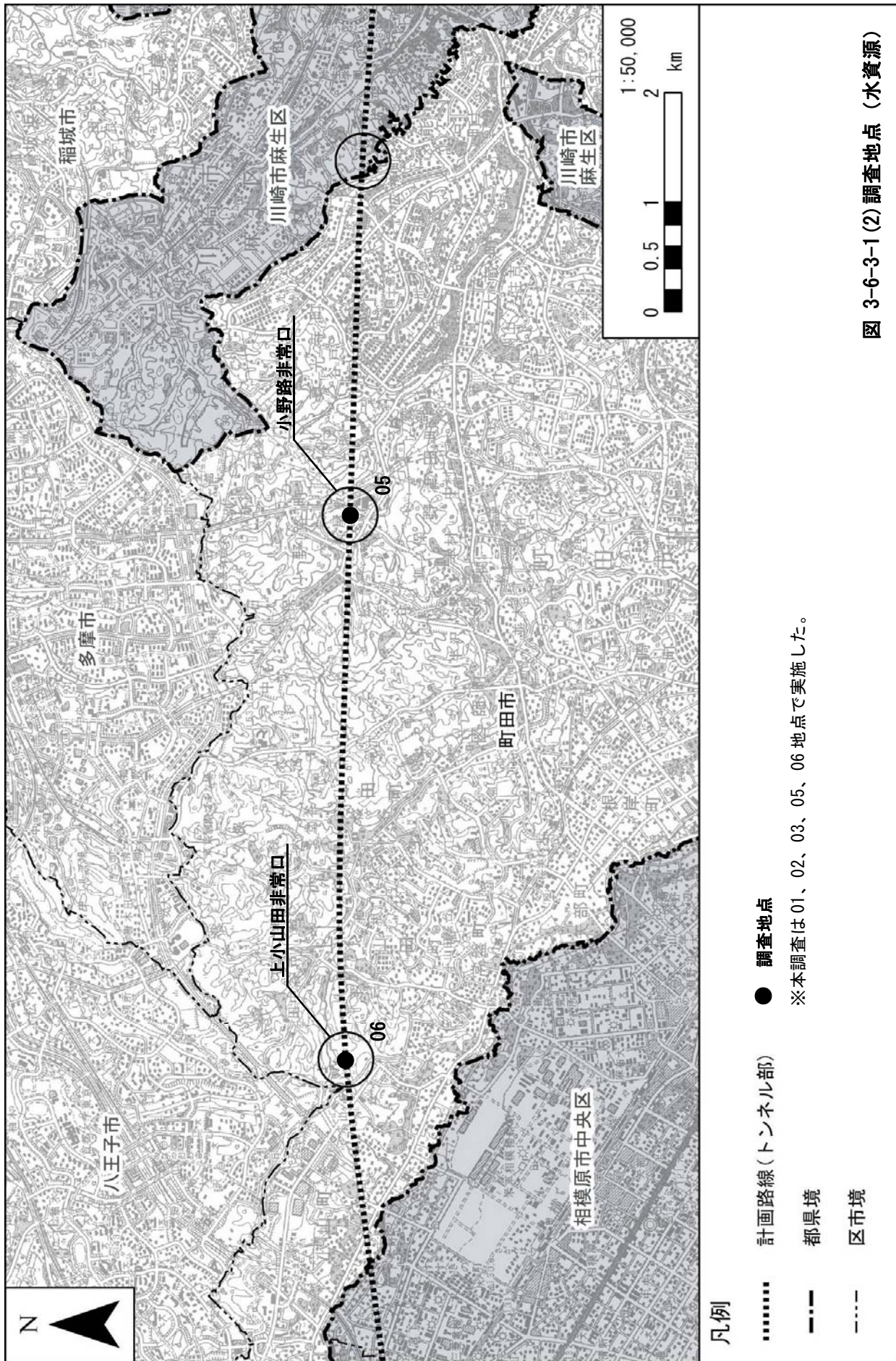
● 調査地点

----- 都県境

- · - · - 区市境

※本調査は01、02、03、05、06地点で実施した。

図 3-6-3-1(1) 調査地点 (水資源)



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

--- 都県境

- - - 区市境

● 調査地点

※本調査は01、02、03、05、06地点で実施した。

図 3-6-3-1 (2) 調査地点 (水資源)

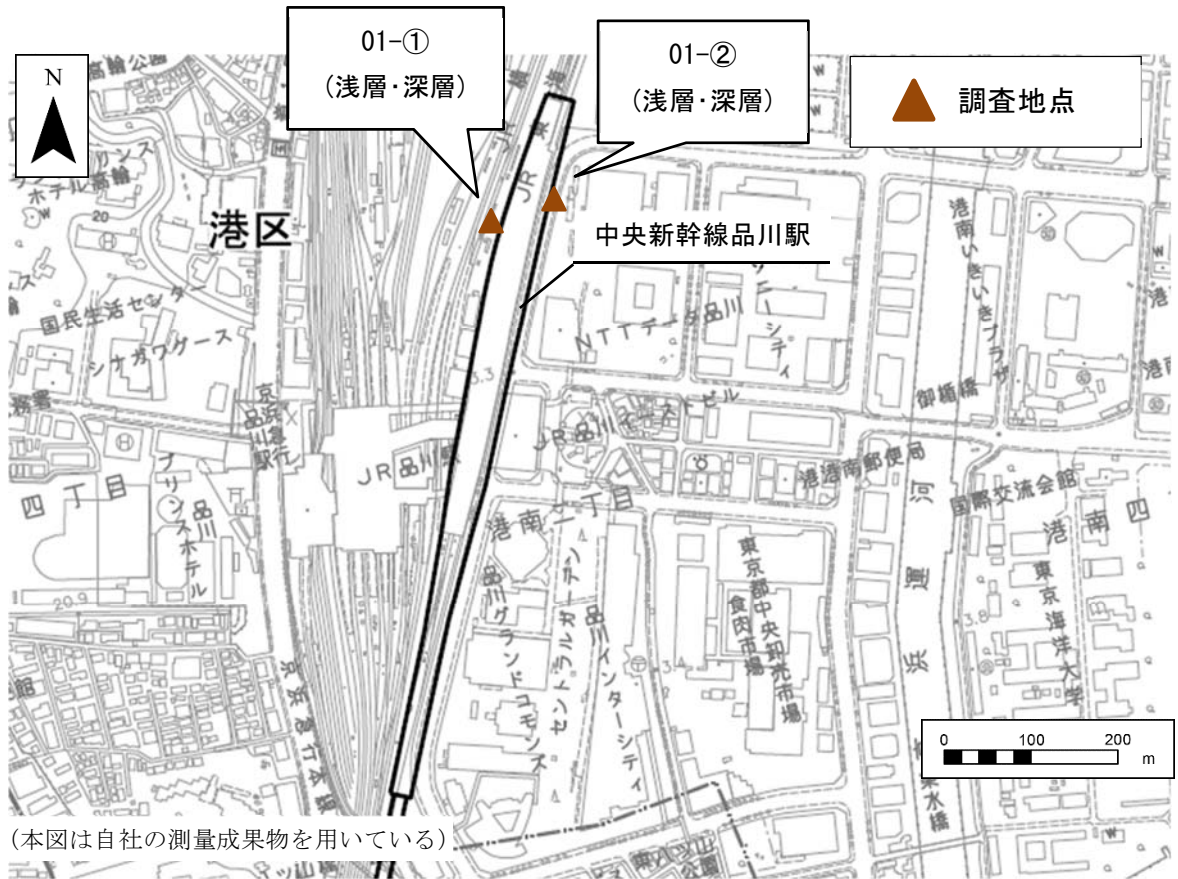


図 3-6-3-2(1) 調査地点 (水資源) (01 品川駅)

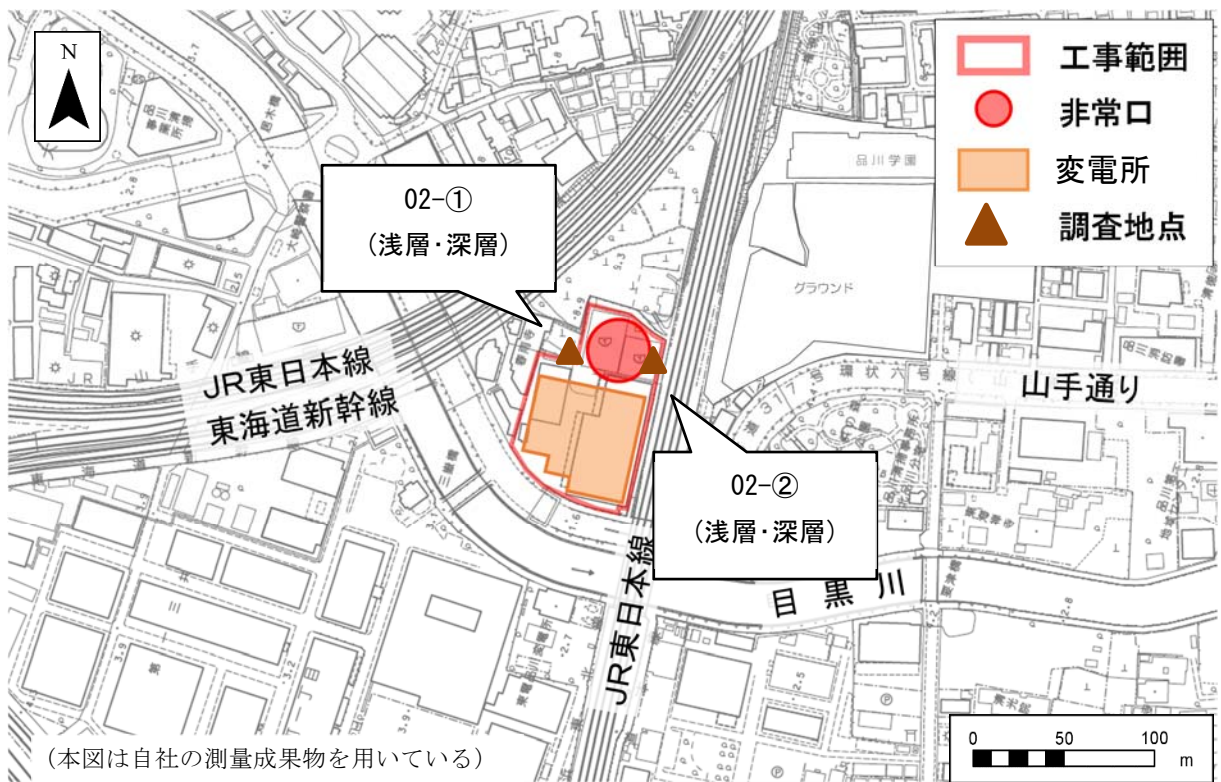


図 3-6-3-2(2) 調査地点 (水資源) (02 北品川)

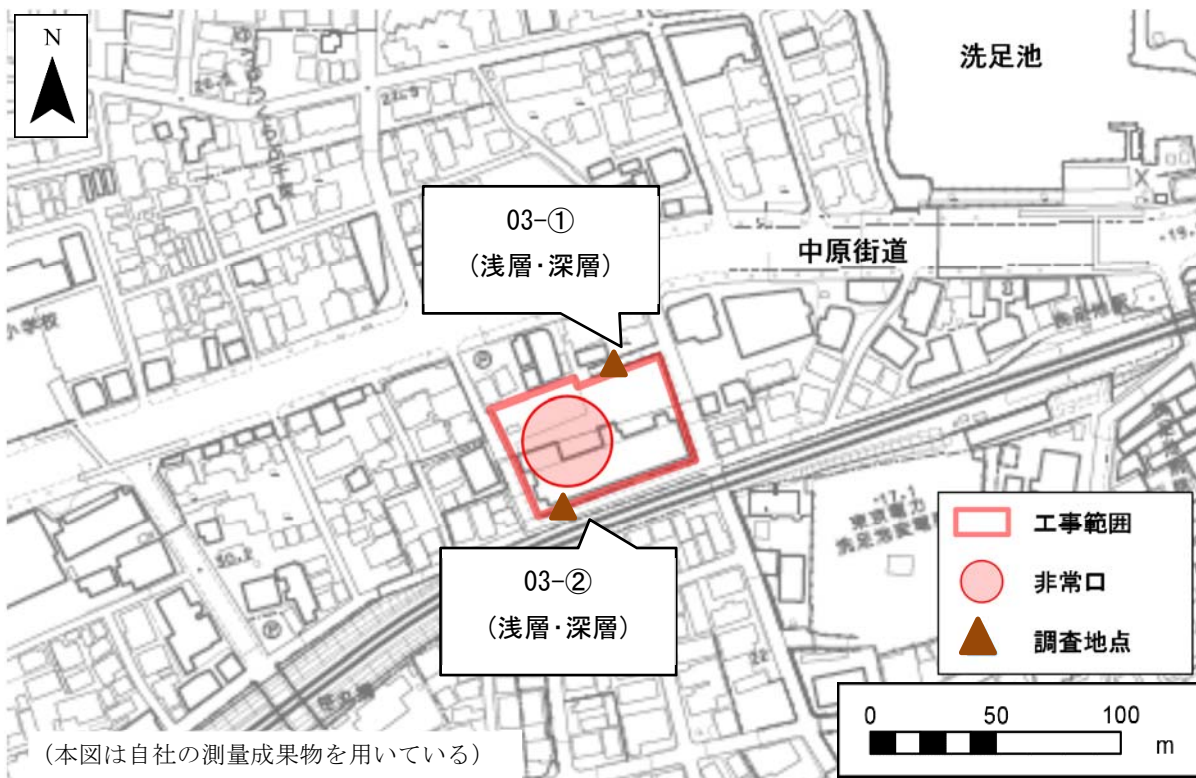


図 3-6-3-2(3) 調査地点（水資源）（03 東雪谷）

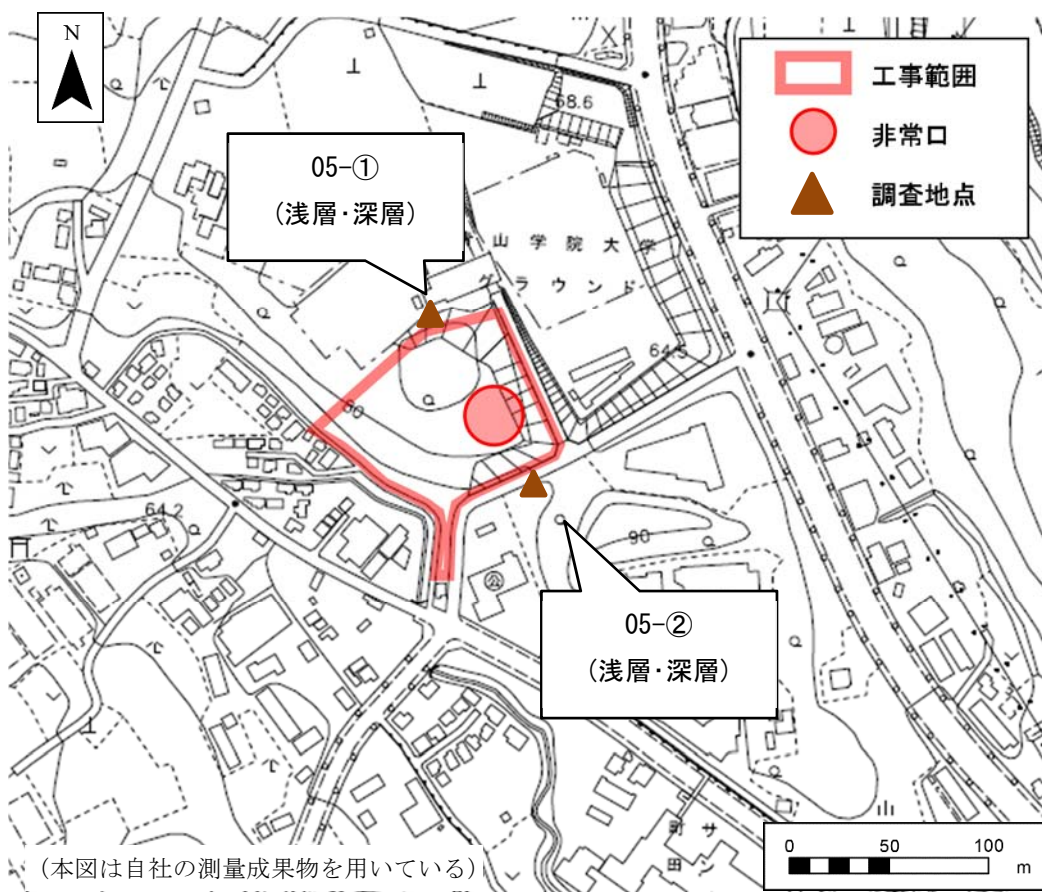


図 3-6-3-2(4) 調査地点（水資源）（05 小野路）

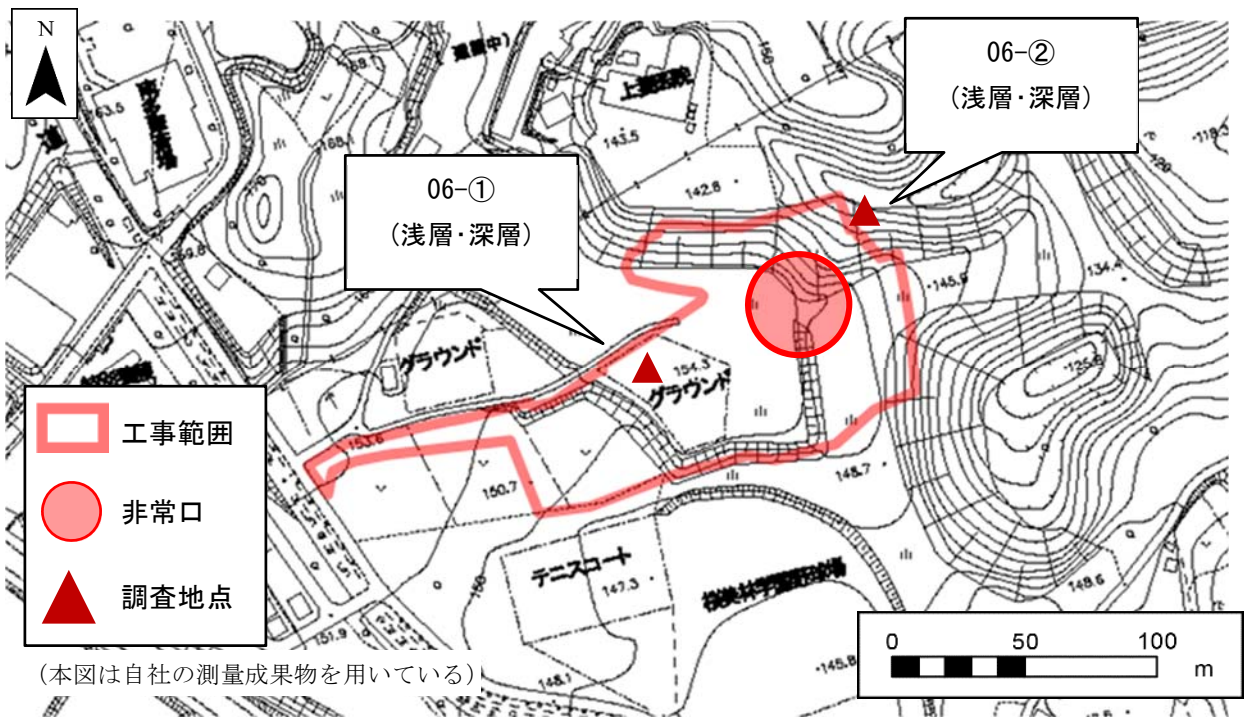


図 3-6-3-2(5) 調査地点（水資源）（06 上小山田）

3-6-4 調査期間

現地調査の期間等を表 3-6-4-1 に示す。

表 3-6-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	実施時期の種別	調査時期
01-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和3年1月22日 (浅層)
			令和3年1月22日 (深層)
01-②			令和3年1月21日 (浅層)
			令和3年1月21日 (深層)
02-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和3年1月26日 (浅層)
			令和3年1月26日 (深層)
02-②			令和3年1月26日 (浅層)
			令和3年1月26日 (深層)
03-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和3年1月19日 (浅層)
			令和3年1月19日 (深層)
03-②			令和3年1月20日 (浅層)
			令和3年1月20日 (深層)
05-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事完了後	令和2年12月8日 (浅層)
			令和2年12月8日 (深層)
05-②			令和2年12月7日 (浅層)
			令和2年12月7日 (深層)
06-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	令和3年1月19日 (浅層)
			令和3年1月19日 (深層)
06-②			令和3年1月19日 (浅層)
			令和3年1月19日 (深層)

3-6-5 調査結果

現地調査の結果を表 3-6-5-1 に示す。

自然由来の重金属等について、平成29年度から引き続き地点 01-②の観測井でほう素、令和元年度から引き続き地点 06-②の観測井で鉛が、それぞれ環境基準の値を上回っていた。これらを除く、各地点の調査項目はいずれも環境基準の値に適合していた。

表 3-6-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅)

調査項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		01-①		01-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.002	0.002	0.002	0.002	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.1	0.2	0.2	0.3	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.1	0.9	0.3	1.1	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	7.8	8.8	8.1	8.5	

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(2) 調査結果 (02 北品川)

調査項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		02-①		02-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
	水銀	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	0.003	0.001	0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.009	0.001	0.002	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.60	0.16	0.52	0.52	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.3	<0.2	0.2	0.8	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	8.2	7.8	7.8	8.4	

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(3) 調査結果 (03 東雪谷)

調査項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		03-①		03-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	6.7	6.6	6.9	7.5	

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(4) 調査結果 (05 小野路)

調査項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		05-①		05-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
	水銀	<0.00005	<0.00005	<0.0005	<0.00005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.001	0.001	0.006	0.002	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	7.9	8.1	7.9	7.7	

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1(5) 調査結果 (06 上小山田)

項目		調査地点				環境基準 ^{注1}
		06-①		06-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.005	0.006	0.011	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.1	<0.1	<0.1	0.1	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1.0mg/L 以下
水素イオン 濃度	(pH)	7.4	7.4	7.1	7.8	

注1：地下水の水質汚濁に係る環境基準（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

3-7 地盤沈下

工事実施箇所における地表面の地盤沈下について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-7-1 調査項目

調査項目は、地表面の変位量の状況とした。

3-7-2 調査方法

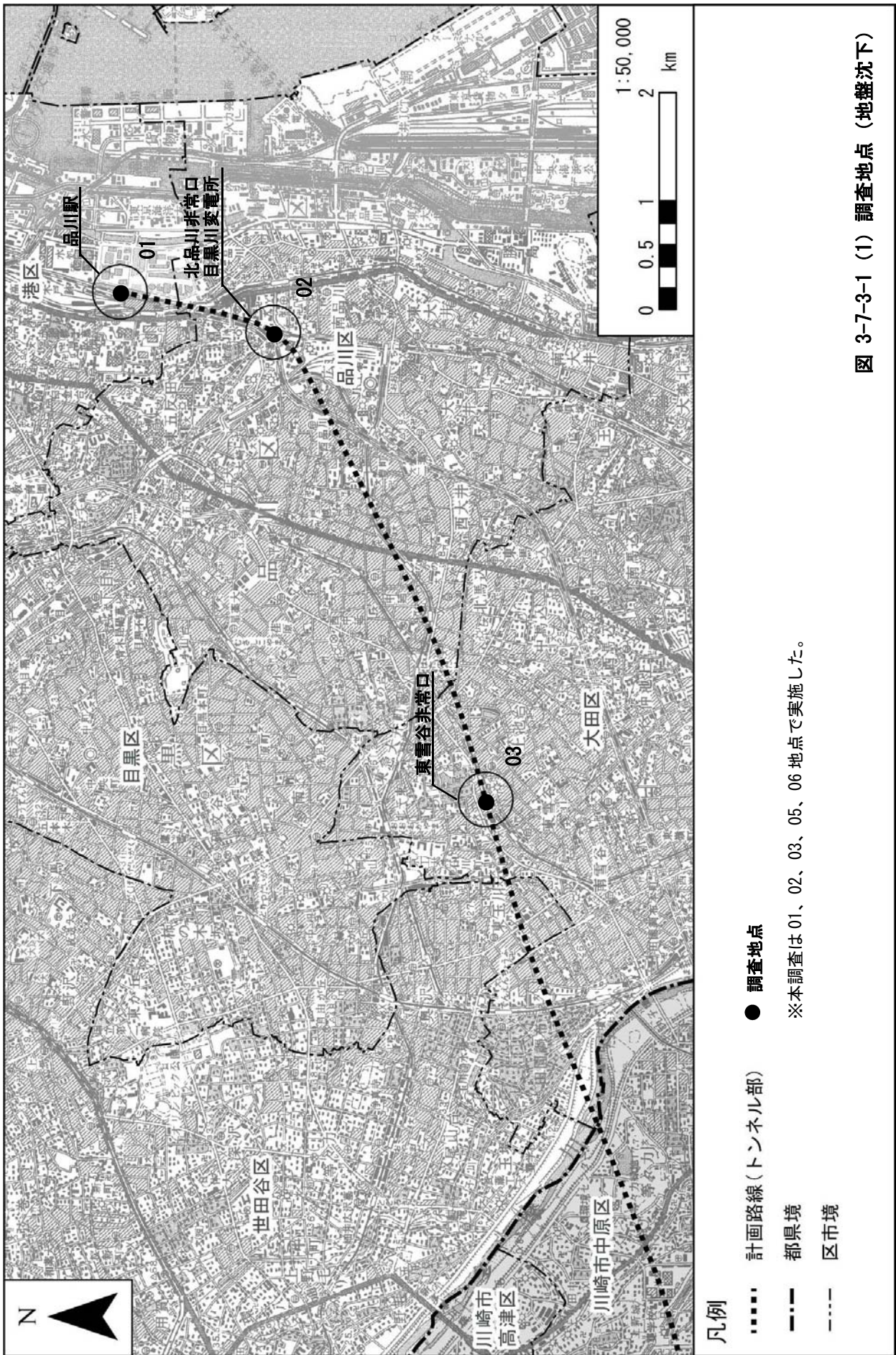
調査方法は、工事前に地下駅、非常口（都市部）及び変電所周辺に設置した測量標を用いた水準測量とした。

3-7-3 調査地点

調査地点を、表 3-7-3-1 及び図 3-7-3-1、図 3-7-3-2 に示す。

表 3-7-3-1 調査地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点
01	港区	港南	品川駅	01-①
				01-②
				01-③
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-③
				02-④
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①
				03-②
05	町田市	小野路町	小野路非常口	05-①
				05-②
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①
				06-②



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

● 調査地点

--- 都県境

※本調査は01、02、03、05、06地点で実施した。

- - - 区市境

図 3-7-3-1 (1) 調査地点 (地盤沈下)

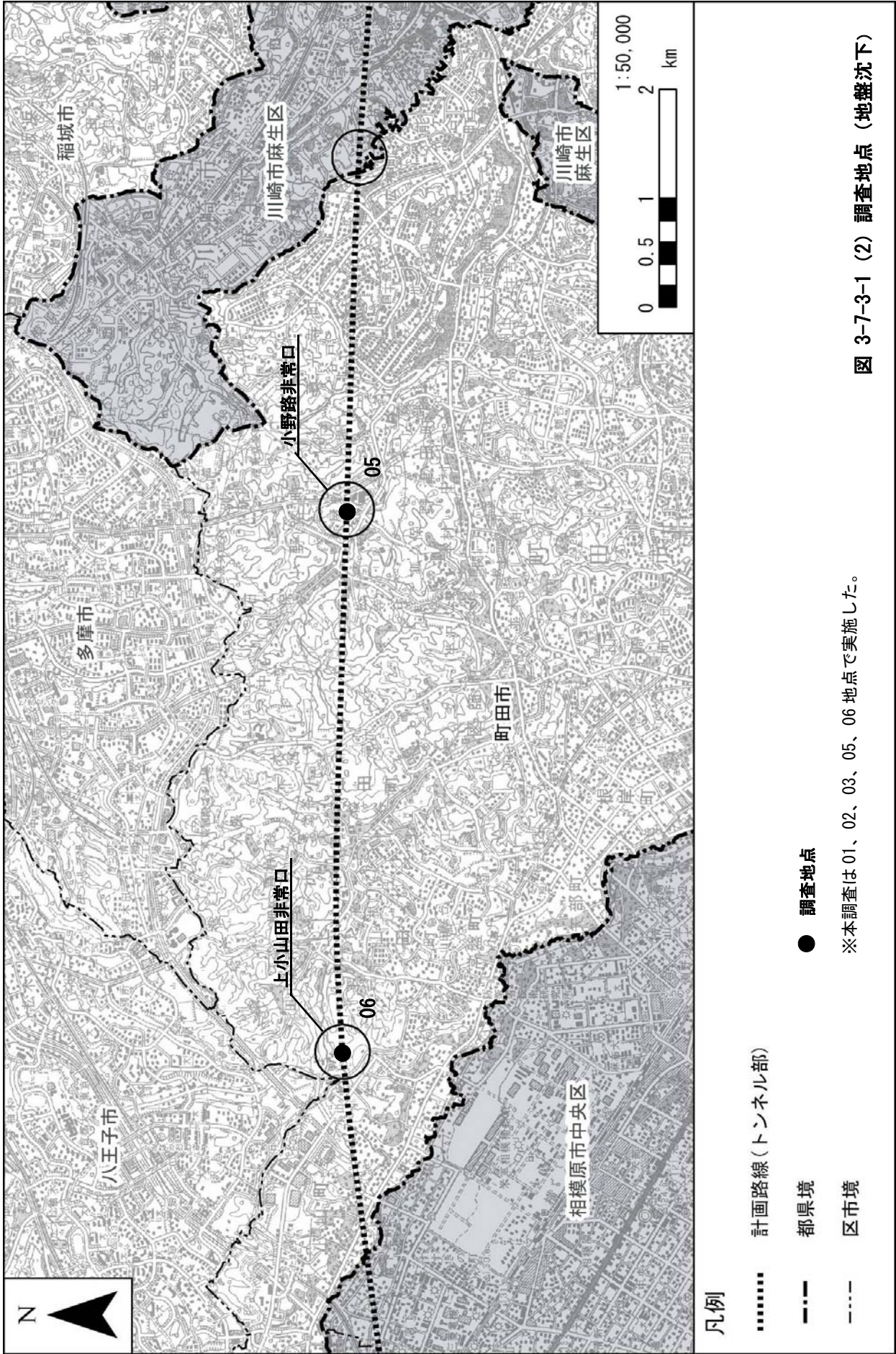


図 3-7-3-1 (2) 調査地点 (地盤沈下)

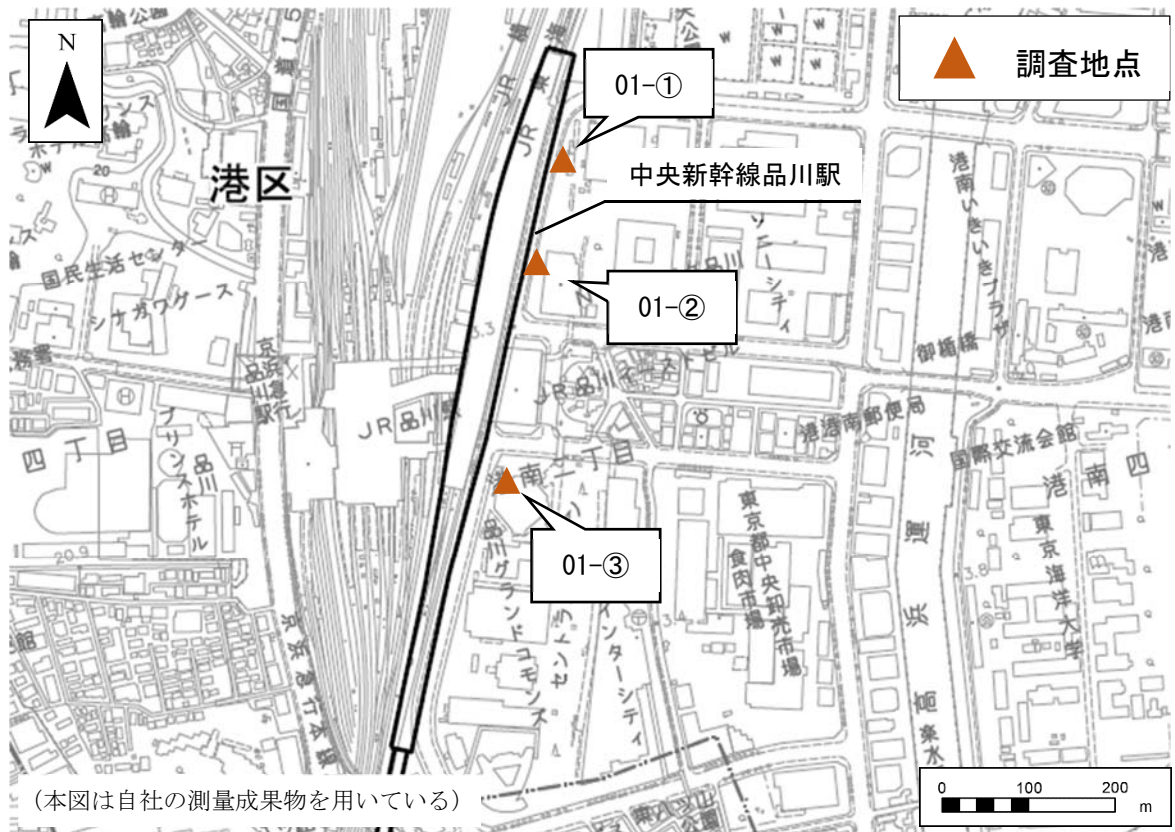


図 3-7-3-2(1) 調査地点図 (01 品川駅)

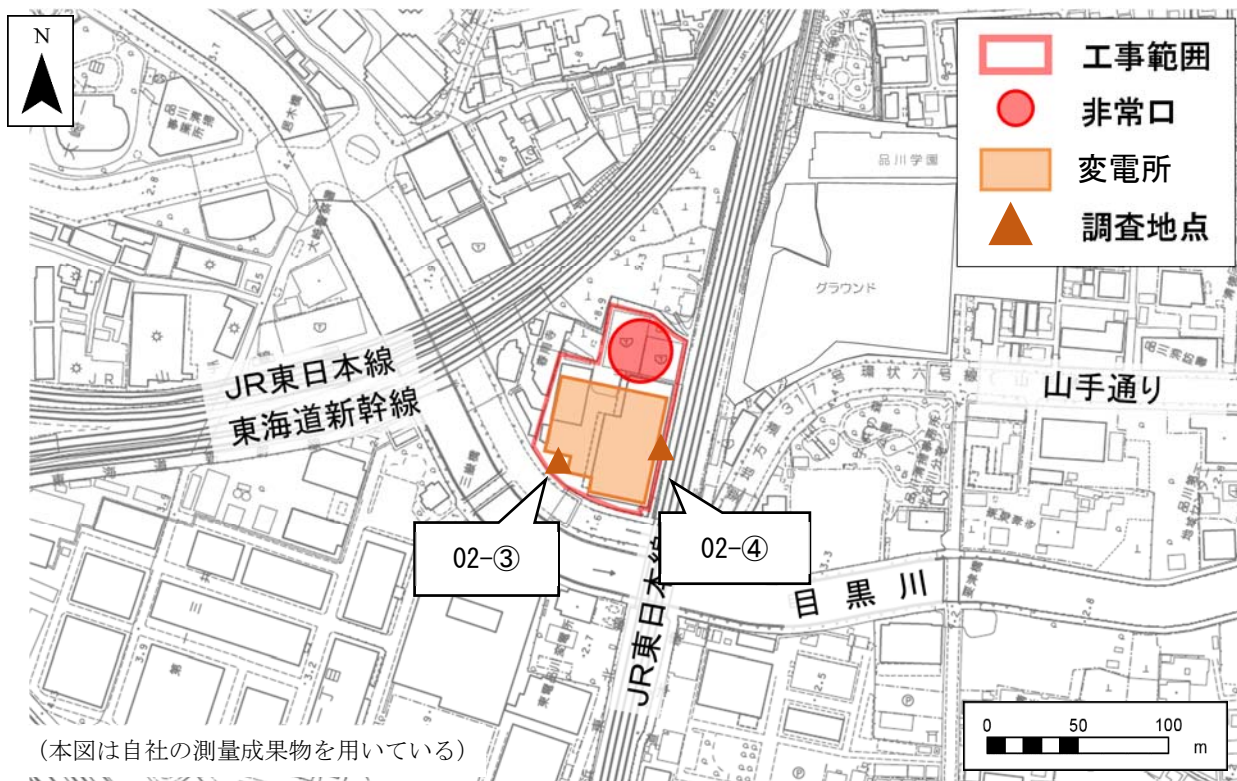


図 3-7-3-2(2) 調査地点図 (02 北品川)

注1 令和元年12月に変電所の施工開始に伴い調査地点を変更した。

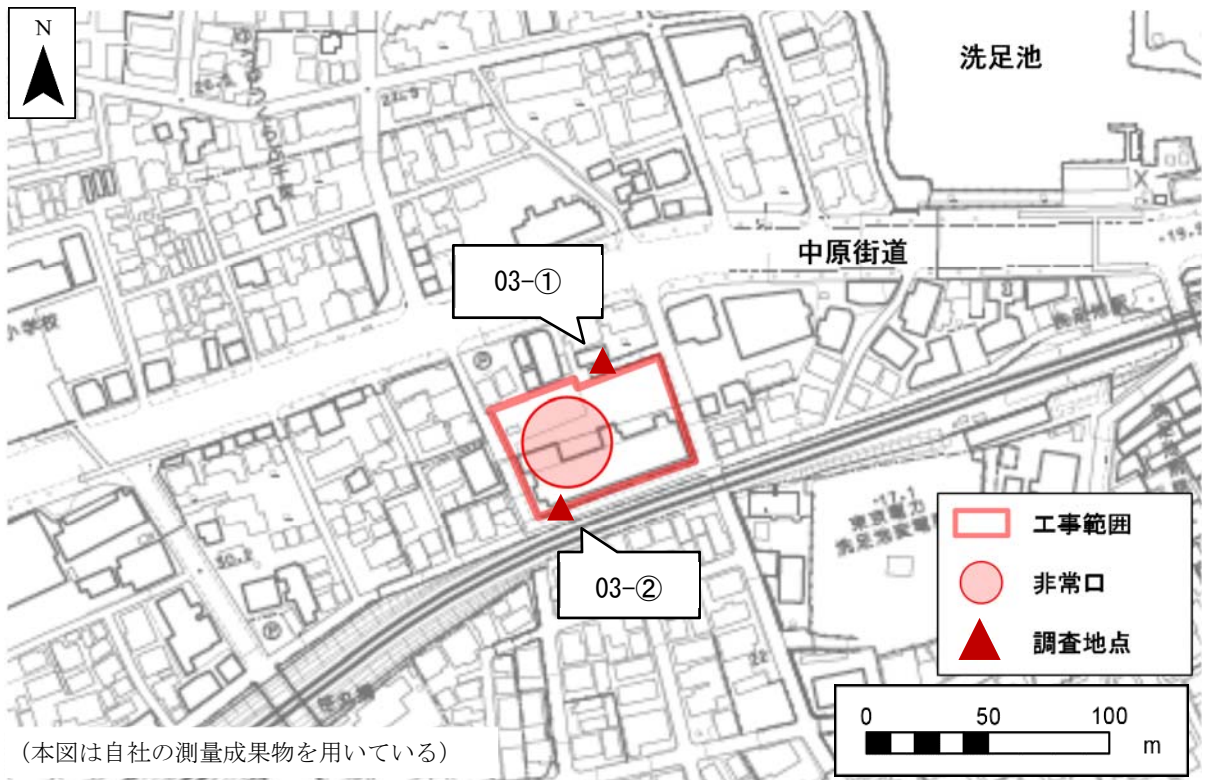


図 3-7-3-2(3) 調査地点図 (03 東雪谷)

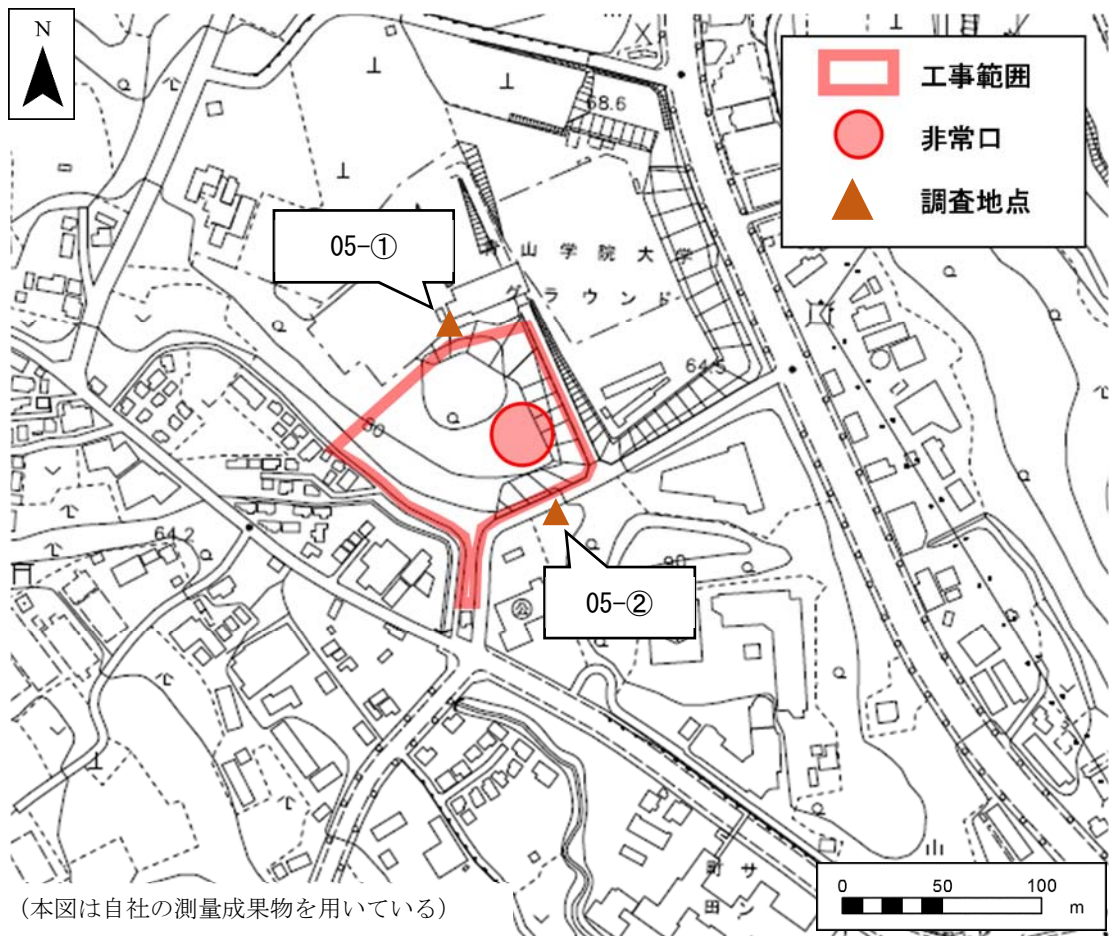


図 3-7-3-2(4) 調査地点図 (05 小野路)

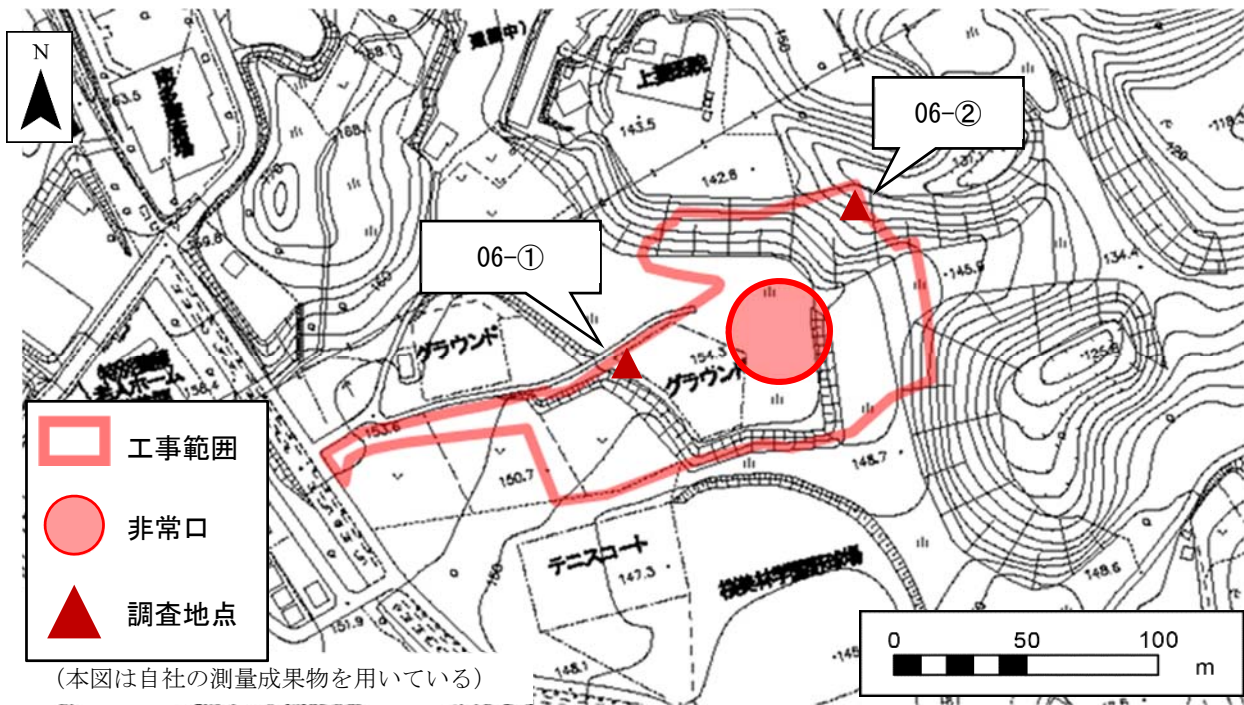


図 3-7-3-2(5) 調査地点図 (06 上小山田)

3-7-4 調査期間

調査期間等を表 3-7-4-1 に示す。

表 3-7-4-1(1) 調査期間

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	実施時期の種別	調査期間	調査時期
01-①	港区	港南	品川駅	地下工事中	令和2年 4月 ～ 令和3年 3月	令和2年4月16日 令和2年5月15日 令和2年6月9日 令和2年7月1日 令和2年8月4日 令和2年9月3日 令和2年10月2日 令和2年11月9日 令和2年12月8日 令和3年1月11日 令和3年2月4日 令和3年3月16日
01-②						令和2年4月14日 令和2年5月23日 令和2年6月24日 令和2年7月21日 令和2年8月21日 令和2年9月25日 令和2年10月27日 令和2年11月13日 令和2年12月21日 令和3年1月22日 令和3年2月22日 令和3年3月15日
01-③						令和2年4月13日 令和2年5月15日 令和2年6月10日 令和2年7月16日 令和2年8月21日 令和2年9月16日 令和2年10月13日 令和2年11月16日 令和2年12月15日 令和3年1月15日 令和3年2月15日 令和3年3月15日

表 3-7-4-1(2) 調査期間

地点番号	区市名	所在地	実施箇所	実施時期の種別	調査期間	調査時期
02-③ 02-④	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	地下工事中	令和2年 4月 ～ 令和3年 3月	令和2年4月3日 令和2年5月7日 令和2年6月2日 令和2年7月3日 令和2年8月3日 令和2年9月1日 令和2年10月1日 令和2年11月4日 令和2年12月1日 令和3年1月5日 令和3年2月2日 令和3年3月1日
03-① 03-②	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	地下工事中	令和2年 4月 ～ 令和3年 3月	令和2年4月23日 令和2年5月25日 令和2年6月29日 令和2年7月30日 令和2年8月25日 令和2年9月30日 令和2年10月26日 令和2年11月25日 令和2年12月25日 令和3年1月29日 令和3年2月26日 令和3年3月29日
05-① 05-②	町田市	小野路町	小野路非常口	地下工事中	令和2年 4月 ～ 令和3年 3月	令和2年4月6日 令和2年5月7日 令和2年6月8日 令和2年7月6日 令和2年8月3日 令和2年9月4日 令和2年10月7日
				地下工事 完了後		令和2年11月26日 令和2年12月27日 令和3年1月6日 令和3年2月26日 令和3年3月27日
06-① 06-②	町田市	上小山田町	上小山田非常口	地下工事中	令和2年 4月 ～ 令和3年 3月	令和2年4月28日 令和2年5月27日 令和2年6月29日 令和2年7月27日 令和2年8月27日 令和2年9月28日 令和2年10月30日 令和2年11月26日 令和2年12月24日 令和3年1月28日 令和3年2月26日 令和3年3月30日

3-7-5 調査結果

調査結果を、図 3-7-5-1 に示す。なお、T.P. は東京湾平均海面からの高さを示す。

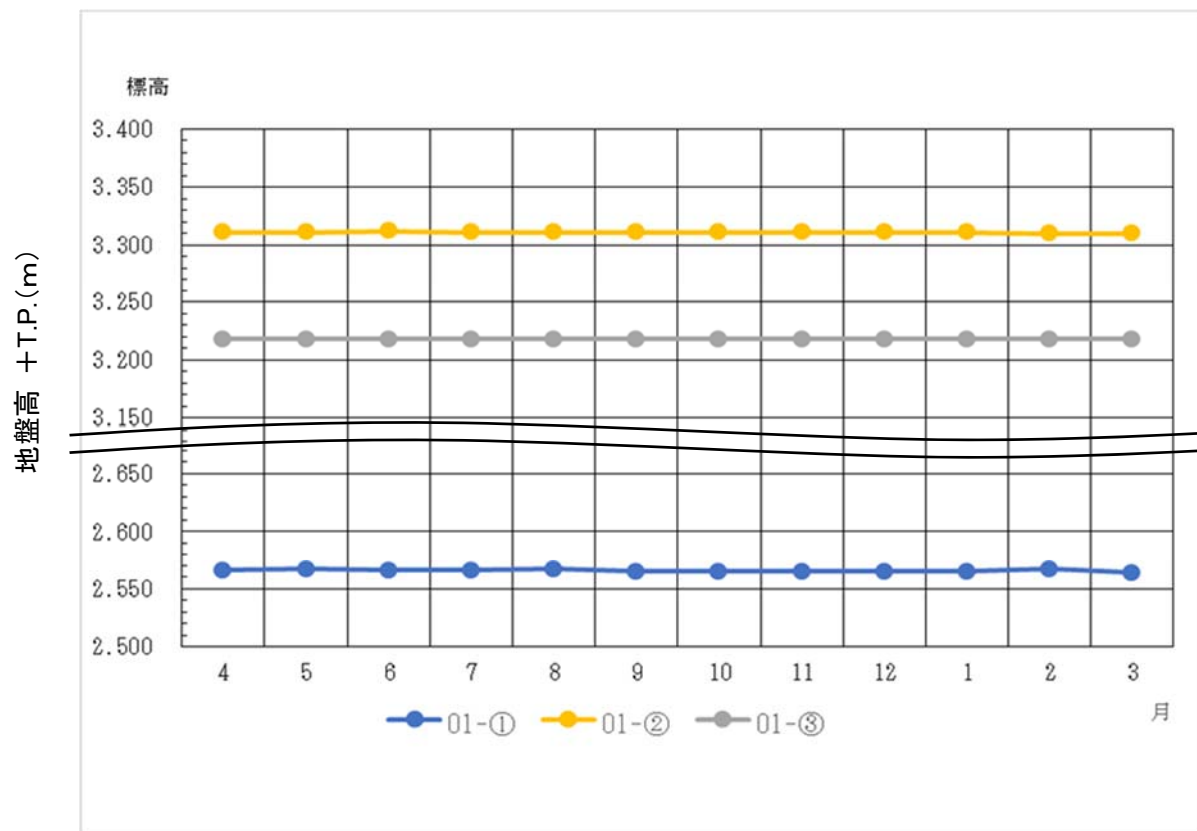


図 3-7-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅)

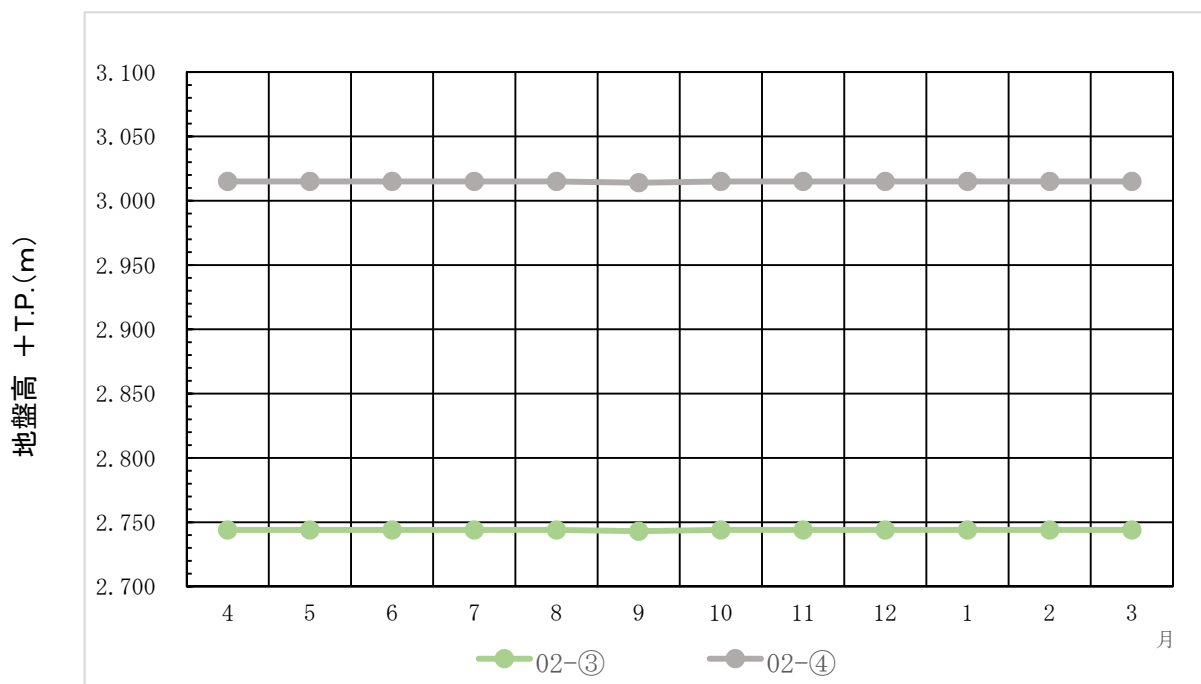


図 3-7-5-1(2) 調査結果 (02 北品川)

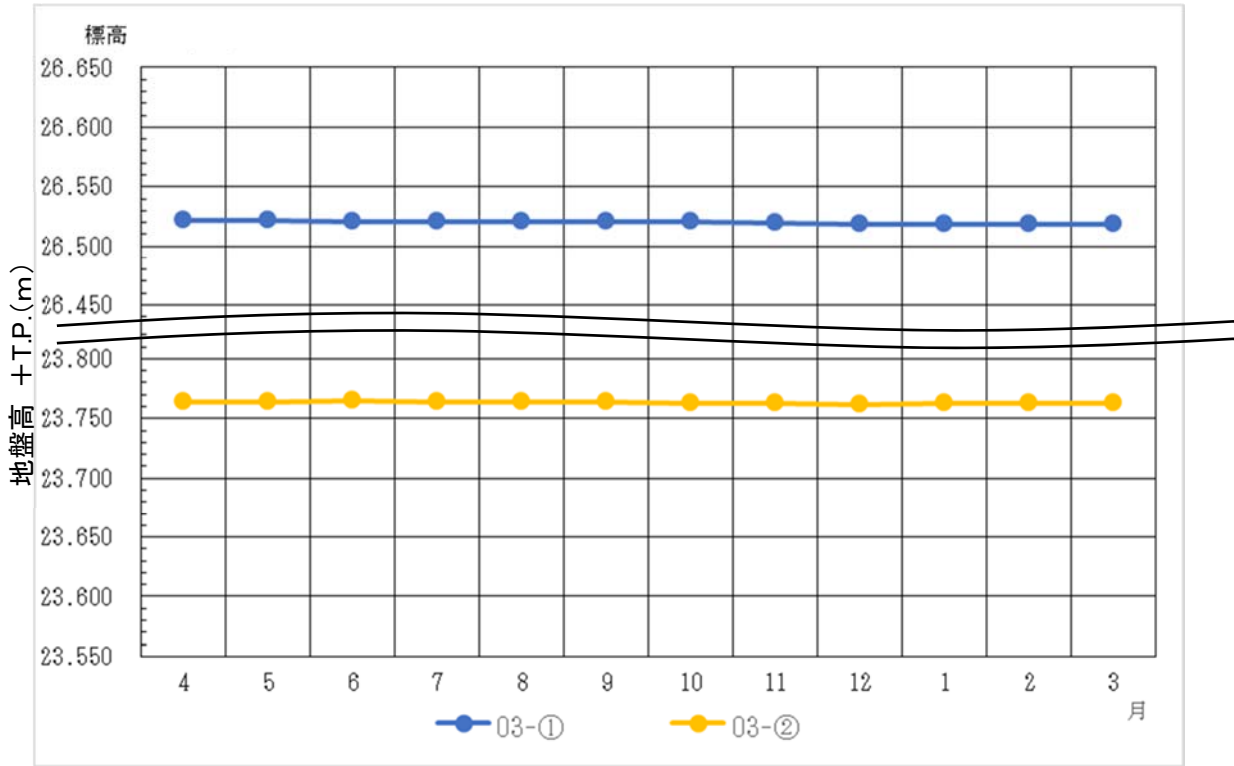


圖 3-7-5-1(3) 調查結果 (03 東雪谷)

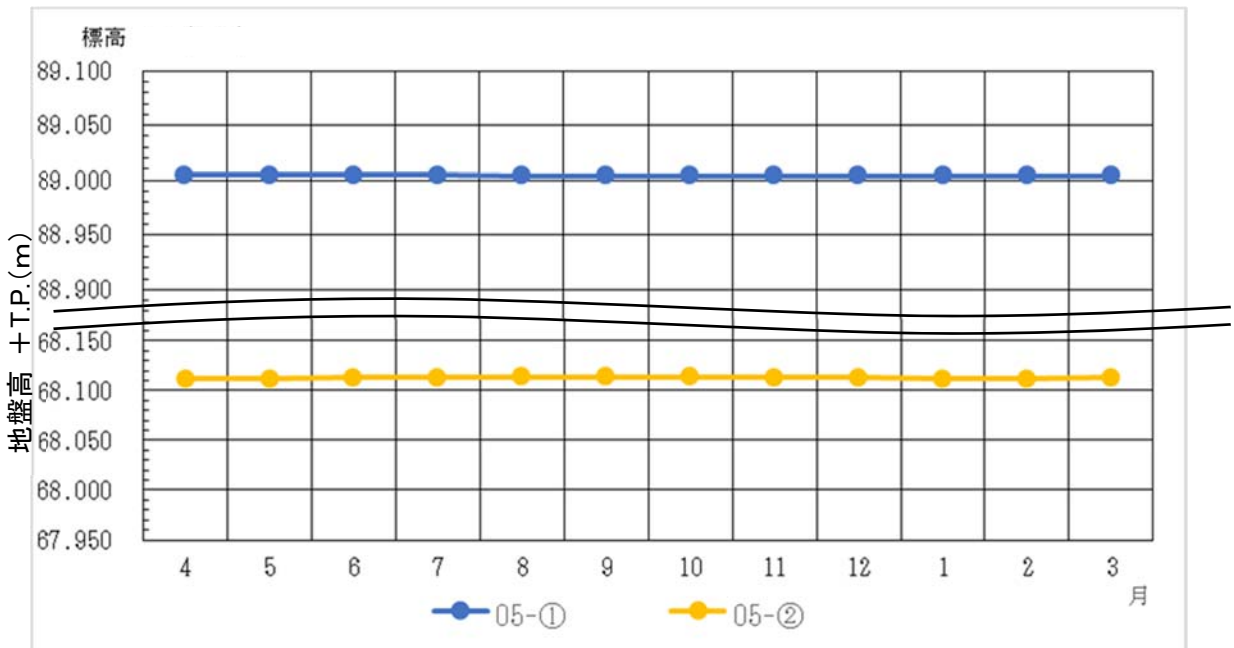


圖 3-7-5-1(4) 調查結果 (05 小野路)

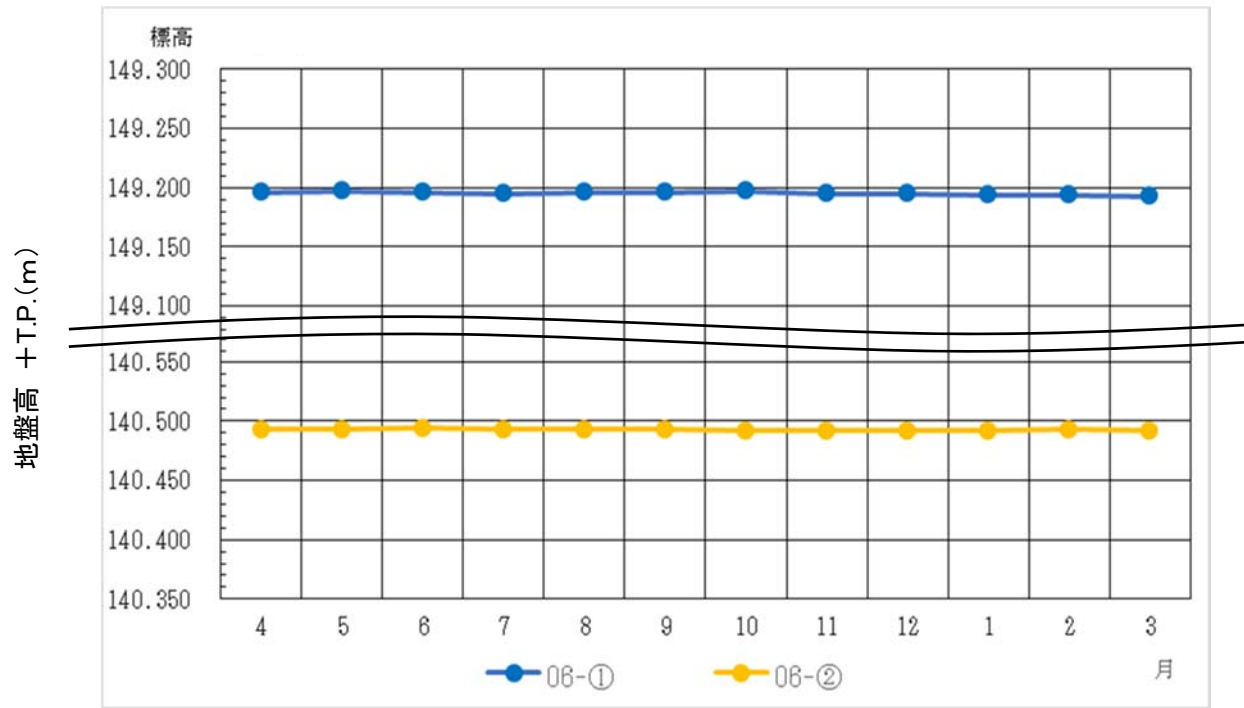


圖 3-7-5-1 (5) 調查結果 (06 上小山田)

3-8 土壌汚染

工事実施箇所における発生土の土壌汚染について、工事中のモニタリングを実施した。

3-8-1 調査項目

調査項目は、土壌汚染の状況（自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）のうち受け入れ先基準に基づき選定）とした。

3-8-2 調査方法

調査方法は、表 3-8-2-1 に示すとおりである。

表 3-8-2-1 調査方法

調査項目	地点番号	調査方法
土壌溶出量調査	05、06	土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件 (平成 15 年環境省告示第 18 号)
土壌含有量調査	05	底質調査方法 (平成 24 年環水大発第 120725002 号)
	05、06	土壌含有量調査に係る測定方法を定める件 (平成 15 年環境省告示第 19 号)

3-8-3 調査地点

調査地点は、表 3-8-3-1 及び図 3-8-3-1 に示すとおりである。

表 3-8-3-1 調査地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所
05	町田市	小野路町	小野路非常口
06		上小山田町	上小山田非常口

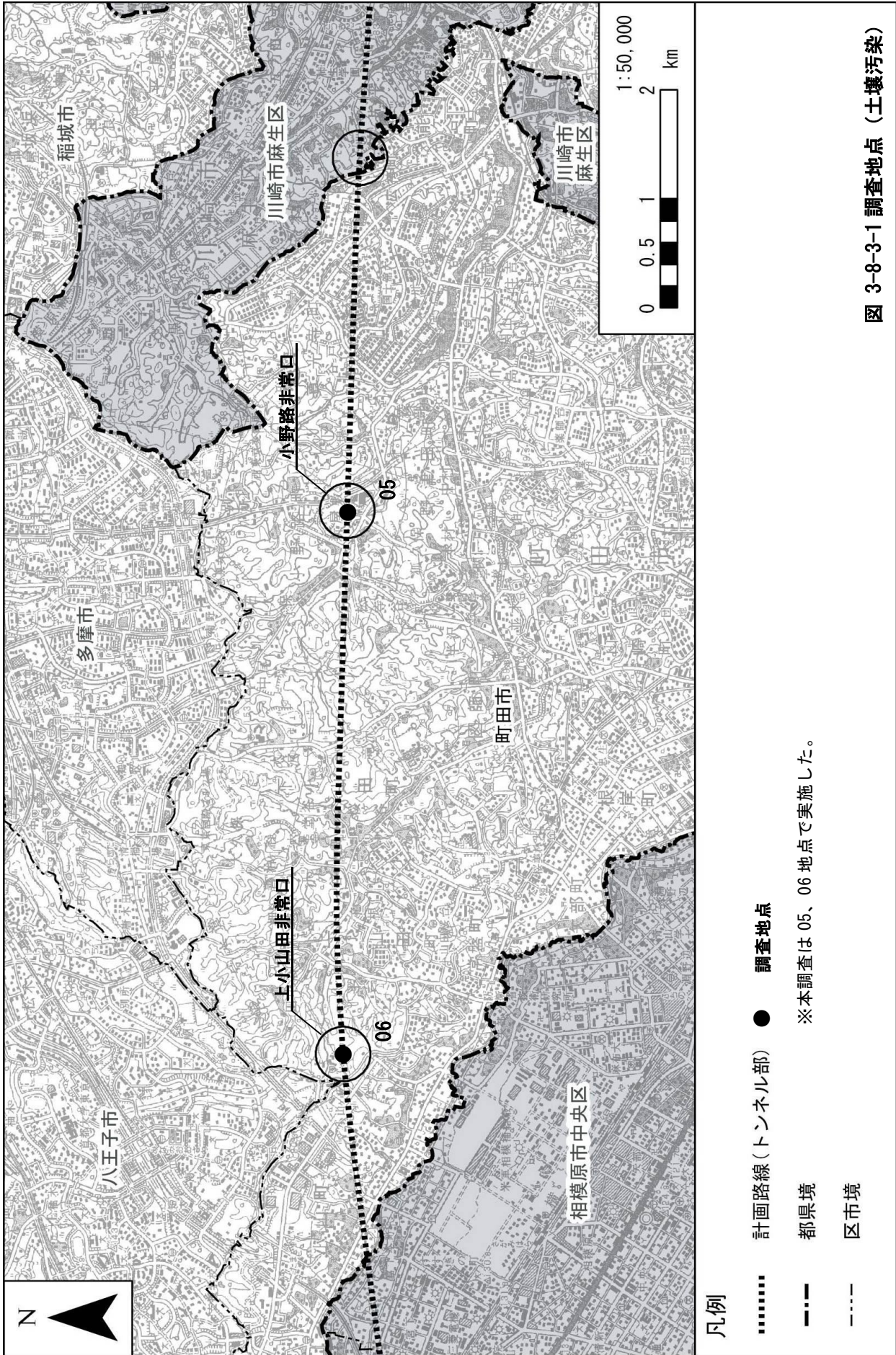


図 3-8-3-1 調査地点 (土壌汚染)

3-8-4 調査期間

調査期間は、表 3-8-4-1 に示すとおりである。

表 3-8-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	調査期間
05	土壌溶出量試験 土壌含有量試験	令和2年6月4日、7月22日、7月23日
06	土壌溶出量試験 土壌含有量試験	令和2年4月20日、5月28日

3-8-5 調査結果

調査結果は、土壌溶出量調査は表 3-8-5-1、土壌含有量調査は表 3-8-5-2 に示すとおりである。

地点 05、06 においては、全ての調査項目で受け入れ先基準に適合していた。

表 3-8-5-1(1)
重金属等の受け入れ先基準による溶出量試験結果（月別最大値）①（地点 05）

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
令和2年6月	<0.001	0.015	<0.0005	0.001	<0.001	0.001	0.28	<0.1
受け入れ先基準	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1

注1：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-1(2)
重金属等の受け入れ先基準による溶出量試験結果（月別最大値）②（地点 05）

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
令和2年7月	<0.001	<0.005	<0.0005	<0.001	0.002	0.007	<0.08	<0.1
受け入れ先基準	0.01	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1

注1：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-1(3)
重金属等の受け入れ先基準による溶出量試験結果（月別最大値）（地点 06）

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
令和2年4月	<0.001	0.02	<0.0005	<0.002	<0.005	<0.002	0.2	<0.1
令和2年5月	<0.001	<0.02	<0.0005	<0.002	<0.005	<0.002	0.1	<0.1
受け入れ先基準	0.01	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1

注1：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-2(1)
重金属等の受け入れ先基準による含有量試験結果（月別最大値）①（地点 05）

調査時期	水銀 (mg/kg)
令和 2 年 6 月	<2.5
受け入れ先基準	25

注1：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-2(2)
重金属等の受け入れ先基準による含有量試験結果（月別最大値）②（地点 05）

調査時期	カドミウム (mg/kg)	六価クロム (mg/kg)	水銀 (mg/kg)	セレン (mg/kg)	鉛 (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	ふっ素 (mg/kg)	ほう素 (mg/kg)
令和 2 年 7 月	<15	<25	<1.5	<15	<15	<15	<400	<400
受け入れ先基準	150	250	15	150	150	150	4000	4000

注1：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-2(3)
重金属等の受け入れ先基準による含有量試験結果（月別最大値）（地点 06）

調査時期	カドミウム (mg/kg)	六価クロム (mg/kg)	水銀 (mg/kg)	セレン (mg/kg)	鉛 (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	ふっ素 (mg/kg)	ほう素 (mg/kg)
令和 2 年 4 月	<5	<5	<0.02	<5	<5	<5	<100	<5
令和 2 年 5 月	<5	<5	<0.02	<5	9	<5	<100	<5
受け入れ先基準	150	250	15	150	150	150	4000	4000

注1：「<」は未満を示す。

4 環境保全措置の実施状況

令和2年度においては、以下の通り環境保全措置を実施した。

4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置

4-1-1 品川駅

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-1-1 及び写真 4-1-1-1 から写真 4-1-1-16 に示す。なお、本工区の令和2年度の工事については、地中連続壁工及び工事桁架設工等の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-1-1(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-1-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-1-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音 ・振動	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-1-3
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮 （作業員へアイドリングストップなどを徹底するように講習等を通じて周知）	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-1-4
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真4-1-1-5

表 4-1-1-1 (2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-1-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-1-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・土壌汚染 	仮置場における発生土の適切な管理	写真4-1-1-8
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・土壌汚染 	薬液注入工法における指針の順守	写真4-1-1-9
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-1-10
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真4-1-1-11

表 4-1-1-1 (3) 令和 2 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
・ 土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・ 廃棄物等	建設汚泥の脱水処理	写真4-1-1-12
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	
・ 温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真4-1-1-13
・ 温室効果ガス	低炭素型の建設機械の採用	
・ 温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真4-1-1-14
・ 廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・ 大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-1-15
・ 大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-1-16
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真4-1-1-13



写真4-1-1-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-1-2 排出ガス対策型建設機械の採用



写真4-1-1-3 低騒音型建設機械の採用



写真4-1-1-4 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-1-5 工事現場の清掃、散水



写真4-1-1-6 工事従事者への講習・指導



写真4-1-1-7 工事排水の適切な処理



写真4-1-1-8 仮置場における発生土の適切な管理



写真4-1-1-9 薬液注入工法における指針の順守



写真4-1-1-10 地下水の継続的な監視



写真4-1-1-11 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-1-12 建設汚泥の脱水処理



写真4-1-1-13 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真4-1-1-14 副産物の分別、再資源化



写真4-1-1-15 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-1-16 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-2 第一首都圏トンネル（北品川工区）

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-2-1 及び写真 4-1-2-1 から写真 4-1-2-8 に示す。なお、本工区の令和 2 年度の工事については、シールド機の搬入及び組立等のシールド機発進準備工等の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-2-1(1) 令和 2 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-2-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 ・振動 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮 （作業員へアイドリングストップなどを徹底するように講習等を通じて周知）	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-2-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-2-4

表 4-1-2-1(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の適切な処理	写真4-1-2-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	写真4-1-2-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	写真4-1-2-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低炭素型建設機械の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-2-8
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-2-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	



写真4-1-2-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-2-2 排出ガス対策型建設機械の採用、
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-2-3 工事現場の清掃、散水、資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水



写真4-1-2-4 工事従事者への講習・指導



写真4-1-2-5 工事排水の適切な処理



写真4-1-2-6 下水道への排水



写真4-1-2-7 工事排水の監視



写真4-1-2-8 副産物の分別、再資源化

4-1-3 目黒川変電所

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-3-1 及び写真 4-1-3-1 から写真 4-1-3-12 に示す。なお、本工区の令和2年度の工事については、掘削工及び躯体構築工の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-3-1(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シートの設置	写真4-1-3-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音建設機械の採用	写真4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮 （作業員へアイドリングストップなどを徹底するように講習等を通じて周知）	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-3-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-3-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-3-5

表 4-1-3-1(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-3-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・土壌汚染 	薬液注入工法における指針の順守	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-3-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真4-1-3-8
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	

表 4-1-3-1(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
・廃棄物等	建設発生土の再利用	
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真4-1-3-9
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真4-1-3-10
・廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-3-11
・大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-3-12
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真4-1-3-9



写真4-1-3-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-3-2 排出ガス対策型建設機械の採用、
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-3-3 建設機械の点検及び整備による
性能維持



写真4-1-3-4 工事現場の清掃、散水



写真4-1-3-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-3-6 工事排水の適切な処理



写真4-1-3-7 地下水の継続的な監視

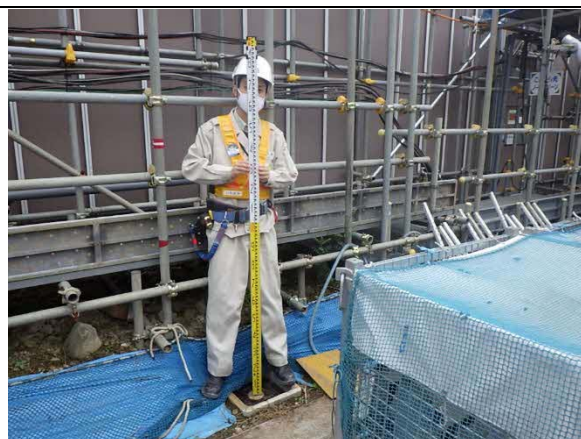


写真4-1-3-8 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-3-9 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真4-1-3-10 副産物の分別、再資源化



写真4-1-3-11 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-3-12 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-4 東雪谷非常口

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-4-1 及び写真 4-1-4-1 から写真 4-1-4-14 に示す。なお、本工区の令和 2 年度の工事については、地中連続壁工等の実施となるため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-4-1(1) 令和 2 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-4-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 ・振動 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-4-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-4-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-4-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮 （作業員へアイドリングストップなどを徹底するように講習等を通じて周知）	

表 4-1-4-1(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-4-6
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	写真4-1-4-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真4-1-4-8
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真4-1-4-9
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設汚泥の脱水処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-4-10
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真4-1-4-11

表 4-1-4-1(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-4-12
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-4-13
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	写真4-1-4-14



写真4-1-4-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-4-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真4-1-4-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-4-4 工事現場の清掃、散水



写真4-1-4-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-4-6 地下水の継続的な監視



写真4-1-4-7 地質の状況等に応じた山留め工法等の採用



写真4-1-4-8 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-4-9 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化



写真4-1-4-10 副産物の分別、再資源化



写真4-1-4-11 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持



写真4-1-4-12 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-4-13 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真4-1-4-14 低公害型の工事用車両の選定

4-1-5 小野路非常口

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-5-1 及び写真 4-1-5-1 から写真 4-1-5-12 に示す。なお、本工区の令和2年度の工事については、ニューマチックケーソン工等を実施したため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-5-1(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-5-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-5-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-5-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮 （作業員へアイドリングストップなどを徹底するように講習等を通じて周知）	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-5-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-5-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-5-5

表 4-1-5-1(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-5-6
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-5-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真4-1-5-8
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真4-1-5-1 写真4-1-5-2
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真4-1-5-9
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-5-10
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への情報提供	

表 4-1-5-1(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・動物 ・生態系	資材運搬等の適切化	
・大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-5-11
・大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-5-12
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真4-1-5-9



写真4-1-5-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-5-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真4-1-5-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-5-4 工事現場の清掃、散水



写真4-1-5-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-5-6 工事排水の適切な処理



写真4-1-5-7 地下水の継続的な監視



写真4-1-5-8 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-5-9 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真4-1-5-10 副産物の分別、再資源化



写真4-1-5-11 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-5-12 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-6 第一首都圏トンネル（小野路工区）

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-6-1 及び写真 4-1-6-1 から写真 4-1-6-11 に示す。なお、本工区の令和 2 年度の工事については、シールド機発進準備工等を実施したため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-6-1(1) 令和 2 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-6-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-6-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	写真4-1-6-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-6-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮 （作業員へアイドリングストップなどを徹底するように講習等を通じて周知）	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-6-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-6-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-6-6

表 4-1-6-1(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 	工事排水の適切な処理	写真4-1-6-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-6-8
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-6-9
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	

表 4-1-6-1(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適切化	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	荷台への防じんシート敷設及び散水	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-6-10
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	写真4-1-6-11



写真4-1-6-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-6-2 排出ガス対策型建設機械の採用、
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-6-3 工事規模に合わせた建設機械の
設定

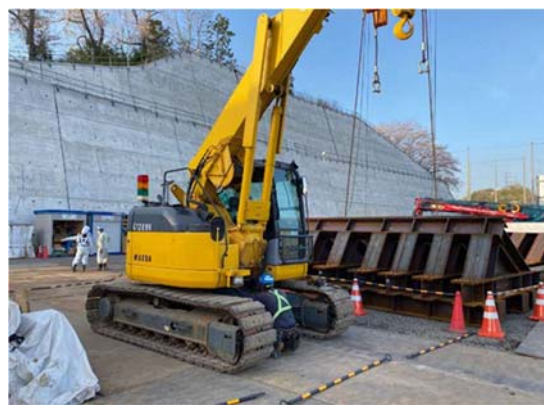


写真4-1-6-4 建設機械の点検及び整備による
性能維持



写真4-1-6-5 工事現場の清掃、散水



写真4-1-6-6 工事従事者への講習・指導



写真4-1-6-7 工事排水の適切な処理



写真4-1-6-8 地下水の継続的な監視



写真4-1-6-9 副産物の分別、再資源化



写真4-1-6-10 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真4-1-6-11 低公害型の工事用車両の選定

4-1-7 上小山田非常口

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-7-1 及び写真 4-1-7-1 から写真 4-1-7-12 に示す。なお、本工区の令和2年度の工事については、ニューマチックケーソン工等を実施したため、当該工事に関わる報告とする。

表 4-1-7-1(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-7-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-7-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-7-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮 （作業員へアイドリングストップなどを徹底するように講習等を通じて周知）	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-7-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真4-1-7-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-7-5

表 4-1-7-1(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-7-6
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた工法の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真4-1-7-1 写真4-1-7-2
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	写真4-1-7-7
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真4-1-7-8
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真4-1-7-9

表 4-1-7-1(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適切化	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-7-10
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真4-1-7-7
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 ・水質（水の濁り、水の汚れ） 	沈砂池の設置	写真4-1-7-11
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低炭素型建設機械の採用	写真4-1-7-12



写真4-1-7-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-7-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真4-1-7-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-7-4 工事現場の清掃、散水



写真4-1-7-5 工事従事者への講習・指導



写真4-1-7-6 地下水の継続的な監視



写真4-1-7-7 外来種の拡大抑制、資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真4-1-7-8 副産物の分別、再資源化



写真4-1-7-9 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持



写真4-1-7-10 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-7-11 沈砂池の設置



写真4-1-7-12 低炭素型建設機械の採用

4-2 重要な種の移植

令和2年度はキンランについて、表4-2-1の通り移植を実施した。移植時の状況を写真4-2-1～写真4-2-2に示す。なお、移植後の生育状況の確認については、第2章事後調査に記載している。

表 4-2-1 令和2年度に移植・播種を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
キンラン	ラン科	町田市 上小山田町	町田市 上小山田町	令和2年11月4日 (4個体移植)



写真 4-2-1 移植作業の状況（移植前）
（町田市上小山田町：キンラン）



写真 4-2-2 移植作業の状況（移植後）
（町田市上小山田町：キンラン）

5 その他特に実施した調査

5-1 動物（上小山田）

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成 26 年 11 月」において調査の対象とした動物について、工事の実施に係る重要な種及び注目すべき生息地の状況を確認した。

5-1-1 調査方法

調査方法は、表 5-1-1-1 に示す方法、現地確認及び工事関係等の資料の整理とした。なお、生息が確認された種の内、表 5-1-1-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

表 5-1-1-1(1) 動物の調査方法

調査項目		調査方法	
哺乳類	任意確認 (フィールドサイン法)、夜間撮影		調査地域内を任意に踏査し、哺乳類の生息の根拠となる足跡、糞、食痕、掘り返し跡等のフィールドサイン（生息痕）の確認から、調査地域に生息する種の把握を行った。また、自動撮影装置を併用して、けもの道等の哺乳類の移動経路の把握に努めた。
	捕獲調査	【ネズミ類】	調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップにはシャーマントラップ及び墜落かんを使用した。シャーマントラップの餌はピーナッツ、ヒマワリ、オートミール等を用いた。シャーマントラップの設置数は 30 個/1 地点、墜落かんの設置数は 2~3 個/1 地点とし、1 地点に 2 晩設置した。
		【モグラ類】	モグラ塚等が見られる地点にモルトトラップを設置した。モルトトラップの設置数は 10 個/1 地点とし、1 地点に 2 晩設置した。
		【コウモリ類】	調査地域内におけるコウモリ類の通過経路と判断される場所において、ハーブトラップを用いて捕獲調査を実施した。ハーブトラップの設置数は 1 箇所/1 地点とし、1 地点に 2 晩設置した。
鳥類	一般鳥類	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、出現した鳥類の種名を記録した。重要な種が確認された場合は、確認位置、個体数、行動等を記録した。また、フクロウ類等の夜行性鳥類の生息確認を目的とした夜間調査も実施した。
		ラインセンサス法	調査地域内に設定した調査ルート上を、時速 2km で歩きながら一定範囲内（草地は片側 50m、林内は片側 25m 程度）に出現する鳥類の種名及び個体数を記録した。調査にあたっては、8~10 倍程度の双眼鏡を用いるとともに、姿、鳴き声により鳥類の確認を行った。調査時間帯は鳥類の活動が活発となる早朝に設定し、ルート数は 1 ルートとした。
		ポイントセンサス法	観察地点を定め、双眼鏡、望遠鏡を用いて 30 分程度の観察を行い、姿、鳴き声により確認される鳥類の種名及び個体数を記録した。1 地点に設置した。
	希少猛禽類	定点観察法	猛禽類の営巣が考えられる地域について繁殖地特定のための行動の確認を目的として、設定した定点において簡易無線機による情報交換を行いながら、8~10 倍程度の双眼鏡及び 20~60 倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。

表 5-1-1-1(2) 動物の調査方法

調査項目		調査方法	
鳥類	希少猛禽類	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を歩き、樹林の状況、巣がかけられている営巣木の状況（樹種、樹高、胸高直径、地上〇mに営巣等）、巣の形状（直径、厚さ）、周辺の地形、植生等を記録した。
爬虫類・両生類		任意確認	調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び捕獲、鳴き声等により確認された両生類・爬虫類の種名、個体数、確認位置等を記録した。なお、昼間は目視により個体を確認し、夜間はカエル類の鳴き声等を確認した。
昆虫類		任意採集	調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び鳴き声等で確認された昆虫類の種名を記録した。また、目視観察で種名の確認が困難な場合は、捕虫網等を用いて採集した。なお、捕虫網を振り回し昆虫類を採集するスウィーピング法、樹木の枝、葉等を叩き、付着している昆虫類を採集するビーティング法も併用した。また、現地での種の識別が困難なものは、標本として持ち帰り、同定を行った。
		ライトトラップ法	夜間に光に誘引されるコウチュウ類、ガ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる代表的な環境において、ボックス法によるライトトラップを実施した。 光源（ブラックライト等）の下に、捕虫器（ボックス）を付け、飛来した昆虫類が光源にぶつかり捕虫器に落下した個体を捕獲した。設置は夕刻に行い、日没前に点灯を開始し、1地点に1晩放置した後、翌日、ボックス内の昆虫類を回収した。
		ベイトトラップ法	主に地表徘徊性のコウチュウ類、アリ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップは、誘因餌を入れたプラスチックコップを20個/1地点で地中に埋設し、1地点に1晩設置した後、回収した。
魚類		任意採集	調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川）において、各種漁具（投網、タモ網、トラップ）を用いて任意に魚類を採取し、種名、個体数、確認環境等を記録した。また、潜水による目視観察も行った。なお、現地での種の識別が困難なものは、採取した魚類をホルマリン等で固定して標本として持ち帰り、同定を行った。
底生動物		任意採集	調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川）において、タモ網等を用いて任意に底生動物の採集を行った。採集した底生動物はホルマリンで固定して標本として持ち帰り、同定を行った。
		コドラート法	コドラート付サーバーネット（25cm×25cm）を用いて、一定面積内に生息する底生動物の採集を行った。採集は1地点あたり同様の環境で3回実施した。採集した底生動物はホルマリンで固定して、標本として持ち帰り、同定を行った。1地点で実施した。

表 5-1-1-2 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

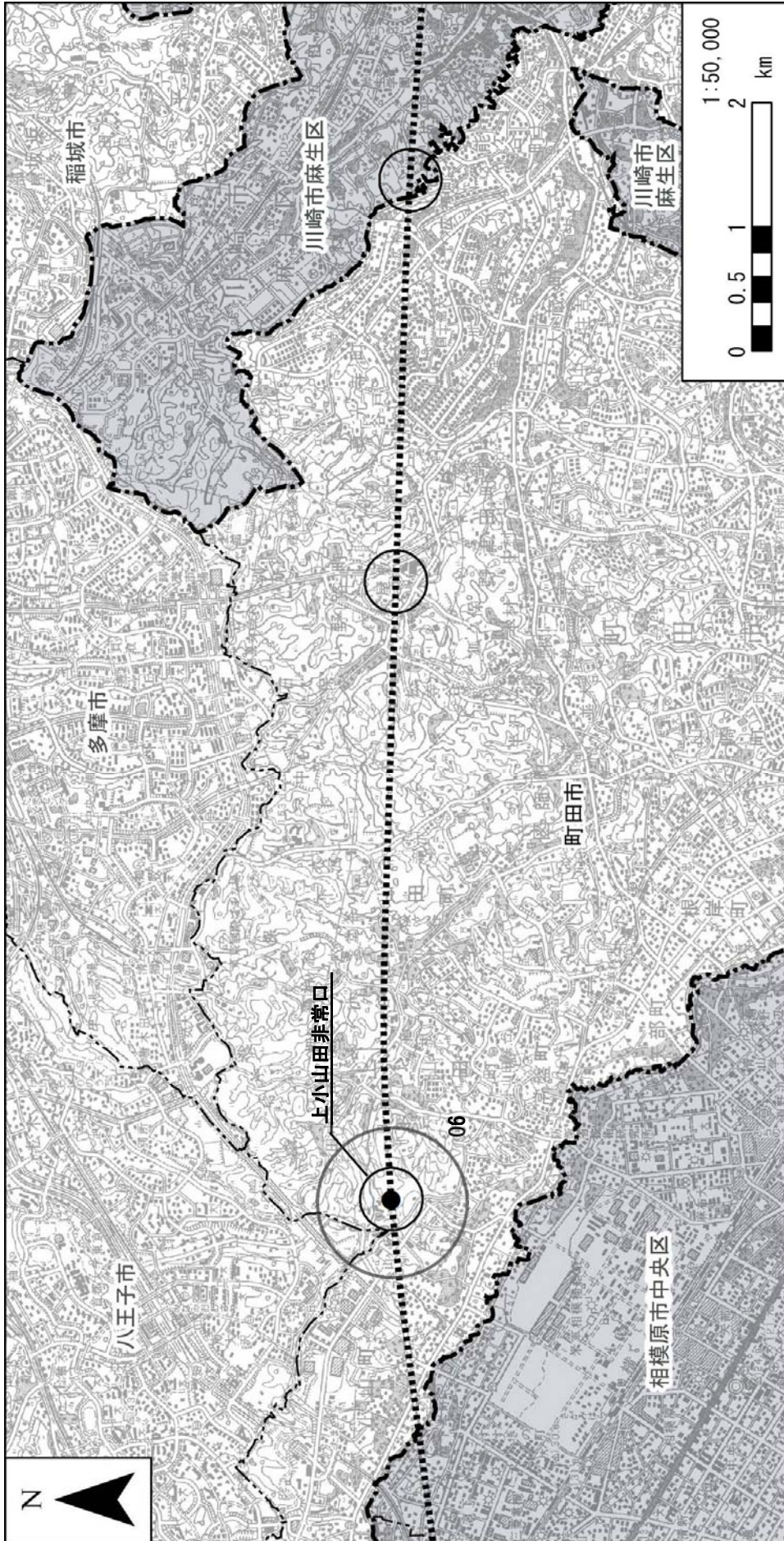
番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和 25 年、法律第 214 号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	自然環境保全法（昭和 47 年、法律第 85 号）	○：指定の地域
④	特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（昭和 55 年）	○：指定湿地
⑤	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（平成 4 年）	○：自然遺産の登録基準に該当するもの
⑥	東京都における自然の保護と回復に関する条例（平成 12 年、東京都条例第 26 号）	希少：東京都希少野生動植物種
⑦	東京都文化財保護条例（昭和 51 年、東京都条例第 25 号） 町田市文化財保護条例（昭和 52 年、町田市条例第 30 号）	都：都指定天然記念物 市町村：市町村指定天然記念物
⑧	環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物（平成 24 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
	環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類（平成 25 年、環境省）	
⑨	東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（2010 年版、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種
⑩	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑪	レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（2013 年、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種

注 1 評価書作成時の選定基準である⑧、⑨の改訂版として⑩、⑪を追加した。

5-1-2 調査地点

調査地点を、図 5-1-2-1 に示す。

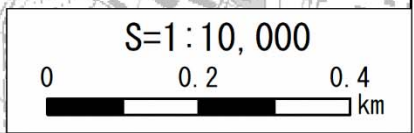
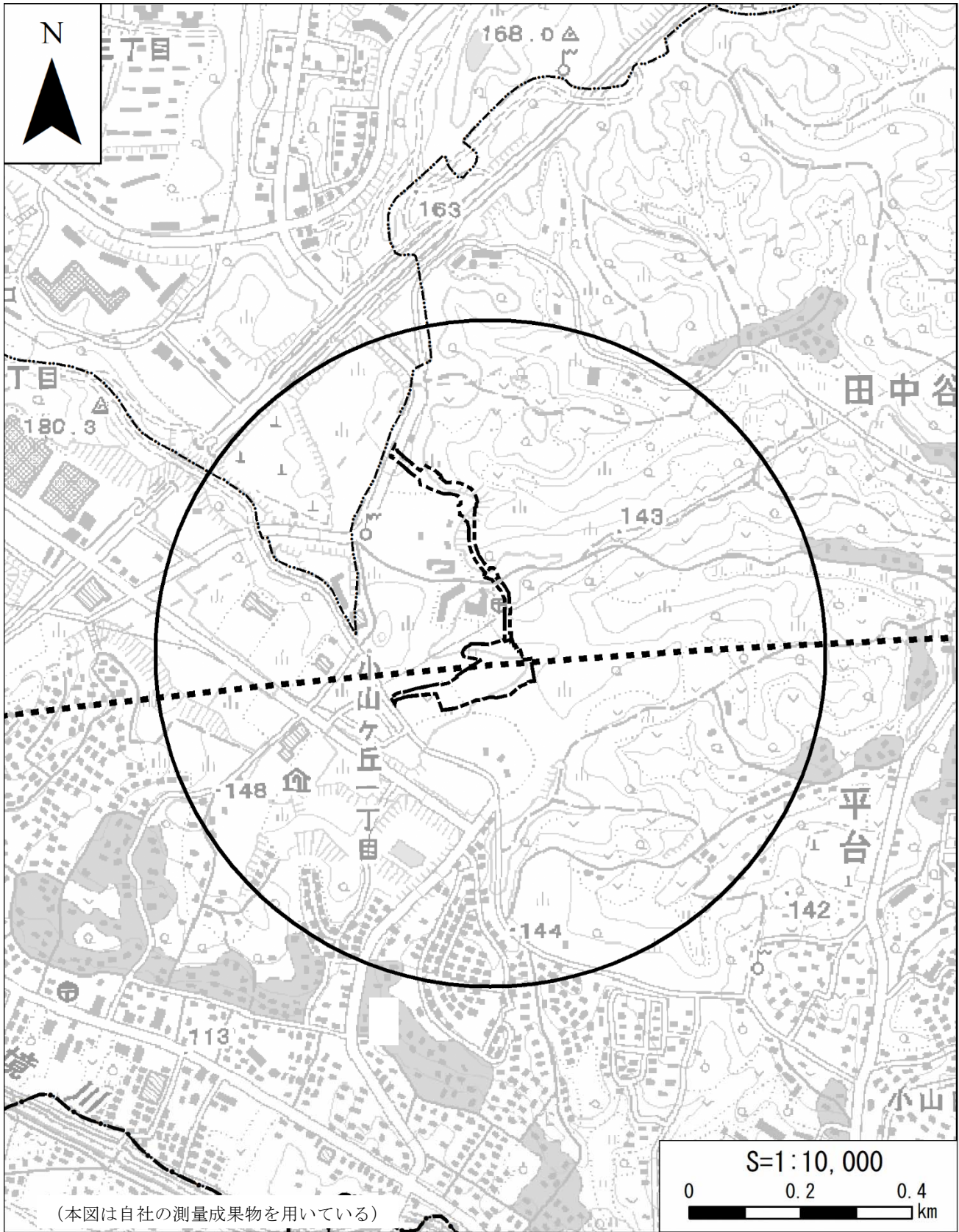
なお、調査は非常口から半径約 600m の範囲において実施した。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - - - - 区市境
 - 調査地域(動物)
- ※本調査は06地点で実施した。

図 5-1-2-1(1) 調査地域(動物)



凡例

- 計画路線
- 都境界線
- 区市境
- 調査範囲
- 工事範囲

図 5-1-2-1(2) 調査地点(上小山田非常口)

5-1-3 調査期間

調査期間を、表 5-1-3-1 及び表 5-1-3-2 に示す。

表 5-1-3-1 調査時期等

調査項目		調査時期
哺乳類		4 季（春季、夏季、秋季、冬季）
鳥類	一般鳥類	5 回（春季、繁殖期、夏季、秋季、冬季） ※繁殖期とは個別の鳥類の繁殖する時期を意味するものではなく、春季と夏季の間の期間を言う。
	希少猛禽類	1 営巣期（12 月から 8 月） ^{注1}
爬虫類		3 季（春季、夏季、秋季）
両生類		4 季（早春季、春季、夏季、秋季）
昆虫類		3 季（春季、夏季、秋季）
魚類		4 季（春季、夏季、秋季、冬季）
底生動物		4 季（春季、夏季、秋季、冬季）

注1 本調査を補完するために、営巣地の状況を毎年 1 回確認する。

表 5-1-3-2(1) 調査期間等

調査項目		調査手法	調査実施日		
哺乳類	任意確認（フィールドサイン法）、夜間撮影（1晩設置）	春季	令和 2 年 5 月 20 日～22 日		
		夏季	令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日		
		秋季	令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日		
		冬季	令和 3 年 1 月 27 日～29 日		
	捕獲調査（ネズミ類等）（2晩設置）	夏季	令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日		
		秋季	令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日		
	捕獲調査（モグラ類）（2晩設置）	夏季	令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日		
		秋季	令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日		
	捕獲調査（コウモリ類）（日没前後から 3～4 時間）	夏季	令和 2 年 8 月 3 日～ 4 日		
		秋季	令和 2 年 10 月 7 日～ 8 日		
	鳥類	一般鳥類	任意確認（春季、繁殖期、冬季は日没後 1～2 時間の夜間調査も実施）	春季	令和 2 年 5 月 11 日～13 日
			繁殖期	令和 2 年 6 月 3 日～ 5 日	
夏季			令和 2 年 7 月 1 日～ 3 日		
秋季			令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日		
冬季			令和 3 年 1 月 27 日～29 日		
ライセンサー法 ポイントセンサー法（早朝に実施）		春季	令和 2 年 5 月 11 日～13 日		
		繁殖期	令和 2 年 6 月 3 日～ 5 日		
		夏季	令和 2 年 7 月 1 日～ 3 日		
		秋季	令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日		
		冬季	令和 3 年 1 月 27 日～29 日		
希少猛禽類	定点観察法	繁殖期	令和 元年 12 月 23 日～25 日 令和 2 年 1 月 15 日～17 日 令和 2 年 2 月 25 日～27 日 令和 2 年 3 月 23 日～25 日 令和 2 年 5 月 20 日～22 日 令和 2 年 6 月 10 日～12 日 令和 2 年 7 月 20 日～22 日 令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日		
	営巣地の状況調査		令和 2 年 5 月 25 日、29 日		
	任意確認（春季、夏季は日没後 1～2 時間の夜間調査も実施）	春季	令和 2 年 5 月 20 日～22 日		
爬虫類		夏季	令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日		
		秋季	令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日		
		早春季	令和 2 年 4 月 1 日～ 3 日		
両生類	任意確認（早春季、春季、夏季は日没後 1～2 時間の夜間調査も実施）	春季	令和 2 年 5 月 20 日～22 日		
		夏季	令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日		
		秋季	令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日		

注1 哺乳類、一般鳥類、爬虫類、両生類の任意確認、希少猛禽類の定点観察法、営巣地の状況調査は日中に行った。

注2 希少猛禽類における定点観察法の 4 月期調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

表 5-1-3-2(2) 調査期間等

調査項目	調査手法	調査実施日	
昆虫類	任意採集 ライトトラップ法 (ボックス法は1晩 設置) ベイトトラップ法 (1晩設置)	春季	令和2年5月20日～22日
		夏季	令和2年7月20日～22日
		秋季	令和2年10月7日～8日、13日
魚類	任意採集	春季	令和2年5月14日
		夏季	令和2年7月22日
		秋季	令和2年10月9日
		冬季	令和3年1月7日
底生動物	任意採集 コドラート法	春季	令和2年5月14日
		夏季	令和2年7月22日
		秋季	令和2年10月9日
		冬季	令和3年1月7日

注1 昆虫類、魚類、底生動物の任意採集は日中に行った。

5-1-4 調査結果

(1) 哺乳類

上小山田非常口における現地調査において、5目8科9種の哺乳類が確認された（「参考資料2動物」参照）。調査結果の概要を、表5-1-4-1に示す。調査により確認された重要な哺乳類はなかった。

表 5-1-4-1 哺乳類調査結果の概要（上小山田非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	3目6科6種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、ニホンアナグマ、アライグマ、ハクビシン、キュウシュウノウサギ
夏季	3目6科6種	アズマモグラ、ヒナコウモリ科、ホンドタヌキ、ニホンアナグマ、アライグマ、ホンドアカネズミ
秋季	4目6科6種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、ホンドイタチ、アライグマ、ホンドアカネズミ、キュウシュウノウサギ
冬季	2目4科4種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、アライグマ、ハクビシン
計	5目8科9種	

(2) 鳥類

上小山田非常口における現地調査において、14目33科65種の鳥類が確認された（「参考資料 2 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-1-4-2 に示す。調査により確認された重要な鳥類は10目17科24種であった。調査により確認された重要な鳥類とその選定基準を、表 5-1-4-3 に示す。

表 5-1-4-2 鳥類調査結果の概要（上小山田非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	8目22科35種	キジ、アオバト、カワウ、トビ、サシバ、フクロウ、アオゲラ、モズ、オナガ、ハシブトガラス、ヒガラ、ツバメ、ヒヨドリ、ヤブサメ、エナガ、ムクドリ、アカハラ、スズメ、イカル、ホオジロ等
繁殖期	10目26科34種	カルガモ、カワラバト、キジバト、アオサギ、カッコウ、コチドリ、ツミ、オオタカ、アオバズク、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、メボソムシクイ、メジロ、オオヨシキリ、キビタキ、キセキレイ、カワラヒワ等
夏季	10目25科35種	キジ、カルガモ、カワラバト、ホトトギス、オオタカ、コゲラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、オナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、キビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等
秋季	7目19科28種	キジ、コジュケイ、キジバト、トビ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メジロ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等
冬季	6目20科40種	キジ、トビ、オオタカ、ノスリ、リュウキュウサンショウクイ、モズ、カケス、ヤマガラ、エナガ、トラツグミ、シロハラ、ルリビタキ、ジョウビタキ、アトリ、マヒワ、シメ、イカル、カシラダカ、アオジ、クロジ等
計	14目33科65種	

表 5-1-4-3(1) 重要な鳥類確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
1	キジ	キジ	キジ						NT		NT
2	ハト	ハト	アオバト						NT		NT
3	カッコウ	カッコウ	ホトトギス						NT		NT
4			カッコウ						NT		NT
5	チドリ	チドリ	コチドリ						VU		VU
6	タカ	タカ	トビ						NT		NT
7			ツミ						VU		VU
8			オオタカ					NT	VU	NT	VU
9			サシバ					VU	CR	VU	CR

表 5-1-4-3(2) 重要な鳥類確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
10	タカ	タカ	ノスリ						VU		VU
11	フクロウ	フクロウ	フクロウ						EN		EN
12			アオバズク						EN		EN
13	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ						NT		NT
14	キツツキ	キツツキ	アオゲラ						NT		NT
15	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ						VU		VU
16	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ						VU		VU
17		モズ	モズ						NT		NT
18		ウグイス	ウグイス						NT		NT
19			ヤブサメ						VU		VU
20		ヨシキリ	オオヨシキリ						VU		VU
21		ヒタキ	トラツグミ						VU		VU
22		セキレイ	セグロセキレイ						NT		NT
23		アトリ	イカル						NT		NT
24		ホオジロ	クロジ						NT		NT
計	10 目	17 科	24 種	0 種	0 種	0 種	0 種	2 種	24 種	2 種	24 種

注1 分類、配列等は、原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

- ①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ⑥「東京都における自然の保護と回復に関する条例」（平成12年、東京都条例第26号）
希少：東京都希少野生動植物種
- ⑦「東京都文化財保護条例」（昭和51年、東京都条例第25号）
「町田市文化財保護条例」（昭和52年、町田市条例第30号）
都：都指定天然記念物、市町村：市町村指定天然記念物
- ⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑨「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」（2010年版、東京都環境局）：
南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑩「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑪「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2013年、東京都環境局）：
南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

(3) 希少猛禽類（オオタカ）

評価書時点で確認した上小山田ペアを B ペアとする。評価書時点で確認された B ペアの調査結果の概要を、表 5-1-4-4 に示す。

表 5-1-4-4 オオタカ（B ペア）の調査結果の概要

調査時期	確認状況
令和元年 12 月～ 令和 2 年 8 月 (定点観察法) (営巣地調査)	平成 28 年度の営巣地調査で確認した営巣地の周辺にて新巣及び雛を確認した。その後の調査において、巣立ち後の幼鳥を確認した。

(4) 爬虫類

上小山田非常口における現地調査において、1目6科10種の爬虫類が確認された（「参考資料2 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-1-4-5 に示す。調査により確認された重要な爬虫類は1目6科10種であった。調査により確認された重要な爬虫類とその選定基準を、表 5-1-4-6 に示す。

表 5-1-4-5 爬虫類調査結果の概要（上小山田非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	1目6科8種	ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
夏季	1目4科6種	ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、ヒバカリ、シロマダラ
秋季	1目4科5種	ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、シロマダラ
計	1目6科10種	

表 5-1-4-6 重要な爬虫類確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ						*1		*1
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ						VU		VU
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ						NT		NT
4		タカチホヘビ	タカチホヘビ						VU		VU
5		ナミヘビ	アオダイショウ						NT		NT
6			シマヘビ						NT		NT
7			ヒバカリ						NT		NT
8			シロマダラ						VU		VU
9			ヤマカガシ						VU		VU
10		クサリヘビ	ニホンマムシ						CR+EN		CR+EN
計	1目	6科	10種	0種	0種	0種	0種	0種	10種	0種	10種

注1 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑥「東京都における自然の保護と回復に関する条例」（平成12年、東京都条例第26号）

希少：東京都希少野生動植物種

⑦「東京都文化財保護条例」（昭和51年、東京都条例第25号）

「町田市文化財保護条例」（昭和52年、町田市条例第30号）

都：都指定天然記念物、市町村：市町村指定天然記念物

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

- EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑨「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」（2010年版、東京都環境局）：
南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
【留意種とした理由】
*1：急速に都市化が進んでおり、すみかとなる古い家屋等に変化が生じる等、本種の生息環境が悪化する可能性があるため
- ⑩「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑪「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2013年、東京都環境局）：
南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
【留意種とした理由】
*1：急速に都市化が進んでおり、すみかとなる古い家屋等に変化が生じる等、本種の生息環境が悪化する可能性があるため

(5) 両生類

上小山田非常口における現地調査において、1目4科4種の両生類が確認された（「参考資料2 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-1-4-7 に示す。調査により確認された重要な両生類は1目3科3種であった。調査により確認された重要な両生類とその選定基準を、表 5-1-4-8 に示す。

表 5-1-4-7 両生類調査結果の概要（上小山田非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
早春季	1目2科2種	アズマヒキガエル、ヤマアカガエル、アカガエル属
春季	1目4科4種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル
夏季	1目2科2種	ニホンアマガエル、ヤマアカガエル
秋季	1目2科2種	アズマヒキガエル、ヤマアカガエル
計	1目4科4種	

表 5-1-4-8 重要な両生類確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
1	無尾	アマガエル	ニホンアマガエル						VU		VU
2		アカガエル	ヤマアカガエル						EN		EN
3		アオガエル	シュレーゲルアオガエル						VU		VU
計	1目	3科	3種	0種	0種	0種	0種	0種	3種	0種	3種

注1 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

- ①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ⑥「東京都における自然の保護と回復に関する条例」（平成12年、東京都条例第26号）
希少：東京都希少野生動植物種
- ⑦「東京都文化財保護条例」（昭和51年、東京都条例第25号）
「町田市文化財保護条例」（昭和52年、町田市条例第30号）
都：都指定天然記念物、市町村：市町村指定天然記念物
- ⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

- ⑨「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」（2010年版、東京都環境局）：
南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑩「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年 3 月 24 日、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑪「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2013 年、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

(6) 昆虫類

上小山田非常口における現地調査において、20 目 197 科 776 種の昆虫類が確認された（「参考資料 2 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-1-4-9 に示す。調査により確認された重要な昆虫類は7 目 18 科 24 種であった。調査により確認された重要な昆虫類とその選定基準を、表 5-1-4-10 に示す。

表 5-1-4-9 昆虫類調査結果の概要（上小山田非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	17 目 134 科 375 種	ヤマサナエ、ダビドサナエ、キアシヒバリモドキ、ノミバッタ、ヒゲナガカメムシ、ハナダカカメムシ、アオグロヒラタゴミムシ、ヒラタハナムグリ、キベリコバネジョウカイ、オオハナコメツキ、ベニカミキリ、ヤツメカミキリ、モモブトカミキリモドキ、ブタクサハムシ、キバナヒメハナバチ、クマバチ、アシナガムシヒキ、アシプトハナアブ、アカシジミ、ウチムラサキヒメエダシヤク等
夏季	14 目 138 科 407 種	オナガサナエ、オオシオカラトンボ、ヒメギス、ショウリョウバッタ、アブラゼミ、ホソハリカメムシ、ウスバカゲロウ、オオツノトンボ、オオマルガタゴミムシ、コガムシ、ノコギリクワガタ、ヤマトタマムシ、ハラグロオオテントウ、トラフカミキリ、キアシナガバチ、オオハキリバチ、アオスジアゲハ、イチモンジチョウ、エビガラスズメ、ベニシタバ等
秋季	14 目 114 科 310 種	オオアオイトトンボ、コシボソヤンマ、オオカマキリ、オナガササキリ、クマスズムシ、ヤチスズ、ショウリョウバッタモドキ、ハマベハサミムシ、テングスケバ、ツクツクボウシ、キマダラカメムシ、アカガネオオゴミムシ、ホソセスジゲンゴロウ、ウメチビタマムシ、ヨモギハムシ、モンズズメバチ、ベッコウバエ、ウラナミシジミ、クロコノマチョウ、ホシヒメホウジャク、フクラスズメ等
計	20 目 197 科 776 種	

表 5-1-4-10 (1) 重要な昆虫類確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
1	トンボ	カワトンボ	ニホンカワトンボ						VU		VU
2		サナエトンボ	ヤマサナエ						VU		VU
3		ヤンマ	コシボソヤンマ						VU		VU
4		トンボ	ハラビロトンボ						NT		NT
5			シオヤトンボ						NT		NT
6	バッタ	コオロギ	クマスズムシ						DD		DD
7		ヒバリモドキ	ヤチスズ						DD		DD
8		バッタ	ショウリョウバッタモドキ						VU		VU
9	カメムシ	キジラミ	エノキカイガラキジラミ					NT		NT	
10	コウチュウ	ガムシ	コガムシ					DD	NT	DD	NT
11			ヒメガムシ						DD		DD

表 5-1-4-10(2) 重要な昆虫類確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
12		コガネムシ	ヒメトラハナムグリ						NT		NT
13		カミキリムシ	ノコギリカミキリ						NT		NT
14			ツマグロハナカミキリ						NT		NT
15			ミドリカミキリ						NT		NT
16			トラフカミキリ						NT		NT
17			ヤツメカミキリ						NT		NT
18			ゾウムシ	オオアオゾウムシ						DD	
19	ハチ	アリ	トゲアリ					VU		VU	
20		クモバチ	スギハラクモバチ					DD		DD	
21		ススメバチ	モンズズメバチ					DD		DD	
22	ハエ	ムシヒキアブ	オオイシアブ						*1		*1
23		ハナアブ	ハチモドキハナアブ						*2		*2
24	チョウ	ヤガ	コシロシタバ					NT		NT	
計	7 目	18 科	24 種	0 種	0 種	0 種	0 種	6 種	19 種	6 種	19 種

注1 分類、配列等は、原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（平成7年、環境庁）に準拠した。

注2 重要種のうち、コンボソヤンマ、コヤマトンボ、ミズバチについては、底生動物の調査にて確認したが、昆虫綱に属する種であるため、重要な昆虫類として整理を行った。

注3 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑥「東京都における自然の保護と回復に関する条例」（平成12年、東京都条例第26号）

希少：東京都希少野生動植物種

⑦「東京都文化財保護条例」（昭和51年、東京都条例第25号）

「町田市文化財保護条例」（昭和52年、町田市条例第30号）

都：都指定天然記念物、市町村：市町村指定天然記念物

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」（2010年版、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

【留意種とした理由】

*1：成虫、幼虫ともに捕食性であり、幼虫は朽木に生息し、成虫も樹林環境周辺に見られることから、良好な樹林環境を指標する種で、環境指標性が高いため。

*2：谷戸などの湿地に自生するハンノキ林と周辺の草地の保全が重要であり、分断されると絶滅する恐れが生じる。広範囲に湿地保全を図ることが望ましい。

⑩「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑪「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（2013年、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

【留意種とした理由】

- *1：樹林環境が本種の生息に必要であり、林道整備や河川改修、宅地開発による樹林の伐採が進むことにより、生息環境の減少が懸念される。
- *2：谷戸などの湿地に自生するハンノキ林と周辺の草地の保全が重要であり、分断されると絶滅する恐れが生じる。広範囲に湿地保全を図ることが望ましい。

(7) 魚類

上小山田非常口における現地調査において、1目2科3種の魚類が確認された（「参考資料 2 動物」参照）。調査結果の概要を、表 5-1-4-11 に示す。調査により確認された重要な魚類は1目2科3種であった。調査により確認された重要な魚類とその選定基準を、表 5-1-4-12 に示す。

表 5-1-4-11 魚類調査結果の概要（上小山田非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	1目2科3種	アブラハヤ、ドジョウ、ホトケドジョウ
夏季	1目2科2種	アブラハヤ、ホトケドジョウ
秋季	1目2科3種	アブラハヤ、ドジョウ、ホトケドジョウ
冬季	1目2科2種	アブラハヤ、ホトケドジョウ
計	1目2科3種	

表 5-1-4-12 重要な魚類確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
1	コイ	コイ	アブラハヤ						NT		NT
2		ドジョウ	ドジョウ					DD		NT	
3			ホトケドジョウ					EN	VU	EN	VU
計	1目	2科	3種	0種	0種	0種	0種	2種	2種	2種	2種

注1 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（平成24年、リバーフロント研究所）に準拠した。

注2 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑥「東京都における自然の保護と回復に関する条例」（平成12年、東京都条例第26号）

希少：東京都希少野生動植物種

⑦「東京都文化財保護条例」（昭和51年、東京都条例第25号）

「町田市文化財保護条例」（昭和52年、町田市条例第30号）

都：都指定天然記念物、市町村：市町村指定天然記念物

⑧「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」（2010年版、東京都環境局）：
南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑩「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月24日、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑪「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」 （2013年、東京都環境局）：南多摩地域区分における指定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

(8) 底生動物

上小山田非常口における現地調査において、16目52科89種の底生動物が確認された（「参考資料2 動物」参照）。調査結果の概要を、表5-1-4-13に示す。調査により確認された重要な底生動物は1目1科1種であった。調査により確認された重要な底生動物とその選定基準を、表5-1-4-14に示す。

表 5-1-4-13 底生動物調査結果の概要（上小山田非常口）

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	15目35科52種	カワニナ、トビイロカゲロウ属、シロハラコカゲロウ、ナミコガタシマトビケラ、コエグリトビケラ属、ツノマユブユ属、コモンナガレアブ、ゲンジボタル等
夏季	16目41科64種	カワニナ、シロハラコカゲロウ、フサオナシカワゲラ属、ナミコガタシマトビケラ、ウルマーシマトビケラ、ニンギョウトビケラ、ツノマユブユ属、ゲンジボタル等
秋季	15目38科58種	ナミウズムシ、カワニナ、ミズミズ科、サワガニ、モンカゲロウ、ニホンカワトンボ、ヘビトンボ、コガタシマトビケラ属、ヒゲナガガガンボ属、アシマダラブユ属、ゲンジボタル等
冬季	14目35科47種	カワニナ、ユリミズ、ミズムシ（甲）、サワガニ、アカマダラカゲロウ、シロハラコカゲロウ、コシボソヤンマ、ダビドサナエ、オニヤンマ、シマアメンボ、ニンギョウトビケラ、トウヨウグマガトビケラ、ガガンボ属、ニッポンホソカ等
計	16目52科89種	

表 5-1-4-14 重要な底生動物確認種一覧（上小山田非常口）

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
1	エビ	サワガニ	サワガニ						*1		*1
計	1目	1科	1種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	0種	1種

注1 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（平成24年、リバーフロント研究所）に準拠した。

注2 重要種のうち、ニホンカワトンボ、コシボソヤンマ、ヤマサナエ、コヤマトンボ、ミズバチについては、昆虫綱に属する種であるため、重要な昆虫類として整理を行った。

注3 重要種の選定基準は、以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑥「東京都における自然の保護と回復に関する条例」（平成12年、東京都条例第26号）

希少：東京都希少野生動植物種

⑦「東京都文化財保護条例」（昭和51年、東京都条例第25号）

「町田市文化財保護条例」（昭和52年、町田市条例第30号）

都：都指定天然記念物、市町村：市町村指定天然記念物

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

- ⑨「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」(2010年版、東京都環境局)：
南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
【留意種とした理由】
*1：清流に生息するカニであるが、低地では生息環境が失われた地域が多く、山間部では樹木の伐採、
倒木の放置等により良好な生息地が狭められつつあるため。
- ⑩「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年 3 月 24 日、環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑪「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」(2013 年、東
京都
環境局)：南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種【留意種とした理由】
*1：清流に生息するカニであるが、低地では生息環境が失われた地域が多く、山間部では樹木の伐採、
倒木の放置等により良好な生息地が狭められつつあるため。

5-2 植物（上小山田）

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成 26 年 11 月」において調査の対象とした植物について、工事の実施に係る重要な種及び注目すべき生育地の状況を確認した。

5-2-1 調査方法

調査方法は、表 5-2-1-1 に示す方法、現地確認及び工事関係等の資料の整理とした。なお、生育が確認された種の内、表 5-2-1-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

表 5-2-1-1 植物の調査方法

調査項目	調査方法	
高等植物に係る植物相	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、確認された種を記録した。調査の対象はシダ植物以上の高等植物とし、現地での同定が困難な種は標本を持ち帰り、室内で同定を行った。
高等植物に係る植生	コドラート法	植生、土地の利用の状況によって区分された植物群落について、方形枠（コドラート）を設定し、植生の状況を調査した。調査した植生はブロン-ブランケ法により、その特徴の把握を行った。

表 5-2-1-2 (1) 高等植物に係る重要な種及び群落の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和 25 年、法律第 214 号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	自然環境保全法（昭和 47 年、法律第 85 号）	○：指定の地域
④	東京都における自然の保護と回復に関する条例（平成 12 年、東京都条例第 26 号）	希少：東京都希少野生動植物種
⑤	東京都文化財保護条例（昭和 51 年、東京都条例第 25 号） 町田市文化財保護条例（昭和 52 年、町田市条例第 30 号）	都：都指定天然記念物 市町村：市町村指定天然記念物
⑥	環境省第 4 次レッドリスト 植物 I（維管束植物）（平成 24 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑦	東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（2010 年版、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種
⑧	第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書 関東版 II（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）（1991、環境庁）	指定：掲載されている巨樹、巨木
⑨	第 2 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）（1980、環境庁） 第 3 回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 II 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）（1988、環境庁） 第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（2000、環境庁）	指定：指定されている特定植物群落
⑩	植物群落レッドデータ・ブック（平成 8 年、我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会）	1：要注意 2：破壊の危惧 3：対策必要 4：緊急に対策が必要

表 5-2-1-2 (2) 高等植物に係る重要な種及び群落の選定基準

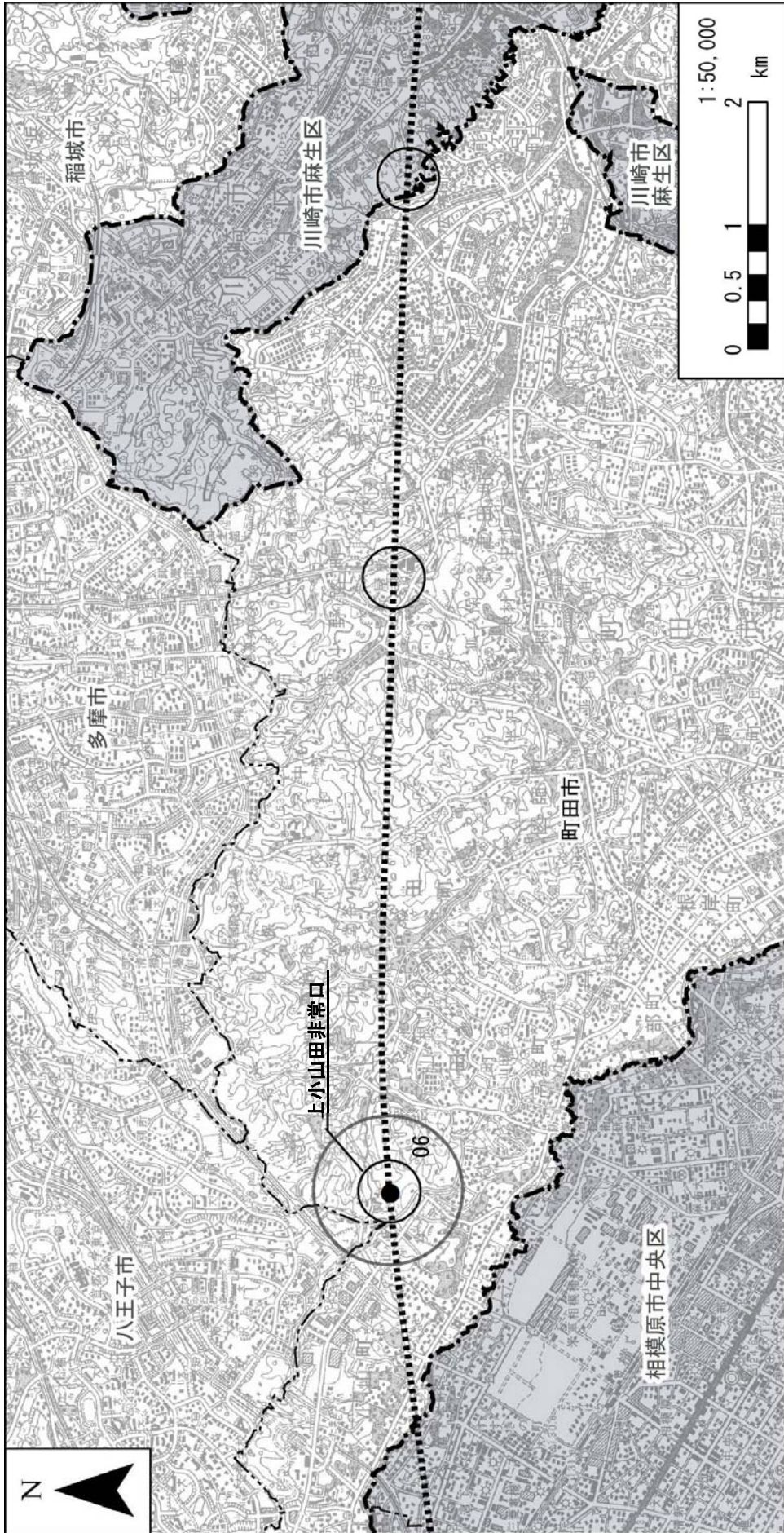
番号	文献及び法令名	区分
⑪	環境省レッドリスト 2020 維管束植物（令和 2 年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑫	レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～（2013 年、東京都環境局）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種

注1 評価書作成時の選定基準である⑥、⑦の改訂版として⑪、⑫を追加した。

5-2-2 調査地点

調査地点を、図 5-2-2-1 に示す。

なお、調査は非常口から半径約 600m の範囲において実施した。



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

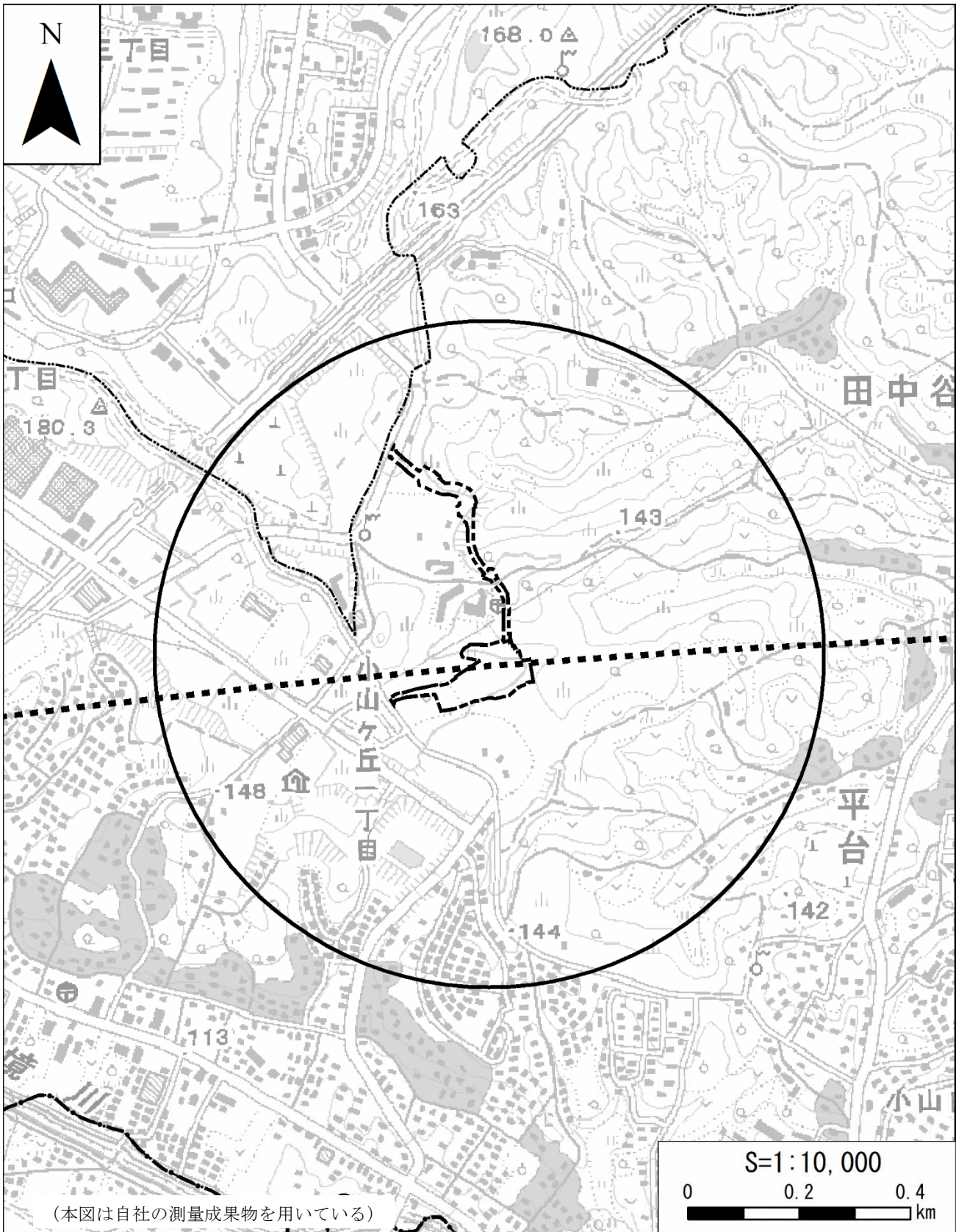
○ 調査地域(植物)

--- 都県境

※本調査は06地点で実施した。

- - - 区市境

図 5-2-2-1(1) 調査地域(植物)



凡例

- | | | | |
|-------|------|-------|------|
| ----- | 計画路線 | | 工事範囲 |
| ·-·-· | 都境界線 | | |
| ----- | 区市境 | | |
| ○ | 調査範囲 | | |

図 5-2-2-1(2) 調査地点(上小山田非常口)

5-2-3 調査期間

調査期間を、表 5-2-3-1 及び表 5-2-3-2 に示す。

表 5-2-3-1 調査時期等

調査項目	調査時期
高等植物に係る植物相	4 季（早春季、春季、夏季、秋季）
高等植物に係る植生	2 季（夏季、秋季）

表 5-2-3-2 調査期間等

調査項目	調査実施日
高等植物に係る植物相	早春季 令和 2 年 4 月 2 日～ 3 日
	春季 令和 2 年 5 月 29 日～30 日
	夏季 令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日
	秋季 令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日
高等植物に係る植生	夏季 令和 2 年 8 月 3 日～ 5 日
	秋季 令和 2 年 10 月 7 日～ 9 日

5-2-4 調査結果

(1) 高等植物に係る植物相の状況

上小山田非常口における現地調査において、124科 707種の高等植物が確認された（「参考資料3 植物」参照）。調査の結果を、表 5-2-4-1 に示す。調査地域の主な生育環境は、雑木林、植林等の樹林、ススキなどの草地、谷戸の小水路沿いに見られる水辺、畑地、水田等の耕作地、住宅地等の市街地が挙げられる。調査の結果概要を、表 5-2-4-2 に示す。

表 5-2-4-1 高等植物に係る植物相の調査結果（上小山田非常口）

分類			調査時期								合計	
			早春季		春季		夏季		秋季			
			科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物			13	33	11	45	11	42	12	45	13	56
種子植物	裸子植物		4	6	3	4	4	6	5	7	5	7
	被子植物	双子葉植物	44	140	58	206	59	227	58	216	65	298
		合弁花類	15	70	24	109	20	112	24	112	26	165
	単子葉植物		10	61	11	104	13	110	14	112	15	181
合計			86	310	107	468	107	497	113	492	124	707

注1 分類、配列等は「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」環境庁（1987）に準拠した。

注2 各季節において重複して確認されている種が含まれていることから、科数及び種数の合計は季節毎の確認数の合計と一致しない。

表 5-2-4-2 高等植物に係る植物相事後調査結果の概要（上小山田非常口）

主な生育環境	主な確認種
樹林	コナラ、シラカシ、イヌシデ、エノキ、ムクノキ、ウワミズザクラ、スギ、ヒノキ、マダケ、ミズキ、エゴノキ、シュロ、ムラサキシキブ、ヒサカキ、アオキ、サンショウ、ウグイスカグラ、アズマネザサ、フジ、ベニシダ、オクマワラビ、イノデ、ミゾシダ、ムラサキマムシグサ、ホウチャクソウ、ドクダミ、ヤブラン、ナガバジャノヒゲ、ジャノヒゲ、ケチヂミザサ等
草地	ススキ、ヨモギ、ワラビ、イヌワラビ、ヤブカンゾウ、コウゾリナ、コナスビ、ミツバツチグリ、メドハギ等
水辺	ショウブ、セキショウ、ヨシ、クサヨシ、アメリカセンダングサ、ヤナギタデ、ミゾソバ、ミズ等
耕作地	スギナ、コゴメガヤツリ、ホトケノザ、ザクロソウ、コハコベ、ハキダメギク、コニシキソウ、メヒシバ、アキノエノコログサ、スズメノカタビラ等
市街地	アレチギシギシ、コセンダングサ、セイタカアワダチソウ、ノボロギク、オニノゲシ、ゴウシュウアリタソウ、コハコベ、アレチヌスビトハギ、メヒシバ、シマスズメノヒエ、エノコログサ等

1) 高等植物に係る重要な種の確認状況

上小山田非常口における現地調査において、確認された高等植物に係る重要な種は 15 科 23 種であった。調査で確認された高等植物に係る重要な種を、表 5-2-4-3 に示す。

表 5-2-4-3 高等植物に係る重要な種確認一覧（上小山田非常口）

No.	科名	種名	選定基準								
			①	②	④	⑤	⑥	⑦	⑪	⑫	
1	ハナヤスリ科	ナツノハナワラビ							VU		VU
2	オシダ科	トウゴクシダ							NT		NT
3		ナンゴクナライシダ							VU		VU
4		アスカイノデ							VU		VU
5	メシダ科	セイタカシケシダ							NT		NT
6	イラクサ科	ミズ							NT		NT
7	ウマノスズクサ科	タマノカンアオイ						VU	VU	VU	VU
8	ユキノシタ科	チダケサシ							NT		NT
9	マメ科	カワラケツメイ							VU		VU
10	イチヤクソウ科	ウメガサソウ							NT		NT
11	シソ科	オカタツナミソウ							VU		VU
12	キク科	オグルマ							CR		CR
13	ユリ科	シュロソウ							VU		VU
14	ヒガンバナ科	キツネノカミソリ							NT		NT
15	サトイモ科	ショウブ							NT		NT
16	カヤツリグサ科	ホソバヒカゲスゲ							NT		NT
17		ヤガミスゲ							VU		VU
18		ホンモンジスゲ							NT		NT
19	ラン科	エビネ						NT	VU	NT	VU
20		ギンラン							VU		VU
21		キンラン						VU	VU	VU	VU
22		ササバギンラン							NT		NT
23		マヤラン							VU		VU
計	15 科	23 種	0 種	0 種	0 種	0 種	4 種	22 種	4 種	22 種	

注1 分類、配列等は「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」環境庁（1987）に準拠した。

注2 高等植物に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年、法律第 75 号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ④ 「東京都における自然の保護と回復に関する条例」（平成 12 年、東京都条例第 26 号）
希少：東京都希少野生動植物種
- ⑤ 「東京都文化財保護条例」（昭和 51 年、東京都条例第 25 号）
「町田市文化財保護条例」（昭和 52 年、町田市条例第 30 号）
都：都指定天然記念物、市町村：市町村指定天然記念物
- ⑥ 「環境省第 4 次レッドリスト 植物 I（維管束植物）」（平成 24 年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑦ 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～」（2010 年版、東京都環境局）：
南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑪ 「環境省レッドリスト 2020 維管束植物」（令和 2 年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

- ⑫「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」(2013年、東京都環境局)：南多摩地域区分における指定種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

(2) 高等植物に係る植生

1) 高等植物に係る群落及び土地利用の状況

上小山田非常口における調査において、合計 18 の高等植物に係る群落等が確認された。調査の結果概要を、表 5-2-4-4 及び図 5-2-4-1 に示す。

表 5-2-4-4 (1) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要（上小山田非常口）

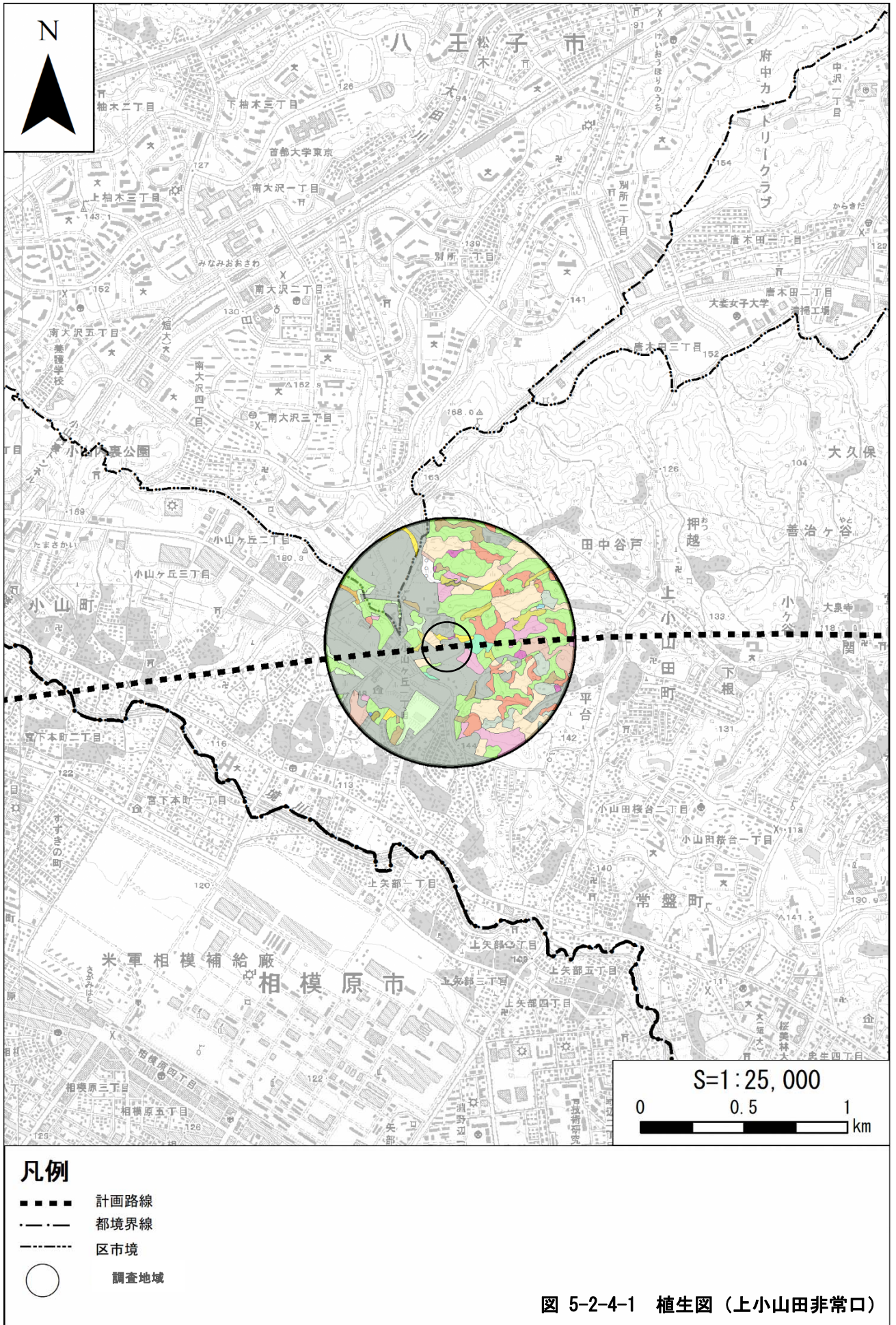
No.	名称	概要
1	クヌギーコナラ群集	暖温帯域の代表的な落葉広葉樹二次林で、かつては薪炭、堆肥作り等に利用されていた。近年は管理されていない林分が多く、マダケ等の竹類の混生や林床にアズマネザサが繁茂する林分が多く見られる。調査地域では市街地以外に広く分布していた。
2	アズマネザサ群落	クヌギーコナラ群集の伐採跡地等に成立する低木群落。アズマネザサが高密度で密生しており、構成種は極端に少ない。調査地域では耕作地周辺の林縁部等に確認された。
3	クズ群落	つる植物のクズ、カナムグラ、ヤブガラシ等が繁茂する群落で、アズマネザサ、ススキ、イタドリ、オオブタクサなどの高茎草本の上部を覆っていることが多い。調査地域では、造成法面等に広く分布していた。
4	ススキ群団(VII)	土手、畑地周辺等に成立する高茎草本群落。定期的な刈り取り管理をしている植分も見られる。調査地域では市街地の造成法面等にも成立しており、クズなどのつる植物が多く混生していた。
5	ヨシ群落	水湿地に成立する高茎草本群落で、止水域に分布することが多い。調査地域では斜面下部に接した谷部の湿地に小面積で分布していた。
6	オギ群集	河川の高水敷等によく繁茂している高茎草本群落。調査地域では谷部の伐採地や造成地等に見られた。
7	スギ・ヒノキ・サワラ植林	常緑針葉樹のスギ、ヒノキが植栽された植林。普通、谷筋にスギが植栽され、尾根筋や斜面上部などにヒノキが植栽される。調査地域では谷部を中心にやや小面積で点在していた。
8	ニセアカシア群落	外来種のニセアカシア（ハリエンジュ）が植栽された林。荒れた土地でも成長が早く、地下茎を伸ばして広がるため、かつては砂防目的で広く植栽された。調査地域では造成法面等にわずかに確認された。
9	竹林	マダケ、モウソウチクの植林で、集落周辺に植栽されている。調査地域に広く点在しており、評価書時よりもやや拡大していた。あまり管理されていない林分が多かった。
10	セイタカアワダチソウ群落	北アメリカ原産の多年草であるセイタカアワダチソウが優占する高茎草本群落。調査地域では草刈り管理がされた人工法面に小面積で成立していた。
11	オオブタクサ群落	北アメリカ原産の一年草であるオオブタクサが優占する高茎草本群落。調査地域ではやや富栄養な休耕畑等に点在していた。
12	果樹園	クリ、ウメ、カキノキ等が植林されており、小面積ではあるが、点在していた。
13	畑雑草群落	耕作中の畑地に分布する、一年草がまばらに生える低茎草地。調査地域では、古くからの集落の周辺を中心にやや広い面積で点在していた。
14	水田雑草群落	耕作中の水田に分布する湿性草地。調査地域では、集落内の谷底部の現行田に小面積で見られた。
15	市街地	住宅地、ビル、道路、人工構造物が卓越する区域。調査地域の南西側に広く分布した。

注1 群落名は「自然環境保全基礎調査（環境省）・統一凡例」に準拠し、本調査にて確認した群落のみを抜粋した。

表 5-2-4-4 (2) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要（上小山田非常口）

No.	名称	概要
16	緑の多い住宅地	樹林地、草地を含む植被が混在する住宅地。古くからの集落内に点在しており、調査地域の北東側に点在していた。
17	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	残存・植栽樹群をもつ大面積の都市公園、墓地等。
18	造成地	造成裸地、人工裸地。

注1 群落名は「自然環境保全基礎調査（環境省）・統一凡例」に準拠し、本調査にて確認した群落のみを抜粋した。



凡例

	1 クヌギーコナラ群集
	2 アズマネザサ群落
	3 クズ群落
	4 ススキ群団(VII)
	5 ヨシ群落
	6 オギ群集
	7 スギ・ヒノキ・サワラ植林
	8 ニセアカシア群落
	9 竹林
	10 セイタカワダチソウ群落
	11 オオブタクサ群落
	12 果樹園
	13 畑雑草群落
	14 水田雑草群落
	15 市街地
	16 緑の多い住宅地
	17 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
	18 造成地

2) 高等植物に係る重要な群落の確認状況

事後調査において、高等植物に係る重要な群落は確認されなかった。

5-3 希少猛禽類の営巣地の状況調査

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成26年11月」において調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、営巣地の状況を確認した。本調査では、令和2年度に完了した営巣期の調査結果を記載した。なお、専門家の助言を受けて、希少種の保護の観点から周辺状況等の詳細については非公開とした。

5-3-1 調査方法

調査方法を表 5-3-1-1 に示す。なお、評価書時点で確認した小野路ペアを A ペアとする。

表 5-3-1-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	営巣地の状況調査	評価書時、平成 30 年度及び令和元年度で確認されたオオタカの営巣地について、状況の確認を行った。
	営巣木調査	営巣地の状況調査で新たに確認された営巣木について、樹種、樹高、胸高直径、巣の状況等を記録した。

5-3-2 調査地点

現地調査地点は、評価書時、平成 30 年度及び令和元年度の営巣地の状況調査で確認されたオオタカの巣周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家等から意見を聴取した。

5-3-3 調査期間

調査期間を表 5-3-3-1 に示す。

表 5-3-3-1 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	ペア名	調査実施日	
希少猛禽類	営巣地の状況調査	オオタカ (Aペア)	繁殖期	令和2年3月23日 ~ 令和2年3月25日 ^{注1} 令和2年6月3日
	営巣木調査		非繁殖期	令和2年9月3日

注 1. 令和元年度における営巣地の状況調査の補足調査日を示す。

注 2. オオタカ (B ペア) については、事後調査 (1 営巣期) を実施しており、調査結果は 5-2 動物 (上小山田) に記載している。

5-3-4 調査結果

希少猛禽類の調査における確認状況を表 5-3-4-1 に示す。

表 5-3-4-1 調査結果

ペア名	確認状況
オオタカ (A ペア)	令和元年度の営巣地の状況調査で確認した営巣地の近傍において、オオタカの行動を観察し、繁殖に繋がる指標行動（餌運搬等）を確認した。そのため、確認位置の周辺にて踏査を実施したところ、新巣を発見した。なお、非繁殖期において、今回発見した新巣について営巣木の調査を実施したところ、繁殖に繋がる痕跡（巣直下に糞が付着）が見られた。今後も専門家の意見を踏まえ、継続して調査を実施する。

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等により確認した。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、令和2年度に廃棄物等が発生した品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、目黒川変電所、東雪谷非常口、小野路非常口、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口とした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、令和2年度に発生した廃棄物等を集計した。

6-1-5 集計結果

集計結果を、表 6-1-5-1 に示す。

表 6-1-5-1(1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量
建設発生土 ^{注1}	129,464m ³

注1：建設発生土は、ほぐし土量である。

表 6-1-5-1(2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類	発生量	再資源化等の量 ^{注1}	再資源化等の率 ^{注2}	
建設廃棄物	建設汚泥	53,300m ³	53,300 m ³	100%
	コンクリート塊	2,684m ³	2,610m ³	97%
	アスファルト・コンクリート塊	1,201m ³	1,114m ³	93%
	建設発生木材	493t	484t	98%

注1 「再資源化等の量」の定義は以下の通りとする。

- ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計
- ・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計

なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

注2 「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等により確認し、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、令和2年度に工事を実施した品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、目黒川変電所、東雪谷非常口、小野路非常口、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口とした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、令和2年度に発生した温室効果ガスの排出の状況を集計した。

6-2-5 集計結果

集計結果を、表 6-2-5-1 に示す。

表 6-2-5-1 温室効果ガス（CO₂換算）排出量の状況

区分		温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量（tCO ₂ ）		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費（CO ₂ ）	2,391	5,189	
	燃料消費（N ₂ O）	18		
	電力消費（CO ₂ ）	2,780		
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行	CO ₂	1,862	1,873	
	CH ₄	1		
	N ₂ O	10		
建設資材の使用	CO ₂	34,093	34,093	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	76	85
		N ₂ O	1	
	埋立	CH ₄	8	
CO ₂ 換算排出量の合計			41,240	

7 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 7-1 に示す者に委託して実施した。なお、委託した業務の内、東京都においては、主にパシフィックコンサルタンツ株式会社が担当した。

表 7-1 事後調査及びモニタリングに係る業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海 コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 岩田 眞	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目 33 番 10 号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 小川 紀一朗	東京都新宿区 西新宿六丁目 14 番 1 号
パシフィック コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 重永 智之	東京都千代田区 神田錦町三丁目 22 番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 土方 聡	東京都千代田区 六番町 2 番地
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目 13 番 3 号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 川村 栄一郎	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目 11 番 12 号

注：令和 3 年 6 月時点の情報

上記のほか、工事中の環境調査等に係る業務の内、工事の実施に関わる一部の測定は、表 7-2 に示す工事請負業者が実施した。なお、小野路非常口及び上小山田非常口については、鉄道・運輸機構に工事を委託している。

表 7-2 測定を実施した工事請負業者

主な実施箇所	工事請負業者の名称
品川駅	中央新幹線品川駅新設（北工区）工事共同企業体 中央新幹線品川駅新設（南工区）工事共同企業体 株式会社安藤・間
第一首都圏トンネル （北品川工区）	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区）工事共同企業体
目黒川変電所	中央新幹線北品川非常口及び変電施設（地下部）新設工事共同企業体
東雪谷非常口	中央新幹線東雪谷非常口新設工事共同企業体
小野路非常口	小野路 JV 鹿島・オリエンタル白石・鉄建 中央新幹線、小野路非常口他特定建設工事共同企業体
第一首都圏トンネル （小野路工区）	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（小野路工区）工事共同企業体
上小山田非常口	上小山田 JV 戸田・りんかい日産 中央新幹線、上小山田非常口特定建設工事共同企業体

参考資料

1 騒音・振動の簡易計測

工事最盛期のモニタリングとは別に、各工区において、建設機械の稼働に係る騒音・振動の状況を確認するための簡易計測を実施している。計測中は、周辺からも確認できる位置にモニターを設置して騒音・振動の値を表示するとともに、作業中は適宜、騒音・振動の状況を確認して作業騒音・振動の低減に努めた。騒音・振動の計測地点は表 参-1 及び図 参-1 に示すとおりである。また、モニターの表示例を写真 参-1 に示す。

表 参-1 簡易計測の実施地点

地点番号	区市名	所在地	実施箇所
01	港区	港南	品川駅
02	品川区	北品川	第一首都圏トンネル（北品川工区） 目黒川変電所
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口
05	町田市	小野路町	小野路非常口 第一首都圏トンネル（小野路工区）
06		上小山田町	上小山田非常口

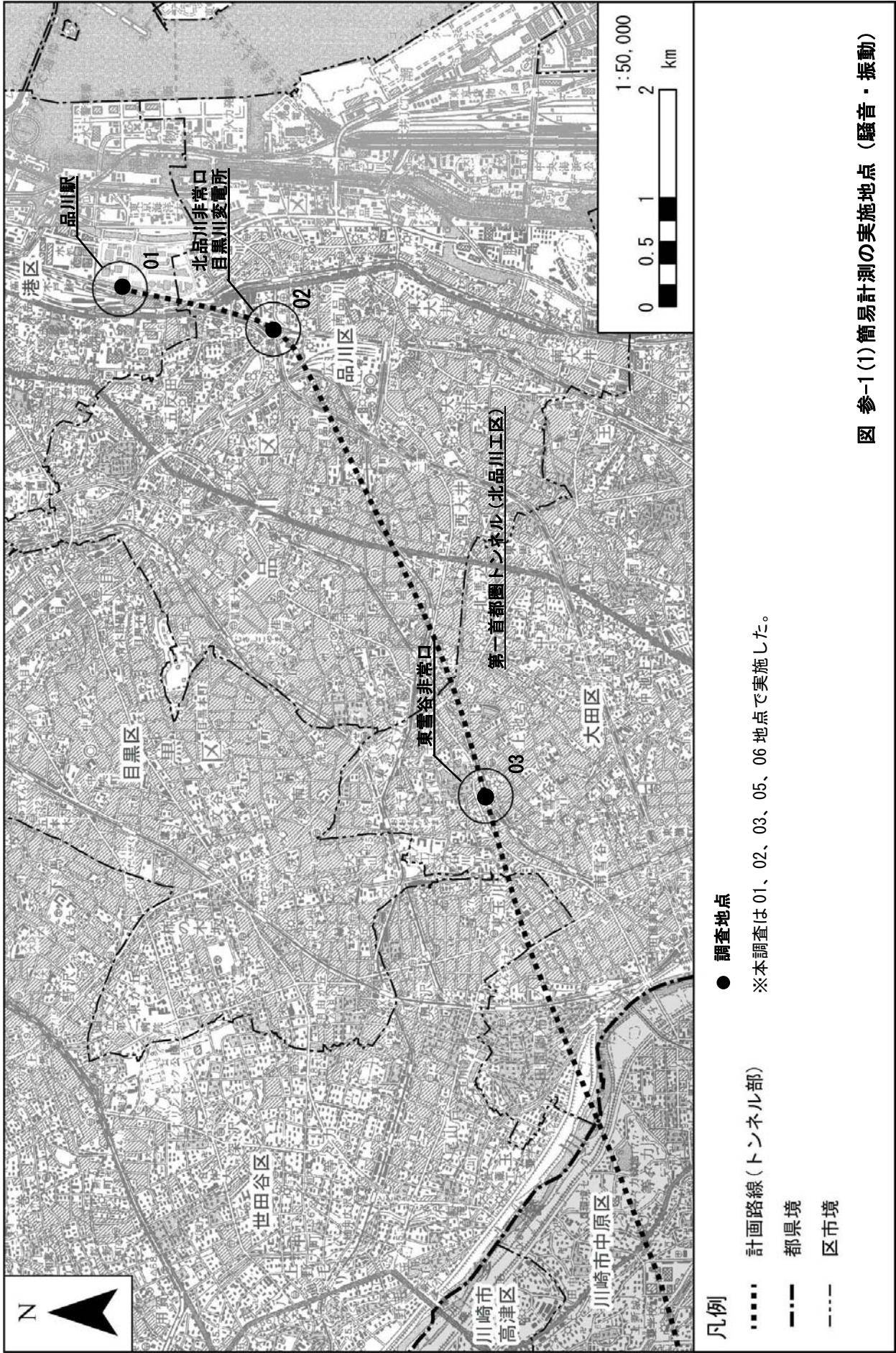
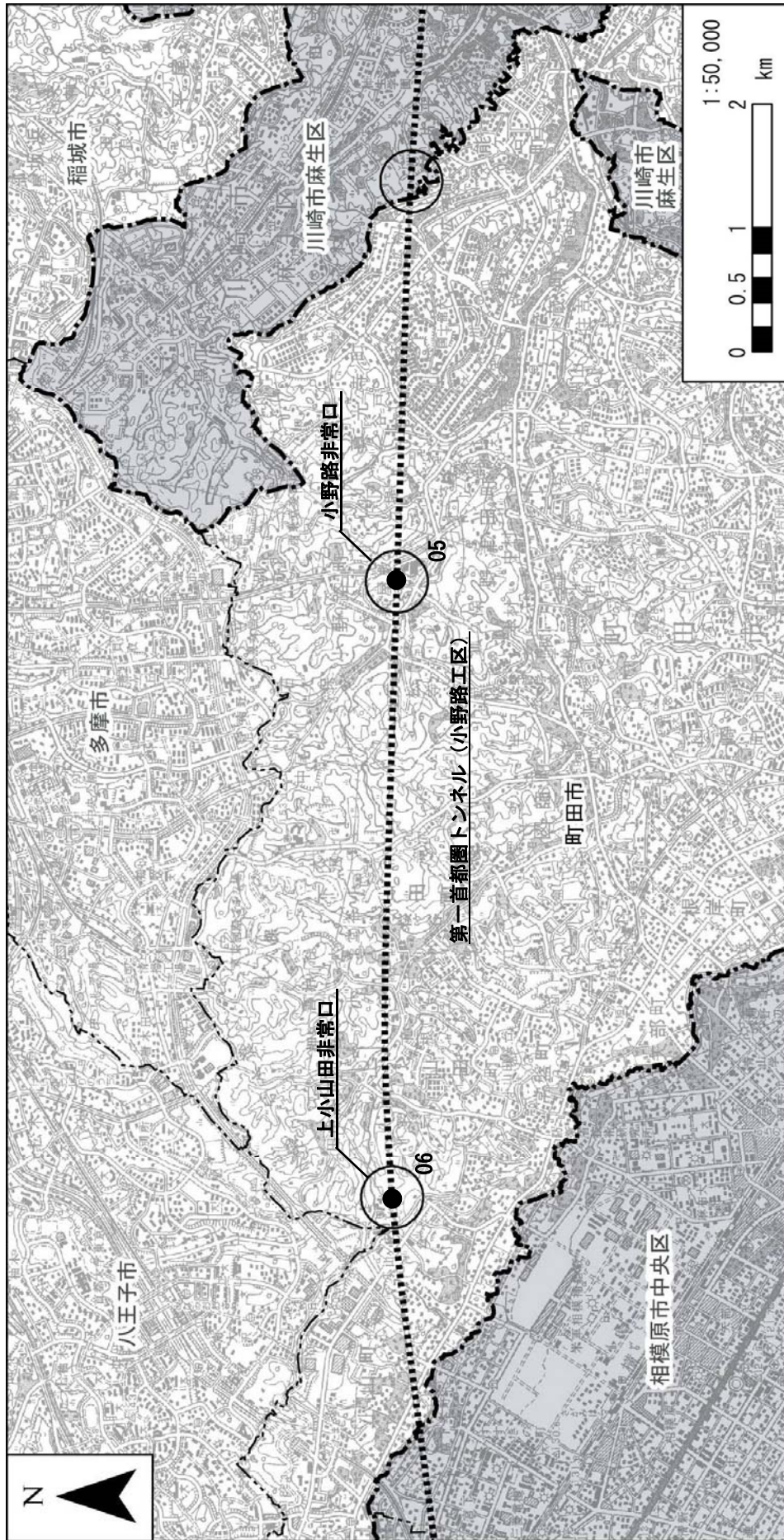


図 参-1(1)簡易計測の実施地点(騒音・振動)



凡例

..... 計画路線(トンネル部)

● 調査地点

--- 都県境

※本調査は01、02、03、05、06地点で実施した。

- - - 区市境

図 参-1 (2) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動)

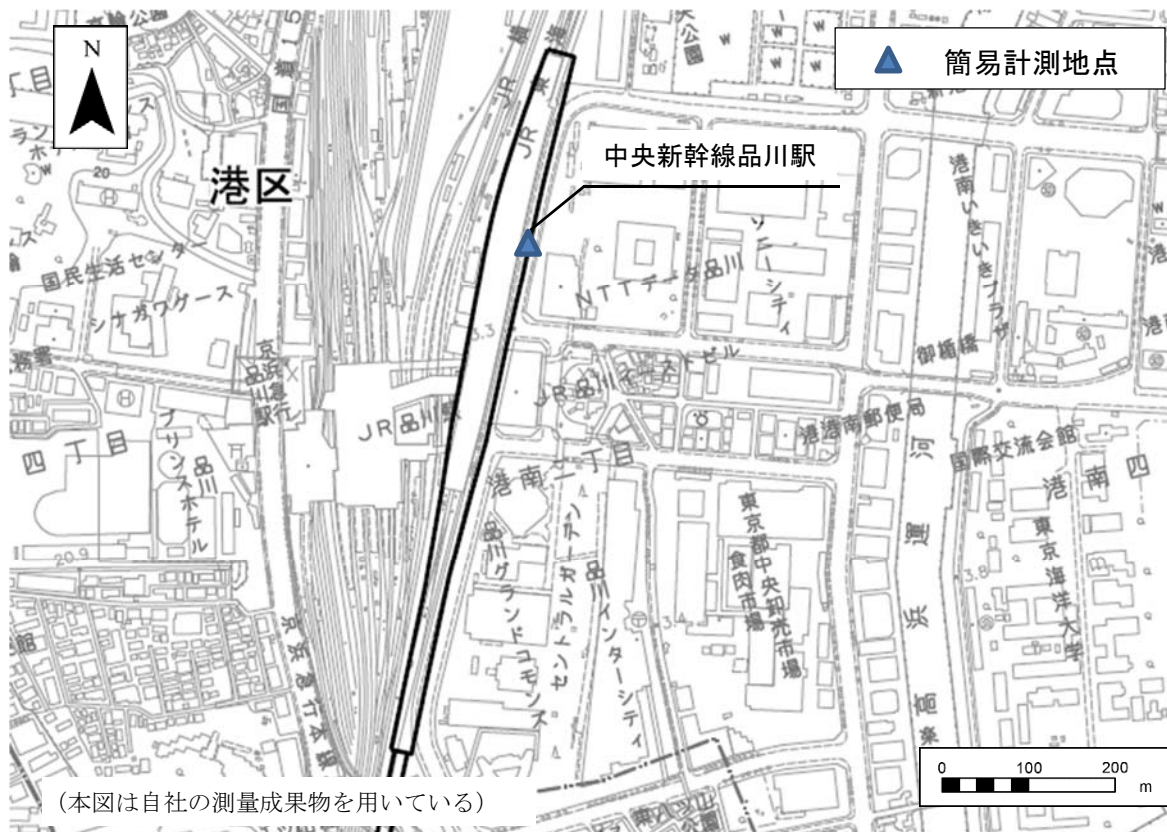


図 参-1(3) 簡易計測の実施地点 (01 品川駅)

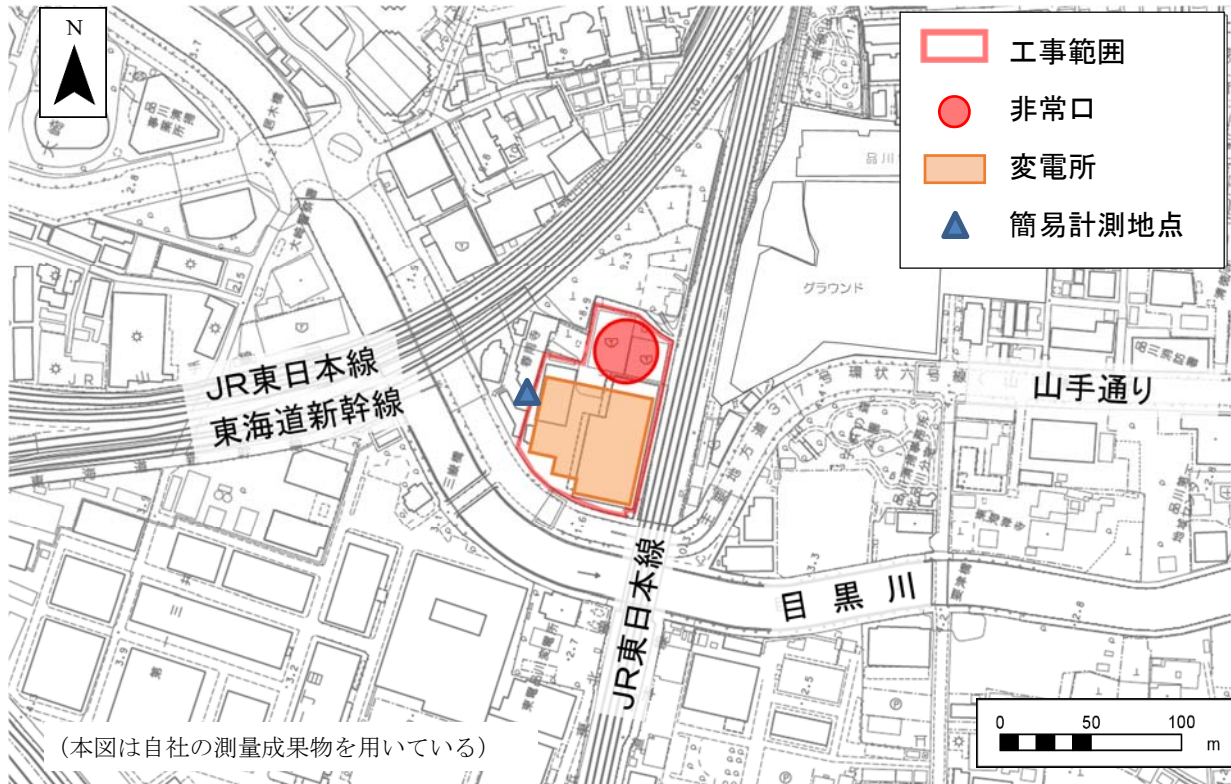


図 参-1(4) 簡易計測の実施地点 (02 北品川)

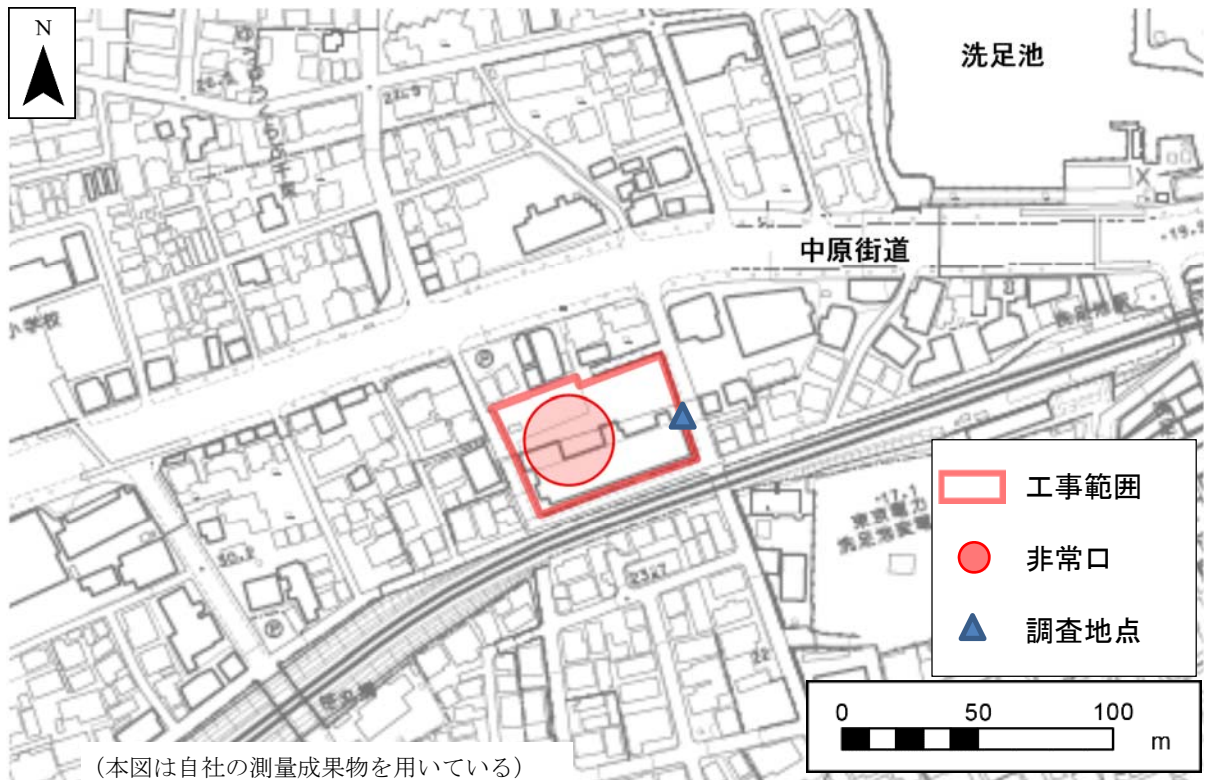


図 参-1(5) 簡易計測の実施地点 (03 東雪谷)



図 参-1(6) 簡易計測の実施地点 (05 小野路)

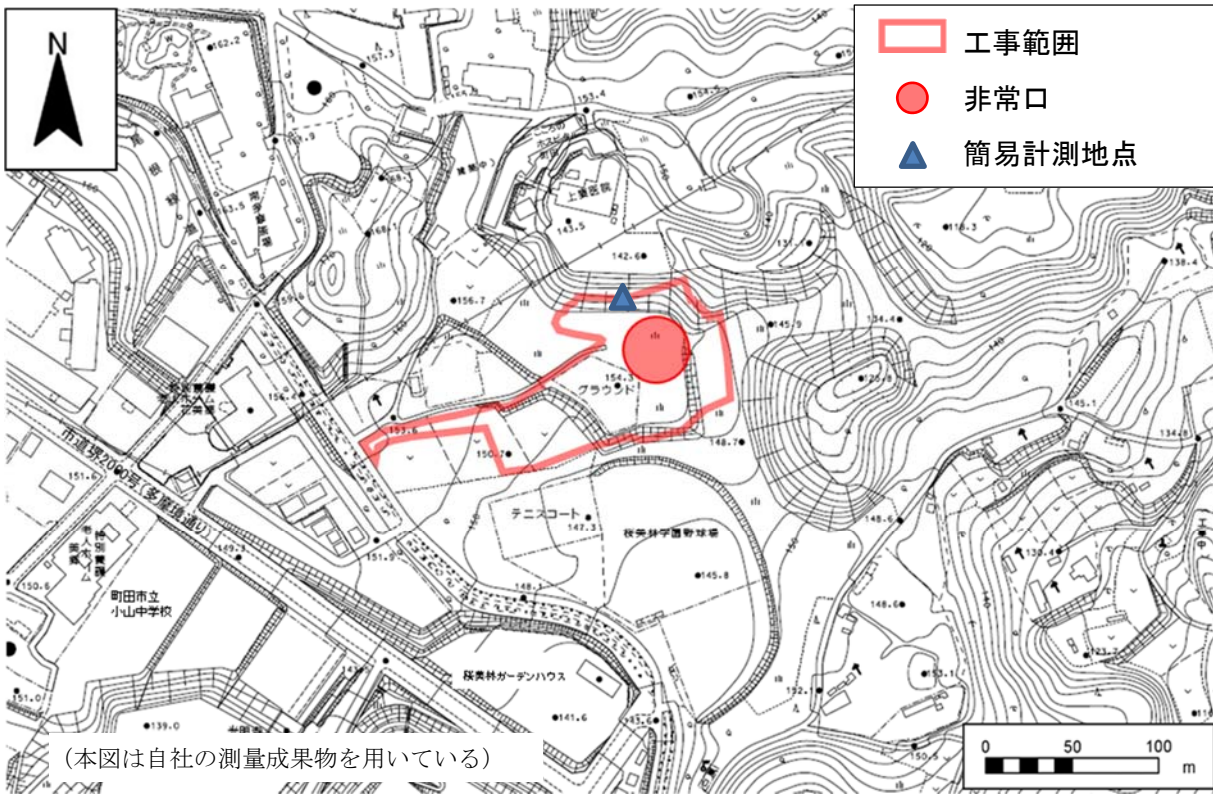


図 参-1(7) 簡易計測の実施地点 (06 上小山田)

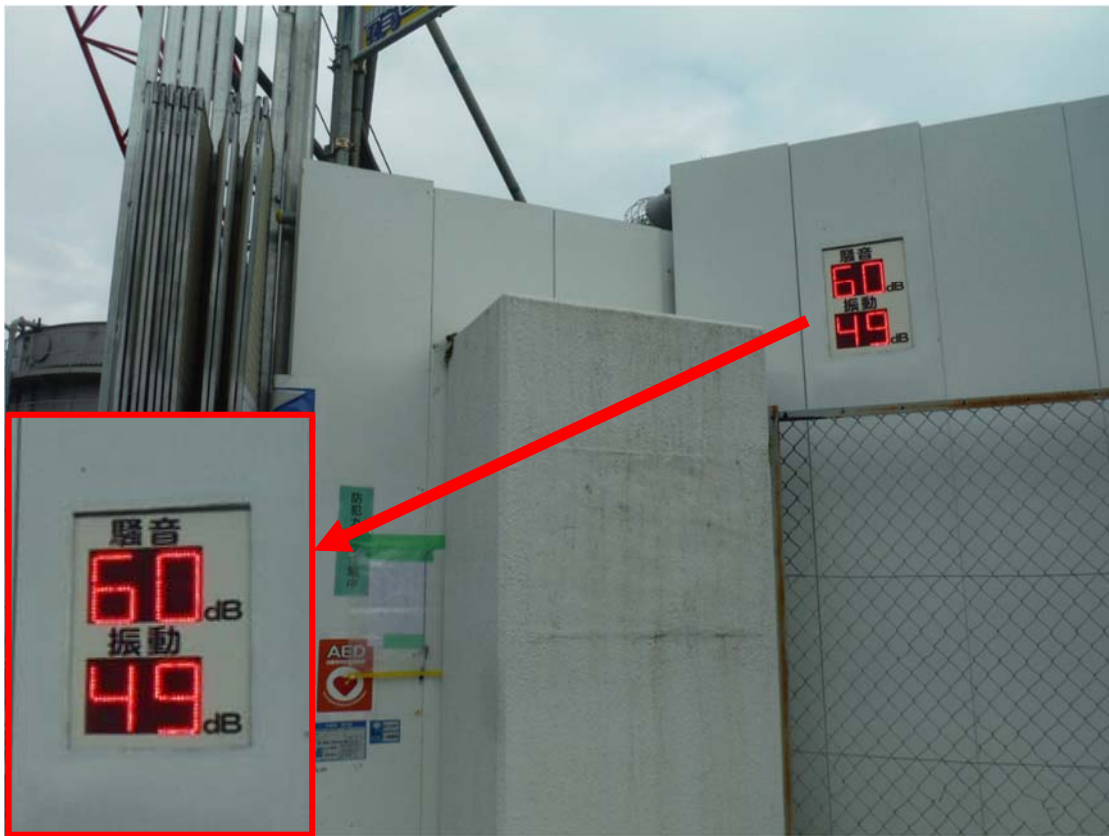


写真 参-1 モニター表示例 (02 北品川)

2 動物

5-1 動物（上小山田）における哺乳類確認種の一覧を、以下に示す。

表 2-1 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度				重要種
						春季	夏季	秋季	冬季	
1	モグラ	モグラ	ホンシュウヒミズ	<i>Urotrichus talpoides hondonis</i>	●					
2			アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	●	●	●	●	●	
3	コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科	<i>Vespertilionidae</i> sp.	●		●			
4	サル	オナガザル	ホンダザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>	●					●
5	ネコ	イヌ	ホンダヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>	●	●	●	●	●	
6		イタチ	ホンDOIタチ	<i>Mustela itatsi itatsi</i>	●			●		
7			ニホンアナグマ	<i>Meles meles anakuma</i>	●	●	●			
8		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	●	●	●	●	●	
9		ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	●	●			●	
10	ネズミ	リス	ニッコウムササビ	<i>Petaurista leucogenys nikkonis</i>	●					●
11		ネズミ	ホンシュウカヤネズミ	<i>Micromys minutus hondonis</i>	●					●
12			ホンダアカネズミ	<i>Apodemus speciosus speciosus</i>	●		●	●		
13	ウサギ	ウサギ	キュウシュウノウサギ	<i>Lepus brachyurus brachyurus</i>	●	●		●		
計	6目	10科	13種		13種	6種	6種	6種	4種	3種

注1 分類、配列などは、原則として「種の多様性（動植物分布調査）対象種一覧」（平成10年、環境庁）に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-1 動物（上小山田）における鳥類確認種の一覧を、以下に示す。

表 2-2 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度					重要種
						春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	
1	キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	●	●	●	●	●	●	●
2			コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	●	●	●	●	●	●	
3	カモ	カモ	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	●		●	●			
4	ハト	ハト	カワラバト	<i>Columba livia</i>	●	●	●	●	●	●	
5			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	●	●	●	●	
6			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	●	●					●
7	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●	●					
8	バリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●	●	●	●			
9	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	●		●	●			●
10			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>			●				●
11	チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>			●				●
12			トウゾクカモメ	<i>Stercorarius pomarinus</i>				●			
13	タカ	タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	●						●
14			トビ	<i>Milvus migrans</i>		●		●	●	●	●
15			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			●	●			●
16			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	●						●
17			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●		●	●	●	●	●
18			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		●					●
19			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●						●
20	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>		●					●
21			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>			●				●
22	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>					●		●
23	キツツキ	キツツキ	コガラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	●	●	●	●	●	
24			アオガラ	<i>Picus awokera</i>	●	●	●	●	●	●	●
25	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>				●			●
26			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>							●
27	インコ	インコ	セキセイインコ	<i>Melopsittacus undulatus</i>					●		
28	スズメ	サンショウクイ	リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus teginae</i>							●
29		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>				●			●
30		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	●	●	●	●	●	●
31	カラス	カケス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●				●	●	●
32			オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>	●	●		●			●
33			ハンボンガラ	<i>Corvus corone</i>	●	●	●	●	●	●	●
34			ハシブトガラ	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●
35		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	●	●	●	●	●	●	
36			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>		●					●
37			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●	●	●	●	●	●	●
38	ツバメ	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	●	●	●	●			
39			イロツバメ	<i>Delichon dasyptus</i>				●			
40	ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	●	●	●	●	●	
41	ウグイス	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	●	●	●	●	●	●
42			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	●	●					●
43		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●	●	●	●	●	●	
44	ムシクイ	ヌボムシクイ	ヌボムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>			●				
45			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	●						
46	メジロ	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●
47	ヨシキリ	オオヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>			●				●
48	チメドリ	ガビチョウ	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	●	●	●	●	●	●	
49	ムクドリ	ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cinereus</i>	●	●	●	●	●	●	
50	ヒタキ	トラツグミ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>							●
51		シロハラ	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●						●
52		アカハラ	アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>		●					
53		ツグミ	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●						●
54		ルリビタキ	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>							●
55		ジョウビタキ	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	●						●
56		キビタキ	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●	●	●	●			
57	スズメ	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	●	●	●	●	●	●
58	セキレイ	キセキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●	●	●	●	●	●	
59			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●	●	●	●	●	●	
60			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	●				●		●
61	アトリ	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>							●
62			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●	●	●	●	●	●	
63			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>							●
64			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	●						●
65			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●						●
66			イカル	<i>Eophona personata</i>							●
67		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	●	●	●	●	●	●
68			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●						●
69			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●						●
70			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●						●
計	14目	33科	70種		42種	35種	34種	35種	28種	40種	28種

注 1 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（平成 24 年、日本鳥学会）に準拠した。

注 2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-1 動物（上小山田）における爬虫類確認種の一覧を、以下に示す。

表 2-3 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		●	●	●	●
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>		●	●	●	●
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●	●	●	●
4		タカチホヘビ	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>		●			●
5		ナミヘビ	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		●			●
6			シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>		●※1	●	●	●
7			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari</i>			●※2		●
8			シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>			●	●	●
9			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>		●			●
10		クサリヘビ	ニホンマムシ	<i>Gloydus blomhoffii</i>		●			●
計	1目	6科	10種		1種	8種	6種	5種	10種

注 1 分類、配列などは、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成 24 年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-1 動物（上小山田）における両生類確認種の一覧を、以下に示す。

表 2-4 両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度				重要種	
						早春季	春季	夏季	秋季		
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	●	●	●		●		
2		アマガエル	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>	●		●	●		●	
3		アカガエル	ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	●	●	●	●	●	●	
-			アカガエル属	<i>Rana sp.</i>		●					
4			ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	●						●
5		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	●		●			●	
計	1目	4科	5種		5種	2種	4種	2種	2種	4種	

注1 分類、配列などは、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-1 動物（上小山田）における昆虫類確認種の一覧を、以下に示す。

表 2-5 (1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
1	トビムシ	アヤトビムシ	アヤトビムシ科	Entomobryidae sp.			●		
2	イシノミ	イシノミ	ヤマトイシノミ	<i>Pedetontus nipponicus</i>	●				
-			イシノミ科	Machilidae sp.		●	●		
3	カゲロウ	コカゲロウ	フタバカゲロウ	<i>Cloeon dipterum</i>			●		
-			コカゲロウ科	Baetidae sp.		●			
4	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ	<i>Aciagrion migratum</i>				●	
5		アオイトトンボ	オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>				●	
6		カワトンボ	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>				●	
7		ニホンカワトンボ		<i>Mnais costalis</i>	●	●	●		●
8		サナエトンボ	ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melaenaps</i>	●	●			●
9			ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>		●			
10			オナガサナエ	<i>Onychogomphus viridicostus</i>			●		
11			コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>			●		
12		ヤンマ	コシボソヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>				●	●
13			ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei</i>				●	
14		オニヤンマ		<i>Anotogaster sieboldii</i>	●	●			
15		トンボ	ハラビロトンボ	<i>Lyriotheis pachygastra</i>		●			●
16			シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●				
17			シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>	●				●
18			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum iriangulare melania</i>			●		
19			ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	●		●		
20			ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>			●		
21			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	●			●	
22			ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	●				
23			ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	●				●
24			ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	●		●	●	
25			リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>				●	
26	カワゲラ	オナシカワゲラ		Nemoura 属		●	●	●	
27	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	●	●	●	●	
28	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>		●			
29			コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>	●			●	
30			チョウセンカマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>	●			●	
31			オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>				●	
32	シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	<i>Reticulitermes speratus speratus</i>				●	
33	バッタ	コロギス	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>			●		
34		カマドウマ	ハヤシウマ	<i>Diestrarmena itodo</i>	●				
-			カマドウマ科	Rhaphidophoridae sp.		●			
35		キリギリス	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>			●		
36			クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>		●		●	
37			クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>				●	
38			ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>	●				
39			オナガササキリ	<i>Conocephalus gladiatus</i>				●	
40			ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>	●			●	
41			ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>	●			●	
42			Hexacentrus 属	Hexacentrus sp.				●	
43		ツユムシ	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>	●				
44			サトクダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i>	●				
45			ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>	●				
46		コオロギ	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblennum campestre</i>				●	
47			ミツカドコオロギ	<i>Loxoblennum doenitzi</i>	●				
48			モリオカメコオロギ	<i>Loxoblennum sylvestrus</i>	●			●	
49			エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>	●			●	
50			ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>	●				
51			クマズムシ	<i>Sclerogryllus punctatus</i>	●			●	●
-			コオロギ科	Gryllidae sp.				●	
52		マツムシ	アオマツムシ	<i>Trilgaria hibinonis</i>	●		●		
53		ヒバリモドキ	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>	●				
54			キアシヒバリモドキ	<i>Trigonidium japonicum</i>		●			
55			マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>	●		●	●	
56			シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>			●	●	
57			ヤチズ	<i>Pteronemobius ohmachi</i>	●				●
58		カネタタキ	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>	●			●	
59		ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>				●	
60		ノミバッタ	ノミバッタ	<i>Xya japonica</i>	●	●			
61		ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	<i>Crietotix japonicus</i>	●				
62			ニセハネナガヒシバッタ	<i>Ergatetix dorsifer</i>				●	
63			ハネナガヒシバッタ	<i>Euparattetix insularis</i>	●			●	
64			コバネヒシバッタ	<i>Formosatetix larvatus</i>	●	●		●	
65			ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>	●	●	●	●	
66		オンプバッタ	オンプバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>	●		●		
67		バッタ	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma setouchiensis</i>	●		●		
68			ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>	●	●	●	●	
69			ハネナガイナゴ	<i>Oxya japonica</i>	●			●	
70			コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>	●			●	
71			ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	●		●	●	
72			ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>	●		●	●	●
73			ヒナバッタ	<i>Glyptobothrus maritimus maritimus</i>	●	●		●	
74			ナキイナゴ	<i>Mongolotetix japonicus</i>	●	●	●		
75			クルマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>	●				●
76			トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>	●				
77			クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>	●		●	●	
78			イボバッタ	<i>Triophidia japonica</i>	●		●		
79	ナナフシ	ナナフシ	ナナフシモドキ	<i>Baculum irregulariterdentatum</i>		●	●	●	
80			ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluetaenoides</i>			●		

表 2-5 (3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
161	カメムシ	ナガカメムシ	ホソコバナナガカメムシ	<i>Macropes obtubilis</i>	●	●	●	●	
162			コガシラコバナナガカメムシ	<i>Pirkimerus japonicus</i>	●				
163			オオメカメムシ	<i>Picocoris varius</i>	●	●	●		
164			ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>	●	●	●	●	
165			ヒョウタンナガカメムシ	<i>Caridops albomarginatus</i>	●				
166			サビヒョウタンナガカメムシ	<i>Horridipamera inconspicua</i>	●				
167			オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochius abbreviatus</i>	●				●
168			オオチャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus assamensis</i>	●			●	
169			モンシロナガカメムシ	<i>Panaorus albomaculatus</i>	●			●	
170			シロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus japonicus</i>	●				
171			チャモンナガカメムシ	<i>Paradieuchus dissimilis</i>	●				
172			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	<i>Paraecosmetus pallicornis</i>	●	●	●	●	●
173			キベリヒョウタンナガカメムシ	<i>Paraparomius lateralis</i>	●	●	●	●	●
174			コバナヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>	●	●	●	●	●
175	メダカナガカメムシ	<i>Chauliopus fallax</i>	●	●	●	●	●		
176	ホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sinuaticollis</i>	●						
177	オオホシカメムシ	<i>Physopelta cincticollis</i>	●	●					
178	ホソヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>	●				●		
179	ニセヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius vulgaris</i>	●			●	●		
180	ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus clavatus</i>	●	●	●	●	●		
181	ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>	●	●	●	●	●	
182		ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	●			●	●	
183		ハリカメムシ	<i>Cletus rusticus</i>	●	●				
184		ヒメハリカメムシ	<i>Cletus trigonus</i>	●				●	
185		ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i>	●	●	●	●	●	
186		オオツマキヘリカメムシ	<i>Hygia (Colpura) lativentris</i>	●			●		
187		ツマキヘリカメムシ	<i>Hygia (Hygia) opaca</i>	●	●			●	
188	ヒメヘリカメムシ	キバラヘリカメムシ	<i>Plinaectus bicoloripes</i>	●			●	●	
189		スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhynchus hyalinus</i>	●			●	●	
190		ケブカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus (Aeschymeteles) sapporensis</i>	●					
191		アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus (Aeschymeteles) maculatus</i>	●	●	●			
192		コブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus minutus</i>	●			●		
193	ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonervosus</i>	●						
194	クスギカメムシ	<i>Urostylis annulicornis</i>	●	●					
195	マルカメムシ	<i>Coptosoma parvipes</i>	●			●	●		
196	ツチカメムシ	マルカメムシ	<i>Megaocopta punctatissima</i>	●	●	●	●	●	
197		マルツチカメムシ	<i>Aethus nigrinus</i>	●	●				
198		ヒメツチカメムシ	<i>Geotomus pygmaeus</i>	●					
199		ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>	●	●			●	
200		ミツボシツチカメムシ	<i>Adomerus triguttulus</i>	●	●	●	●	●	
201		ノコギリカメムシ	<i>Megynemum gracilicorne</i>	●			●		
202		カメムシ	ハナダカカメムシ	<i>Dybowskyia reticulata</i>	●	●	●	●	●
203			オオクロカメムシ	<i>Scotinophara horvathi</i>	●				●
204			ヒメクロカメムシ	<i>Scotinophara scotti</i>	●				●
205			ウズラカメムシ	<i>Aelia fieberii</i>	●	●	●		
206	シロヘリカメムシ		<i>Aenalia lewisi</i>	●					
207	ブチヒゲカメムシ		<i>Dolycoris baccarum</i>	●	●			●	
208	キマダラカメムシ		<i>Erthesina fullo</i>	●				●	
209	ヒメナガメ		<i>Eurydema dominulus</i>	●			●		
210	ナガメ		<i>Eurydema rugosa</i>	●			●		
211	ムラサキシラホシカメムシ		<i>Eysarcoris annamita</i>	●			●	●	
212	マルシラホシカメムシ		<i>Eysarcoris guttiger</i>	●			●		
213	シラホシカメムシ		<i>Eysarcoris ventralis</i>	●			●		
214	ツヤアオカメムシ		<i>Glaucias subpunctatus</i>	●				●	
215	クサギカメムシ		<i>Halyomorpha picus</i>	●				●	
216	ミヤマカメムシ	<i>Hermolabus amurensis</i>	●						
217	ヨツボシカメムシ	<i>Homalonia obtusa</i>	●	●					
218	アオクサカメムシ	<i>Nezara antennata</i>	●				●		
219	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>	●	●	●				
220	シロヘリクチブトカメムシ	<i>Andrallus spinidens</i>	●				●		
221	クチブトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i>	●			●	●		
222	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>	●			●	●		
223	ツノカメムシ	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticauda</i>	●	●				
224		セグロヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha signoreti</i>	●	●				
225		エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>	●			●		
226		アミメカゲロウ	ヤマトクロスジヘビトンボ	<i>Paraclausodes japonicus</i>	●				
227			ヒロバカゲロウ	<i>Spilomyia nipponensis</i>	●	●			
228	ヒメカゲロウ		<i>Eumicrogaster japonicus</i>	●					
229	ホソバヒメカゲロウ		<i>Micromus multipunctatus</i>	●					
230	クモクサカゲロウ		<i>Chrysopa formosa</i>	●	●				
231	アミメクサカゲロウ		<i>Nacaura matsumurae</i>	●					
232	ウスバカゲロウ		<i>Baliga micans</i>	●			●		
233	ツノトンボ		<i>Protidricerus japonicus</i>	●			●		
234			<i>Hybris subjacens</i>	●			●		
235	コウチュウ		ハンミョウ	<i>Cicindela kaleea yedoensis</i>	●			●	
236		オサムシ	ルイスオサムシ	<i>Carabus (Ohomopterus) lewisianus lewisianus</i>	●			●	
237			アオオサムシ	<i>Carabus (Ohomopterus) insulicola insulicola</i>	●	●	●		
238			クロナガオサムシ	<i>Carabus (Leptocarabus) procerulus procerulus</i>	●				
239			ナガヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i>	●				
240			メダカチビカワゴミムシ	<i>Asaphidion semilucidum</i>	●			●	

表 2-5 (4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種		
						春季	夏季	秋季			
241	コウチュウ	オサムシ	ウスモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura fuscicauda</i>				●			
242			キアシスレチゴミムシ	<i>Patrobis flavipes</i>					●		
243			トックリナガゴミムシ	<i>Pterostichus hapteroides</i>						●	
244			ノグチナガゴミムシ	<i>Pterostichus noguchii</i>	●						
245			アシミゾナガゴミムシ	<i>Pterostichus sulcitaris</i>					●	●	
246			タカオヒメナガゴミムシ	<i>Pterostichus takaasanus</i>	●						
247			アカガネオゴミムシ	<i>Trigonognatha cuprescens</i>	●					●	
248			ルイスオゴミムシ	<i>Trigonotoma lewisii</i>							
249			アオグロヒラタゴミムシ	<i>Agonium chalcopus</i>					●		
250			セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>							●
251			マルガタツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus arcuaticollis</i>	●	●			●	●	
252			クロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus cycloderus</i>	●						●
253			ヒメツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus dulcigradus</i>	●						
254			オオクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus nitidus</i>	●	●			●	●	
255			マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i>					●		
256			オオマルガタゴミムシ	<i>Amara gigantea</i>					●	●	
257			コマルガタゴミムシ	<i>Amara simplicidens</i>							●
258			ニセコマルガタゴミムシ	<i>Amara sinuaticollis</i>							●
259			ゴミムシ	<i>Anisodactylus signatus</i>						●	
260			ヒメゴミムシ	<i>Anisodactylus tricuspoidatus</i>					●		
261			ケウスゴモクムシ	<i>Harpalus griseus</i>							●
262			クロゴモクムシ	<i>Harpalus niigatanus</i>							●
263			ウスアカクロゴモクムシ	<i>Harpalus sinicus</i>					●		●
264			アカアシマルガタゴモクムシ	<i>Harpalus tinctulus</i>					●		
265			カラカネゴモクムシ	<i>Platymetopus flavilabris</i>							●
266			クビアカツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus longitarsis</i>					●		●
267			マメゴモクムシ	<i>Stenolophus fulvicornis</i>					●		
268			ツヤマメゴモクムシ	<i>Stenolophus iridicolor</i>						●	
269			ムネアカマメゴモクムシ	<i>Stenolophus propinquus</i>						●	●
270			イツホシマメゴモクムシ	<i>Stenolophus quinquepustulatus</i>	●						
271			ニセコガシラアオゴミムシ	<i>Chlaenius kurosawai</i>							●
272			オオアトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius micans</i>					●		
273	アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>	●				●	●			
274	アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>	●								
275	アトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius virgulifer</i>					●				
276	ハギキノコゴミムシ	<i>Coptodera subapicalis</i>	●								
277	キクピアオアトキリゴミムシ	<i>Lachnolebia cribricollis</i>						●			
278	フタホシアトキリゴミムシ	<i>Lebia bifenestrata</i>	●	●			●				
279	コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia viridis</i>							●		
280	ヒラタアトキリゴミムシ	<i>Parena cavipennis</i>					●	●			
281	オオヒラタアトキリゴミムシ	<i>Parena laespennis</i>	●								
282	フタホシシジバネゴミムシ	<i>Planetes puncticeps</i>							●		
283	ゲンゴロウ	ホソセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus weymarni</i>						●		
284		マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i>					●			
285		モンキマメゲンゴロウ	<i>Platambus pictipennis</i>					●			
286	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>						●	●		
287	ガムシ	アカケシガムシ	<i>Cercyon olivrus</i>						●		
288		キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i>					●	●		
289		キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i>					●			
290		コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>						●	●	
291		ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>						●	●	
292		エンマムシ	<i>Margarinotus (Grammostethus) niponicus</i>	●					●		
293	ニセヒメナガエンマムシ	<i>Platysoma (Platysoma) rasile</i>	●								
294	シデムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>	●								
295	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>	●	●			●				
296	ハネカクシ	ヤマトイクビハネカクシ	<i>Ischnosoma discoidale</i>						●		
297		Sepedophilus属	<i>Sepedophilus</i> sp.	●						●	
298		クロズシリホソハネカクシ	<i>Tachyporus celatus</i>							●	
299		コバネアシベセスジハネカクシ	<i>Anotylus amicus</i>							●	
-		Anotylus属	<i>Anotylus</i> sp.						●		
300		ホソフタホシメダカハネカクシ	<i>Stenus alienus</i>							●	
301		クロズトガリハネカクシ	<i>Lithocharis nigriceps</i>							●	
302		Ochtheophilum属	<i>Ochtheophilum</i> sp.							●	
303		アオバアリガタハネカクシ	<i>Paederus fuscipes</i>							●	
304		クビソハネカクシ	<i>Rugilus rufescens</i>							●	
305		クロバネナガハネカクシ	<i>Xantholinus pleuralis</i>							●	
306		ムネビロハネカクシ	<i>Algon grandicollis</i>					●			
307		ツヤケンブチヒゲハネカクシ	<i>Anisolinus elegans</i>							●	
308		ヤマトオオメツヤムネハネカクシ	<i>Indoquedius juno</i>	●							
309	クロサビイロマルズオオハネカクシ	<i>Ocypus lewisius</i>	●								
310	Philonthus属	<i>Philonthus</i> sp.					●	●	●		
311	デオキノコムシ	ホソスジデオキノコムシ	<i>Ascapthium tibiale</i>					●	●		
312		アカバデオキノコムシ	<i>Episcaphium semirufum semirufum</i>					●			
313		Scaphidium属	<i>Scaphidium</i> sp.					●			
314		Scaphisoma属	<i>Scaphisoma</i> sp.					●			
315	マルハナノミ	<i>Helodes protecta</i>	●								
316	クワガタムシ	<i>Dorcus rectus rectus</i>	●					●			
317	スジクワガタ	<i>Dorcus striatipennis striatipennis</i>	●					●	●		
318	ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus</i>						●	●		
319	センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i>	●	●			●	●			
320	コガネムシ	<i>Panelus parvulus</i>	●								

表 2-5 (5) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
321	コウチュウ	コガネムシ	ツヤエンマコガネ	<i>Onthophagus nitidus</i>			●		
322			ヒゲブトハナムグリ	<i>Anthypna pectinata</i>	●				
323			オオクロコガネ	<i>Holotrichia parallela</i>			●		
324			ヒメアシナガコガネ	<i>Ectinohoplia obducta</i>		●			
325			アシナガコガネ	<i>Hoplia communis</i>	●				
326			ヒメビロウドコガネ	<i>Maladera orientalis</i>	●	●	●		
327			マルガタビロウドコガネ	<i>Maladera secreta</i>	●				
328			ハイイロビロウドコガネ	<i>Paraserica gricea</i>		●			
329			コイチャコガネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>	●	●			
330			アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa albopilosa</i>	●		●	●	
331			サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i>	●				
332			ヒラタアオコガネ	<i>Anomala octiescostata</i>		●			
333			ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i>			●		
334			セマダラコガネ	<i>Blitopertha orientalis</i>			●		
335			マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>			●		
336			ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>	●	●			
337			ヒメトラハナムグリ	<i>Lasitrichius succinetus</i>			●		●
338			アオハナムグリ	<i>Eucetonia roelofi</i>			●		
339			クロハナムグリ	<i>Glycyphana fulvitemma</i>	●	●			
340			コアオハナムグリ	<i>Oxyetonia jucunda</i>	●	●	●	●	
341			シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis submarumorea</i>	●		●		
342			カナブン	<i>Rhomborrhina japonica</i>	●		●		
343			クロカナブン	<i>Rhomborrhina polita</i>			●		
344			カブトムシ	<i>Allomyrina dichotoma septentrionalis</i>	●		●		
345			コカブトムシ	<i>Eophileurus chinensis chinensis</i>			●		
346		ナガハナノミ	ヒゲナガハナノミ	<i>Paralichas pectinatus</i>	●				
347		タマムシ	ヤマトタマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>			●		
348			ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrilus discalis</i>	●	●	●	●	
349			ムネアカナガタマムシ	<i>Agrilus imitans</i>		●			
350			クロケシタマムシ	<i>Aphanisticus congener</i>	●				
351			ハイイロヒラタチビタマムシ	<i>Habroloma griseonigrum</i>	●				
352			クズノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>	●				
353			ウメチビタマムシ	<i>Trachys inconspicua</i>				●	
354			マメチビタマムシ	<i>Trachys reitteri</i>	●				
355			ソーンダースチビタマムシ	<i>Trachys saundersi</i>		●	●		
356			ダンダラチビタマムシ	<i>Trachys variolaris</i>	●				
357		コメツキムシ	ヒゲコメツキ	<i>Pectocera fortunei</i>	●		●		
358			マダラチビコメツキ	<i>Aeoloderma agnatum</i>		●	●	●	
359			サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>		●	●	●	
360			ホソサビキコリ	<i>Agrypnus fuliginosus</i>	●	●			
361			コガタヒメサビキコリ	<i>Agrypnus hypnicola</i>		●	●		
362			ヒメサビキコリ	<i>Agrypnus scrofa scrofa</i>				●	
363			オオクシヒゲコメツキ	<i>Tetrigus lewisi</i>	●		●		
364			オオツヤハダコメツキ	<i>Stenagostus umbratilis</i>	●				
365			キバネホソコメツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>	●				
366			クロツヤクシコメツキ	<i>Melanotus annosus</i>	●				
367			アカアシオオクシコメツキ	<i>Melanotus cete</i>	●	●			
368			クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>	●	●	●		
369			クロクシコメツキ	<i>Melanotus senilis senilis</i>	●	●			
370			クロコハナコメツキ	<i>Paracardiophorus opacus</i>			●		
371			コハナコメツキ	<i>Paracardiophorus pullatus pullatus</i>	●				
-			Paracardiophorus属	<i>Paracardiophorus sp.</i>				●	
372			アカアシハナコメツキ	<i>Platynychus adjutor adjutor</i>			●		
373			オオハナコメツキ	<i>Platynychus nothus nothus</i>	●	●	●		
374		ヒゲブトコメツキ	チャイロヒゲブトコメツキ	<i>Trixagus turgidus</i>	●				
375		ベニボタル	Cautires属	<i>Cautires sp.</i>	●				
376			コクロハナボタル	<i>Libnetis granicollis</i>		●			
377		ホタル	ムネクリイロボタル	<i>Cyphonocerus ruficollis</i>		●			
378			オハボタル	<i>Lucidina biplagiata</i>	●		●		
379		ジョウカイボン	Asiopodabrus属	<i>Asiopodabrus sp.</i>		●			
380			ウスチャジョウカイ	<i>Lycocerus insulsus insulsus</i>	●				
381			ニセヒメジョウカイ	<i>Lycocerus lineatipennis</i>	●				
382			オカベセボシジョウカイ	<i>Lycocerus okabei okabei</i>		●			
383			ジョウカイボン基準亜種	<i>Lycocerus suturellus suturellus</i>	●	●			
384			セボシジョウカイ	<i>Lycocerus vitellinus</i>	●				
385			ウスイロクビボソジョウカイ	<i>Podabrus temporalis</i>	●				
386			ヒガシマルムネジョウカイ	<i>Prothemus reini</i>	●	●			
387			アオジョウカイ	<i>Themus cyanipennis</i>		●			
388			キベリコバネジョウカイ	<i>Trypherus niponicus</i>		●			
389		カツオブシムシ	チュウジョウヒゲブトカツオブシムシ	<i>Thaumaglossa chujoi</i>	●				
390			カマキリタマゴカツオブシムシ	<i>Thaumaglossa rufocapillata</i>		●		●	
391		ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ	<i>Laius historio</i>	●		●		
392			ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachus prolongatus</i>	●	●			
393		ケシキスイ	クロハナケシキスイ	<i>Carpophilus chalybeus</i>	●	●	●	●	
394			クロモンムクゲケシキスイ	<i>Aethina maculicollis</i>	●	●			
395			コクロヒラタケシキスイ	<i>Ipidia sibirica</i>		●			
396			クロヒラタケシキスイ	<i>Ipidia variolosa</i>	●		●		
397			アカマダラケシキスイ	<i>Lasiodactylus pictus</i>	●	●			
398			キベリチビケシキスイ	<i>Meligethes violaceus</i>	●				
399			ヨツボシケシキスイ	<i>Librodor japonicus</i>	●		●		
400		ネスイムシ	オバケデオネスイ	<i>Mimemodes monstrosus</i>				●	

表 2-5 (6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種	
						春季	夏季	秋季		
401	コウチュウ	ヒメハナムシ	キイロアシナガヒメハナムシ	<i>Heterolitus nipponicus</i>				●		
402		ホソヒラタムシ	ヒメフタトゲホソヒラタムシ	<i>Silvanus lewisi</i>	●					
403			ミツモンセマルヒラタムシ	<i>Psammoecus triguttatus</i>		●	●			
-			Psammoecus属	Psammoecus sp.					●	
404			クスイムシ	ウスイロクスイ	<i>Cryptophagus dilutus</i>	●				
405			ナガマルクスイ	ナガマルクスイ	<i>Atomaria punctatissima</i>				●	
406			オオクスイムシ	ヨツボシオオクスイ	<i>Helota gemmata</i>	●		●		
407			コムツキモドキ	Cryptophilus属	Cryptophilus sp.					●
408				ケシコムツキモドキ	<i>Microlanguria jansoni</i>		●			
409			オオキノコムシ	ルリオオキノコ	<i>Aulacochilus sibiricus</i>	●	●	●	●	
410				アカハバビオオオキノコ	<i>Neotriplax lewisii</i>	●	●			
411				クロチビオオキノコ	<i>Tritoma niponensis</i>	●				
412				ズグロホソオオキノコ	<i>Dacne zonaria</i>	●				
413				ヒメオビオオキノコ	<i>Episcapha fortunei</i>	●	●	●		
414			テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i>		●	●	●	
415				ルリテントウダマシ	<i>Endomychus gorhami gorhami</i>		●		●	
416			テントウムシ	フタホシテントウ	<i>Hyperaspis japonica</i>			●		
417				セスジヒメテントウ	<i>Nephus patagiatus</i>	●				
418				アトホシヒメテントウ	<i>Nephus phosphorus</i>			●		
419				ツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) doreatomoides</i>	●				
420				コクロヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) posticalis</i>	●				
-				Scymnus属	Scymnus sp.					●
421				アカホシテントウ	<i>Chilocorus rubidus</i>			●		
422				フタモンクロテントウ	<i>Cryptogonus orbiculus</i>		●			
423				ヨツボシテントウ	<i>Phymatosternus lewisii</i>			●		
424				モンクチビルテントウ	<i>Platynaspidium maculosus</i>		●	●	●	
425				ベダリアテントウ	<i>Rodolia cardinalis</i>	●				
426				ジュウクホシテントウ	<i>Anisosticta kobensis</i>			●		
427				ハラグロオオテントウ	<i>Callicaria superba</i>			●		
428				ムーアシロホシテントウ	<i>Calvia (Eocaria) mutri</i>		●	●	●	
429				ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	●	●	●	●	
430				マクガタテントウ	<i>Coccinula crotchi</i>	●				
431				ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	●	●	●	●	
432				キイロテントウ	<i>Illeis koebelei koebelei</i>	●	●	●	●	
433				ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>	●	●	●	●	
434				クモガタテントウ	<i>Psyllobra vigintimaculata</i>		●			
435				トホシテントウ	<i>Epilachna admirabilis</i>		●	●		
436				オオニジュウヤホシテントウ	<i>Epilachna vigintioctomaculata</i>	●				
437				ニジュウヤホシテントウ	<i>Epilachna vigintioctopunctata</i>		●			
438				ルイヨウマダラテントウ	<i>Epilachna yasutomii</i>		●	●	●	
439		ヒメマキムシ	ウスチャケシマキムシ	<i>Corticaria gibbosa</i>	●					
440		ナガクチキムシ	クロホソナガクチキ	<i>Phloeotrypa rugicollis</i>	●					
441			ヒメホソナガクチキ	<i>Serropalpus filiformis</i>		●				
442		クビナガムシ	クビカクシナガクチキムシ	<i>Scotodes niponicus</i>	●					
443		カミキリモドキ	モモトカミキリモドキ	<i>Oedemerina lucidicollis</i>	●	●				
444			シリナガカミキリモドキ	<i>Xanthochroa caudata</i>		●				
445			アオカミキリモドキ	<i>Xanthochroa waterhousei</i>		●				
446		アカハネムシ	アカハネムシ	<i>Pseudopyrochroa vestiflua</i>		●				
447		アリモドキ	ホソクビアリモドキ	<i>Formicomus braminus coiffaiti</i>	●	●	●	●		
448			ヨツボシホソアリモドキ	<i>Pseudoleptaleus valgipes</i>		●				
449			ムナグロホソアリモドキ	<i>Sapintus cohaeres</i>	●					
450		ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ	<i>Anaspis marseuli</i>		●				
451		ハムシダマシ	ヒゲブトゴミムシダマシ	<i>Luprops orientalis</i>	●					
452		クチキムシ	ナミスイロクチキムシ	<i>Alleculea (Alleculea) bilamellata</i>			●			
453			ホンドトビイロクチキムシ	<i>Borboreshes cruralis</i>	●		●			
454			アカツヤバネクチキムシ	<i>Hymenalia rufipennis</i>	●	●				
455			クロツヤバネクチキムシ	<i>Hymenalia unicolor</i>	●					
456			ナミクチキムシ	<i>Upinella melanaria</i>		●		●		
457		ゴミムシダマシ	ナガニジゴミムシダマシ	<i>Ceropria induta</i>	●					
458			フトナガニジゴミムシダマシ	<i>Ceropria laticollis</i>	●					
459			モンキゴミムシダマシ	<i>Diaperis lewisi lewisi</i>			●			
460			アオツヤキノコゴミムシダマシ	<i>Platydena maruseuli</i>	●					
461			クロツヤキノコゴミムシダマシ	<i>Platydena nigroaeneum</i>			●			
462			モトヨツコブエグリゴミムシダマシ	<i>Uloma bonzica</i>	●		●	●		
463			ヤマトエグリゴミムシダマシ	<i>Uloma lewisi</i>				●		
464			ゴミムシダマシ	<i>Neatus picipes</i>	●					
465			ニホンキマワリ本土亜種	<i>Plesiophthalmus (Plesiophthalmus) nigrocyanus nigrocyanus</i>	●	●	●			
466			セスジナガキマワリ	<i>Strongylium cullellatum</i>			●			
467		カミキリムシ	ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis insularis</i>	●		●			
468			ツマグロハナカミキリ	<i>Leptura medicenotata</i>		●			●	
469			ミドリカミキリ	<i>Chloridolum viride</i>		●			●	
470			ヨツスジトラカミキリ	<i>Chlorophorus quinquefasciatus</i>			●			
471			キンケトラカミキリ	<i>Clytus auripilis</i>		●				
472			シラケトラカミキリ	<i>Clytus melaenus</i>	●	●				
473			トゲヒゲトラカミキリ	<i>Demonax transilis</i>		●				
474			トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis</i>			●		●	
475			ベニカミキリ	<i>Purpuricenus temminckii</i>	●	●	●			
476			ナガゴマフカミキリ	<i>Mesosa longipennis</i>			●			
477			シナノクロフカミキリ	<i>Asaperda agapanthina</i>		●				
478			ヒシカミキリ	<i>Micropera ptinoides</i>		●				
479			ニイジマチビカミキリ	<i>Egesina bifasciana bifasciana</i>	●					
480			トガリシロオビサビカミキリ	<i>Pterolophia caudata caudata</i>		●	●			

表 2-5 (7) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種
						春季	夏季	秋季	
481	コウチュウ	カミキリムシ	ナカジロサビカミキリ	<i>Pterolophia jugosa jugosa</i>			●		
482			アトジロサビカミキリ	<i>Pterolophia zonata</i>		●	●		
483			ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>			●		
484			ヒメヒゲナガカミキリ	<i>Monochamus subfasciatus subfasciatus</i>			●		
485			キボシカミキリ	<i>Psacotheta hilaris hilaris</i>	●		●	●	
486			ガロアケシカミキリ	<i>Exocentrus galloisi</i>	●				
487			トゲバカミキリ	<i>Rondibilis superdina</i>			●		
488			ヤツメカミキリ	<i>Eutetrappa ocelota</i>		●	●	●	
489			シラホシカミキリ	<i>Glenea relicta relicta</i>		●			
490			ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>		●	●		
491		ハムシ	チャバラマメゾウムシ	<i>Callosobruchus ademptus</i>	●				
492			キバラリクビゾウムシ	<i>Lema concinnipennis</i>	●	●	●		
493			トホシクビゾウムシ	<i>Lema decempunctata</i>		●			
494			スゲクビゾウムシ	<i>Lema dilecta</i>				●	
495			ヤマイモハムシ	<i>Lema honorata</i>			●		
496			キイロクビナガハムシ	<i>Lilioceris rugata</i>			●		
497			バラリツツハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>		●			
498			ヤツボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus japonus</i>		●			
499			クロボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus signaticeps</i>		●			
500			ツツジコブハムシ	<i>Chlamisus laticollis</i>			●		
501			ムシクツハムシ	<i>Chlamisus spilotus</i>	●				
502			ハンノキサルハムシ	<i>Basilepta balvi</i>			●		
503			アオバナサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>	●		●		
504			イモサルハムシ	<i>Colaspomona dauricum</i>			●		
505			マダラアラゲサルハムシ	<i>Demotina fasciculata</i>	●	●		●	
506			カサハラハムシ	<i>Demotina modesta</i>		●		●	
507			クロオビカサハラハムシ	<i>Hyperaxis fasciata</i>		●		●	
508			ムネアカキバナサルハムシ	<i>Pagria consimile</i>		●			
509			ツヤキバナサルハムシ	<i>Pagria flavopustulata</i>				●	
510			マルキバナサルハムシ	<i>Pagria ussuriensis</i>		●	●	●	
511			ドウガネサルハムシ	<i>Scelodonta lewisii</i>	●	●	●	●	
512			トビサルハムシ	<i>Trichochrysea japana</i>		●			
513			キカサハラハムシ	<i>Xanthonia placida</i>	●				
514			ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>				●	
515			ズグロキハムシ	<i>Gastrolinoides japonicus</i>		●			
516			コガタリハムシ	<i>Gastrophysa atrocyanea</i>		●			
517			ヤツボシハムシ	<i>Gonioctena nigroplagiata</i>	●		●		
518			ダイコンハムシ	<i>Phaedon brassicae</i>		●			
519			ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>	●		●		
520			ウリハムシ	<i>Aulacophora femoralis</i>	●	●	●	●	
521			クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis</i>	●	●	●	●	
522			クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>	●	●			
523			イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>	●		●		
524			ブタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i>	●	●	●		
525			アトボシハムシ	<i>Paridea angulicollis</i>	●				
526			ヨツボシハムシ	<i>Paridea quadriplagiata</i>				●	
527			カミナリハムシ	<i>Altica cyanea</i>				●	
-			Altica属	Altica sp.				●	
528			ツブノミハムシ	<i>Aphthona perminuta</i>		●		●	
529			オオアカマルノミハムシ	<i>Argopus clypeatus</i>		●			
530			Asiorestia属	Asiorestia sp.				●	
531			ヒメドウガネトビハムシ	<i>Chaetocnema concinnicollis</i>	●				
532			ルリマルノミハムシ	<i>Nonarthra cyanea</i>		●	●	●	
533			ナトビハムシ	<i>Psylliodes punctifrons</i>				●	
534			ツマキタマノミハムシ	<i>Sphaeroderma apicale</i>				●	
535			ムネアカタマノミハムシ	<i>Sphaeroderma placidum</i>		●			
536			ジンガサハムシ	<i>Aspidomorpha indica</i>		●	●	●	
537			イノコヅチカメノコハムシ	<i>Cassida japana</i>			●		
538			セモンジンガサハムシ	<i>Cassida versicolor</i>		●			
539			ヨツモンカメノコハムシ	<i>Laccoptera quadrimaculata</i>		●	●	●	
540			イチモンジカメノコハムシ	<i>Thlaspidia cribrosa</i>			●		
541		ヒゲナガゾウムシ	キノコヒゲナガゾウムシ	<i>Euparius oculus oculus</i>	●				
542			エゴヒゲナガゾウムシ	<i>Exechesops leucopis</i>	●				
543			クロホシメナガヒゲナガゾウムシ	<i>Phaulimia aberrans</i>				●	
544		オトシブミ	ヒメクロオトシブミ	<i>Apoderus (Compsapoderus) erythrogaster</i>	●		●		
545			エゴツルクビオトシブミ	<i>Cyanostrachelus roelofii</i>		●	●		
546			ナラルリオトシブミ	<i>Euops (Synaptops) konoi</i>	●	●			
547			カシルリオトシブミ	<i>Euops (Synaptops) splendidus</i>	●				
548			アシナガオトシブミ	<i>Phialodes rufipennis</i>		●			
549		ゾウムシ	トゲアシゾウムシ	<i>Anosimus decoratus</i>			●		
550			オオクチプトゾウムシ	<i>Macrocyrtus variabilis</i>			●		
551			カシワクチプトゾウムシ	<i>Myllocerus griseus</i>	●	●			
552			チビヒョウタンゾウムシ	<i>Myosides seriehispidus</i>				●	
553			ツヤツチゾウムシ	<i>Asphalmus japonicus</i>	●				
554			ホソゲチビツチゾウムシ	<i>Trachyphloeosoma advena</i>		●			
555			シロコブゾウムシ	<i>Episomus turritus</i>		●	●		
556			ヒメシロコブゾウムシ	<i>Dermatoxenus caesicollis</i>		●			
557			スグリゾウムシ	<i>Pseudocneorhinus bifasciatus</i>	●		●		
558			オオアオゾウムシ	<i>Chlorophanus grandis</i>		●	●	●	
559			サビヒョウタンゾウムシ	<i>Scepticus griseus</i>				●	
560			コフキノゾウムシ	<i>Eugnathus distinctus</i>	●	●	●		

表 2-5 (8) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種			
						春季	夏季	秋季				
561	コウチュウ	ゾウムシ	ゲチビコフキノウムシ	<i>Sitona hispidulus</i>		●	●					
562			ハコベタコゾウムシ	<i>Hypera basalis</i>		●						
563			アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>		●	●					
564			ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>			●	●				
565			オジロアシナガゾウムシ	<i>Mesalcidodes trifidus</i>				●				
566			カシワノミゾウムシ	<i>Rhynchaenus (Orchestes) japonicus</i>		●	●					
-				Rhynchaenus属	Rhynchaenus sp.		●					
567			タバグササラゾウムシ	<i>Demimaea fascicularis</i>				●	●			
568			イチゴハナゾウムシ	<i>Anthonomus bisignifer</i>			●					
569			クスギシギゾウムシ	<i>Curculio robustus</i>					●			
570			レロフチビシギゾウムシ	<i>Curculio roelofsi</i>		●						
-				Curculio属	Curculio sp.			●				
571				Rhinoncus属	Rhinoncus sp.				●			
572				タデトゲサルゾウムシ	<i>Homorosoma asperum</i>				●			
573				Metialma属	Metialma sp.		●					
574				ツツゾウムシ	<i>Carcilia strigicollis</i>		●	●				
575				チャバネキクイゾウムシ	<i>Kojimaia lewisi</i>		●					
576			オサゾウムシ	トホシオサゾウムシ	<i>Aplotes roelofsi</i>			●				
577				コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i>		●					
578				キクイムシ	クリノミキクイムシ	<i>Poecilips cardamomi</i>			●			
579			ハチ	ミフシハバチ	アカスジチュウレンジ	<i>Arge nigrinodosa</i>			●			
580					カタアカチュウレンジ	<i>Arge rejecta</i>				●		
581					ルリチュウレンジ	<i>Arge similis</i>			●	●		
582					ハバチ	ワラビハバチ	<i>Aneugmenus kiotonis</i>				●	
583						オスグロハバチ	<i>Dolerus similis japonicus</i>					●
584						クシヒゲハバチ	<i>Cladius pectinicornis</i>			●		
-							Cladius属	Cladius sp.				●
585	イハバチ	<i>Eutomostethus apicalis</i>						●		●		
586	ハグロハバチ	<i>Allantus luctifer</i>						●	●			
587	セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>							●			
588	ニホンカブラハバチ	<i>Athalia japonica</i>					●					
589	チャイロハバチ	<i>Nesotaxonus flavescens</i>							●			
590	クロムネハバチ	<i>Lagidina irritans</i>					●					
591	ヒゲナガハバチ	<i>Lagidina plarycerus</i>					●					
592	オオクロハバチ	<i>Macrophya carbonaria</i>					●					
593	コシアキハバチ	<i>Tenthredo gifui</i>					●					
594	クロムネアオハバチ	<i>Tenthredo nigropicta</i>					●					
595	キバチ	ニホンキバチ			<i>Urocera japonicus</i>				●			
596	クビナガキバチ	クロクビナガキバチ			<i>Xiphidria annulitibia</i>			●				
597	コマユバチ	ヒメウマノオバチ			<i>Eurobracon breviterebrae</i>				●			
-		コマユバチ科			Braconidae sp.			●	●			
598	ヒメバチ	アトムシヒラタヒメバチ			<i>Itoplectis naranyae</i>					●		
599		ミノオキヒロヒラタヒメバチ			<i>Xanthopimpla clavata</i>				●			
600					Netelia属	Netelia sp.				●		
601		ホウネンタワラチピアメバチ			<i>Charops bicolor</i>			●				
602		アゲハヒメバチ			<i>Trogus mactator</i>				●			
-					ヒメバチ科	Ichneumonidae sp.			●	●		
603		コンボウヤセバチ	オオコンボウヤセバチ	<i>Gasteruption thomsoni</i>				●				
604		ハエヤドリクロバチ	ハエヤドリクロバチ科	Diapriidae sp.				●				
605		タマゴクロバチ	Habroteleia属	Habroteleia sp.				●				
606			Macroteleia属	Macroteleia sp.				●				
607	シリアゲコバチ	シリアゲコバチ	<i>Leucospis (Leucospis) japonica</i>				●					
608	アシトコバチ	アジアカツヤアシトコバチ	<i>Antrocephalus apicalis apicalis</i>				●					
609	コガネコバチ	コガネコバチ科	Pteromalidae sp.			●						
610	セイボウ	クロバネセイボウ	<i>Chrysis (Chrysis) angolensis murasaki</i>				●					
611	ムカシアリガタバチ	ムカシアリガタバチ	<i>Acrepyris japonicus</i>			●						
612	アリバチ	ヤマトアリバチモドキ	<i>Myrmosa nigrofasciata</i>				●					
613		ルイスヒトホシアリバチ	<i>Smicromyrme lewisi</i>			●						
614	コツチバチ	アカハコツチバチ	<i>Tiphia (Tiphia) rufomandibulata rufomandibulata</i>			●						
-		Tiphia属	Tiphia sp.				●					
615	ツチバチ	アカスジツチバチ	<i>Scolia (Carinoscolia) melanosoma fascinata</i>		●							
616		コモンツチバチ	<i>Scolia (Discolia) decorata ventralis</i>				●					
617		キオビツチバチ	<i>Scolia (Discolia) oculata</i>				●					
618		ヒメハラチガツチバチ	<i>Campsomeriella (Annulimeris) annulata annulata</i>			●	●					
619		オオハラチガツチバチ	<i>Megacampsomeris grossa matsumurai</i>		●							
620		キンケハラチガツチバチ	<i>Megacampsomeris prismatica</i>		●		●					
621	アリ	オオハリアリ	<i>Brachyponera chinensis</i>		●	●	●	●				
622		ニセハリアリ	<i>Hypoponera sauteri</i>					●				
623		ワタセカギバラアリ	<i>Proceratium watasei</i>		●							
624		ツヤシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Crematogaster) nawai</i>				●					
625		テラニシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Crematogaster) teranishii</i>		●	●	●	●				
626		キイロシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Orthocrema) osakensis</i>		●	●	●	●				
627		ムネボソアリ	<i>Leptothorax congruus</i>		●							
628		ハリナガムネボソアリ	<i>Leptothorax spinosior</i>		●							
629		ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>		●			●				
630		アズマオオズアリ	<i>Pheidole fervida</i>		●	●	●	●				
631		アミメアリ	<i>Pristomyrmex pungens</i>		●	●	●	●				
632		トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>		●	●	●	●				
633		クロオオアリ	<i>Camponotus (Camponotus) japonicus</i>		●	●	●	●				
634		ムネアカオオアリ	<i>Camponotus (Camponotus) obscuripes</i>		●							
635		ウメマツオオアリ	<i>Camponotus (Myrmamblys) vitosus</i>			●	●					
636		ヨツボシオオアリ	<i>Camponotus (Myrmecotoma) quadrinotatus</i>		●							
637		ミカドオオアリ	<i>Camponotus (Paramyrmamblys) kiusiuensis</i>		●	●	●					
638		クロヤマアリ	<i>Formica (Serviformica) japonica</i>		●	●	●	●				
639		クロクサアリ隠蔽種群	<i>Lasius (Dendrolasius) fuji s.l.</i>		●							
640		ヒラアシクサアリ	<i>Lasius (Dendrolasius) spathepus</i>			●	●					

表 2-5 (9) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種	
						春季	夏季	秋季		
641	ハチ	アリ	トビイロケアリ	<i>Lasius (Lasius) japonicus</i>	●	●	●			
642			アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>	●	●	●	●		
643			トゲアリ	<i>Polyrhachis (Polyrhachis) lamellidens</i>	●	●	●		●	
644		クモバチ	バッコウクモバチ	<i>Cyphononyx fulvognathus</i>			●			
645			Dipogon属	<i>Dipogon sp.</i>			●			
646			スギハラクモバチ	<i>Leptodialepis sugiharai</i>			●		●	
647		ドロバチ	オオモンクモバチ	<i>Anoplius (Lophopompilus) samariensis</i>			●			
648			オオフタオビドロバチ	<i>Anterhynchium flavomarginatum micado</i>	●					
649			ミカドトックリバチ	<i>Eumenes micado</i>			●			
650			ムモントックリバチ	<i>Eumenes rubronatatus rubronatatus</i>			●			
651			スズバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>			●		●	
652		スズメバチ	カタグロチビドロバチ	<i>Stenodynerus chinensis similis</i>		●				
653			チビドロバチ	<i>Stenodynerus frauenfeldi</i>				●		
654			ムモンホソアシナガバチ	<i>Parapolybia indica indica</i>			●			
655			セグロアシナガバチ	<i>Polistes jokahamae jokahamae</i>					●	
656			キボシアシナガバチ	<i>Polistes nipponensis</i>					●	
657			キアシナガバチ	<i>Polistes rothneyi iwatai</i>	●		●			
658			コアシナガバチ	<i>Polistes snelleni</i>		●	●			
659			コガタスズメバチ	<i>Vespa analis insularis</i>		●	●	●		
660			モンズズメバチ	<i>Vespa crabro flavofasciata</i>	●			●	●	
661			ヒメズズメバチ	<i>Vespa ducalis pulchra</i>			●			
662		オオズズメバチ	<i>Vespa mandarina japonica</i>	●				●		
663		キイロスズメバチ	<i>Vespa similis xanthoptera</i>					●		
664		アナバチ	ルリジガバチ	<i>Chalybion (Chalybion) japonicum</i>			●			
665			コクロアナバチ	<i>Isodontia nigella</i>			●			
666			クロアナバチ	<i>Sphex (Sphex) argentatus fumosus</i>	●					
667			サトジガバチ	<i>Ammophila sabulosa nipponica</i>			●		●	
668		フシダカバチ	ミカドジガバチ	<i>Hoplammophila aemulans</i>			●			
669			ヒメツチスガリ	<i>Cerceris carinalis</i>			●			
670			ナミツチスガリ	<i>Cerceris hortivaga</i>			●			
671		ムカシハナバチ	スミスメンハナバチ	<i>Hylaeus (Nesoprotopis) floralis</i>			●			
672		コハナバチ	アカガネコハナバチ	<i>Halictus (Seladonia) aerarius</i>	●			●		
673			シロスジカタコハナバチ	<i>Lasioglossum (Lasioglossum) occidens</i>			●			
-		Lasioglossum属	<i>Lasioglossum sp.</i>		●					
674	ヒメハナバチ	コガタウツギヒメハナバチ	<i>Andrena (Calomelissa) tsukubana</i>		●					
675		キバナヒメハナバチ	<i>Andrena (Chlorandrena) knuthi</i>		●					
676	ハキリバチ	キホリハナバチ	<i>Lithurgus collaris</i>			●				
677		オオハキリバチ	<i>Chalicodoma sculpturalis</i>			●				
678		バラハキリバチ	<i>Megachile nipponica nipponica</i>			●				
679	ミツバチ	ギンランキマダラハナバチ	<i>Nomada ginran</i>		●					
680		クマバチ	<i>Xylocopa appendiculata circumvolans</i>	●	●	●				
681		ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>	●						
682		セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>	●						
683	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>	●	●		●		
684	ハエ	ガガンボ	バッコウガガンボ	<i>Ctenophora (Dictenophora) pictipennis fasciata</i>	●	●				
685			ホリカワクシヒゲガガンボ	<i>Ctenophora (Pseliophora) bifascipennis</i>		●				
686			オオマキバガガンボ	<i>Nephrotoma pullata</i>		●				
687			キイロホソガガンボ	<i>Nephrotoma virgata</i>	●	●				
-				Nephrotoma属	<i>Nephrotoma sp.</i>				●	
688			マドガガンボ	<i>Tipula (Yamatotipula) nova</i>			●	●	●	
-				Tipula属	<i>Tipula sp.</i>		●	●	●	
689			Antocha属	<i>Antocha sp.</i>		●				
690			Styringomyia属	<i>Styringomyia sp.</i>		●	●			
-				ガガンボ科	<i>Tipulidae sp.</i>					●
691	カ	Aedes属	<i>Aedes sp.</i>		●					
692	ユスリカ	セスジユスリカ	<i>Chironomus yoshimatsui</i>		●					
693	ケバエ	ヒメセアケケバエ	<i>Penthetria japonica</i>				●			
694	タマバエ	Plecia属	<i>Plecia sp.</i>		●					
695		ウリウロコタマバエ	<i>Lasiptera sp.</i>							
696		エノキトガリタマバエ	<i>Celticecis japonica</i>		●					
697	エゴタマバエ	<i>Rhopalomyia styracophila</i>				●				
698	シロダモタマバエ	<i>Pseudosphondylia neolitsea</i>				●				
699	キノコバエ	Allactoneura属	<i>Allactoneura sp.</i>			●		●		
-		キノコバエ科	<i>Mycetophilidae sp.</i>		●			●		
700	クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科	<i>Sciaridae sp.</i>		●	●	●			
701	ミズアブ	ハラキンミズアブ	<i>Microchrysa flaviventris</i>		●	●				
702		コウカアブ	<i>Plecticus tenebrifer</i>			●				
703		ハキナガミズアブ	<i>Rhaphiocerina hakiensis</i>	●		●				
704	アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>			●					
705	ツリアブ	クロバネツリアブ	<i>Ligyra tantalus</i>	●		●				
706	ムシヒキアブ	オオシアブ	<i>Laphria mitsukurii</i>	●	●			●		
707		アシナガムシヒキ	<i>Molobratia japonica</i>		●					
708		ヒメクロムシヒキ	<i>Holopogon japonicus</i>			●				
709		Leptogaster属	<i>Leptogaster sp.</i>		●					
710		アオメアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>			●				
711		シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>			●				
712	ナミマガリケムシヒキ	<i>Neoitamus angusticornis</i>		●						
713	ナガトミヒメムシヒキ	<i>Philonicus nagatomii</i>			●					
714	サキグロムシヒキ	<i>Trichomachimus scutellaris</i>			●					
715	オドリバエ	Syneches属	<i>Syneches sp.</i>		●					
716	アシナガバエ	マダラホソアシナガバエ	<i>Condylostylus nebulosus</i>	●		●				
717		Dolichopus属	<i>Dolichopus sp.</i>		●					
718	ノミバエ	ノミバエ科	<i>Phoridae sp.</i>			●				
719	ホソヒラタアブ	ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>	●	●	●	●			
720	ハナアブ	ハナアブ	ナミホシヒラタアブ		●					
			<i>Eupeodes (Metasyrphus) ferquens</i>							

表 2-5 (10) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種		
						春季	夏季	秋季			
721	ハエ	ハナアブ	ミナミヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria indiana</i>		●					
722			ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>	●	●		●			
723			オオフトバホシヒラタアブ	<i>Syrphus ribesii</i>	●	●					
724			マダラコシボソハナアブ	<i>Baecha maculata</i>			●				
725			Melanostoma属	Melanostoma sp.			●		●		
726			ヨツボシヒラタアブ	<i>Xanthandrus comtus</i>			●				
727			キアシマメヒラタアブ	<i>Paragus (Pandasyphthalmus) haemorrhous</i>			●	●			
728			ムチンシマメヒラタアブ	<i>Paragus (Paragus) crenulatus</i>				●	●		
729			シママメヒラタアブ	<i>Paragus (Paragus) fasciatus</i>	●						
730			シロスジベッコウハナアブ	<i>Volucella pellucens tabanoides</i>	●						
731			スズキベッコウハナアブ	<i>Volucella suzukii</i>				●			
732			ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>				●		●	
733			キョウコシマハナアブ	<i>Eristalis (Eoseristalis) kyokoae</i>	●					●	
734			ナミハナアブ	<i>Eristalis (Eristalis) tenax</i>	●						
735			アシブトハナアブ	<i>Helophilus (Helophilus) virgatus</i>	●	●				●	
736			タカサゴハラブトハナアブ	<i>Mallota takasagensis</i>				●			
737			オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>	●			●	●		
738			ナミルリイロハラナガハナアブ	<i>Xylota amamiensis</i>				●	●		
739			キンアリスアブ	<i>Microdon auricomus</i>				●			
740			アリスアブ	<i>Microdon japonicus</i>				●			
741			フトモモホソバエ	<i>Texara savolaineni</i>				●			
742			ミバエ	ミスジミバエ	<i>Bactrocera scutellatus</i>			●		●	
743				クサギハマダラミバエ	<i>Parahyphenidium polyfasciatum</i>						
744			ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon aenescens</i>				●	●	
745				ヒガシヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon oriens</i>				●	●	
746			ベッコウバエ	ベッコウバエ	<i>Dryomyza formosa</i>					●	
747			シマバエ	シモフリシマバエ	<i>Homoneura euaesta</i>			●			
748				ヒラヤマシマバエ	<i>Homoneura hirayamae</i>	●					
-				Homoneura属	Homoneura sp.					●	●
749				Minettia属	Minettia sp.				●	●	
750				Sapromyza属	Sapromyza sp.				●		
751				Steganopsis属	Steganopsis sp.				●		●
752			ミギワバエ	ホソハマダラミギワバエ	<i>Scatella stagnalis</i>					●	
753			ショウジョウバエ	ダングラショウジョウバエ	<i>Drosophila (Sophophora) annulipes</i>				●		
-				ショウジョウバエ科	Drosophilidae sp.			●	●	●	
754			フンコバエ	フンコバエ科	Sphaeroceridae sp.			●			
755			フンバエ	ヒメフンバエ	<i>Scathophaga stercoraria</i>	●					
756			ハナバエ	Delia属	Delia sp.			●	●		
757			イエバエ	ミドリイエバエ	<i>Neomyia timorensis</i>					●	
758			Phaonia属	Phaonia sp.				●			
759	セマダライエバエ	セマダライエバエ	<i>Graphomya maculata</i>			●					
760	クロバエ	ミドリキンバエ	<i>Lucilia illustris</i>			●	●				
761		ホホグロオビキンバエ	<i>Chrysomya pinguis</i>				●	●			
762		ムナギンクロバエ	<i>Pollenia argenticincta</i>					●			
763		ツマグロキンバエ	<i>Stomoxys obsoleta</i>					●	●		
764	ニクバエ	ゲンロクニクバエ	<i>Sarcophaga (Parasarcophaga) albiceps</i>					●			
765	ヤドリバエ	<i>Euthera tuckeri</i>	<i>Euthera tuckeri</i>			●					
-		ヤドリバエ科	Tachinidae sp.			●					
766	チョウ	ハマキガ	ミダレカクモンハマキ	<i>Archips fuscocupreanus</i>			●				
767			コホソスジハマキ	<i>Argyrotaenia angustilineata</i>			●				
768			トビモンコハマキ	<i>Argyrotaenia congruentana</i>				●			
769			ハリオビヒメハマキ	<i>Cryptaspasma marginifasciata</i>					●	●	
-				ハマキガ科	Tortricidae sp.			●		●	
770		ミノガ	オオミノガ	<i>Eumeta japonica</i>			●				
771			チャミノガ	<i>Eumeta minuscula</i>				●			
772		ヒロズコガ	マダラマルハヒロズコガ	<i>Gaphara conspersa</i>				●			
773		キバガ	カバイロキバガ	<i>Dichomeris picrocarpa</i>			●				
774			イモキバガ	<i>Helcystogramma triannulella macroscopa</i>					●	●	
-				キバガ科	Ceलेchidae sp.				●	●	
775		マダラガ	ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>				●	●		
776			キスジホソマダラ	<i>Artona gracilis gracilis</i>			●				
777		イラガ	テングイラガ	<i>Microleon longipalpis</i>	●			●			
778			イラガ	<i>Monema flavescens</i>	●						
779			ナシイラガ	<i>Narosoides flavidorsalis</i>				●			
780			アカイラガ	<i>Phrixolepia sericea</i>				●			
781		マドガ	マドガ	<i>Thyris usitata</i>				●			
782			チビマダラマドガ	<i>Rhodoneura erecta</i>	●						
783		メイガ	シロモンノメイガ	<i>Bocchoris inspersalis</i>					●		
784			アカウスグロノメイガ	<i>Bradina angustalis pryeri</i>	●						
-				Bradina属	Bradina sp.				●		
785			コブノメイガ	<i>Cnaphalocrocis medinalis</i>						●	
786			モモノゴマダラノメイガ	<i>Conogethes punctiferalis</i>			●				
787			キアヤヒメノメイガ	<i>Diasemia accalis</i>						●	
788			ツシマスカシノメイガ	<i>Glyphodes formosanus</i>			●				
789			スカシノメイガ	<i>Glyphodes pryeri</i>			●				
790			クロズノメイガ	<i>Goniorhynchus exemplaris</i>			●				
791			モンキクロノメイガ	<i>Herpetogramma luctuosalis zelleri</i>				●	●		
792			マメノメイガ	<i>Maruca vitrata</i>						●	
793			ホシオビホソノメイガ	<i>Nomis albopedalis</i>			●				
794			ワモンノメイガ	<i>Nomophila noctuella</i>						●	
795			マエベニノメイガ	<i>Paliga minnehaha</i>			●				
796			マエアカスカシノメイガ	<i>Palpia nigropunctalis</i>			●			●	
797			シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>			●				
798			クロスジノメイガ	<i>Tyspanodes striata</i>				●			
799			クロモンキノメイガ	<i>Udea testacea</i>				●			
800			ウスベニトガリメイガ	<i>Endotricha olivacealis</i>			●				

表 2-5 (11) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種		
						春季	夏季	秋季			
801	チョウ	メイガ	ツマキシマメイガ	<i>Orthopygia placens</i>	●						
-			メイガ科		<i>Pyralidae sp.</i>					●	
802		トリバガ	トリバガ科	<i>Pterophoridae sp.</i>					●		
803	セセリチョウ		ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	●	●	●				
804			コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>	●	●	●				
805			オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida pellucida</i>	●		●				
806			チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>					●		
807			イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>			●	●	●		
808	アゲハチョウ		アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>	●				●		
809			ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	●	●	●	●			
810			モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>			●			●	
811			クロアゲハ	<i>Papilio protenor demetrius</i>	●			●			
812		カラスアゲハ	<i>Papilio bianor dehaanii</i>						●		
813	シロチョウ		モンキチョウ	<i>Colias erate poliocephalus</i>	●				●		
814			キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>	●					●	
815			モンシロチョウ	<i>Pieris (Artogeia) rapae crucivora</i>	●		●	●	●		
816		スジグロシロチョウ	<i>Pieris (Artogeia) melete</i>	●					●		
817	シジミチョウ		ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica japonica</i>	●	●	●				
818			アカシジミ	<i>Japonica lutea lutea</i>			●				
819			ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada hamada</i>						●	
820			ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>	●	●	●	●			
821			ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	●					●	
822			ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>	●					●	
823			ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>			●				
824			ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>	●					●	
825			ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>	●					●
826			テングチョウ	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>			●	●		
827	マダラチョウ	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>						●		
828	タテハチョウ		ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>	●	●	●	●			
829			イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla japonica</i>						●	
830			コムシジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>	●	●	●	●			
831			キタテハ	<i>Polygona c-aureum c-aureum</i>	●	●	●	●			
832			ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>			●				
833			ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>						●	
834			アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>						●	
835			ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>						●	
836			アカボシゴマダラ名義タイプ亜種	<i>Hestina assimilis assimilis</i>	●					●	
837			ジャノメチョウ	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>	●	●	●	●		
838		ジャノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>	●					●		
839		ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>						●		
840		クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>	●					●		
841		サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>			●					
842		ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama fulginia</i>			●	●	●			
843		コジャノメ	<i>Mycalesis francisca perdiccas</i>	●	●	●					
844		クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i>						●		
845	カギバガ		マエキカギバ	<i>Agnidra scabiosa scabiosa</i>	●						
846			ヒトツメカギバ	<i>Auzata superba</i>			●			●	
847			アシベニカギバ	<i>Oreta pulchripes</i>	●						
848	シャクガ		カギシロスジアオシャク	<i>Geometra dieckmanni</i>					●		
849			Idaea属	<i>Idaea sp.</i>			●				
850			マエキヒメシャク	<i>Scopula nigropunctata imbella</i>	●						
-			Scopula属	<i>Scopula sp.</i>			●	●	●		
851			ウスベニスジヒメシャク	<i>Timandra dichela</i>	●						
-			Timandra属	<i>Timandra sp.</i>			●			●	
852			ツマキシロナミシャク	<i>Calleulpe whitelyi leechi</i>			●				
853			ユウマダラエダシャク	<i>Abraxas miranda miranda</i>			●				
854			ナカウスエダシャク	<i>Alcis angulifera</i>	●						
855			ウメエダシャク	<i>Cystidia couaggaria</i>			●				
856			ハスオビエダシャク	<i>Descoreba simplex</i>			●				
857			フタテンオエダシャク	<i>Godonela defixaria</i>					●		
858			ウラベニエダシャク	<i>Heterolocha aristonaria</i>					●		
859			ウスバミスジエダシャク	<i>Hypomecis punctinalis conferenda</i>			●				
860			クロズウスキエダシャク	<i>Lomographa simplicior</i>						●	
861			シタクモエダシャク	<i>Microcalicha sordida</i>			●				
862			ウチムラサキヒメエダシャク	<i>Ninodes splendens</i>			●				
863			ツマキリウスエダシャク	<i>Pareclipsis gracilis</i>	●						
864			ヒロバトガリエダシャク	<i>Planocampa antipala</i>			●				
865			オレクギエダシャク	<i>Protoboarmia simpliciaris</i>	●						
			Protoboarmia属	<i>Protoboarmia sp.</i>			●				
866			ホシミスジエダシャク	<i>Racotis boarmiaria japonica</i>	●						
867			Synegia属	<i>Synegia sp.</i>			●				
868			モンシロツマキリエダシャク	<i>Xerodes albonotaria nesiotis</i>	●						
869			カイコガ	クワコ	<i>Bombyx mandarina</i>			●			
870			ヤママユガ		ウスタビガ	<i>Rhodinia fugax fugax</i>				●	
871					クスサン	<i>Saturnia japonica japonica</i>			●		
872	ヒメヤママユ	<i>Saturnia jonasii jonasii</i>					●				
873	スズメガ		エビガラスズメ	<i>Agrilus convolvuli</i>				●			
874			ホシヒメホウジャク	<i>Neogurelca himachala sangaica</i>					●		
875			セスジスズメ	<i>Theretra oldenlandiae</i>					●		
876	シャチホコガ		オオエグリシャチホコ	<i>Pterostoma sinicum</i>	●						
877			キシャチホコ	<i>Torigea straminea</i>			●				
878	ドクガ		ゴマフリドクガ	<i>Euproctis pulverea</i>	●						
879			モンシロドクガ	<i>Euproctis similis</i>					●		
880			キアシドクガ	<i>Ivela auripes</i>			●				

表 2-5 (12) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度			重要種	
						春季	夏季	秋季		
881	チョウ	ヒトリガ	キシタホソバ	<i>Eilema aegrotata</i>			●			
882			ヨツボシホソバ	<i>Lithosia quadra</i>			●			
883			ベニヘリコケガ	<i>Mitochrista miniata</i>				●		
884			スジベニコケガ	<i>Mitochrista striata striata</i>		●	●			
885			クワゴマダラヒトリ	<i>Lemyra imparilis</i>			●			
886		ヤガ	リンゴコブガ	<i>Evonima mandschuriana</i>				●		
887			クロスジコブガ	<i>Rhynchopalpus fumosa</i>				●		
888			カブラヤガ	<i>Agrotis segetum</i>		●				
889			クロシタキヨトウ	<i>Mythimna placida</i>			●			
890			アヤモクメキリガ	<i>Xylena fumosa</i>			●			
891			ヒメサビスジヨトウ	<i>Athetis stellata</i>			●			
892			アヤナミツマキリヨトウ	<i>Callopietria placodoides</i>			●			
893			コクロモクメヨトウ	<i>Dipterygina japonica</i>		●				
894			チャオビヨトウ	<i>Nipponyx segregata</i>				●		
895			サッポロチャイロヨトウ	<i>Sapporia repetita</i>			●			
896			シロヒシモンコヤガ	<i>Micardia argentata</i>		●				
897			フタホシコヤガ	<i>Micardia pulchra</i>		●	●			
898			ウチジロコヤガ	<i>Neustrotia albicincta</i>		●				
899			アトキスジクルマコヤガ	<i>Oruza mira</i>		●				
900			シロフコヤガ	<i>Protodeltote pygarga</i>			●			
-				Protodeltote属	<i>Protodeltote sp.</i>			●		
901				ミツモンキンウワバ	<i>Ctenoplusia agnata</i>				●	
902				キクキンウワバ	<i>Thysanoplusia intermixta</i>				●	
903				フクラスズメ	<i>Arcte coerulea</i>				●	
904				コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>				●	●
905				ベニシタバ	<i>Catocala electa zalmunna</i>				●	
906				モンシロムラサキクチバ	<i>Ercheia niveostrigata</i>		●			
907				ナカグロクチバ	<i>Grammodes geometrica</i>				●	
908				オオウンモンクチバ	<i>Mocis undata</i>				●	●
909				コウンモンクチバ	<i>Blasticorhinus ussuriensis</i>				●	
910				ニジオビベニアツバ	<i>Homodes vivida</i>		●			
911				ヒメエグリバ	<i>Oraesia emarginata</i>				●	
912				フタコブスジアツバ	<i>Hypena sinuosa</i>					●
913				ナミテンアツバ	<i>Hypena strigatus minna</i>		●			
914				タイワンキシタアツバ	<i>Hypena trigonalis</i>					●
915				ウスキミスジアツバ	<i>Herminia arenosa</i>		●			
916				トビスジアツバ	<i>Herminia tarsicrinalis</i>		●			
917				ヒロオビウスグロアツバ	<i>Hydrillodes morosa</i>			●		
918				ヒゲアトクロアツバ	<i>Nodaria tristis</i>		●			
919			オオアカマエアツバ	<i>Simplicia nippona</i>		●	●			
920			ツマオビアツバ	<i>Zanclognatha griselda</i>				●		
-			ヤガ科	Noctuidae sp.				●	●	
計	20目	208科	920種		369種	375種	407種	310種	26種	

注1 分類、配列などは原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物Ⅱ」(平成5年,平成7年,平成10年、環境庁)に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-1 動物（上小山田）における魚類確認種の一覧を、以下に示す。

表 2-6 魚類認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度				重要種
						春季	夏季	秋季	冬季	
1	コイ	コイ	アブラハヤ	<i>Rhynchocypris lagowskii steindachner</i>		●	●	●	●	●
2		ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	●	●			●	
3			ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	●	●	●	●	●	
計	1目	2科	3種		2種	3種	2種	2種	2種	3種

注 1 分類、配列などは原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 29 年度版生物リスト」（平成 29 年、河川環境データベース）に準拠した。

注 2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

5-1 動物（上小山田）における底生動物確認種の一覧を、以下に示す。

表 2-7 (1) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度				重要種
						春季	夏季	秋季	冬季	
1	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	<i>Dugesia japonica</i>	●	●	●	●		
-			サンカクアタマウズムシ科	Dugesidae sp.	●				●	
2	新生腹足	カワニナ	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	●	●	●	●	●	
3	汎有肺	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ	<i>Fossaria ollula</i>	●	●	●			
4	ナガミミズ	ナガミミズ	ナガミミズ科	Haplotaenidae sp.	●					
5	イトミミズ	ミズミミズ	ユリミミズ	<i>Limnodrilus hoffmeisteri</i>					●	
-			イトミミズ亜科	Tubificinae sp.	●					
-			ミズミミズ科	Naididae sp.		●	●	●	●	
-			イトミミズ目	Tubificida sp.	●					
6	ツリミミズ	ツリミミズ	ツリミミズ科	Lumbricidae sp.		●	●	●		
7		フトミミズ	フトミミズ科	Megascolecidae sp.			●		●	
-			ツリミミズ目	Lumbricida sp.		●		●		
8	ヨコエビ	ハマトビムシ	ニホンオカトビムシ	<i>Platorchestia japonica</i>			●	●		
9	ワラジムシ	ミズムシ(甲)	ミズムシ(甲)	<i>Asellus hilgendorfi hilgendorfi</i>	●	●	●	●		
10	エビ	サワガニ	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	●	●	●	●	●	
11	カゲロウ(緑蜉)	トビロカゲロウ	ヒメトビロカゲロウ	<i>Choroterpes alticolus</i>		●				
12			トビロカゲロウ属	Paraleptophlebia sp.	●	●				
13		モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>	●					
14			モンカゲロウ	<i>Ephemera strigata</i>			●	●		
15		マダラカゲロウ	オオクママダラカゲロウ	<i>Cincticostella elongatula</i>	●				●	
-			トウヨウマダラカゲロウ属	Cincticostella sp.	●				●	
16			アカマダラカゲロウ	<i>Teleganopsis punctisetae</i>		●	●	●	●	
17		ヒメフタオカゲロウ	ヒメフタオカゲロウ属	Ameletus sp.	●					
18		コカゲロウ	ヨシノコカゲロウ	<i>Alainites yoshinensis</i>		●	●	●		
19			サホココカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>			●	●		
20			フタモンココカゲロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>		●	●	●	●	
21			シロハラココカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i>	●	●	●	●	●	
22			ウスイロフトヒゲココカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>		●	●	●		
23			Dココカゲロウ	<i>Nigrobaetis sp. D</i>	●					
24			ウデマカリココカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>			●			
-			ココカゲロウ科	Baetidae sp.	●					
25		ヒラタカゲロウ	シロタニワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>	●		●	●	●	
26	トンボ(蜻蛉)	カワトンボ	ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	●		●	●	●	
-			カワトンボ属	Mnais sp.	●		●	●	●	
27		ヤンマ	ギンヤンマ属	Anax sp.					●	
28			コシボソヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	●	●	●	●	●	
29			ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei milnei</i>	●	●	●	●		
-			ヤンマ科	Aeschnidae sp.	●					
30		サナエトンボ	ヤマサナエ	<i>Astagomphus melaenops</i>	●	●	●	●	●	
-			アジアサナエ属	Astagomphus sp.	●					
31			ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>			●	●		
-			ダビドサナエ属	Davidius sp.			●	●	●	
32			コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>	●					
33			オジロサナエ	<i>Sylogomphus sukuii</i>		●	●	●	●	
-			サナエトンボ科	Gomphidae sp.	●				●	
34		オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotagaster sieboldii</i>	●	●	●	●	●	
35		トンボ	シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>					●	
36	カワゲラ(セキ翅)	ホソカワゲラ	ホソカワゲラ科	Leuctridae sp.	●		●			
37		オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属	<i>Amphinemura sp.</i>			●		●	
38			オナシカワゲラ属	<i>Nemoura sp.</i>	●	●	●	●	●	
39		アミメカワゲラ	クサカワゲラ属	<i>Isoperla sp.</i>	●					
-			アミメカワゲラ科	Perlodidae sp.					●	
40	カメムシ(半翅)	アメンボ	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>			●	●		
41			ヒメアメンボ	<i>Gerris laticostatus</i>		●				
42			コセアカアメンボ	<i>Gerris gracilicornis</i>		●	●			
43			ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>		●	●	●		
-			ヒメアメンボ属	Gerris sp.	●					
44			シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	●	●	●	●	●	
45		カタビロアメンボ	ゲシカタビロアメンボ属	<i>Microvelia sp.</i>			●			
46	ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヤマトクロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes japonicus</i>	●	●	●	●		
47			ヘビトンボ	<i>Prothermes grandis</i>	●	●	●	●		
48		センブリ	センブリ属	<i>Sialis sp.</i>			●	●	●	
49	トビケラ(毛翅)	シマトビケラ	ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche infascia</i>		●	●	●	●	
-			コガタシマトビケラ属	Cheumatopsyche sp.	●				●	
50			ミヤマシマトビケラ属	<i>Diplectrona sp.</i>			●	●	●	
51			ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>			●	●		
-			シマトビケラ属	Hydropsyche sp.					●	
52			エチゴシマトビケラ	<i>Potamyia chinensis</i>		●				
53		クダトビケラ	クダトビケラ属	<i>Psychomyia sp.</i>				●		
54			ホソクダトビケラ属	<i>Tinodes sp.</i>			●		●	
55		ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>			●			
56		ヒメトビケラ	ヒメトビケラ属	<i>Hydroptila sp.</i>		●		●		
57		ナガレトビケラ	ヒロアタマナガレトビケラ	<i>Rhyacophila brevicephala</i>					●	
58		コエグリトビケラ	コエグリトビケラ属	<i>Apatania sp.</i>		●	●	●	●	
59		ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>			●	●		
60		カクツツトビケラ	カクツツトビケラ属	<i>Lepidostoma sp.</i>	●	●	●	●	●	

表 2-7 (2) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	評価書	2020年度				重要種		
						春季	夏季	秋季	冬季			
61	トビケラ(毛翅)	ヒゲナガトビケラ	アオヒゲナガトビケラ属	<i>Mystacides</i> sp.			●	●	●			
62			クサツミトビケラ属	<i>Oecetis</i> sp.					●			
63		エグリトビケラ	ホタルトビケラ	<i>Nothopsyche ruficollis</i>		●						
64		マルバネトビケラ	マルバネトビケラ属	<i>Phryganopsyche</i> sp.	●	●	●	●	●			
65	ハエ(双翅)	ヒメガガンボ	トウヨウグマガトビケラ	<i>Gumaga orientalis</i>			●		●			
66			オビヒメガガンボ	ホソオビヒメガガンボ属	<i>Dicranota</i> sp.	●	●	●	●	●		
67			ヒメガガンボ	ウスバガガンボ属	<i>Antocha</i> sp.			●				
68			ヒゲナガガガンボ属	<i>Hexatoma</i> sp.	●							
69			カスリヒメガガンボ属	<i>Limnophila</i> sp.			●	●	●			
70			モロフィルス属	<i>Molophilus</i> sp.		●						
-			ヒメガガンボ科	Limoniidae sp.	●							
71			ガガンボ	ガガンボ属	<i>Tipula</i> sp.	●	●	●	●	●		
72			スカカ	スカカ科	Ceratopogonidae sp.			●				
73			ユスリカ	ユスリカ	ケブカエリユスリカ属	<i>Brillia</i> sp.	●	●				
74					トゲアシエリユスリカ属	<i>Chaetocladius</i> sp.	●					
75	トラフユスリカ属	<i>Conchapelopia</i> sp.			●							
76	コナユスリカ属	<i>Corynoneura</i> sp.				●						
77	カマガタユスリカ属	<i>Cryptochironomus</i> sp.					●	●				
78	スジカマガタユスリカ属	<i>Demicyptochironomus</i> sp.					●					
79	ボカシヌマユスリカ属	<i>Macropelopia</i> sp.				●	●	●	●			
80	ナガスネユスリカ属	<i>Micropsectra</i> sp.			●							
81	ホソケブカエリユスリカ属	<i>Neobrillia</i> sp.			●							
82	ニセトゲアシエリユスリカ属	<i>Parachaetocladius</i> sp.								●		
83	ニセケバネエリユスリカ属	<i>Parametrioctenemus</i> sp.			●			●	●			
84	カワリユスリカ属	<i>Paratendipes</i> sp.					●					
85	ハモンユスリカ属	<i>Polypedium</i> sp.			●	●	●	●				
86	ニセエリユスリカ属	<i>Pseudorthocladius</i> sp.			●							
87	ウスギヌヒメユスリカ属	<i>Rheopelopia</i> sp.					●	●	●			
88	ナガレユスリカ属	<i>Rheotanytarsus</i> sp.			●	●	●	●	●			
89	アシマダラユスリカ属	<i>Stictochironomus</i> sp.				●				●		
90	ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus</i> sp.			●	●	●	●				
91	ニセテンマクエリユスリカ属	<i>Tvetenia</i> sp.				●	●					
-	ヤマトヒメユスリカ族	<i>Pentaneurini</i> sp.			●							
-	モンユスリカ亜科	<i>Tanypodinae</i> sp.			●							
-	ユスリカ科	<i>Chironomidae</i> sp.			●	●	●	●	●			
92	ホソカ	ニッポンホソカ			<i>Dixa nipponica</i>		●	●	●	●		
93	ブユ	ブユ			ウチダナガグツブユ	<i>Eusimulium uchidai</i>		●	●	●	●	
-					ツノマユブユ属	<i>Eusimulium</i> sp.	●	●	●	●	●	
94					アシマダラブユ属	<i>Simulium</i> sp.	●					
-		ブユ科			<i>Simuliidae</i> sp.	●						
95	ナガレアブ	ナガレアブ			コモンナガレアブ	<i>Atrichops morimotoi</i>		●				
-					ナガレアブ科	<i>Athericidae</i> sp.		●		●	●	
96	アブ	アブ科			<i>Tabanidae</i> sp.		●					
97	オドリバエ	オドリバエ			カマオドリバエ属	<i>Chelifera</i> sp.			●	●		
-					オドリバエ科	<i>Empididae</i> sp.	●					
98	コウチュウ(鞘翅)	コウチュウ	ホソセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus weymarni</i>		●						
99			ガムシ	ヒメガムシ	<i>Stenolophus rufipes</i>		●				●	
100			ナガハナノミ	エダヒゲナガハナノミ属	<i>Epilichas</i> sp.		●	●	●			
101			ホタル	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>	●	●	●	●	●		
計	17目	54科	101種		48種	52種	64種	58種	48種	6種		

注1 分類、配列などは原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度版生物リスト」(平成29年、河川環境データベース)に準拠した。

注2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

3 植物

5-2 植物（上小山田）における植物確認種の一覧を、以下に示す。

表 3-1 (1) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春季	春季	夏季	秋季	
1	イワヒバ科	クラマゴケ	<i>Selaginella remotifolia</i>			●			●	
2	トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	●	●	●	●	●		
3		イヌドクサ	<i>Equisetum ramosissimum</i>	●						
4	ハナヤスリ科	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>	●		●			●	
5		フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i>	●	●				●	
6		ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i>		●	●				●
7	ゼンマイ科	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>	●	●	●	●	●		
8	フサシダ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>	●	●	●	●	●		
9	コバノイシカグマ科	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>	●	●	●	●	●		
10		フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>	●	●	●	●	●		
11		ケブカフモトシダ	<i>Microlepia marginata</i> var. <i>bipinnata</i> f. <i>yakusimensis</i>					●		
12		ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i>	●		●	●	●		
13	ミズワラビ科	イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>	●	●	●				
14		タチシノブ	<i>Onychium japonicum</i>	●	●	●	●			
15	イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>	●	●	●	●	●		
16		イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	●	●	●	●	●		
17	チャセンシダ科	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>	●	●	●	●	●		
18		コバノヒノキシダ	<i>Asplenium sarelii</i>					●		
19	オシダ科	リュウメンシダ	<i>Arachniodes standishii</i>	●	●	●	●	●		
20		オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	●	●	●	●	●		
21		ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i>	●	●	●	●	●		
22		テリハヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> f. <i>laetevirens</i>	●	●	●	●	●		
23		ヤマヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>clivicola</i>	●	●	●	●	●		
24		ミサキカグマ	<i>Dryopteris chinensis</i>	●			●	●		
25		オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i>	●	●					
26		ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	●	●	●	●	●		
27		トウゴクシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i> var. <i>dilatata</i>	●		●	●	●		●
28		オオベニシダ	<i>Dryopteris hondoensis</i>	●	●	●	●	●		
29		クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>	●	●	●	●	●		
30		ホクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>	●	●	●	●	●		
31		オオイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i> var. <i>hikonensis</i>	●	●	●	●	●		
32		ヤマイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i> var. <i>setosa</i>	●	●	●	●	●		
33		アイノコクマワラビ	<i>Dryopteris x mituii</i>	●		●	●	●		
34		ナンゴクナライシダ	<i>Leptorompha miqueliana</i> subsp. <i>fimbriata</i> var. <i>narawensis</i>		●					●
35		アスカイノデ	<i>Polystichum fibrilloso-paleaceum</i>	●	●	●	●	●		●
36		アイアスカイノデ	<i>Polystichum longifrons</i>	●	●	●	●	●		
37		イノデ	<i>Polystichum polyblepharum</i>	●	●	●	●	●		
38		イノデモドキ	<i>Polystichum tagawanum</i>			●				
39	ヒメシダ科	ホシダ	<i>Cyclogramma acuminatus</i>	●	●	●	●	●		
40		ガジゲシダ	<i>Phegopteris decursive-pinnata</i>	●	●	●	●	●		
41		ミソシダ	<i>Stegogramma pozoi</i> subsp. <i>mollissimu</i>	●	●	●	●	●		
42		ハンゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>			●	●	●		
43		ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>	●		●	●	●		
44		ヤウラシダ	<i>Thelypteris laxa</i>	●		●	●	●		
45		ヒメシダ	<i>Thelypteris palustris</i>	●		●	●	●		
46		ヒメワラビ	<i>Thelypteris torresiana</i> var. <i>calvata</i>			●	●	●		
47		ミドリヒメワラビ	<i>Thelypteris viridifrons</i>	●		●	●	●		
48	メシダ科	イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>	●	●	●	●	●		
49		ヤマイヌワラビ	<i>Athyrium vidalii</i>	●		●	●	●		
50		ヘビノネゴザ	<i>Athyrium yokoscense</i>	●		●	●	●		
51		ホソバシケシダ	<i>Deparia conilii</i>	●		●	●	●		
52		セイタカシケシダ	<i>Deparia dimorphophylla</i>			●	●	●		●
53		シケシダ	<i>Deparia japonica</i>	●		●	●	●		
54		キヨタキシダ	<i>Diplazium squamigerum</i>	●		●				
55		クサソテツ	<i>Matteuccia struthiopteris</i>	●	●	●	●	●		
56		コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>	●		●	●	●		
57	ウラボシ科	ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	●	●	●	●	●		
58	イチョウ科	イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i>					●		
59	マツ科	モミ	<i>Abies firma</i>	●	●	●	●	●		
60		アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	●	●	●	●	●		
61	スギ科	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	●	●	●	●	●		
62	ヒノキ科	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	●	●	●	●	●		
63		サウラ	<i>Chamaecyparis pisifera</i>	●	●	●	●	●		
64	マキ科	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>	●		●	●	●		
65	イヌガヤ科	イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	●	●	●	●	●		
66	クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i>	●	●	●	●	●		
67	ヤナギ科	セイヨウハコヤナギ	<i>Populus nigra</i> var. <i>italica</i>	●						
68		バッコヤナギ	<i>Salix bakko</i>				●			
69		イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>	●	●	●	●			
70		オノエヤナギ	<i>Salix sachalinensis</i>	●						
71		タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i>	●	●	●	●			

表 3-1 (2) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春	春季	夏季	秋季	
72	カバノキ科	ヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta</i> var. <i>sibirica</i>	●		●	●	●		
73		クマシデ	<i>Carpinus japonica</i>	●	●	●	●	●		
74		アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>	●		●	●	●		
75		イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	●	●	●	●	●		
76	ブナ科	クリ	<i>Castanea crenata</i>	●		●	●	●		
77		スダジイ	<i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i>	●			●			
78		クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	●	●	●	●	●		
79		アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	●	●	●	●	●		
80		シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	●	●	●	●	●		
81		ウラジロガシ	<i>Quercus salicina</i>	●			●	●		
82		コナラ	<i>Quercus serrata</i>	●	●	●	●	●		
83	ニレ科	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	●		●	●	●		
84		エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	●	●	●	●	●		
85		ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	●	●	●	●	●		
86	クワ科	ヒメコウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i>	●		●	●	●		
87		クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>	●			●	●		
88		カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>	●	●	●	●	●		
89		トウグワ	<i>Morus alba</i>	●						
90		ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	●	●	●	●			
91	イラクサ科	クサコアカソ	<i>Boehmeria gracilis</i>	●						
92		ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>	●		●	●	●		
93		クサマオ	<i>Boehmeria nivea</i> subsp. <i>nipponnivea</i>	●	●	●	●	●		
94		メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>	●			●	●		
95		コアカソ	<i>Boehmeria spicata</i>	●		●	●	●		
96		ミズ	<i>Pilea hamaoi</i>	●					●	●
97		アオミズ	<i>Pilea pumila</i>	●			●	●	●	
98	ビャクダン科	カナビキノソウ	<i>Thesium chinense</i>	●		●	●	●		
99	タデ科	ミズヒキ	<i>Antenoron filiforme</i>	●		●	●	●		
100		シンミズヒキ	<i>Antenoron neo-filiforme</i>	●		●	●	●		
101		ジャクチリソバ	<i>Fagopyrum cymosum</i>	●			●			
102		ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>	●			●			
103		ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>	●		●			●	
104		オオイスタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i>	●			●	●	●	
105		イスタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	●		●		●	●	
106		ヤノネグサ	<i>Persicaria nipponensis</i>	●					●	
107		イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i>	●					●	
108		ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i> var. <i>laxiflora</i>	●		●	●	●	●	
109		ボントクタデ	<i>Persicaria pubescens</i>	●					●	
110		ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria senticosa</i>	●		●	●	●	●	
111		アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sieboldii</i>	●			●	●	●	
112		ミソソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>	●		●	●	●	●	
113		ハルタデ	<i>Persicaria vulgaris</i>	●		●	●	●	●	
114		ツルドクダミ	<i>Pleuropterus multiflorus</i>	●			●			
115		ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i>	●			●			
116		イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	●	●	●	●	●	●	
117		スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	●	●	●	●	●	●	
118		アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>	●	●	●	●	●	●	
119		ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>	●	●	●	●	●	●	
120	ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>	●							
121		<i>Rumex obtusifolius</i>	●	●	●	●	●	●		
122	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>	●		●	●	●		
123	オシロイバナ科	オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i>	●			●	●		
124	ザクロソウ科	ザクロソウ	<i>Mollugo pentaphylla</i>	●			●	●		
125		クルマバザクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>	●					●	
126	スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	●		●	●	●		
127		ケツメクサ	<i>Portulaca pilosa</i>	●			●	●		
128		ハゼラン	<i>Talinum crassifolium</i>	●			●	●		
129	ナデシコ科	ノミノツツリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i>	●	●	●	●	●		
130		オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	●	●	●				
131		ミミナグサ	<i>Cerastium holosteoides</i> var. <i>angustifolium</i>	●	●	●				
132		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	●	●	●	●	●		
133		アライトツメクサ	<i>Sagina procumbens</i>	●						
134		ムシトリナデシコ	<i>Silene armeria</i>	●	●	●				
135		シロバナマンデマ	<i>Silene gallica</i>	●		●	●	●		
136		ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>	●	●	●	●	●		
137		ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	●	●	●	●	●	●	
138		コハコベ	<i>Stellaria media</i>	●	●	●	●	●		
139			ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>	●	●				
140		イヌコハコベ	<i>Stellaria pallida</i>	●	●					

表 3-1 (3) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種	
				全体	早春季	春季	夏季	秋季			
141	アカザ科	シロザ	<i>Chenopodium album</i>	●		●	●	●			
142		アリタソウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i> var. <i>anthelminticum</i>	●		●	●	●			
143		コアカザ	<i>Chenopodium ficifolium</i>	●		●	●	●			
144		ゴウシュウアリタソウ	<i>Chenopodium pumilio</i>	●		●	●	●			
145	ヒユ科	ヒカゲイノコズチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>	●		●	●	●			
146		ヒナタイノコズチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>	●		●	●	●			
147		イヌビユ	<i>Amaranthus lividus</i>	●		●	●	●			
148		ホソアオグイトウ	<i>Amaranthus patulus</i>	●			●	●			
149		アオビユ	<i>Amaranthus viridis</i>	●				●	●		
150	モクレン科	ホオノキ	<i>Magnolia hypoleuca</i>	●	●	●	●	●			
151		コブシ	<i>Magnolia praecocissima</i>	●		●	●	●			
152	マツブサ科	サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>	●	●	●	●	●			
153	クスノキ科	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	●	●	●	●	●			
154		ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>	●	●	●	●	●			
155		ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>	●		●	●	●			
156		クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>	●	●	●	●	●			
157		タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>	●		●	●	●			
158		シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	●	●	●	●	●			
159		アブラチャン	<i>Parabenzoin praecox</i>	●							
160		フサザクラ科	フサザクラ	<i>Euptelea polyandra</i>	●		●		●		
161	キンボウゲ科	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>		●						
162		イチリンソウ	<i>Anemone nikoensis</i>		●						
163		ヒメウス	<i>Aquilegia adoxoides</i>			●					
164		イヌショウマ	<i>Cimicifuga japonica</i>	●		●	●	●			
165		サラシナショウマ	<i>Cimicifuga simplex</i>	●	●	●	●	●			
166		ボタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i>	●			●	●			
167		コボタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>bitermata</i>	●		●		●			
168		ハンショウヅル	<i>Clematis japonica</i>	●	●	●	●	●			
169		センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	●	●	●	●	●			
170		シロバナハンショウヅル	<i>Clematis williamsii</i>						●		
171		セリバヒエンソウ	<i>Delphinium anthriscifolium</i>	●	●	●					
172		ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>	●	●	●	●	●			
173		タガラシ	<i>Ranunculus sceleratus</i>	●							
174		キツネノボタン	<i>Ranunculus silerifolius</i>	●			●				
175		アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>	●	●	●	●	●			
176	メギ科	メギ	<i>Berberis thunbergii</i>	●		●	●	●			
177		ヒイラギナンテン	<i>Mahonia japonica</i>	●	●	●	●	●			
178		ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	●		●	●	●			
179	アケビ科	ゴヨウアケビ	<i>Akebia pentaphylla</i>	●			●				
180		アケビ	<i>Akebia quinata</i>	●	●	●	●	●			
181		ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	●	●	●	●	●			
182		ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>	●			●				
183		ツツラフジ科	アオツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	●	●	●	●	●		
184	ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	●	●	●	●	●			
185	センリョウ科	ヒトリシズカ	<i>Chloranthus japonicus</i>	●		●	●	●			
186		フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>	●		●		●			
187		センリョウ	<i>Sarcandra glaber</i>	●	●		●	●			
188		ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i>	●						
189		タマノカンアオイ	<i>Heterotropa tamaensis</i>	●	●	●	●	●	●		
190	マタタビ科	サルナシ	<i>Actinidia arguta</i>	●			●				
191		キウイフルーツ	<i>Actinidia deliciosa</i>	●		●		●			
192	ツバキ科	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	●		●					
193		ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	●	●	●	●	●			
194		モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	●					●		
195		チャノキ	<i>Thea sinensis</i>	●	●		●	●			
196	オトギリソウ科	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>	●							
197		コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>	●							
198	ケシ科	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>	●	●	●					
199		タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>	●	●	●	●	●			
200		ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>	●		●					
201	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ	<i>Cleome spinosa</i>				●				
202	アブラナ科	セイヨウカラシナ	<i>Brassica juncea</i>	●	●						
203		ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>	●	●	●	●				
204		タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>	●	●			●			
205		ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>	●	●						
206		マメグンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>	●		●	●	●			
207		オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>	●	●	●	●	●			
208		ハナダイコン	<i>Orychophragmus violaceus</i>	●	●	●		●			
209		イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	●		●	●	●			
210		スカシタゴボウ	<i>Rorippa islandica</i>						●		
211		ヒメスガラシ	<i>Rorippa x brachyceras</i>	●							
212			カキネガラシ	<i>Sisymbrium officinale</i>		●	●				

表 3-1 (4) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春季	春季	夏季	秋季	
213	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	●	●	●		●		
214		マルバマンネングサ	<i>Sedum makinoi</i>				●	●		
215		ソルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i>	●	●	●	●			
216		ヨコハママンネングサ	<i>Sedum sp.</i>				●			
217		アズツメクサ	<i>Tillaea aquatica</i>	●					●	
218	ユキノシタ科	チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>	●		●			●	
219		ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	●	●	●	●	●		
220		マルバウツギ	<i>Deutzia scabra</i>	●		●	●	●		
221		タマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i>	●		●	●	●		
222		タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	●					●	
223		ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>	●	●		●	●		
224		イワガラミ	<i>Schizopragma hydrangeoides</i>	●						
225	バラ科	キンミズヒキ	<i>Agrimonia japonica</i>	●	●	●	●	●		
226		ヒメキンミズヒキ	<i>Agrimonia nipponica</i>	●						
227		クサボケ	<i>Chaenomeles japonica</i>	●	●	●	●	●		
228		ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>	●	●	●	●	●		
229		ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>	●	●	●	●	●		
230		ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	●			●			
231		ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	●		●	●	●		
232		キジムシロ	<i>Potentilla fragarioides</i> var. <i>major</i>	●	●	●				
233		ミツバツチグリ	<i>Potentilla freyniana</i>	●	●	●	●	●		
234		カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	●	●	●	●	●		
235		イヌザクラ	<i>Prunus buergeriana</i>	●	●	●	●	●		
236		ウワミズザクラ	<i>Prunus grarana</i>	●	●	●	●	●		
237		ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>	●	●	●	●	●		
238		シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis umbellata</i>	●	●					
239		アズマイバラ	<i>Rosa luciae</i>	●	●	●	●	●		
240		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>	●	●	●	●	●		
241		テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>	●	●	●	●	●		
242		クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>	●	●	●	●	●		
243		ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>	●	●	●	●	●		
244		モミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>coptophyllus</i>	●	●	●	●	●		
245		ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	●	●	●	●	●		
246		カジイチゴ	<i>Rubus trifidus</i>	●				●		
247		ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	●	●	●	●	●		
248		シモツケ	<i>Spiraea japonica</i>	●		●	●			
249		コゴメウツギ	<i>Stephanandra incisa</i>	●	●	●	●	●		
250	マメ科	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	●		●	●	●		
251		イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>	●			●			
252		ヤブマメ	<i>Amphicarpaea bracteata</i> subsp. <i>edgeworthii</i> var. <i>japonica</i>	●		●	●	●		
253		カワラケツメイ	<i>Cassia mimosoides</i> subsp. <i>nomame</i>	●	●	●	●	●	●	
254		フジカンゾウ	<i>Desmodium oldhamii</i>	●		●	●	●		
255		アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	●		●	●	●		
256		ケヤブハギ	<i>Desmodium podocarpium</i> subsp. <i>fallax</i>	●		●	●	●		
257		ヌスビトハギ	<i>Desmodium podocarpium</i> subsp. <i>oxyphyllum</i>	●			●	●		
258		ヤブハギ	<i>Desmodium podocarpium</i> subsp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>mandshuricum</i>	●		●	●	●		
259		ノササグ	<i>Dumasia truncata</i>	●		●	●	●		
260		ソルマメ	<i>Glycine max</i> subsp. <i>soja</i>	●			●	●		
261		コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	●		●	●	●		
262		マルバヤハズソウ	<i>Kummerowia stipulacea</i>	●			●	●		
263		ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>	●			●	●		
264		ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>	●			●	●		
265		キハギ	<i>Lespedeza buergeri</i>	●		●	●	●		
266		メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>	●		●	●	●		
267		マルバハギ	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>	●				●		
268		ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i>	●		●	●	●		
269		ミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> var. <i>japonicus</i>	●			●			
270		クズ	<i>Pueraria lobata</i>	●	●	●	●	●		
271		オオバタンキリマメ	<i>Rhynchosia acuminatifolia</i>	●		●	●	●		
272		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	●	●	●	●	●		
273		クララ	<i>Sophora flavescens</i>	●		●	●	●		
274		クスダマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>	●		●	●			
275		コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>	●	●	●	●			
276		ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>	●	●	●	●	●		
277		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	●	●	●	●	●		
278		ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia</i>	●	●	●				
279		スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>	●	●					
280		カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>	●	●	●				
281		ナンテンハギ	<i>Vicia unijuga</i>	●		●				
282		ヤブツルアズキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>	●			●	●		
283		フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	●		●	●	●		

表 3-1 (5) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
				全体	早春季	春季	夏季	秋季		
284	カタバミ科	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>				●			
285		カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	●	●	●	●	●		
286		アカカタバミ	<i>Oxalis corniculata f. rubrifolia</i>	●		●	●	●		
287		ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>	●		●	●	●		
288		オッタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>	●	●	●	●	●		
289	フウソウ科	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>	●	●	●	●	●		
290		ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	●		●	●	●		
291	トウダイグサ科	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>	●			●	●		
292		トウダイグサ	<i>Euphorbia helioscopia</i>		●	●				
293		オオニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>	●		●	●	●		
294		アレチニシキソウ	<i>Euphorbia sp.</i>					●		
295		コニシキソウ	<i>Euphorbia supina</i>	●		●	●	●		
296		アカメガシワ	<i>Mollotus japonicus</i>	●	●	●	●	●		
297		ヒメミカンソウ	<i>Phyllanthus matsumurae</i>				●	●		
298		ナガエコミカンソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i>				●	●		
299		コミカンソウ	<i>Phyllanthus urinaria</i>	●			●	●		
300		ナンキンハゼ	<i>Sapium sebiferum</i>				●	●		
301	ユズリハ科	ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i>	●		●				
302	ミカン科	カラズザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>	●		●	●	●		
303		サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	●	●	●	●	●		
304		イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i>	●		●	●	●		
305	ニガキ科	シソジュ	<i>Ailanthus altissima</i>	●			●	●		
306		ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>			●	●	●		
307	センダン科	センダン	<i>Melia azedarach</i>			●	●	●		
308	ヒメハギ科	ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>			●				
309	ウルシ科	ツタウルシ	<i>Rhus ambigua</i>	●						
310		ヌルデ	<i>Rhus javanica var. roxburgii</i>	●		●	●	●		
311	カエデ科	ウラゲエンコウカエデ	<i>Acer mono f. connivens</i>	●	●	●	●	●		
312		エンコウカエデ	<i>Acer mono f. marmoratum</i>	●				●		
313		イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	●			●	●		
314	ムクロジ科	フウセンカズラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i>					●		
315	アワブキ科	アワブキ	<i>Meliosma myriantha</i>	●	●	●	●	●		
316	ツリフネソウ科	キツリフネ	<i>Impatiens noli-tangere</i>	●		●				
317	モチノキ科	イヌツグ	<i>Ilex crenata</i>	●	●	●	●	●		
318		モチノキ	<i>Ilex integra</i>	●	●					
319		アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	●		●				
320		クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>					●		
321		ウメモドキ	<i>Ilex serrata</i>				●			
322	ニシキギ科	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i>	●	●	●	●	●		
323		オニツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus var. papillosus</i>	●						
324		コマユミ	<i>Euonymus alatus f. ciliato-dentatus</i>	●		●	●	●		
325		ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei var. radicans</i>	●						
326		マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	●		●				
327		ツリバナ	<i>Euonymus oxyphyllus</i>	●	●		●	●		
328		マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	●	●	●	●	●		
329	ミツバウツギ科	ゴンズイ	<i>Euscaphis japonica</i>	●		●	●	●		
330		ミツバウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>	●		●				
331	クロウメモドキ科	クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>	●	●	●	●	●		
332	ブドウ科	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa var. heterophylla</i>	●		●	●	●		
333		ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>	●	●	●	●	●		
334		ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	●	●	●	●	●		
335		エビヅル	<i>Vitis ficifolia var. lobata</i>	●		●	●	●		
336		サンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i>							
337	シナノキ科	カラスノゴマ	<i>Corchoropsis tomentosa</i>	●					●	
338	グミ科	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	●	●	●	●	●		
339		ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>			●	●			
340	イイギリ科	イイギリ	<i>Idesia polycarpa</i>	●			●	●		
341	スミレ科	ナガバノスミレサイシン	<i>Viola bissetii</i>	●	●	●	●	●		
342		タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i>	●	●	●	●	●		
343		アオイスミレ	<i>Viola hondoensis</i>	●	●	●	●	●		
344		ケマルバスミレ	<i>Viola keiskei f. okuboii</i>	●	●	●	●	●		
345		スミレ	<i>Viola mandshurica</i>	●	●				●	
346		ヒメスミレ	<i>Viola minor</i>		●	●			●	
347		ニオイタチツボスミレ	<i>Viola obtusa</i>	●						
348		アカネスミレ	<i>Viola phalacrocarpa</i>	●	●					
349		オカスミレ	<i>Viola phalacrocarpa f. glaberrima</i>		●					
350		アメリカスミレサイシン	<i>Viola sororia</i>	●	●	●			●	
351		ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i>	●	●	●			●	
352		アギスミレ	<i>Viola verecunda var. semilunaris</i>	●						

表 3-1 (6) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春季	春季	夏季	秋季	
353	キブシ科	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>	●	●	●	●	●		
354	ウリ科	アマチャヅル	<i>Gnostemma pentaphyllum</i>	●	●	●	●	●		
355		スズメウリ	<i>Melothria japonica</i>	●				●		
356		アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	●			●	●		
357		カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	●		●	●	●		
358	アカバナ科	アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>	●						
359		チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i>	●			●	●		
360		メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	●	●	●	●	●		
361		オオマツヨイグサ	<i>Oenothera erythrosepala</i>	●			●			
362		コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	●	●	●	●	●		
363		ユウゲシヨウ	<i>Oenothera rosea</i>	●	●	●	●	●		
364		マツヨイグサ	<i>Oenothera striata</i>	●	●		●			
365	ウリノキ科	ウリノキ	<i>Alangium platanifolium</i> var. <i>trilobum</i>	●			●			
366	ミズキ科	アオキ	<i>Acuba japonica</i>	●	●	●	●	●		
367		ミズキ	<i>Cornus controversa</i>	●	●	●	●	●		
368		クマノミズキ	<i>Cornus macrophylla</i>	●	●	●	●	●		
369		ハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i>	●	●	●	●	●		
370	ウコギ科	ヤマウコギ	<i>Acanthopanax spinosus</i>	●		●	●	●		
371		ウド	<i>Aralia cordata</i>	●		●	●	●		
372		タラノキ	<i>Aralia elata</i>	●	●	●	●	●		
373		カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>	●	●					
374		ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	●	●	●	●	●		
375		キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	●	●	●	●	●		
376		ハリギリ	<i>Kalopanax pictus</i>	●	●	●	●	●		
377	セリ科	シシウド	<i>Angelica pubescens</i>	●		●	●	●		
378		ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>	●	●	●	●	●		
379		ノチドメ	<i>Hydrocotyle maritima</i>	●			●			
380		オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	●		●	●	●		
381		チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	●		●	●	●		
382		セリ	<i>Oenanthe javanica</i>	●	●	●	●	●		
383		ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i>	●	●	●	●			
384		ヤマゼリ	<i>Ostericum sieboldii</i>	●						
385		ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>	●		●	●			
386		ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>	●						
387		オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>	●	●	●	●			
388	イチヤクソウ科	ウメガサソウ	<i>Chimaphila japonica</i>	●	●	●			●	
389		イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i>	●		●				
390	ツツジ科	ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i>	●						
391		ヤマツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>kaempferi</i>	●	●	●		●		
392		ナツハゼ	<i>Vaccinium oldhamii</i>	●						
393	ヤブコウジ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	●	●	●	●	●		
394		カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i>	●	●	●		●		
395		ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>	●	●	●	●	●		
396	サクラソウ科	オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>	●		●	●	●		
397		コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>	●		●	●	●		
398	カキノキ科	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	●		●	●	●		
399	エゴノキ科	エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>	●	●	●	●	●		
400	ハイノキ科	サワフタギ	<i>Symplocos chinensis</i> var. <i>leucocarpa</i> f. <i>pilosa</i>	●		●		●		
401	モクセイ科	ヤマトアオダモ	<i>Fraxinus longicuspis</i>	●			●	●		
402		マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>	●						
403		ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	●	●	●	●	●		
404		トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	●	●	●	●	●		
405		イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	●	●	●	●	●		
406		ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	●		●		●		
407	キョウチクトウ科	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> f. <i>intermedium</i>	●	●	●	●	●		
408		ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>	●	●	●	●	●		
409	ガガイモ科	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>	●		●	●	●		
410		オオカモメツル	<i>Tylophora aristolochioides</i>	●		●				
411	アカネ科	シラホシムグラ	<i>Galium aparine</i>	●		●				
412		ヒメヨツバムグラ	<i>Galium gracilens</i>	●		●	●	●		
413		ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	●	●	●				
414		ハンカグサ	<i>Hedyotis lindleyana</i> var. <i>hirsuta</i>	●						
415		ヤイトバナ	<i>Paederia scandens</i>	●		●	●	●		
416		アカネ	<i>Rubia argyi</i>	●	●	●	●	●		
417		ハナヤエムグラ	<i>Sherardia arvensis</i>	●	●	●	●	●		

表 3-1 (7) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春季	春季	夏季	秋季	
418	ヒルガオ科	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>	●		●	●	●		
419		ヒルガオ	<i>Calystegia japonica</i>	●		●	●	●		
420		ネナシカズラ	<i>Cuscuta japonica</i>	●				●		
421		アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>				●			
422		マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>	●			●	●		
423		マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>					●	●	
424		アサガオ	<i>Ipomoea nil</i>						●	
425		マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i>				●	●		
426		ルコウソウ	<i>Ipomoea quamoclit</i>					●	●	
427		ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>	●	●	●	●	●	
428	ヤマドリソウ		<i>Omphalodes japonica</i>		●	●	●	●		
429	コンフリー		<i>Symphytum x uplandicum</i>	●			●			
430	キュウリグサ		<i>Trigonotis peduncularis</i>	●	●	●	●	●		
431	クマツヅラ科	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>			●				
432		ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	●		●	●	●		
433		ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	●		●	●	●		
434		クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	●		●	●	●		
435		ヒメイワダレソウ	<i>Lippia canescens</i>				●			
436		ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>			●				
437		アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>	●						
438	シソ科	キラソウ	<i>Ajuga decumbens</i>	●	●	●	●	●		
439		ジュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>	●	●	●				
440		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	●			●	●		
441		イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i>					●		
442		カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>	●	●	●	●	●		
443		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	●	●	●	●			
444		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>	●	●			●		
445		ハッカ	<i>Mentha arvensis</i> var. <i>piperascens</i>				●			
446		マルバハッカ	<i>Mentha rotundifolia</i>			●			●	
447		オランダハッカ	<i>Mentha spicata</i>		●					
448		ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>	●						
449		イヌコウジュ	<i>Mosla punctulata</i>	●			●	●		
450		シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>acuta</i>	●						
451		アオジソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>viridis</i>						●	
452		アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>	●		●	●	●		
453		キバナアキギリ	<i>Salvia nipponica</i>	●	●	●	●	●		
454		ミソコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>	●					●	
455		オカタツナミソウ	<i>Scutellaria brachyspica</i>	●		●	●	●	●	
456	タツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i>			●	●	●			
457	ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>			●					
458	ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>			●					
459	ナス科	クコ	<i>Lycium chinense</i>	●	●	●		●		
460		オオセンナリ	<i>Nicandra physalodes</i>				●			
461		ホオズキ	<i>Physalis alkekengi</i> var. <i>franchetii</i>					●		
462		ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>	●		●	●	●		
463		ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	●	●		●	●		
464		イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	●				●		
465		アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptycanthum</i>	●			●	●		
466	ゴマノハグサ科	ツタバウンラン	<i>Cymbalaria muralis</i>			●	●			
467		マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>	●		●				
468		ホソバウンラン	<i>Linaria vulgaris</i>			●		●		
469		ウリクサ	<i>Lindernia crustacea</i>	●			●	●		
470		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>	●			●	●		
471		アゼトウガラシ	<i>Lindernia micrantha</i>	●						
472		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>	●			●	●		
473		ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>		●					
474		トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	●	●	●	●	●		
475		ビロードモウズイカ	<i>Verbascum thapsus</i>		●	●	●			
476	タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>	●	●	●					
477	ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>	●	●						
478	オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	●	●	●	●	●			
479	ノウゼンカズラ科	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>	●				●		
480	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i>	●			●	●		
481	ハマウツボ科	ヤセウツボ	<i>Orobanche minor</i>			●				
482	ハエドクソウ科	ナガバハエドクソウ	<i>Phryma leptostachya</i> var. <i>oblongifolia</i>	●		●	●	●		
483	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	●	●	●	●	●		
484		ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>	●		●	●	●		
485		タチオオバコ	<i>Plantago virginica</i>	●	●	●				
486	スイカズラ科	ツクバネウツギ	<i>Abelia spathulata</i>			●	●			
487		ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	●	●	●	●	●		
488		スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	●	●	●	●	●		
489		ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> subsp. <i>sieboldiana</i>	●	●	●	●	●		
490		ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	●	●	●	●	●		
491		コバノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i> var. <i>punctatum</i>	●	●	●	●	●		
492		ニシキウツギ	<i>Weigela decora</i>		●		●	●		

表 3-1 (8) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春季	春季	夏季	秋季	
493	オミナエシ科	オトコエシ	<i>Patrinia villosa</i>	●			●		●	
494		ノヂシャ	<i>Valerianella olitoria</i>		●					
495	キキョウ科	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>	●			●		●	
496		ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>	●		●			●	
497		ヤマホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>hondoensis</i>	●						
498		ツルニンジン	<i>Codonopsis lanceolata</i>	●		●				
499		キキョウソウ	<i>Specularia perfoliata</i>	●		●				
500	キク科	セイヨウノコギリソウ	<i>Achillea millefolium</i>	●						
501		ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elatior</i>				●			
502		クワモドキ	<i>Ambrosia trifida</i>	●	●	●	●	●	●	
503		ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	●	●	●	●	●	●	
504		シロヨメナ	<i>Aster ageratoides</i> subsp. <i>leiophyllus</i>	●	●	●	●	●	●	
505		ノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> subsp. <i>ovatus</i>	●			●		●	
506		シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>	●		●	●			
507		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	●		●	●		●	
508		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>	●		●	●		●	
509		ヤブタバコ	<i>Carpesium abrotanoides</i>	●			●			
510		コヤブタバコ	<i>Carpesium cernuum</i>				●			
511		ガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i>	●						
512		トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>	●			●		●	
513		フランスギク	<i>Chrysanthemum leucanthemum</i>	●					●	
514		ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>	●						
515		トネアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>incomptum</i>	●					●	
516		ノハラアザミ	<i>Cirsium oligophyllum</i>	●					●	
517		アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>	●	●	●	●	●	●	
518		アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>	●		●	●			
519		オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	●	●	●	●		●	
520		オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	●	●	●	●	●	●	
521		ハルシヤギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>				●			
522		ベニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>				●		●	
523		リュウノウギク	<i>Dendranthema japonicum</i>	●			●			
524		アメリカカタカサブドウ	<i>Eclipta alba</i>	●			●		●	
525		ダンドボロギク	<i>Erechtites hieracifolia</i>				●		●	
526		ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	●		●	●		●	
527		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	●	●		●		●	
528		ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinense</i> var. <i>oppositifolium</i>	●		●	●		●	
529		マルバフジバカマ	<i>Eupatorium rugosum</i>						●	
530		ハキダメギク	<i>Galinsoga ciliata</i>	●		●	●		●	
531		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>	●	●	●	●		●	
532		タチチチコグサ	<i>Gnaphalium calviceps</i>	●		●	●			
533		チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>	●			●		●	
534		チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>	●	●	●	●		●	
535		ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>	●	●	●	●		●	
536		ククイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>	●		●	●		●	
537		キツネアザミ	<i>Hemistepta lyrata</i>	●	●					
538		ブタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>	●	●	●	●		●	
539		オグルマ	<i>Inula japonica</i>	●			●			●
540		オオヂシバリ	<i>Ixeris debilis</i>	●	●		●		●	
541		ニガナ	<i>Ixeris dentata</i>	●	●	●	●		●	
542		ハナニガナ	<i>Ixeris dentata</i> var. <i>albiflora</i> f. <i>amplifolia</i>	●						
543		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>	●		●	●		●	
544		カントウヨメナ	<i>Kalimeris pseudoyomena</i>	●					●	
545		アキノノグシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>	●	●	●	●		●	
546		ヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>	●		●				
547		ヤブタバコ	<i>Lapsana humilis</i>	●	●	●				
548		カシワバハグマ	<i>Pertya robusta</i>	●						
549		コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>	●	●	●	●		●	
550		フキ	<i>Petasites japonicus</i>	●	●	●	●		●	
551		コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>glabrescens</i>	●	●	●	●		●	
552		ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	●	●	●	●		●	
553		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	●	●	●	●		●	
554		アキノキリンソウ	<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>asiatica</i>	●						
555		オニノグシ	<i>Sonchus asper</i>	●	●	●	●		●	
556		ノグシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	●	●	●				
557		ヒメジョオン	<i>Stenactis annuus</i>	●	●	●	●		●	
558		ハラバヒメジョオン	<i>Stenactis strigosus</i>	●		●	●			
559		ヤブレガサ	<i>Syneilesis palmata</i>	●	●	●	●			
560		シロバナタンポポ	<i>Taraxacum albidum</i>	●						
561		アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>		●					
562		セイウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	●	●	●	●		●	
563		カントウタンポポ	<i>Taraxacum platycarpum</i>	●	●					
564		ハチミツソウ	<i>Verbesina occidentalis</i>				●		●	
565		オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>	●						
566		ヤクシソウ	<i>Youngia denticulata</i>	●		●	●		●	
567		オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	●	●	●	●		●	

表 3-1 (9) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種	
					全体	早春季	春季	夏季	秋季		
568	オモダカ科	オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>	●							
569	ユリ科	ノビル	<i>Allium grayi</i>	●	●	●		●			
570		ニラ	<i>Allium tuberosum</i>				●	●	●		
571		ハラシ	<i>Aspidistra elatior</i>					●	●		
572		ハナニラ	<i>Brodiaea uniflora</i>	●	●						
573		ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	●	●	●	●	●	●		
574		チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	●				●	●		
575		ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>	●	●			●	●		
576		オオバギボウシ	<i>Hosta montana</i>	●			●	●	●		
577		ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i>	●	●	●	●	●	●		
578		タカサゴユリ	<i>Lilium formosanum</i>	●			●	●	●		
579		オニユリ	<i>Lilium lancifolium</i>					●			
580		ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>	●							
581		ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>	●	●	●	●	●	●		
582		ムスカリ	<i>Muscari neglectum</i>		●						
583		ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	●							
584		ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	●	●	●	●	●	●		
585		ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon ohwii</i>	●	●	●	●	●	●		
586		オオバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon planiscapus</i>	●	●	●	●	●	●		
587		ホソバオオアマナ	<i>Ornithogalum gussonei</i>		●						
588		ナルコユリ	<i>Polygonatum falcatum</i>	●		●	●	●	●		
589		ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i>	●	●	●	●	●	●		
590		キチジョウソウ	<i>Reineckea carnea</i>		●	●	●	●	●		
591		オモト	<i>Robdea japonica</i>	●		●	●	●	●		
592		ツルボ	<i>Scilla scilloides</i>	●	●				●		
593		サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>	●	●	●	●	●	●		
594		シオデ	<i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i>	●		●	●	●	●		
595		ヤマボトギス	<i>Tricyrtis macropoda</i>	●		●	●	●	●		
596		シュロソウ	<i>Veratrum maackii</i> var. <i>reymondianum</i>	●	●	●				●	
597		ヒガンバナ科	ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>	●	●			●	●	
598			キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>					●		●
599		ヤマノイモ科	ナガイモ	<i>Dioscorea batatas</i>			●		●		
600			ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	●		●	●	●	●	
601			オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	●		●	●	●	●	
602	ミズアオイ科	コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i> var. <i>plantaginea</i>	●				●			
603	アヤメ科	シャガ	<i>Iris japonica</i>	●	●	●	●	●			
604		キシヨウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	●		●			●		
605		ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium atlanticum</i>	●			●				
606		アイイロニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium graminoides</i>			●					
607		オオニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium</i> sp.	●		●	●				
608		ヒメヒオウギズイセン	<i>Tritonia crocosmaeflora</i>	●		●	●	●	●		
609		イグサ科	イ	<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i>	●	●	●	●	●		
610	コウガイゼキショウ		<i>Juncus leschenaultii</i>				●	●			
611	クサイ		<i>Juncus tenuis</i>	●		●	●	●	●		
612	スズメノヤリ		<i>Luzula capitata</i>	●	●	●	●	●	●		
613	ツユクサ科	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>				●	●	●		
614		ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	●		●	●	●	●		
615		イボクサ	<i>Murdannia keissak</i>	●		●	●	●	●		
616		ヤブミョウガ	<i>Pollia japonica</i>	●		●	●	●	●		
617		ノハカタカラクサ	<i>Tradescantia flumiensis</i>		●	●	●	●	●		
618	イネ科	アオカモジグサ	<i>Agropyron racemiferum</i>	●		●	●	●			
619		カモジグサ	<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i>	●	●	●	●	●			
620		コスカグサ	<i>Agrostis alba</i>	●			●				
621		ヤマヌカボ	<i>Agrostis clavata</i>				●				
622		ヌカボ	<i>Agrostis clavata</i> subsp. <i>matsumurae</i>	●		●	●				
623		スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i>	●		●					
624		メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	●	●	●	●	●	●		
625		コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>	●			●	●	●		
626		トダシバ	<i>Arundinella hirta</i>	●	●		●	●	●		
627		カラスムギ	<i>Avena fatua</i>			●					
628		ミノゴメ	<i>Beckmannia syzigachne</i>	●							
629		ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>	●		●	●	●	●		
630		コバンソウ	<i>Briza maxima</i>	●	●	●	●	●	●		

表 3-1 (10) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春季	春季	夏季	秋季	
631	イネ科	ヒメコパンソウ	<i>Briza minor</i>				●			
632		ヤクナガイヌムギ	<i>Bromus carinatus</i>				●			
633		イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>		●	●	●	●	●	
634		スズメノチャヒキ	<i>Bromus japonicus</i>		●		●			
635		キツネガヤ	<i>Bromus pauciflorus</i>					●		
636		ノガリヤス	<i>Calamagrostis arundinacea</i> var. <i>brachytricha</i>		●			●	●	
637		ジュズダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>		●				●	
638		ギョウギシバ	<i>Cynodon dactylon</i>		●		●	●	●	
639		カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>		●	●	●	●	●	
640		メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>		●			●	●	
641		コメヒシバ	<i>Digitaria radicata</i>		●			●	●	
642		アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>		●			●	●	
643		アブラスキ	<i>Eccoilopus cotulifer</i>		●				●	
644		イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>		●			●	●	
645		ヒメイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>praticola</i>		●			●	●	
646		ケイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>echinata</i>		●			●	●	
647		オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>		●			●	●	
648		シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		●			●	●	
649		カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>		●			●	●	
650		ニワホコリ	<i>Eragrostis multicaulis</i>		●			●	●	
651		コスズメガヤ	<i>Eragrostis poaeoides</i>		●			●	●	
652		チャボウシノシツペイ	<i>Eremochloa ophiuroides</i>		●			●	●	
653		ナルコビエ	<i>Eriochloa villosa</i>		●			●	●	
654		オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i>		●	●	●	●	●	
655		トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>		●	●	●			
656		オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>		●					
657		ウシノシツペイ	<i>Hemarthria sibirica</i>		●			●		
658		ケナシチガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> f. <i>pallida</i>		●	●				
659		チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>		●	●	●	●	●	
660		サヤヌカグサ	<i>Leersia savanuka</i>		●					
661		ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>		●	●	●	●		
662		ササガヤ	<i>Microstegium japonicum</i>		●			●	●	
663		ヒメアシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>		●				●	
664		アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i> var. <i>polystachyum</i>		●				●	
665		オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>		●		●	●	●	
666		ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>		●	●	●	●	●	
667		ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>		●		●	●	●	
668		コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>		●				●	
669		イネ	<i>Oryza sativa</i>							
670		ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>		●				●	
671		オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		●				●	
672		シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		●		●	●	●	
673		アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i>		●			●	●	
674		スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>		●			●	●	
675		タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i>		●			●	●	
676		チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> f. <i>purpurascens</i>		●				●	
677		クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>		●		●	●	●	
678		ヨシ	<i>Phragmites australis</i>		●	●	●	●	●	
679		ホテイチク	<i>Phyllostachys aurea</i>		●		●	●	●	
680		マダケ	<i>Phyllostachys bambusoides</i>		●	●	●	●	●	
681		モウソウチク	<i>Phyllostachys pubescens</i>		●	●	●	●	●	
682		アズマネザサ	<i>Pleioblastus chino</i>		●		●	●	●	
683		メダケ	<i>Pleioblastus simonii</i>		●				●	
684		ミノイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>		●	●	●			
685		スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>		●	●	●	●		
686		オオイチゴツナギ	<i>Poa nipponica</i>		●					
687		ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>		●		●			
688		イチゴツナギ	<i>Poa sphondylodes</i>		●	●		●		
689		オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>		●					
690		タマオオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i> subsp. <i>sylvicola</i>		●	●	●			
691		ヒエガエリ	<i>Polygonum fugax</i>		●		●	●		
692		ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>		●	●		●		
693		ウシクサ	<i>Schizachyrium brevifolium</i>		●			●	●	
694		アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>		●			●	●	
695		コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallide-fusca</i>		●			●	●	
696		キンエノコロ	<i>Setaria pumilla</i>		●				●	
697		エノコログサ	<i>Setaria viridis</i>		●		●	●	●	
698		ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis</i> f. <i>miseria</i>		●					
699		セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>		●			●	●	
700		ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>		●				●	
701		カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>		●		●			
702		ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i>		●		●			
703		シバ	<i>Zoysia japonica</i>		●		●	●	●	

表 3-1 (11) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	学名	評価書	令和2年度					重要種
					全体	早春季	春季	夏季	秋季	
704	ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	●	●	●	●	●		
705	サトイモ科	ショウブ	<i>Acorus calamus</i>	●		●				●
706		セキショウ	<i>Acorus gramineus</i>	●	●	●				
707		ムラサキマムシグサ	<i>Arisaema serratum</i>	●		●	●	●		
708		ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>urashima</i>	●	●	●				
709		カラスビシャク	<i>Pinellia ternata</i>	●	●	●	●	●		
710	ウキクサ科	アオウキクサ	<i>Lemna oukikusa</i>				●	●		
711		ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>					●		
712	ガマ科	ガマ	<i>Typha latifolia</i>	●						
713		コガマ	<i>Typha orientalis</i>	●						
714	カヤツリグサ科	アオスグ	<i>Carex breviculmis</i>	●	●	●				
715		メアオスグ	<i>Carex candolleana</i>	●	●	●				
716		ヒメカンスグ	<i>Carex conica</i>	●	●	●				
717		アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>	●		●				
718		シラスグ	<i>Carex doniana</i>	●		●				
719		ケスグ	<i>Carex duvaliana</i>	●	●	●	●	●		
720		マスクサ	<i>Carex gibba</i>	●		●	●	●		
721		ホソバヒカグスグ	<i>Carex humilis</i>	●					●	●
722		ジュズスグ	<i>Carex ischnostachya</i>			●				
723		ヒゴクサ	<i>Carex japonica</i>	●		●				
724		ヒカグスグ	<i>Carex lanceolata</i>	●	●	●	●	●		
725		ナキリスグ	<i>Carex lenta</i>	●	●	●			●	
726		オオアオスグ	<i>Carex lonchophora</i>		●	●				
727		ヤガミスグ	<i>Carex maackii</i>			●	●			●
728		ゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i>			●				
729		ノグスカスグ	<i>Carex mitrata</i> var. <i>aristata</i>	●	●	●				
730		ミヤマカンスグ	<i>Carex multifolia</i>	●	●	●			●	
731		シバスグ	<i>Carex nervata</i>	●	●					
732		ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i>			●				
733		ホンモンジスグ	<i>Carex pisiformis</i>	●		●				●
734		オオイトスグ	<i>Carex sachalinensis</i> var. <i>alterniflora</i>		●					
735		アゼスグ	<i>Carex thunbergii</i>	●						
736		ヤワラスグ	<i>Carex transversa</i>	●	●	●				
737		チャガヤツリ	<i>Cyperus amuricus</i>	●					●	
738		アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>	●			●	●	●	
739		ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>	●			●	●	●	
740		タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>	●					●	
741	ショクヨウガヤツリ	<i>Cyperus esculentus</i>	●			●	●	●		
742	ヒナガヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i>	●					●		
743	アゼガヤツリ	<i>Cyperus globosus</i>	●					●		
744	ヌマガヤツリ	<i>Cyperus glomeratus</i>	●					●		
745	コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>	●			●	●	●		
746	カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>	●			●	●	●		
747	ウシクグ	<i>Cyperus orthostachyus</i>	●					●		
748	イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>	●					●		
749	ハマスグ	<i>Cyperus rotundus</i>	●		●	●	●	●		
750	ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i>	●					●		
751	テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i>	●					●		
752	ヒゲリコ	<i>Fimbristylis miliacea</i>	●			●	●	●		
753	ヒンジガヤツリ	<i>Lipocarpa microcephala</i>	●					●		
754	ショウガ科	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>	●		●	●	●		
755	ラン科	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	●	●	●	●	●		●
756		ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	●		●				●
757		キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	●		●	●	●	●	●
758		ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>	●		●				●
759		サイハイラン	<i>Cremastra appendiculata</i>	●	●	●	●	●	●	
760		シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>	●	●	●	●	●	●	
761		マヤラン	<i>Cymbidium nipponicum</i>	●					●	●
762		オオバノトンボソウ	<i>Platanthera minor</i>	●		●	●	●	●	
763		ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	●						
計		138科		773種	642種	330種	478種	507種	502種	36種

注 1 分類、配列などは原則として「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」環境庁 (1987) に準拠した。

注 2 種、亜種までの同定がされなかったもので、同一の分類群に属する種がリストアップされている場合は、種数を計数しなかった。

4 事業の実施状況

4-1 トンネルの施工状況

令和2年度までの工事の実施箇所におけるトンネルの施工状況を、以下に示す。

北品川非常口^{注1}について、立坑（約90m）が令和元年度に完成した。

小野路非常口^{注2}について、立坑（約80m）が令和2年度に完成した。

上小山田非常口^{注2}について、立坑を1割程度（約10m）沈設した。

注1：地中連続壁工法

注2：ニューマチックケーソン工法

4-2 廃棄物等

令和2年度の各工事实施箇所における建設発生土の主な搬出先と土量を、以下に示す。

品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、目黒川変電所、東雪谷非常口、小野路非常口及び上小山田非常口からの建設発生土は、公共事業等に約6万 m^3 、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先に約7万 m^3 を活用した。

本書で利用した地図は、注記があるものを除き、国土地理院発行の数値地図50000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を加工して作成した。

本書は、再生紙を使用している。